

やまなみ

第 6 号



山人あびこ



GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

中人を二番人を三番人を四番人を五番人を六番人を七番人を

やまなみ

第六号



手賀沼湖畔（我孫子）

やまなみ第6号 目次

『やまなみ』6号発刊に寄せて		平成16年度会長 村松敏彦			
平成年度活動方針					
NO.	山名	山域	月日	執筆者	ページ
平成16年度(2004年3月~2005年2月)			2004年度		
366	大平山・晃石山	両毛	3月20日~21日	蜂谷由美子	1
367	行道山	両毛	3月28日	柴勇	3
368	高川山	中央沿	4月4日	中村八重子	5
369	馬立山~九鬼山	中央沿	4月11日	山本紫津子	6
370	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	4月24日~25日	やまたん 堀口昭二	8
371	表妙義自然探勝路(中間道)	西上州	4月25日	田村光子	10
372	大蔵高丸~ハマイバ丸	南大菩薩	4月29日	原田君子	12
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳~大柄山	御坂山塊	5月1日~2日	飯沼トミ子	14
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	5月2日~4日	村松敏彦	16
375	毛無山~十二ヶ岳	御坂山塊	5月9日	武内勇二	18
376	瑞牆山~金峰山~北奥千丈岳~甲武	奥秩父	5月13日~16日	斎藤清一	20
377	塔ノ岳~丹沢三ツ峰	丹沢	5月16日	千葉有子	22
378	赤ぼっこ~天狗岩	奥多摩	5月23日	日下芳十	24
379	畦ヶ丸	西丹沢	5月29日	松本豊	26
380	大幡川 四十八滝沢	御坂山塊	5月30日	坂口よし江	28
381	水沢山~ニツ岳(雄岳)	赤城・榛名	5月30日	高橋潔	30
382	会津磐梯山	会津	6月6日	やまたん (村松敏彦 中村隆泰)	32
383	玉原高原・尼ヶ秀山 奥利根水源の森	武尊山周辺	6月19日~20日	原田和昭	35
384	赤岳~横岳~硫黄岳	八ヶ岳	6月19日~20日	高橋芳恵	38
385	榧ノ木山~鷹巣山	奥多摩	7月4日	千葉有子	41
386	三ツ峠山(開運山)	富士周辺	7月11日	高橋寿江	43
387	白砂山	上信越	7月17日~18日	中村美智子	45
388	易老岳~光岳	南ア	7月17日~19日	外崎蓮	48
389	霞沢岳	北ア	7月23日~25日	武内勇二	51
390	前穂高岳~奥穂高岳	北ア	7月24日~26日	高橋潔	54
391	燕岳~大天井岳~常念岳~蝶ヶ岳	北ア	8月1日~4日	安田みづほ	57
392	宝川ナルミズ沢	上信越	8月8日~9日	外崎蓮	61
393	白馬岳~杓子岳~鎧ヶ岳	北ア	8月12日~15日	岡田秀子 田村光子	64
394	木曾駒ヶ岳~空木岳~越百岳	中ア	8月19日~22日	大串秀雄	67
395	背戸峨廊	阿武隈	8月22日	日下芳十	71
396	相馬山~榛名富士	赤城	8月29日	小川誠二郎	73
397	鳥甲山	上信越	9月4日~5日	武内勇二	74

398	日光白根山	日 光	9月12日	高橋寿江	76
399	朝日岳～白馬岳	北 ア	9月16日～19日	高橋芳恵	78
400	立山三山～大日三山	立 山	9月17日～20日	外崎 蓮	80
401	表妙義縱走	上 州	9月18日～19日	柴 勇	83
402	岩手山・姫神山	岩 手	9月18日～20日	飯沼トミ子	85
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北 ア	9月25日～28日	大串秀雄	87
404	大山・蒜山	大 山	10月1日～5日	大串秀雄	90
405	阿弥陀岳南稜	八ヶ岳	10月10日～11日	千葉有子	93
406	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那 須	10月15日～17日	佐藤明子	95
407	宮之浦岳・開門岳	宮之浦	10月21日～24日	細野清子 飯合しげ子	97
408	ウズハイク鹿野山・マザー牧場	房 総	10月23日	飯沼トミ子	102
409	破風山	秩 父	10月31日	日下芳十	104
410	丹沢主脈縦走・蛭ヶ岳	丹 沢	11月6日～7日	斎藤清一	106
411	矢倉岳～足利古道	箱 根	11月7日	品田千恵子	109
412	三頭山	奥多摩	11月13日	原田和昭	111
413	三方分山～パノラマ台	富 士	11月21日	斎藤清一	113
414	滝子山	中央沿	11月28日	原田和昭	115
415	草津白根山	上信越	12月1日～2日	中村隆泰	117
416	忘年山行 烏場山	房 総	12月5日	細野清子	118
417	岩殿山	中央沿	12月19日	柴田節子	121
418	金峰山	秩 父	12月25日～26日	村松敏彦	123
419	筑波山	常磐	1月3日	大串秀雄	125
420	房総ロングハイク 石尊山～三石山	房 総	1月29日～30日	斎藤清一	127
421	棒立山	谷 川	1月29日～30日	川下敬史	130
422	鳴虫山	日 光	2月6日	清家三保子	132
423	諏訪岳～唐沢山	両 毛	2月10日～11日	斎藤清一	134
424	日の出山	奥多摩	2月20日	大畠清江	136
登山教室	開講	市民プラザ	5月8日	やまたん	139
	机上講習	市民プラザ	7月10日 10月2日	やまたん	140
	岩山	日 光	6月12日	やまたん	141
	三頭山	奥多摩	9月11日	やまたん	142
一	岳人祭	湖北台近隣センター	1月16日	やまたん	143
	資料	推移グラフ (1996年～2004年)		武内勇二	145
		山行一覧表 (2004年度)		武内勇二	146
		活動の記録 (1996年～2004年)		武内勇二	152
編集後記					

* 表紙イラストの作者 : 千葉有子さん

『やまなみ』第6号発刊によせて

平成17年～18年度会長

村 松 敏 彦

岳人あびこの紀行文集『やまなみ』6号の
発刊に際して関係者の方々の並々ならぬ努力
に感謝いたします。

思えば10年前（平成8年）東北の会津朝日
岳の麓のテントの中で産声をあげた「岳人あび
こ」も紀行文集『やまなみ』を6号まで発刊す
る事ができるまで成長しました。



山の会に於いて、会員の一人一人が仲間と共にした山行をこのような文集及び記録をま
とめて発刊することが出来るのは、その会の組織力、人材、会員の会及び登山に関する意
識等が問われるバロメーターではないでしょうか。当会も一時期「やまなみ」廃刊の危機に
見舞われた事がありましたが、関係者の努力で創立時から延々と続いている山行の記録を
絶やすことなく残すことが出来ました。

忙しい日常のふっと空いたとき、この『やまなみ』を手にして無意識にページをめくり
思い出に浸る、この時間がきっと何ともいえない至福の時間になることでしょう。
その時々の情景が頭を過ぎり、1回きりの人生の中で共有した仲間との思い出深い時間の
数々が走馬灯の如く浮かび上がってくることでしょう。

さあ、自然を愛し、仲間を愛し、そして人生を愛する人達と山に行きましょう。そして
多くの思い出を作って、人生を振り返ったとき豊かな時を過ごせたことに感謝しましょう。
この紀行文集『やまなみ』が会のそして会員の皆様の歩みの証として発展して未来に向け
て継続される事を祈ります。

第9期岳人あびこ活動方針

基礎力をみがいてみんなで安全登山

1. 活発な山行と質の向上

- (1) 自主性ある登山実施にむけた会員意識の高揚
- (2) 定例、準定例山行活発化による多様な登山に積極的にチャレンジ

2. 基礎力の向上と安全登山

- (1) 基礎体力向上のための自主トレーニングの奨励
- (2) 基礎知識・技術向上に向けた講習会の充実
- (3) 教育・研修山行の実施

3. 事故防止

- (1) 下山開始時、危険箇所における声かけの実行
- (2) 緊急時の連絡方法・手順の徹底

4. 会員親睦とコミュニケーション推進

- (1) 新人歓迎山行、忘年山行の実施
- (2) 岳人祭の実施
- (3) 会員専用ホームページの内容充実
- (4) やまたん、やまなみの発行

5. 人と自然とのかかわり

- (1) 一般市民向けの登山教室の実施
- (2) 公開登山の実施
- (3) ウイズハイクの継続実施
- (4) 自然保護活動への積極参加

6. 多様な山行に挑戦する為の環境整備

- (1) 装備品の充実

7. 県連や他の山岳団体との交流推進

- (1) 県連理事会、各種委員会への積極的参加
- (2) 県連行事への参加を通じ他の山岳団体との交流推進

以上

平成16年度

平成16年3月～平成17年2月

<366>

大平山・晃石山
(341m 419m)

蜂谷 由美子

第7回2期生恒例
15年度終了山行

(21日)

朝8時半、参加者数よりすこしゆとりのあるツアー送迎バスに乗り込む。道路が空いていて気持ち良く走る。途中ちらほらと雪がちらついたりしたが、車窓の両側に現れる雪山を眺めているうち、湯元に到着。思った以上の積雪で、近くのゲレンデでは数十人がスキーやソリ遊びをしている。

駐車場を迂回して湯ノ湖を巡る予定で林道までいったが、積雪で滑りやすく危険なので車道を歩くことにする。

雪をかぶった山々を眺め歩いていると、真っ白に凍結した湖が現れた。息を呑むほど美しさで皆、立ち止まって眺めている。

二期生の高倉健が凍った湖を歩き出す。まるで映画のシーンのようだ。歩いて対岸まで行けるかもしれない…が、良識ある同期生に危険だ！！と叱られた。自分に酔っていた健さんも目を覚ます。



まもなく、湯滝に到着。思った以上の水量で凍って

いなかった。ちらほらと雪の舞う中、昼食を頂く。かぼちゃの入った「おじや」はぽかぽかと身体が温まる。おしるこの甘さも丁度良い。



雪が段々強くなってきた中、戦場ヶ原脇の車道を歩く。顔を上げていられないほど雪が降る。

まもなく、竜頭の滝に出る。滝の周りは凍っていて「つらら」が青くとてもきれいだ。凍結した坂道なのでアイゼンを着ける。斎藤さんから指導をうけるが、X年振りなので、装着に手間取る。

皆、すでに滝のところに降りて待っていてくれる。いつもと同じ光景(足手まとい)だ。・反省・
夕刻早めに宿に着く。いつものように「部屋割り」はくじ引きで決めた。荷物を置いてすぐお風呂に向かう。ヒノキ風呂、露天風呂、大浴場とお風呂三昧で、日頃の心身の疲れが流れ落ちた。

夕食は兄弟姉妹のように、あちこちでおしゃべりが始まると笑い声と歌声、おいしいお酒。この山の会に入つて良かったと思うのはこんな時だ。

夕食後、一部屋に集まり、先ほどの続きを始める。八海山の原酒というのを初めて頂く。話はつきないけれど、明日の山行にそなえて早めに就寝。

(21日)

昨日の寒さは何処に行ったのか…二日目快晴。
午前八時半の一番バスで宿を出る。

まずは大平山神社で山の神様に今回の安全山行を祈つて参拝。昔から桜の名所だが、まだ花は望めない。登山道入口は境内の右手にある。そこか

ら山道に入る。稜線をひと登りすると富士浅間神社のある山頂に着く。昔、ここに大平山城があったという。少し下るとぐみの木峠に出る。ここから晃石山へは気持ちの良い雑木林の尾根道が続いている。滑りやすい急坂を登り、晃石山山頂にでる。



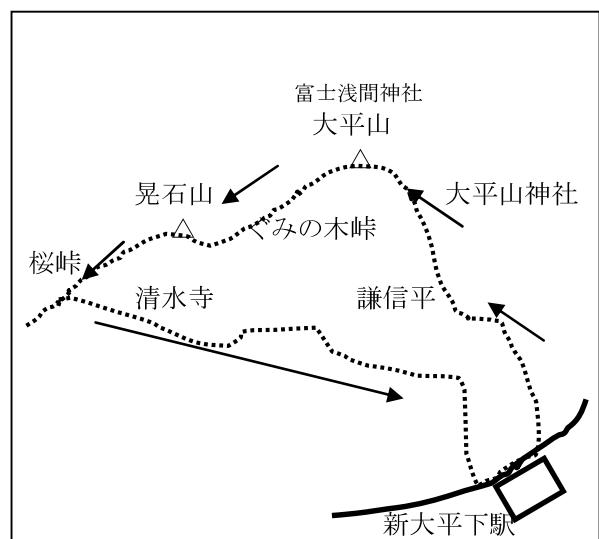
山頂には大きな一等三角点標石と銅製の鳥居がある。標高419mしかないが、雪の男体山や日光連邦などを望むことが出来る。山頂から急降下して、ふたたび雑木林を歩く。そこで高橋(寿)さんが、かたくりの花を見つけた。この季節にしては珍しく、たった一輪だが満開。ほのかな気分で尾根道を上下していくと、手すりの設置された急坂がある。手すりにつかまると少しばかり楽だが、とても滑りやすい道だ。下りついた所が桜峠だ。ヤマザクラの大木とあずまやがある。ここで絶品の「野菜タップリうまさ抜群のすいとん」昼食を頂く。

デザートとコーヒー付のフルコースで満足、満足。峠から沢沿いの道を下っていくと林道にでる。この林道を左に行くとボタンの名所としられている清水寺(せいすいじ)がある。ここから山裾のぶどう畑や竹林に沿って、右に左に折れながら迷路のように続いている道を歩く。清水寺から来る林道を出て、三叉路を左に折れると大中寺のすぐ下に出る。そこからまっすぐに車道を下り、山裾をぐるりと回りこむように林の中の道を進む。車道へ出て右に折れしばらく歩いた所に農家の出店があった。新鮮な山の幸に思わず立ち止まる。まもなく新大平下駅に出た。

雪山を眺めたり、吹雪の中を歩いたり、汗をかきな

がら歩いた陽だまりで、カタクリの花を見つけたりと二日間で冬と春の山行を味わうことが出来た。「兄上、姉上、いつまでもお元気で！！そして足手まといの妹ですが今年度もよろしくお願ひします」と心の中で手を合わせた。

山名	大平山・晃石山		
月日	平成16年3月 20日(土)～21日(日)		
形式	旅館1泊		
山域	安蘇山塊	地形図 1/2.5万	栃木
目的	二期生15年度終了		
費用	11,300 円	交通 機関	貸切バス
日程 コース	一日目	我孫子駅6:30→湯ノ湖 9:00⇒湯滝 10:40/12:00⇒戦場ヶ原⇒竜頭の滝→中 禅寺湖→東部日光駅→下今市駅→鬼怒 川温泉駅～ホテルニューおおるり16:00着 小雪 歩行時間 2 時間30 分	
	二日目	ホテルニューおおるり 8:30→大平山駐車場 9:40⇒浅間神社 10:15⇒ぐみの木峠 11:05⇒晃石山 11:40⇒桜峠 12:20/ 13:30⇒新大平下駅→柏 18:45 解散 快晴 歩行時間 5 時間30 分	
参加者	L 大串(秀) SL 日下、SL 増田、大串(恵) 大桃、小黒、菊地、斎藤、榊原、高橋(寿) 高橋(英)長木、中野、原田、蜂谷 男4名、女 11 名 計 15名		



<367>

行道山

(442m)

柴 勇

新人歓迎

林道沿いには、梅の花が道の両側に、所々満開でした。殆ど車も、人も通らないので、静かな林道でしたが、心無い人が捨てた家庭のごみが気になった。

私たちは、馬打峠登山口から登ります。この馬打峠は、足利市月谷町と松田町の境に位置し名所の由来は、2つあった。とても険しくて馬でさえも容易に進めず馬の尻を打ちながらこの峠を越えたというもの。もう一つは、藩主の足利又太郎が峠を越えた時馬が足を滑らせて馬から落ちたために馬落ちといったことがなまつたもの。

いずれにしても傾斜のきつい尾根を歩くことになった。まだ、気温はそれ程高くないので、急な上り道も気持ちよく登った。カタクリが丁度朝の光の中で開きだし群生しているのが見られた。

背の丈をこえる笹藪が道の両側にはえて、歩きにくい。しばらくこの篠竹のトンネルが続いたがこれを過ぎると、日当たりの良い南側のサツキが咲いていた。

石尊山山頂で、各班が合流し昼食、休憩をした。石の祠や、三等三角点があり、妙義山、榛名山赤城山、白根山、男体山秩父連山が展望できた。日光連山は、残雪が見られた。記念写真を撮って出発。

日本三大毘沙門天（社務所曰く、当山、奈良の生駒山、京都の鞍馬山の三山）に参拝。12月31日に行われる「悪態祭り」が有名とか。俗称「バカヤロー祭り」ともいい、悪口、不平不満を大声で叫び、すつきりした気持ちで新年を迎えるのだと言う。

新しい林道脇の「峠のカタクリ畑」では、女性軍が遠回りをして一面に咲くカタクリの花を満喫していた。そのあと意外とアップダウンが続き、地蔵さまのある四ッ辻に出る。

そこから二つピークを越して、急坂の木の階段を登ると、足利城址に出る。ここは、藤原

秀郷の7代の子孫、足利大夫成行が築城した跡である。天然記念物のタブノキが6本見事であった。樹齢は、200年から250年といわれている。

織姫神社につくと丁度桜が満開で、大勢の見物の人に対面した。今年は桜の開花が例年よりも早く公園は、車で埋まっていた。新人歓迎の宴は、河川敷の人のいない静かなところで行われた。

概念図



山行データ

・織姫神社

山名	行道山		
月日	平成16年3月28日(日)日帰り尾根縦走		
山域	安蘇山塊 (栃木)	地形図 1/2.5万	足利北部・足利南部
目的	新入会員歓迎山行…初々しい桜と新入会員を歓迎する。		
費用	3,000円	交通費	貸切バス

	<p>各班共通 我孫子駅 6:25→(貸切バス)→各班登山口 <各班ごとに行動>織姫公園下山口 14:00→(貸切バス)→渡良瀬川河川敷(新人歓迎会)14:20/16:20→(貸切バス)→我孫子駅 19:20 (解散) 終日快晴</p>
行程	<p>A班 <歩行時間：3時間45分> A班登山口 9:15⇒淨因寺 10:05⇒行道山(昼食) 10:40/11:00⇒大岩山 11:15⇒両崖山 12:35⇒織姫公園 13:00</p> <p>B班 <歩行時間：4時間15分> つつじヶ丘ゴルフ場入口 8:45/9:00⇒堰堤のある池付近 9:30/9:35⇒登山道が消えた地点 9:45⇒分岐 10:15⇒行道山(昼食) 10:20/50⇒毘沙門天 11:15/11:20⇒林道と両崖山への登山道との分岐 11:35⇒林道を横断 11:55⇒両崖山 12:25/12:35⇒織姫公園 13:15</p> <p>C班 <歩行時間：4時間40分> 馬打峠登山口 8:40/8:50⇒馬打峠 9:15/9:20⇒行道峠 9:35⇒淨因寺分岐 10:20⇒行道山(昼食) 10:25/10:55⇒大岩山 11:10⇒毘沙門天(最勝寺参拝) 11:30⇒峠のカタクリ(お花畑観賞) 12:10/12:15⇒両崖山 12:35/12:45⇒織姫公園 13:30</p>
参加者	A～C合計 <38名>



B班 <8名> 坂口(L)、村松敏、原田君(SL)、安田、庄司、大畠、武内、原



C班-1 <8名> 大串恵(L)、柴、日下、高橋英(SL)、中村八、小川誠、千葉、高橋潔



A班-1 <7名> 佐藤健(CL)、細野清(L)、高橋寿、蜂谷、飯合、堀口、藤倉



A班-2 <8名> 清家(L)、外崎(SL)、榎原、山本、佐藤明、田村、井上、細川



C班-2 <7名> 中村隆(L)、細野省、大串秀、斎藤、箕輪完、青山、野村(SL)

<368>

高川山 (976m)

中村 八重子

高川山は、富士を眺める好位置に在るということで一部のやぶ山好きから親しまれてきた。この山は近年まで登山道が定着していませんでしたが地元の有志により案内書が設けられ、私達も登れるようになりました。

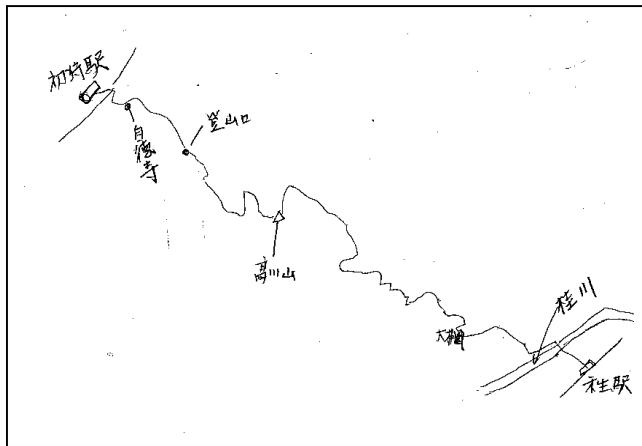
最近一部分に崩落があり下見したときと違う新ルートを歩くことになりました。(雨のためかなり滑った)。山頂は南側へ向かって傾斜して小広場で岩がところどころ顔をだしている。雨模様のため富士の展望はなし残念です。頂上は、こう見えるであろうと思われる富士山の写真と展望盤がありました。頭の中で山名を同定しました。晴れていたら最高の見晴らしなんですけど・・・・

下山は禾生駅方面へ大きな岩場をクサリを使って慎重に下る。林道出合からは生活道路に入り春の草花が咲き乱れ、目を楽しませてくれた。ふきのとうの春の香りがうれしい。

小さな峠をすぎると桂川のむこうに禾生の町が、さくらの花が満開でした。雨模様の山行ですが春の花ばなが心をなごませてくれました。

帰途、高尾駅下車。多摩森林科学園で全国の桜を鑑賞。豪華な花見ができ最高！！

概念図



山行データ

山名	高川山		
月日	平成16年4月4日(日) 日帰り		
山域	中央沿線	地形図 1/2.5万	大月・都留
目的	退会者送別山行および親睦		
費用	約3,000円	交通費	J R・富士急
行程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:46/5:51→西国分寺駅 6:55→高尾駅 7:26→初狩駅 8:25⇒登山口 9:05⇒女坂分岐 9:25⇒高川山山頂 10:20/11:20⇒シラノ沢コース入口 12:30⇒禾生駅 13:15/13:29→大月駅 13:40/13:51→高尾駅 14:25⇒多摩森林科学園 14:45/16:00⇒高尾駅 17:02→西国分寺駅 17:25/17:28→新松戸駅 18:11/18:21→我孫子駅 18:34(着) <曇り時々小雨 歩行時間: 5時間>		
参加者	中村八(L)、大串恵、大串秀、榎原、安田、庄司、高橋正、高橋芳(s L)、飯合、吉岡、藤倉、田村、佐藤き(ゲスト)、松村(ゲスト) 男2名 女12名 計14名		



< 3 6 9 >

馬立山 ~ 九鬼山
(797m) (970m)

山本紫津子

今までにも何回か研修は有りましたが、今回はさらに充実した地図読み山行ということでお出かけて行きました。メンバー変更の知らせと研修テキストをリーダーより手渡されました。

富士急田野倉駅に着く少し前の車窓からは真っ白な大きな富士山の出迎えに、何度も見てきた山でも初めて観たような歎声が出来る、さすがに日本一の山である。

駅から少し歩いた神社の広場でさっそく地図読みの始まりです。地図の正しい置き方を習い自分たちの進む方向を見る、登山口の標識と合致し、全員納得しスタートとなりました。今日は時間があるからゆっくりだよー！と、リーダーの声。何処かから聞こえてくる春祭りのお囃子の音に励まされ登って行き、途中標識からはずれて現在地の確認作業をする。そして馬立山に向かう。

山頂は展望は良くないが下に見える高速道やリニア実験線などを見ながら再度地図を取り出し、前方の山が百蔵山であることを確認出来ました。

ここからは急降下で札金峠まで、再度登り始めた頃から何人かがお昼まだかしら？の声。時間はまだ11時を回ったところ？そうだ！休憩は取っているのに地図を広げていておやつも食べなかつた事に気がつく。

紺屋の休場のコブシの花の下は、まさにお昼の為にある素敵な場所でゆっくりできた。お腹も満たされ山頂を目指す、気についていたザレ場も踏み固めが強く難なくクリアして山頂に到着、ここで回りに見える山々を地図上で再確認。

もう一人でも大丈夫でしょう・・・？

天候も良く往路も様々な春の花が咲き、途中の小さな桜がとても可愛く、あばら沢を過ぎた辺りのエイザンスマレの群生はみごとでした。こんなに花のある山と思っていなかつたのでとてもラッキーでした。それに地名もお話に出てくるようで楽しめていろいろ収穫の多い山行でした。武内リーダーありがとうございました。



北側が開けた九鬼山頂にて

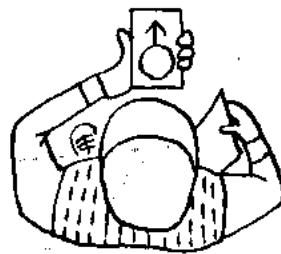


山行データ

山名	馬立山～九鬼山		
月日	平成16年4月11日(日) 日帰り		
山域	中央沿線	地形図 1/2.5万	都留・大月
目的	研修山行(地図読み)		
費用	約4,000円 (反省会費用)	交通費	JR 富士急
行程	我孫子駅 5:50→富士急田野倉駅 8:39/ 8:45⇒登山口 9:08⇒667m地点 9:42/9:47⇒九鬼山分岐 10:32⇒馬立山 10:38/10:43⇒九鬼山分岐 10:48⇒札金峠 11:11⇒九鬼山直下紺屋の休場(昼 食)11:32/12:02⇒九鬼山山頂 12:35 /12:57⇒リニア見晴台 13:35⇒あばら沢 出合 14:15⇒九鬼集落下山口 14:38⇒禾 生駅 16:19⇒我孫子駅 19:10 <晴れ 歩行時間：5時間30分>		
ルート状況	全体としては良く踏まれた道。九鬼山直下の山腹を巻く箇所はザレ場でやや足場悪い。		
参加者	A班 武内(L)、外崎(新人担当)、柴田、細野省、井上、高橋英(SL)、飯沼、原、山本 B班 細野清、清家(SL)、斎藤、高橋寿、原田君、大畠、田村、小川誠 (男5、女12、計17名)		



九鬼山頂にて



からだの正面に

水平に



<370>

モミソ沢・セドの沢左俣

堀 口 昭 二

やまたんより転載

24日(土)

- 10:00 戸沢駐車場着、テント設営、各自遡行準備、寝坊して遅れてくる野村さんを待つ。
- 11:15 戸沢発。3班に分かれて行動する。A・C班はすぐにモミソ沢に入る事にする。B班は岩トレをしてからモミソ沢に入るとの事なので、15:00にはテント場に集合する事に決め出発する。
- 11:25 モミソ沢入渓。各自思い思いのルートを見つけながらの遡行して行く。
- 12:10 A・C班大崩(12m)着。柴さんの確保にて千葉さんにトップをお願いしたが自信ないとの事なので、2番目にトップと同じスタイルにて登る事を条件で堀口が登る。全員無事大崩を登りきる。その後B班大崩に到着する。
- 13:40 大崩発。
- 14:10 戸沢テント場着。途中今夜のキャンプファイヤーの薪を調達しながらの下山。小雨模様なので近くの東屋にて早い夕食と懇親会をする事に決める。夕方近くに雨がやんだのでキャンプファイヤーをして明日の遡行の銳気を養う。
- 22:00 最終就寝。その前に各自思い思いにテントに潜り込み眠りにつく人様々でした。

25日(日)

- 5:30 起床。夜中寒いと思ったら、テントには霜が付き、山の上は雪景色でした。各自にて朝食を済ませる。
- 7:00 テント場出発
- 7:50 セドの沢入渓。水無川本谷F1を登り、すぐ左岸から流入している沢。
- 8:03 二俣。左岸から流入してくる沢はセドの

右俣、そこを左に行く。

- 8:26 チョックストン。
- 9:00 大滝(13m)。B班登攀中のを見ながらルートの研究をする。
- 9:55 左岸に大岩確認。休憩を取り左手の開けた沢に向かい書策新道と交差点に到着するが何か遡行図と違うような気がしたがそのまま進む。やはり行き詰まりに出て書策新道まで戻り、登山道を少し登った所に左俣との交差点があった。白滝ノ滝がある、水量が少ないせいかあまり迫力がない。
- 10:50 着
- 12:10 登山道に出る。
- 12:35 装備解除後出発。
- 13:45 戸沢テント場着。我々パーティが最終到着でテントの撤収は他のパーティがしていくこれまで申し訳ありませんでした。
- 14:10 戸沢テント場出発。
- 15:25 大倉バス停着。下山連絡後、渋沢駅近くにて反省会、終了後全員無事帰宅。

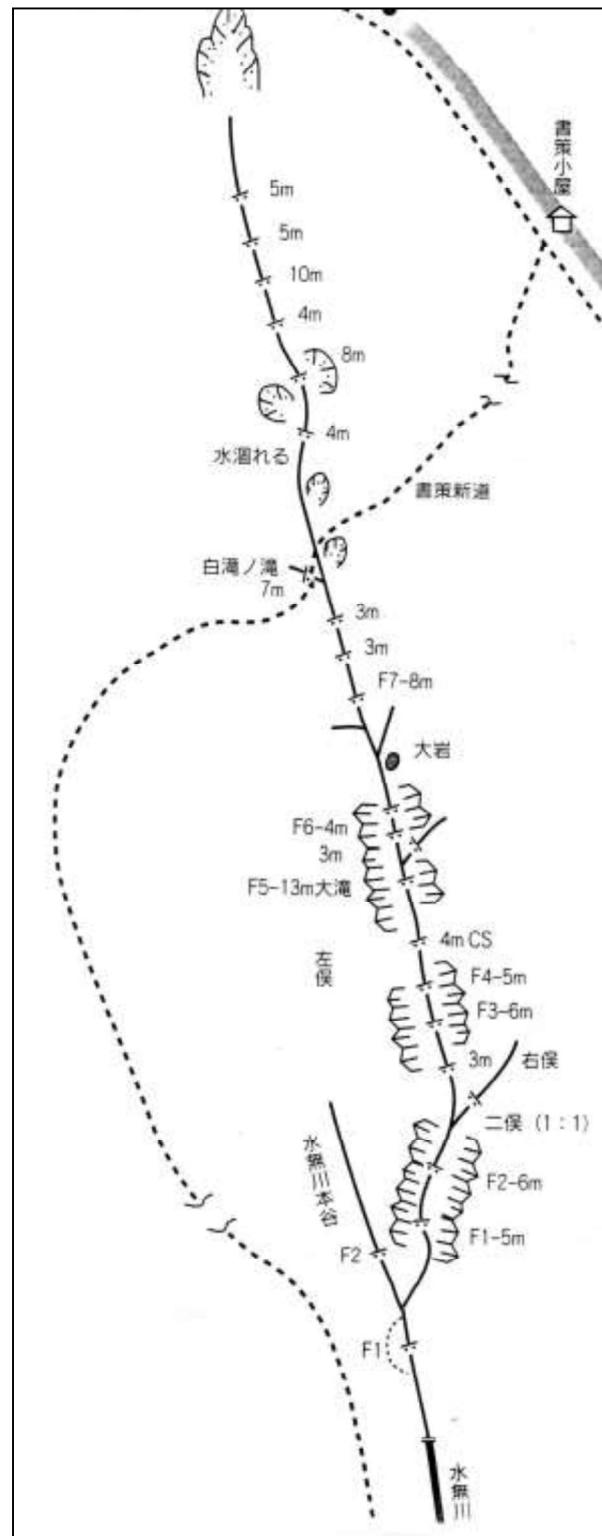
セドの沢左俣 高みの見物



セドの沢左俣 大滝に挑戦



セドの沢左俣

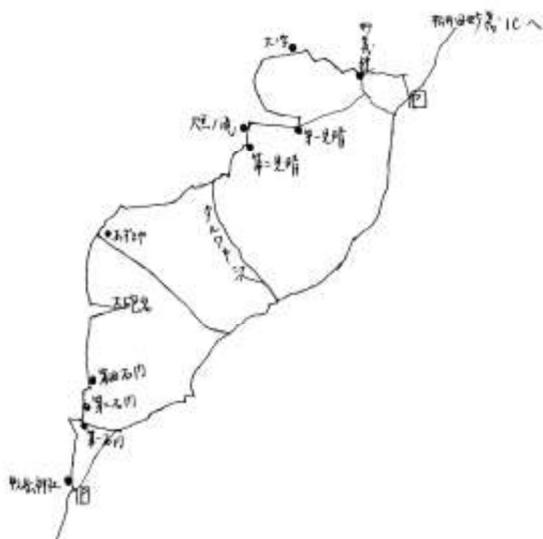


表妙義自然探勝路 (中間道)

田村光子

奇岩と桜を楽しむ

朝から天候に恵まれ、又ない登山日よりとなる。我孫子からバスで妙義神社の駐車場まで行き、いよいよ登山開始。赤い鳥居をくぐり、長い石段を登り、本殿に安全祈願をして、左の中間道を進む。右はバスの中から見えた山の中腹あたりにある大の字への道で、幾つか危険な個所があるようだ。30分ほどで、中間道を少し左に入ると、第一見晴に着く。すばらしい展望で、今芽吹いたばかりの新緑に覆われた山々や関東平野など、はつきり見ることができた。緩い登り下りを繰り返し、大黒の滝（枯れていて水は落ちていない）を通り、小沢を渡って行くと第二見晴、ここからも妙義独特のすばらしい林立する岩峰・奇岩・山の中腹あたりに咲いている山桜やミツバツツジなど、目を楽しませてくれた。タルワキ分岐を過ぎ、自然石の本読みの僧まで来ると、ちょうど中間点。さらにジグザグの登り下りをくりかえすと、東屋に出た。登山道にもシャガ・チゴユリ・ユキザサ・ホウチヤクソウなどの花が咲いていて、飽きる事



岩庇ノ下を恐る恐る
のない景色に疲れも忘れる。
ここからは登りが続き、数メートルも有る長い
鉄階段をやっとの思いで登ると、岩壁が頭上数
メートルまで庇状に張り出していくびっくり
する。

少し緊張しながら幾つかの鎖場を登下降し、見晴らしの良い頂きに立った。思わず「バンザイ」と、叫びたくなるような、すばらしい開放感を味わう。眼下には八重桜が広がり、前には何も遮る物もなく、気分爽快。そこからひと下りで、大岩をくりぬいた第四石門をくぐり、小広場で昼食を食べる。振り返ると石門の中に今立ったばかりの岩峰や大砲岩が見え、絶好のシャッターポイント。私たちも記念写真を撮る。



第四石門と大砲岩

昼食後は今日最大の難所、鎖場を登降する第二石門に向かう。鎖も新しく、しっかりと取り付けてあり、皆なんなく登る事が出来たが、最上部の狭い岩を通り抜けるのに苦労した人がいたようだ。

第一石門を通り、中之岳神社の駐車場に下りる。やっとの思いで急な階段を上り、神社に無事下

山した事を報告する。駐車場から、今登ってきた奇岩を眺め、あらためて自然の力のすごさを実感する。



鎖場を登る

バスで温泉に行くか、一本杉経由で歩いて行くか、どちらにするかと言うことだったが、全員体力が有り余っているようで、歩いて温泉に行く事となる。しかし車道に出て、いささか歩くのがいやになりかけたころにバスが迎えに来てくれてほっとし、バスで温泉に向かった。運転手さんに感謝。一日楽しい山行ありがとうございました。

山行データ

山名	表妙義自然探勝路		
月日	平成16年4月25日(日) 日帰り		
山域	上州	地形図 松井田 南軽井沢	1/25000
目的	奇岩と桜と温泉と		
費用	5,400円(入浴込み)	交通費 賃切バス	
行程	我孫子駅北口 5:30 → (上信越道) → 物産センター駐車場 8:05 ⇒ 妙義神社 8:20 ⇒ 第一見晴 8:35 / 8:45 ⇒ 第二見晴 9:00 / 9:10 ⇒ タルワキ沢分岐 9:15 ⇒ 本読みの像 9:25 ⇒ 石門群と妙義神社 道標脇 (休憩) 9:35 / 9:45 ⇒ ゆるぎ 岩天狗の評定 10:45 / 11:05 ⇒ 第四石門 (昼・食) 11:10 / 11:40 ⇒ カニの横ばい 11:50 ⇒ 第石門 12:08 ⇒ 中之岳神社 駐車場 12:15 ⇒ 中之岳神社 12:25 / 12:45 ⇒ 一本杉入り口 12:50 ⇒ きんけい橋 13:25 ⇒ 妙義不動池駐車場 13:45 ⇒ もみじの湯 (入浴) 13:50 / 15:00 ⇒ (上信越道) ⇒ 三芳 SA 16:18 / 16:35 ⇒ 我孫子駅 17:45 晴れ <歩行時間: 5時間35分>		
参加者	L 楠原、中村八、柴田、大串恵、大串秀、日下、斎藤、中野、原田君、品田、高橋芳、大畠、高橋潔、井上、田村 (男4名、女11名、計15名)		

奇岩と満開の桜



<372>

大藏高丸～ハマイバ丸
(1718m) (1752m)

原田君子

富士の雄姿と静かな山旅

新緑の向こうに富士の美しい姿を期待して5月2日、湯ノ沢峠から景德院コースの山行に参加。

昨年同じ時期に湯ノ沢峠から黒岳～小金沢山～大菩薩峠を歩いてブヨの多さに悩まされたので、今回は蚊取り線香とうちわも持参で。



黒岳をバックに（湯ノ沢峠上の草原にて）

湯ノ沢峠まではタクシーで上がり、ここから歩き始める。湯ノ沢峠の避難小屋脇には大きな桜の木があるが、花はまだ咲いていない。峠から草原のピークに登ると富士山や南アルプスの山々の見事な眺め。今日は先日の雨、風で空気がきれいに洗われて、雲一つない青空、緑も清々しくとてもきれい。



大藏高丸から眺める富士山は青い空に大きく見事に見える。富士山は、日本人にとっては特別な山なのか、こんなに心弾むのは私だけなのだろうか。

大藏高丸の頂上は高原状のお花畠だが雪が解けたばかりで花はない。峰桜が一輪二輪咲き始めたばかりだった。大藏高丸からハマイバ丸までは、緩やかなアップダウンの尾根歩き。この尾根は、富士山を正面に見ながら、後ろには黒岳、雁ヶ腹摺山。



ハマイバ丸、変わった名前の山だが、山頂標識に破魔射場丸と書いてある。何かの祈願所として矢を射た場所かもしれない。

大谷ヶ丸まで下ると木々は芽吹きと言うより新緑の爽やかな緑に変わる。光を通して透けて見える緑につい足が止まり、「きれい」「きれい」の連発。大谷ヶ丸から滝子山分岐を左手に見てコンドウ丸、曲り沢峠へと下っていく。尾根から沢筋の緑を見下ろすのもきれい。このあたりまで富士山と新緑を心行くまで楽しみながら、ゆっくりペースで歩く。大鹿山には寄らず景德院に向けて下る。

翌日、ザックの整理をしていたら蚊取り線香が出てくる。虫除けなどすっかり忘れていた。快晴で虫にも会わず快適な山行でした。

山行データ

山名	大蔵高丸～ハマイバ丸		
月日	平成16年4月29日(祝・木)		
山域	南大菩薩	地形図 1/2.5万	大菩薩峠・ 笛子
目的	高原状の尾根縦走を楽しむ		
費用	4,300円	交通機関	JR・タクシー
コース	我孫子駅5:33→新松戸→西国分寺→高尾→大月→甲斐大和駅8:36/8:40(タクシー)→湯ノ沢峠9:20/9:30→大蔵高丸 10:10/10:20-ハマイバ丸 10:55 昼食 11:05-米背峠 11:40/11:50→大谷ヶ丸 12:30-曲沢峠 13:20→大鹿峠分岐→景德院 14:20/14:40-甲斐大和駅 15:20/15:54→大月→西国分寺→新松戸→我孫子駅 19:10 <歩行時間 4時間 15分>		
参加者	細野省(L)、細野清(SL)、大串秀、齊藤、原田君、高橋芳、吉岡、武内、藤倉、田村 男4名、女6名、計10名		



<373>

鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大柄山 (1738m)(1641m) (1446m)

飯沼トミ子

河口湖より石和温泉までの縦走

一日目

久し振りの山行で早起きがつらい。しかし、靴をはき、リュックを背負うと足どりは自然と軽やかになる。天気は心配なし。連休にしては西国分寺駅での乗り換えは至極スムーズ。予定よりも早く登山口の根場に着いた。

富士山を背に、5月にしては暑い太陽を浴びながら急登2時間。皆さんの足どりは軽く、見晴らしの良い雪頭ヶ岳で早めの昼食を取る。リーダーが用意された具沢山のスープを戴く。さわやかな空気の中での昼食は一段と美味しい。目指すは、鬼ヶ岳山頂、ハシゴで一気に登る。ゆっくりと咲いている桜の木をバックにパチリ。金山を経て十二ヶ岳分岐を眺めながら節刀ヶ岳、大石峠からの下りはつづらおりの急降下であった。



節刀ヶ岳山頂で

新緑が素晴らしい足元には、未だカタクリが春の名残りをいじらしく語っていた。私達の足どりも更に軽やかに、予定より早めにその夜の宿である上芦川「すずらん荘」に到着。

民宿の方々も素朴で、手作りのぶどう酒や手料理での食事を満喫した。太陽を一杯に吸い込んだ布団で早々に休む。80余歳のおばあちゃん

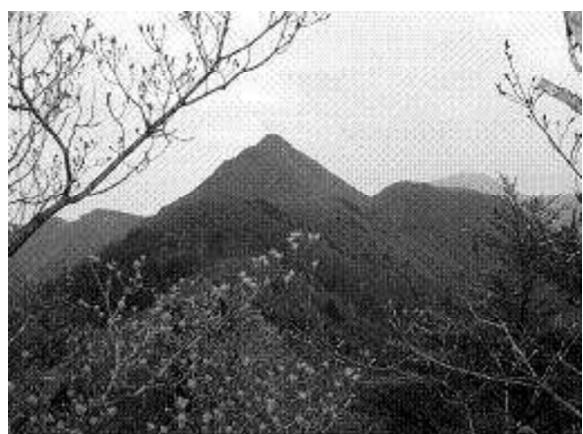
の心温まる思い遣りに感謝。



二日目

二日目は釈迦ヶ岳へ。民宿のご主人の説明により登山開始。民宿の方々が保存しているスズラン畑、まだ花はないが、ボケとイカリ草が花を咲かせていた。スズランの畑には、東京からの団体のお客が多く、またボーイスカウトのジャンボリーの会場としても利用されている、とか。

宿のご主人が所有する山の登山口から登り始める。いきなりの急登な道は、いかにも挑戦的であった。日向坂峠—府駒山を経由してハイライトである釈迦ヶ岳へ。展望良しの頂上には



釈迦ヶ岳



お地蔵様が鎮座していた（私達の無事を見守ってくれているかの様に）。この山もやはり信仰の山。そして、神座山、トビス峠、大柄山へと向かう。

大柄山で昼食を取る。やや、霞に見舞われ眺望は定かではないが、富士の方向を覗うとその姿がうっすらと浮かんでいた。

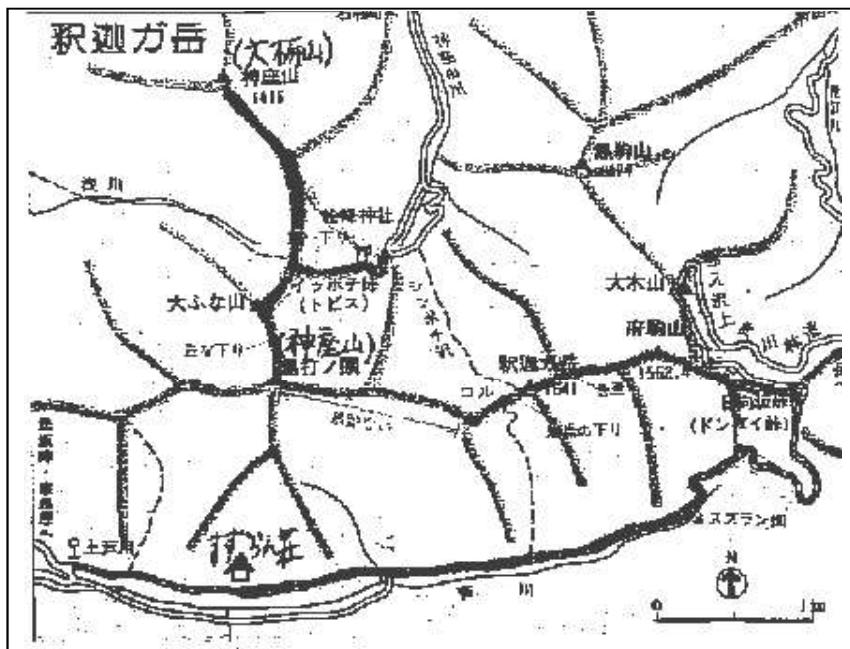
桧峯神社よりタクシーで石和温泉に向かい、みさかの湯でゆっくりと汗を流す。河口湖より石和温泉までの面白いコースは、天候にも恵まれ楽しい山行であった。



釈迦ヶ岳山頂のお地蔵さん

山行データ

山名	鬼ヶ岳・釧路ヶ岳～大柄山		
月日	平成16年5月1日(土)～2日(日)山麓民宿泊		
山域	御坂山塊	地形図 1/25000	河口湖西部・鳴沢
目的	冠雪の富士山とお花と隠れ里の宿		
費用	14,000円 (民宿6,500+交通費6,500+その他1,000)	交通費 幾額	JR・富士急・タクシー・民宿車
1 日 目	我孫子 5:33→新松戸 5:46/5:51→西国分寺 6:46/6:47→高尾 7:09/7:12→大月 7:47 /7:51→河口湖 8:41→(タクシー)→根場 9:15⇒雪頭ヶ岳(昼食)11:30/12:20⇒鬼ヶ岳 12:40⇒金山 13:10/13:17⇒節刀ヶ岳 13:33 /13:40⇒大石峠 14:40/14:53⇒林道終点 15:30⇒上芦川民宿 15:55 <快晴 歩行時間：6時間40分>		
行 程	民宿 6:00→(民宿車、途中スズラン畑見学) →登山口 6:40⇒日向坂峠 7:10⇒府駒山 7:30 ⇒釧路ヶ岳 8:10/8:30⇒神座山 9:55/10:05 ⇒トビス峠 10:35⇒大柄山(昼)11:20/12:00 ⇒檜峯神社分岐 12:35⇒檜峯神社 12:45→ (タクシー)→みさかの湯(入浴休憩)13:20/ 15:20→(タクシー)→石和温泉駅 16:20→高尾 →西国分寺→新松戸→我孫子 19:35 <晴れ 歩行時間：6時間>		
2 日 目			
参加者	大串恵(L)、小黒(SL)、榊原(SL)、大串秀、 斎藤、大畠、原田君、飯沼、高橋潔 男3名、女6名、計9名		



<374>

五頭山・菱ガ岳・二王子岳
(913m) (1129m) (1420m)

村 松 敏 彦

(やまたんより転載)

①5:30の電車に乗り遅れたものあり、携帯電話で連絡を取り合った結果、長岡駅にて待ち合わせすることになった。携帯電話の威力、便利さをしみじみ感じた。

②長岡駅におりた先発隊、今度はコッフェルを新幹線の網棚に忘れた事に気が付く。その時すでに電車は終点の新潟駅に向かってホームを離れていた。さてどうするか5人は考えた。A案は帰りに新潟駅から乗車するのでそれまで駅に預かってもらう。但し鍋がないので廉い鍋を駅周辺の店で調達する。B案は長岡から乗る電車は新潟行なので誰か新津で下車せず、そのまま新潟駅まで行ってコッフェル持つて戻ってくる。討議の末B案になり、取りにいく代表は当然の如く電車に乗り遅れたS氏が選ばれた。

③いろいろあったが何とかタクシーに乗って予定のルートに落着く。どんぐりの森にテントを設営して五頭山に向かう。明日(5月3日)に山開きの行事のあるこの山は多くの登山者で賑わっていた。登山道も良く整備されて歩きやすい。



雪の飯豊連峰をバックに（五頭山にて）

五頭山は名前の通り1ノ峰から5ノ峰までありそれぞれ石仏が置かれていた。又1ノ峰には竜神の鐘、3ノ峰には集いの鐘、5ノ峰には友情の鐘が取り付けられており、明日からの安全祈願をこめてならした。その音は澄んだ新緑の山々に鳴り響いた。山頂からは飯豊連峰が屏風のごとく立ちはだかり息を飲む迫力で我々を招いているように見える。何年か前この時季計画し、大雪で断念したことがふつと思いついた。

④どんぐりの森のテント場は新緑の森の中にあり、緑のそよ風、完備された施設、近くの沢のシンフォニー夢のような一夜を過ごしました。

⑤2日目は予定になかった菱ガ岳についてに登ることになった。山頂直下を除くと淡々とした登山道を各種の花を愛でながら登る。山頂からは昨年登った守門岳、浅草岳、御神楽岳、越後三山、雪のベールを被ってその美しい山容を魅せてくれた。



⑥B Cを今回の目的の山に移すために山開きで賑わうどんぐりの森を後にする。重いザックにばやきながら避難小屋に着く。先着者はおらず、テントは張らずに我々だけでゆったりと使用させてもらった。

⑦翌朝は雨の音で目を覚ます。天気予報は台風なみの低気圧が本州の南岸を通過中との事、それでも行くだけ行こうということで完全武装で小屋を出発する。ここからは雪

も多くなりやっと雪山に来たような気がしてきた。稜線に出ると雨は激しくなり、風も強くなってきた。そこでどうするかメンバーの意見を聞いた。此のまま進むか、撤退するか結果は1：3でこのまま進んでも展望もなく危険だと言うことで撤退の意見が多数をせめたので、民主主義の原理にもとづき残念だが撤退することにした。



撤退地点…でも一人だけ行きたい！

⑧今回の山行で全員が感じた事だが新潟の女性は美人で愛想が非常によく、結婚するなら新潟の女性という結論になった。山頂で写真を撮ってくれた人、イベント会場の人達、温泉の受付の女性、反省会の清楚な感じの人、みな非常に感じが良く、唯一権利のある北川君の相手は新潟生まれの女性が良いという結論に達した。

概念図



山行データ

山名	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳		
月日	平成16年5月2日(日)～4日(火)		
形式	テント及び避難小屋泊		
山域	越後(新潟)	地形図 1/2.5万	出湯・二王子岳・上赤谷
目的	①美しくも厳しい越後の雪山への挑戦。 ②雪と氷の登山技術を習得する。 ③雪の中でのテント生活を楽しむ。		
費用	約30,000円 (反省会費用 含む)	交通費 J R・タクシー	
行程	1日目 我孫子駅 5:30→上野駅 6:14→(とき30 1号)→長岡駅 7:52/8:19→新津駅 9:05/10:10→どんぐりの森 10:45/ 11:20⇒三ノ峰 12:40⇒一ノ峰 13:00⇒五 頭山 13:15⇒二ノ峰⇒四ノ峰⇒五ノ峰 14:15⇒どんぐりの森 15:30(泊) <快晴 歩行時間：4時間10分>		
	2日目 どんぐりの森 6:20⇒菱身平 7:00⇒菱ヶ岳 8:43/9:05⇒登山口 10:45⇒どんぐりの森 出発 13:30→二王子神社 14:45⇒一王子神 社(避難小屋) 16:00(泊) <晴れ後曇り 歩行時間：8時間25分>		
	3日目 一王子避難小屋 5:50⇒定高山 6:45⇒引き 返し地点 7:15⇒二王子神社 9:30→(よも ぎの湯経由)→新発田駅 13:27→新潟駅 14:49→上野駅 16:59=我孫子 17:45着 <風雨強し 歩行時間：3時間40分>		
ルート状況	①どんぐりの森のキャンプ場は快適です。 トイレ、給水施設完備何よりも無料のところがうれしい。 ②一王子神社避難小屋は15名くらいは泊まれる。清潔でいかに登山者及び地元の人達が大切に使用しているか理解できる。水場は近く(50m)にあり、冷たくかつ豊富に流れており、それはおいしい水です。ここも無料です。但しトイレがないのが残念です。		
参加者	村松敏(L)、外崎(S L)、青山、北川、 佐藤健 男3名 女2名 計5名		

<375>

毛無山～十二ヶ岳
(1500m) (1683m)

武内勇二

河口湖駅に降り立った時は、既に雨粒がぽつんぽつんと落ちていた。予報では小さな傘マークがついていたので雨は覚悟していたものの、下山くらいまでは降らないだろうとの期待はあっさりと外れてしまった。駅でタクシーに乗込む前に雨具を着けた。今日のコースは3年前の岳人あびこ創立5周年の富士山シリーズで登ったのとほぼ同じコースを辿るのだが、残念なことに十二ヶ岳手前の吊り橋があったとの記憶以外殆んど思い出せなかった。

毛無山への登山口は文化洞トンネル入口脇にある。リーダーの呼びかけで、軽く身体をほぐした後に出発。5分ほどで昨年の忘年山行（足和田山コース）の道を南に分け、緩やかな斜面をジグザグに登って行く。松を中心とした林は思いのほか明るい。もみじ等の落葉樹も芽吹きを終えて淡い緑の彩りを添えている。この季節の山歩きは何ともみずみずしい。毛無山の頂上に近くなるにつれ勾配がきつくなるが、さして苦しむことなく1時間半ほどで頂上についた。ここで昼食。相変わらず雨が落ちている。風はないが濡れた身体はすぐ冷えるので早々に出発した。

毛無山から十二ヶ岳への道は岩稜帯をゆく。小さなピーク一つ一つに一ヶ岳、二ヶ岳、…というように順番がつけられている。四ヶ岳からの下りのようにロープを頼りに急峻な崖を下らねばならない個所がある一方、九ヶ岳のようにピークに挟まれた鞍部にある小さな出張りに過ぎないようなものにも一人前に番号が付けられており、



イワザクラ

標識がなければそれとは知らずに通り過ぎてしまうような山頂もある。

四ヶ岳の下りで30人ほどの大きなパーティとすれば違った。十ヶ岳のイワザクラの群生を見て引き返してきたという。

十ヶ岳の岩場に咲くイワザクラは、数は少ないのでの可憐な花が好ましい。色も形もハクサンコザクラによく似ている。この他にもルートに沿っていたるところにイカリソウやアケボノスマレ、ヒトリシズカ咲いているのが見られ、春の山歩きを楽しませてくれた。

ルート最大の難所は十一ヶ岳から十二ヶ岳にかけてだ。まず十一ヶ岳から泥混じりの岩場を下り、鞍部にかけられた吊り橋を渡って十二ヶ岳に取り付いた後、急な岩場を登り返す。所々にロープや鎖が取り付けられているが、極力岩角にホールドを求めて慎重に登る。



〈十一ヶ岳から十二ヶ岳にかけての鞍部にかけられた吊り橋〉

平坦なところに出て西湖（桑留尾方面）への分岐を分けると程なく十二ヶ岳の頂上だった。山梨百名山十二ヶ岳の標識の傍に石造りの小さな祠がおかれていた。

南面が広く開いており、天気がよければ聳えたつ富士が見えるのだろうが、今日はあいにくの天気で濃い雲のヴェールに覆われている。足もとに西湖と思われる湖面が霞んで見える。当初予定では、ここから更に従走路を鬼ヶ岳へ向かう予定だったが、下山には順調に言っても更に3時間を要するだろう。リーダーが思案の結果、縦走はここで打ち切り西湖方面へ下すことになった。十二ヶ岳が約1,700m、西湖が900mなので約800mを一気に下らねばならないことになる。先ほどの分岐に戻り、いきなりの急斜面の下降が始まる。一旦スリップすれば20～30メートルはとまらないであろうほどの急傾斜で一步一歩慎

重に歩を運ぶ。適度なお湿りで土がしまっており、さほど歩きにくいことはない。2年前の富士シリーズの時も同じルートを下ったはずだが、情けないことにさっぱり記憶がない。20分ほど下ると傾斜はやや緩やかになる。新緑の中の散歩道といった趣きである。まきつく霧も新緑に染まり、全体が薄緑に覆われた感がある。しっとりとした感じが何とも目にやさしい。緊張がほぐれ、女性達から歌声が飛び出す。

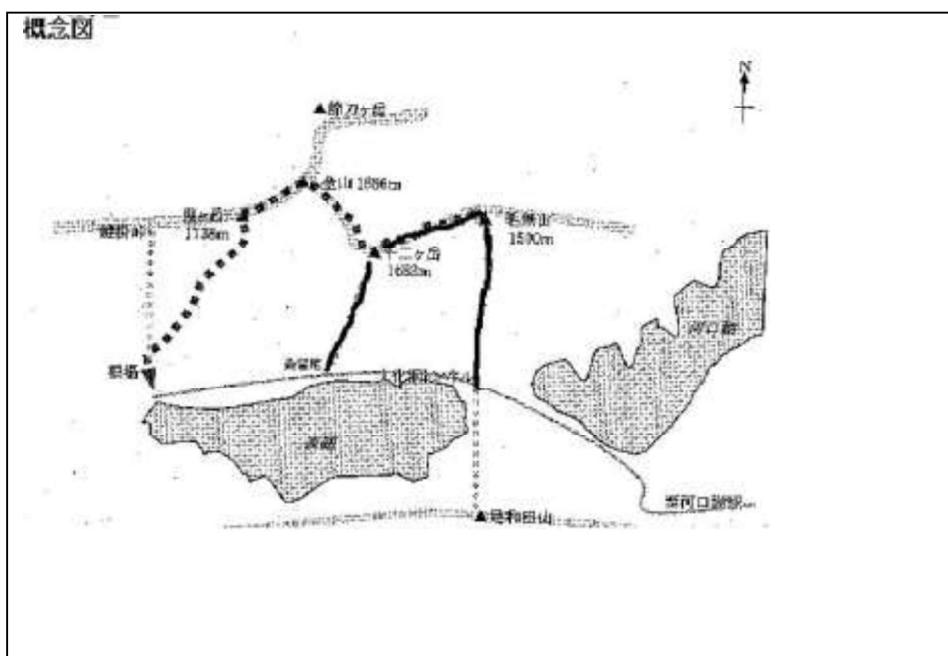
3時過ぎに登山口に降りたち、国道傍の立ち寄り湯で温泉にいれて貰うことにして、玄関横の水道で、靴やスパッツの泥を落とし雨具をぬいで泥んこ山行の幕引きとなった。



十二ヶ岳頂上・・・富士山は霧の中

山行データ

山名	毛無山～十二ヶ岳		
月日	平成 16 年 5 月 9 日(日)		
形式	日帰り		
山域	御坂山塊 (富士周辺)	地形図 1/2.5 万	河口湖西部、鳴沢
目的	富士山展望と岩稜歩き		
費用	交通費 5,600 円 (ホリデーパス、回数券利用)	交通機関	J R、富士急、タクシー、バス
行程	我孫子駅 5:33 → 河口湖駅 9:06 → (タクシー) → 文化洞トンネル 9:45 ⇒ 毛無山 11:15 / 11:30 ⇒ 十二ヶ岳 13:15 / 13:35 ⇒ 西湖桑留尾 (入浴) 15:00 / 16:08 → (バス) → 河口湖駅 16:30 / 17:19 → 我孫子 21:30		
参加	中村隆(L)、外崎、大串秀、斎藤、榎原、高橋英(SL)、高橋芳、武内、佐藤健、佐藤明、岡田 男6名、女5名 計11名		



<376>

瑞牆山～金峰山～
(2230m) (2599m)
北奥千丈岳～甲武信ヶ岳
(2601m) (2475m)

斎藤清一

瑞牆山山頂にて



新緑の中を冠雪の南アルプス八ヶ岳の眺望と石楠花を求めて！

一日目

瑞牆山から金峰山は紅葉の最盛期の頃訪れたことがある。今回は新緑を求めての山行であった。韮崎駅からの車からの眺めは真っ赤に燃えた紅葉時黃金色に輝いたブナの葉とは異なり新芽が出始めたり、新緑の色が濃くなり始めた時期であり、これまた感激であった。

今夜の宿・瑞牆山荘に3泊4日分の重いザック置き軽装備で瑞牆山へと出かけた。

山荘前までのなだらかな山から瑞牆登山口が始まっている。樹林帯が真新しい緑の葉を輝かせている。目に爽やか！鳥のさえずり声えさへ耳に爽やか！咲き始めた三つ葉つづじのピンクの色の爽やかさ！

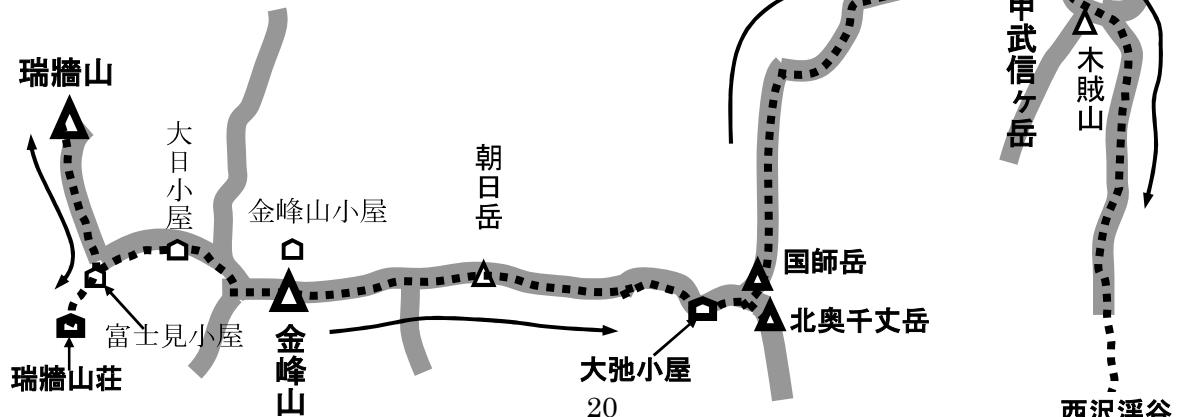
富士見平で分岐今日は左、明日は右方向と確認しながら天鳥川を目指して下った。このコースは2回目なので精神的に余裕があり天鳥川を渡っての岩肌の荒々しい岩壁が現れてもだいぶ崩壊がおきているな！と受け止められた。

曇りがちの天候に加えてガスが出てきました。全員懸命にロープを手繩りよじ登っていく。山頂直下の巨岩の群れに女性たちは驚いていた。全員無事に瑞牆山山頂に到着。ガスが切れ東に金峰山の五丈岩が顔を出す。そのたびに五丈岩だと叫んだ！西には八ヶ岳、南には

南アルプスが眺望できた。今回の山行の眺望に満足して昼食の時間を山頂で取った。紅葉の下でコーヒーをすすったが、今回は山荘のテラスから当時を眺めながらコーヒーの香りと喉を潤した安らかなひと時！夕食前に山荘の裏側に「くりんそう」が咲いているとの事で散策をする。夜中雨の音がすごかったので、朝晴れに驚きを隠せなかつた。



八ヶ岳全山(後方)と瑞牆山(前方右)。はるかに乗鞍岳(八ヶ岳左)が…<大日岩で>



二日目

本日は晴れ金峰山で八ヶ岳、南アルプスが眺望できる期待を持って向かった。富士見小屋の右手を登って原生林に入り込んで行った。大日岩あたりから晴天に富士山、八ヶ岳、南アルプスが浮かび眺望がすばらしい。感無量であった。五丈岩で充分時間を費やし金峰山山頂で展望を堪能した。



金峰山頂にて

大弛峠までの道程は私にとっては始めてであるので興味津々と同時に緊張感を維持しつつ進んだ。鉄山をまいて、まだところどころに残る雪と凍りついた道を下り朝日岳へ向けて登ったところで、明日登る甲武信ヶ岳が眺められた。

大弛小屋の主人の厚い持成しに感謝し夕食をとった。今年は小屋の周りには無雪であるが例年は雪が多いとの話があった。

三日目。

大弛峠から甲武信ヶ岳は2度目の山行であった。奥秩父の原生樹海の苔の生い茂った道程が楽しみである。北奥千丈岳からの富士山の眺め今回も素晴らしい感激しながら国師が岳からの眺望も！

国師が岳からの下りも残雪があった。凍り付いている山道はすべる足を取られないように慎重に歩をすすめる。このあたりから奥秩父らしい奥秩父、つかれも飛んでしまいそうだった。冷気に包まれた緑の苔の中を前回6月に訪れた時の思い出に下りながら、雪が消えるか消えない中の苔の薄黄緑色が一面に！両門の頭ですがすがしい空気と山々と昼食を食べた。



谷筋だけに雪を残した富士山がバッと目の前に…
北奥千丈岳(右端の樹林)から左に進なる後継は石楠花新道。
<国師ヶ岳山頂から>

いよいよ甲武信ヶ岳の登り3度目春2回、冬1回ゆっくり、ゆっくり山頂からの今朝歩いてきた山々を振り返りますます感動しあつた。クリスマス山行時ラッセルしながら山頂まで小屋から登

ってきたことを思い出す。その時は小屋は閉鎖していた。山小屋の主人はこの春初めての小屋入りとの事でスタッフは緊張気味であった。明日の徳ちゃん新道の「石楠花の咲き具合」を主人と話し合った。期待通り咲いているようだ！

四日目

朝から霧雨小屋で雨具を付けて、小屋の主人に見送られて西沢渓谷登山口に向かった。木賊山から破風山分岐、一方は雁坂峠方面、当時雁坂峠から雪の道を歩いてきたのであった。本日は徳ちゃん新道へ曲がつた。新道に分け入ったが、笹が昨年60年目で花が咲いたとの事で今年は笹が少なく見当たらなかった。しばらくして濃霧の中にピンクと白色の石楠花の道の中を歩めたのには霧雨も気にならなかった。美しい！花々…同じ山を何回登ってもそれぞれの楽しみを見出すことができた！今回の山行にはリーダーと同行者に感謝の気持ちで一杯であった。

山行データ

山名	瑞牆山～金峰山～北奥千丈岳～甲武信ヶ岳		
月日	平成16年5月13日(木)～16日(日) 山小屋3泊4日		
山域	奥秩父	地形図25千	瑞牆。金峰山。居倉
目的	① 新緑の樹林を抜け岩峰へ ② 冠雪の南アルプス・八ヶ岳眺望		
費用	38,500円	交通費	JR, タクシー
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿 7:00→韮崎駅 8:36 タクシー →瑞牆山荘 9:35/9:45⇒富士見平 10:20/10:25 ⇒瑞牆山頂 12:05/12:45⇒天鳥川 13:45/13:55 ⇒富士見平 14:18⇒瑞牆山荘 14:45 (泊) 曇り 歩行時間4時間10分		
行 程 2 日 目	瑞牆山荘 6:30⇒富士見平 7:15/7:20⇒大日小屋 8:10/8:20⇒大日岩 8:40⇒小川山分岐 8:50/9:05⇒砂払/頭 9:50/9:55⇒金峰山荘分岐 10:35/10:40⇒五丈岩(金峰山頂) 11:10/11:55 ⇒鉄山下 12:30/12:35⇒朝日岳 13:00/13:10/⇒朝日峠 13:40/13:45⇒大弛小屋 14:15 (泊) 晴れ 歩行時間6時間		
3 日 目	大弛小屋 6:20⇒前国師岳 6:45⇒三繁平 7:00 ⇒北奥千丈 7:10/7:20⇒三繁平 7:25/7:30⇒國師ヶ岳 7:35/.7:45⇒國師のタル 9:20⇒2224m 地点 9:40/945⇒東桜 10:05⇒両門の頭 10:50/11:20⇒水師 12:35⇒千曲川水源分岐 12:50⇒甲武信ヶ山頂 13:10/13:50⇒甲武信小屋 14:00 (泊) 晴れ 歩行時間6時間		
3 日 目	甲武信小屋 5:35⇒木賊山 5:50/5:55⇒破風山分岐 6:00⇒徳ちゃん新道分岐 8:18⇒西沢渓谷登山口 8:35⇒バス停 9:00/9:23⇒花かけの湯 10:20/13:00 タクシー⇒塩山駅 13:10/13:15⇒我孫子駅 16:20 霧雨 歩行時間2時間45分		
参加者	大串恵、大串秀(L)、斎藤、安田、大畠、田村 男2名、女4名 計6名		

<377>

塔ノ岳～丹沢三ツ峰
(1490m) (1567m)

千葉 有子

シロヤシオと鹿と、そしてヒル

気がついたのは、山行を終えてバス停に着いた後だった。雨具に、靴に、スパッツに黒い物体が^{うごめ}蠹^{うごめ}いている。メンバー全員だ。いつやられたのだろう。ヒルである。一日中雨の中を歩いた。雨の滴といっしょに木の枝から落ちてきたのか。あるいは、歩くたびにはねた泥の中に混じっていたのか。ヒルは始末が悪い。はらつくくらいでは落ちない。いや、つまんで離そうとしてもなかなか離れないほどだ。スパッツに穴を開けて中の靴下まで潜り込んでいる。なんてずうずうしい。恐らく、丹沢山から宮が瀬までの間でついたのだろう。鹿の足の蹄の間で繁殖する、と聞いたことがある。ブナの林が続くこの道は、鹿の多く生息する場所でもある。

しかしあのブナ林は美しかった。雨に煙^{けふ}りさらに神秘さを増し、おとぎ話に出てくる幻想的な森の中を歩いているようだった。登山道の周りをやたら柵で囲っているのは^{きょうざ}興醒^{きょうめ}したが。他でもない、柵は鹿の食害を防ぐためである。

「鹿の食害が進むので、植生保護柵をしてある。でも鹿たちも、人間の開発で生息域を狭められた被害者である。」というような立て札がいくつも立てられていた。人間が開発を進め、鹿を山奥に追いやる。鹿は狭い範囲で木の芽を食いつくし、そのために木が枯れ、山肌がむき出しになり土砂崩れを起こす。それでは困るので、鹿が木の新芽を食べないように柵をする。鹿は何を食べればいいのだろう。そして、鹿の食べ物を奪った地域の登山道を人間が歩き、鹿の蹄で繁殖したヒルに襲われる。なんだかめぐりめぐって復讐^{ふしゆ}されているようでもある。雨に打たれながらひたすら歩く私達を、鹿は木の陰から恨めしく見ていたのかもしれない。それとも「何が嬉しくてこんな雨の中を歩いているのだろう」と嘲笑っていたかも。

鹿についていろいろ書いたけれど、今回は一度も鹿の姿は見かけなかった。それより今回の山行の目的はシロヤシオ。丹沢山から宮が瀬までの尾根を三ツ峰尾根と呼ぶ。この尾根にたくさんのシロヤシオが咲いていた。ちょうど盛りである。雨の中、シロヤシオの花の下にもぐりこんで写真を撮った。シロヤシオは美しく、ブナの原生林も美しかった。

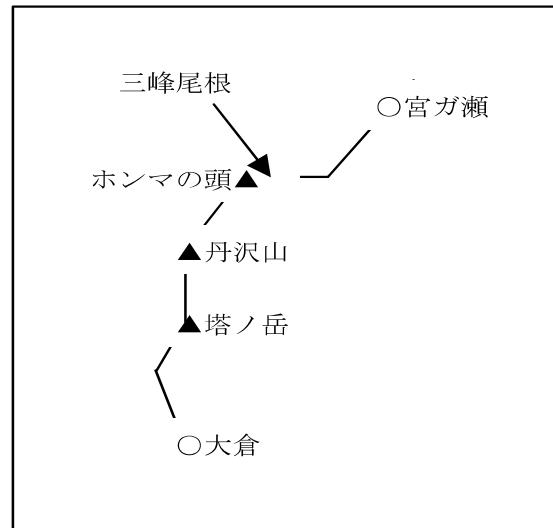


満開のシロヤシオがとても綺麗で

三ツ峰尾根は歩く人も少なく、静かな尾根だ。しかし、三ツ峰の名の通り、丹沢山からすぐにタレイの頭、円山木の頭、ホンマの頭と三つの峰が連なり、(セドの頭も含めると四つ峰になる)そのアップダウンの繰り返しで体力的に厳しいコースであった。

次には是非冬の時期に訪れてみたい。ヒルはないだろう、多分。シロヤシオももちろん咲いていない。雪景色のブナと、そして、今度こそ、そこにたたずむ鹿に会いたいと思う。

概念図



山行データ

山名	塔ノ岳～丹沢三ツ峰		
月日	平成 16 年 5 月 16 日 (日)		
山域	丹沢	地形図 1/2.5 万	大山
目的	シロヤシオの咲く尾根を歩く		
費用	3,700 円	交通機関	小田急、バス
日程・コース	我孫子駅 5:33 ⇒ 代々木上原 6:55 ⇒ 渋沢 8:10 ⇒ (バス) ⇒ 大倉 8:20 / 8:35 ⇒ 小草平 10:30 ⇒ 金冷ノ頭 10:50 ⇒ 塔ノ岳 11:52 ⇒ 尊 仏山荘(昼食) 12:40 ⇒ 丹沢山 13:35 ⇒ 瀬戸沢 ノ頭 13:50 ⇒ 円山木ノ頭 14:40 ⇒ 本間ノ頭 15:10 ⇒ 金冷し 16:10 ⇒ 高畑山 16:30 ⇒ 御殿 森ノ頭 17:00 ⇒ 三叉路 17:30 ⇒ (バス) ⇒ 本厚 木 18:55(解散) 雨 <歩行時間 6 時間 30 分>		
参加者	青山(L)、千葉(SL)、高橋英、武内、永谷 男 2 名 女 3 名 計 5 名		



円山木の頭にて

<378>

赤ぼっこ・天狗岩 (410m)

日下芳十

長淵丘陵にある 歴史ある峠を歩く

青梅駅から日向和田駅にかけては青梅線の南側に深い渓谷を刻む多摩川が大きく蛇行しつつ流れている。その渓谷を挟んで両岸には緑溢れる丘陵が脈々と連なる。北岸は永山丘陵、南岸は長淵丘陵だ。

ここは東京の奥座敷、奥多摩への玄関だ。南岸に横たわる長淵丘陵はその南にある日の出町や五日市と青梅とを分ける標高約400mほどの丘陵だ。この丘陵には旧鎌倉街道山ノ道の道筋が走り、峠には今も心打つ伝説が残されている。また丘陵の中ほどには素晴らしい眺望が楽しめるポイントもある。今回はそんな長淵丘陵を辿ってみたい。

JR宮ノ平駅(無人駅)を出発し、秋川街道沿い稻荷神社から長淵丘陵に入り梅ヶ谷峠で尾根道に入って天狗岩、赤ぼっこ、馬引沢峠等を経て丘陵を下り、青梅駅までの道筋を辿ってみた。

宮ノ平駅で下車ストレッチ体操して出発、多摩川の清流を眺めながら和田橋を渡って稻荷神社脇に天狗岩自然歩道入口の道標が立っている。車道を登っていくと、民家の前で行き止まって舗装がなくなる。そのまま直進する格好で、草の中に踏まれた細い道を進む。この草原の細い道は、やがて沢沿いの林道となり梅ヶ谷峠に着く。



杉木立の中を登っていくと尾根筋の道になる急な木段を下がって左に折れると、右手にススキ野が広がりすぐに木立の中に入る。ここからは快適な樹間のみちで、やがて天狗岩への分岐に着く木段を八十段余り下り岩場を登り返すと、崖に突き出した巨岩の多い天狗岩に着く。天狗岩は山際に張り出した平らな幾つかの岩ここで天狗たちが宴会をしながら踊ったか?ちょっと狭いかな?眺めがいい筈だが、曇っていて、山々の展望はきかない。



眼下に多摩川の流れや町並みがやっと見えるだけ。分岐の戻り、尾根筋を5分ほど進み左の分岐する細い道を行くと、標高410mの3等三角点赤ぼっこだ。雑木がじやまをして視界あまり開けていないが、青梅市街遠望することが出来る。

尾根筋に戻り、樹林の中の滑りやすい道をぬけると小さな馬頭観音があり、馬の目が可愛い。馬引沢峠を通り残土処理場のフェンス脇を通って早々に下山する。

多摩川の川原で昼食の予定だったが雨が降ってきたので、郷土博物館の庭の木陰で雨宿りをしながら和やかに昼食後帰路に着く。(山の歩き方の研修山行)



山行データ

山名	赤ぼっこ・天狗岩		
月日	平成16年5月23日(日)		
形式	日帰り		
目的	奥多摩の静かな丘陵を歩く		
山域	奥多摩	地形図 (1/2.5万)	青梅
費用	¥2,400	交通機関 袋線	J R・西武池
コース	我孫子駅⇒6:18⇒宮ノ平駅 8:29/ 8:47⇒梅ヶ谷峠入口 9:17⇒天狗岩 10:25/10:35⇒赤ぼっこ(3等三角 点)10:25/11:00⇒馬引峠 11:20⇒林道 11:40⇒青梅市郷土博物館 12:00/13:00⇒青梅駅⇒我孫子駅 15: 30 着 解散 <曇り～小雨歩行時間3時間10分>		
参加数	日下(L)、柴田(S L)、大串恵、大串 秀、大桃、菊地、斎藤、榊原、高橋寿、 長木、中野、蜂谷、原田君、増田、渡 辺、品田、庄司、飯沼、原、高橋潔、 原田和、井上、細川、間下(ゲスト) 男6名 女18名 計24名		



<379>

畔ガ丸
(1293m)

松本 豊

新緑を求めて

我孫子の駅から各駅停車の電車に乗り千代田線経由で代々木上原まで行き小田急線に乗り換え新松田駅に向かう。天気予報は芳しくなかったが結果は好転し新松田駅は大勢のハイカーで賑わっている。バスは臨時便が2台追加され計3台が西丹沢自然教室に向かう。臨時便のおかげで我々は全員2台目のバスに着席。乗客は全員終点まで向かったので座席が確保できなければ終点まで1時間余立ったままとなるので乗車前に営業所(駅前の出札所)で臨時便の有無を確認し有の場合は次のバスを待ったほうがいいだろう。トイレは小田急線新松田駅構内にあるのでバスの順番取りが終了したら駅員に頼みまた構内に戻ることになる。バスは御殿場線に沿って西進した後北進し丹沢湖経由で終点にむかう。

終点の西丹沢自然教室は名前の通りバス停には立派な建物(西丹沢自然教室)が建っていてここでゆっくりと登山準備ができる。勿論トイレもある。初夏というより夏の天気となり我々も日焼け止めを塗りストレッチした後に発する。

教室の玄関前を通り吊橋を渡る。西沢に沿って道は続くがすぐに沢の右岸、左岸と沢を横切る連続となる。丸太橋が架けられているが大雨の後の増水時は立ち往生することも考えられるので直前に大雨が降った時は山行中止を含めよく検討する必要がある。今日は夏の天気となつたため沢を渡ってくる風が汗をかき始めている体に気持ちいい。沢の水音を聞きながら歩を進め権現山分岐を通過する。まもなく下棚沢(下棚の滝)への分岐となるが我々は直進し本棚沢の分岐を左折し本棚沢に沿って本棚(滝)へ向かう。分岐より沢の右岸、左岸と両方から道は延びているが途中で一緒になる。滝は左右に本棚、カラ棚が懸かっていて両方の滝からの飛沫が気持ちよく体を冷やしてくれ



る。マイナスイオンたっぷりの空気を存分に吸い元気がよみがえる。また滝を登っていく蛇も目撃できた。先程まで滝壺で体を冷やしていた?蛇が登り始めたのであった。左右に体をくねらして実に見事な登りである。分岐に戻りました暫く沢に沿って登っていくとやがて尾根に取り付く。今度は急登である。息がきれるころ尾根途中の木立の中に椅子のある休憩場所がありここで1本。

ここから先は大きな木は少くなり一本調子に登る馬酔木の登山道となり夏は背中から直射日光を浴びることとなるので是非ここで休みたい。ここから善六のタウまでは30分程度である。休憩場所からは馬酔木の多い登山道を一本調子で登り畔ガ丸から北東に伸びる稜線にぶつかると登りも一段落するが今度は稜線に沿ってのアップダウンとなる。最初の鞍部が善六のタウである。稜線上は木々が多く見晴らしは期待できない。稜線上で昼食をとりパワーチャージ後一路畔ガ丸山頂を目指すも久し

新緑に覆われた畦ヶ丸山頂にて



振りの山行の小生が不覚をとり登り一本調子に耐えかねて昼食の30分後におねだりの一木。結果的にはあと10分で山頂であったのに残念。畔ガ丸山頂は木々に囲まれ展望はなし。山頂には3等三角点がある。

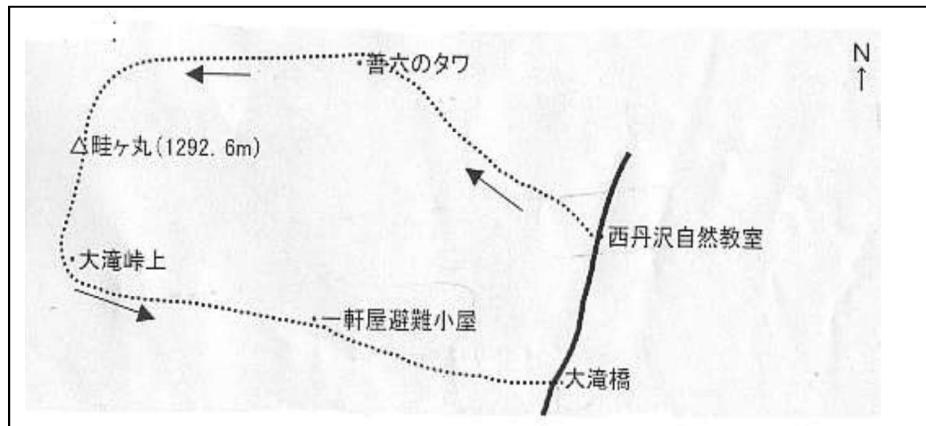
一般後下山開始。山頂から西進するすぐに畔ガ丸避難小屋がある。逆コースからツアーディレクターらしい40名程の一行が避難小屋のトイレを占拠していたため我々は小屋に立ち寄らずに下山。小屋の使用具合の確認ができなかつたのは残念であった。小屋に水場はないので利用する場合水揚げは必要である。しばらく急な階段を下るとやがて緩やかな下山道となり大滝峠上に到着。ここにはベンチと指導標が建っている。道を直進すると大滝峠に向かうが土砂崩壊で寸断されているため現在丸太で塞がれていて進入禁止となっている。この分岐は左折してステタロ一沢方向に進む。尾根道を下りステタロ一沢に出てさらに沢沿いに進むとやがて一軒屋避難小屋に出る。一軒屋避難小屋はステタロ一沢と鬼石沢の出合に立っている。トイレはなし。水場もないが沢の水は豊富に流れているので沸かして利用するのであれば問題なしとおもわれる。ただトイレがないところから小屋よりできるだけ上流で採取する必要があり。小屋での宿泊は入口の土間、奥の部屋で10名程度の収容は可能。小屋からは徐々に道幅は広くなりやがて林道にできる。小屋から一小時間でバス停の大滝橋に到着する。バス停で一緒になったパーティは最初に来たバスに乗車し立ち席で帰ったが我々は運転手の言葉を信じて後続の臨時バスの空席を期待して乗車しこれが正解でゆうゆう座っての帰りとなった。時間の制約のため温泉入浴はなくなったが全員元気に帰路に着いた。

初夏とはいえ非常に暑い一日となり、久し振りに参加した小生にとっては反省多い山行となつた。私にとって初めての西丹沢、畔ガ丸は、派手さはないが落ち着いた山であった。恒例により新松田駅前の食堂に立ち寄り内輪の反省会の後、小田急線での一人きりの夢のなかの反省会に参加は乗車後すぐであった。

山行データ

山名	畔ガ丸		
月日	平成16年5月29日(日)日帰り		
山域	西丹沢	地形図 1/2.5万	中川
目的	新緑を求めて		
費用	約6,000円	交通機関	JR、小田急、バス
行程	我孫子 5:30→代々木上原 6:30/6:35→新松田 7:50/8:25→(バス)→西丹沢自然教室 9:35/9:50→権現山分岐 10:25→本棚 10:40/10:50→休憩 11:15/11:20→善六のタウ 11:46⇒昼食 11:50/12:10⇒休憩 12:40/12:45⇒畔ガ丸 12:55/13:10⇒畔ガ丸避難小屋 13:14⇒一軒屋避難小屋 14:10/14:20⇒大滝橋 15:10/16:00→(バス)→新松田 17:00/17:54→代々木上原→我孫子 20:20		
参加者	斎藤(L)、大串秀(SL)、大串恵、高橋潔、田村、松本 男4名 女2 計6名		

概念図



<380>

大幡川 四十八滝沢

坂口よし江

滝の登攀を楽しむ

3:45 柏公設市場にて集合し、堀口さんが用意して下さったレンタカーに全員乗り込み、三ツ峠北口登山口を目指して出発する。2時間ほどで、登山口に到着。車一台がやっと置けるぐらいの駐車スペースしかない。

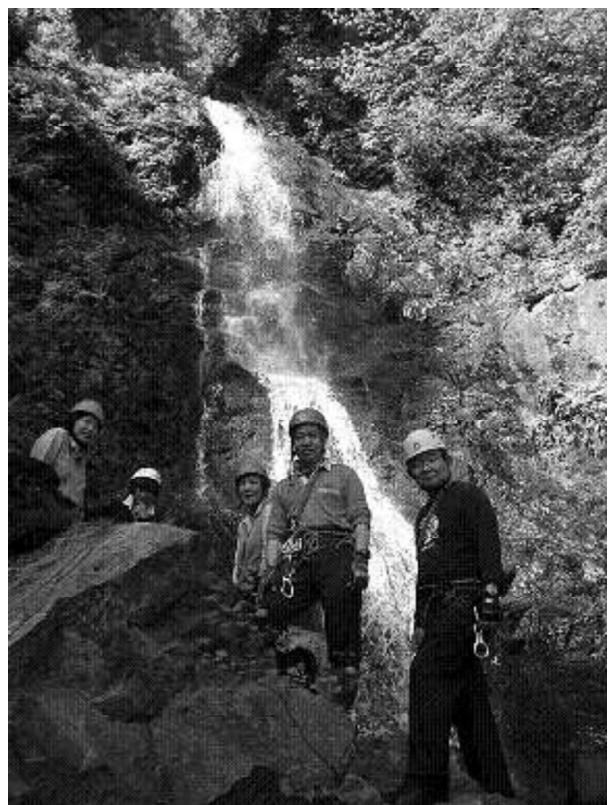
6:15 登山口を出発。登山道を30分程行ったところから入渓する。荒れたゴーロ歩きをしばらくすると、大滝が現れた。遡行図にはないはずの大滝、どうも入渓地点が早すぎたようだ。皆で、楽しみながら難なく登る。

小さな滝を何度も超えながら気持ちよく登っていくと、25mの大滝に到着、一本立てる。水量が少ないと全員で大滝を直登することになった。水量が少ないと水しぶきがかかる。濡れるのが嫌いな私には、少々堪えるが、岩がしっかりしているので救われる。

連続した小滝を何度も越えながら進んでいくと、段々と岩の状態が悪くなってきた。上部に行くにしたがって脆くなり、掴んだ岩がぼろっととれて冷や汗もの。Sさんが掴んだ直径40、50センチもある大岩がぼろっと剥がれたり、生きた心地がない。



9:35 ほんの4、5メートルの枯れ滝。直登を試みるが、岩が脆くホールドも乏しく傾斜もあることから、高巻きすることにする。千葉さんと私は、滝横の手がかりの乏しい泥溝に足を蹴り込み、スタンスを確保しながら登り、滝上に出た。



他のメンバーは、少し下ったところから高巻きして降りてくるつもりのようだ。堀口リーダーから、千葉さん、坂口は先行してそのまま沢を遡行するよう指示があり、二人で進んでいく。

いくつか滝を直登しつつ、後続メンバーの様子を窺うが、何の気配もないでの、そのまま遡行を続け、終了点に出た。

頂上めざして、踏み跡らしき所を辿っていくが、途中でそれも無くなってしまう。灌木を掻き分けて上を目指していくと、所々にゴミが落ちていて頂上が近いことを教えてくれる。ホッと安心する。ドロドロ、ヨレヨレの状態で山頂に到着。

頂上付近で後続パーティーを探すが、まだ到着していないようだ。登山道を少し降りたところで、待ってみる。が、なかなかやってこない。携帯電話は通じないし、こんな時に無線があればと思うが・・・。

千葉さんと相談し、もう一度山頂まで戻ってみることにした。重い足を引きずり、山頂付近に着いてみると、堀口さんはじめメンバーの面々がこちらに向かって歩いてくる。下に降りるまでもう会えないかも知れないと諦めかけていただけに、感動の対面となる。それにも会えて良かった。

山頂付近で全員仲良く一緒に昼を食べ、揃って下山する。

- * 北口登山道は私たちの他には、登る人も下る人もなく静かそのもの。喧騒を避けて、静かに登りたい向きにはお勧めの登山道。
- * 三ツ峠の山頂付近は、この時期から夏にかけて虫が多く要注意。刺されると物凄く腫れて悲惨なことになるので、虫除けは必携。



山行データ

山名	大幅川 四十八滝沢 4D		
月日	平成16年5月30日（日）		
形式	日帰り		
山域	御坂山塊	地形図 1/2.5万	河口湖東部
目的	存分に登攀を満喫		
費用	5,000円（含、入浴・夕食）	交通機関	車（レンタカー）
行程コース	柏公設市場集合 3:45⇒柏 IC⇒中央 HW⇒三ツ峠北口登山口 5:45→登山道→四十八滝沢入溪 7:00→開運山 12:00 /12:30 北口登山道→三ツ峠北口登山口 14:00⇒都留 IC⇒柏 晴れ＜遡行時間：4時間30分＞ ＜歩行時間：2時間20分＞		
参加者	堀口（L）、千葉、佐藤健、野村、佐藤明、坂口 男3名 女3名 計6名		

概念図



< 3 8 1 >

水澤山・ニッ岳(雄岳)

(1 1 9 4m) (1 3 4 3m)

高橋 潔

リーダーとして初めての山行であったが、バス借用ということもあって、直前まで悪い天気予報に悩まされた。二日前に取り消し可否をバス会社に問い合わせたところ、取り消し料が発生するとのことで、あきらめて敢行となつたいきさつがある。この地域の山行は公共交通機関が不便でバス利用を選んだが、天候をにらんでの変更はやりにくい。

当日は、朝から晴れて事前の心配は杞憂であった。かなり暑い日差しながら、幸いにして水沢観音からの南斜面登りは青葉・若葉の葉陰を登る形となって、適当な風も加わって、大いに助かった。三角錐の登りを追えると360度の展望の山頂に出るが、この季節ともなると晴天ながらモヤがかかって遠くの山座同定は難しい。



水沢山では、遠望はきかないものの雲一つなかった

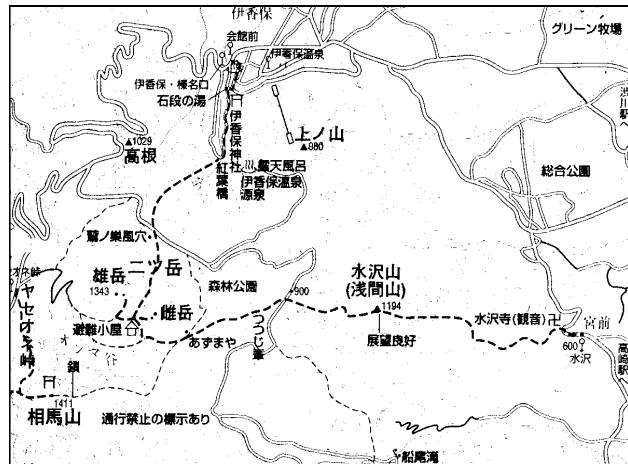
二ツ岳と相馬山が西方にでんと控えるつつじが峯の東屋脇の空き地でさわやかな風を受けながらピクニック風の昼飯となつた。適当に



木陰を利用しながら、11時のお昼を小学生みたいにぎやかに楽しんだ。

弁当も済んで、元気をつけて出発となつたが、
オンマ谷分岐からニツ岳への登りは、けっこう
急でかなり咲いていた途中のレンゲツツジは
あまり観賞されずとなつた。

概念図



骨折回復後初めての本格的な山行となった原田さんも、頑張って雄岳の登り下りと避難小屋から風穴貯蔵庫跡への急下降を問題なくこなしていただけたのはよかったです。こちらも骨折経験があるので、登山再開時の不安な気持ちはよく分かる。

予定より 30 分ほど早く管理センターへ下山できたので、伊香保温泉石段の湯での入浴と温

泉街の見学にゆとりが出来た。特有の赤茶けた温泉に銭湯の踏み段がよく見えず、男女ともに「ザップーン」と踏み外したりで、大はしゃぎした。ひととおり温泉街の見学の後、チャーターバスに乗って水沢観音下の水沢亭で精進料理が起源という「水沢御膳」なるうどんに挑戦。うどんが食べ放題、ということなので挑戦するもののビールと筍おこわニギリとが加わって、こちらはあえなく3杯でお手上げとなった。一行の中で剛の者で5杯というところだったので、「口ほどにもない」健啖ぶりとなった。みんな適当な運動と温泉さらに満腹という組み合わせで、ほどほどに満足頂けたようであった。



初めてのリーダー山行での印象：

- やはり大勢の参加があった方が心強いし、参加者の数は山行の妥当性と関わりが深い。
- チャーターバスの利用はやっかいである。
- よい天候は山行の成功を左右する重大な要素であるが、まさに「運を天に任す」しかない。
- 会計や記録の役割はけっこう大変で、リーダーは助かる。
- 「足並みがそろう」ことが、山行の「ゆとり」につながり、余力ある山行の重要な条件である。

山行データ

山名	水沢山・二ツ岳(雄岳)		
月日	平成 16 年 5 月 30 日 (日)		
形式	日帰り		
山域	赤城・榛名	地形図 1/25000	伊香保
目的	展望とツツジ、温泉と水沢うどん		
費用	¥7,900 (含む、 入浴、飲食費)	交通費 (関)	貸切バス
行程	我孫子駅出発 5:40 → (バス) → 寄居 PA7:00/7:10 → 水澤観音駐車場着 7:57(準備) 登山開始 8:10 ⇒ 休憩 8:50/8:55 ⇒ 休憩 9:23/9:28 ⇒ 水澤山 H1194m 9:45/9:57 ⇒ 道路に出る 10:20 ⇒ つつい峠(昼食) 10:40/11:10 ⇒ 避難 小屋 11:32 ⇒ 二ツ岳 (雄岳) H1343m 11:50 ⇒ アンテナ塔の場所で休 憩 11:55/12:05 ⇒ 避難小屋 12:15 ⇒ 風 穴貯蔵庫跡 12:45 ⇒ 下山道路に出る駐 車場着 12:55 バス出発 13:10 ⇒ 伊香保 温泉駐車場 13:15 ⇒ 石段の湯(入 浴) 13:20/14:15 ⇒ 温泉街散策 ⇒ 駐車 場バス出発 14:45 ⇒ 水澤亭(反省 会) 15:00/16:00 → (バス) → 三芳 PA17:15/17:25 → 柏 IC 18:25 → 我孫子 駅着 18:45 晴れ・曇り 歩行時間 3 時間 45 分		
参加者	高橋潔 (L) 、細野省、外崎 (SL) 大 串秀、大串恵、齋藤、高橋英、榎原、 小黒、原田君、高橋芳、飯合、原田和、 永谷 (男) 6 名 (女) 8 名 合計 14 名		

<382> 公開登山

会津磐梯山

(1819m)

村 松 敏 彦
中 村 隆 泰

<やまたんより転載>

<全般> 村松敏彦

- ①事前の下見の結果、歩行時間及びルートの安全性からして全員同一ルートを取るのと下山路を表登山口ルートに変更する。結果的にはこの変更が円滑な運営につながった。
- ②関東地方は梅雨入り、天気図と天気予報を検討する。前線が太平洋岸に停滞しているため、東北地方は晴れとの判断をする。バスが北へ走るに従い天気は良くなってきた。
- ③八方台登山口で各班毎、ストレッチ運動をした後出発、中ノ湯までのブナ林の新緑の深い色が東北の山に来たことを体に感じる。明治の噴火のせいか全ての木が若い。
- ④中ノ湯は休業していた。露天風呂の温泉のみが人の営みに関係なく、ぶくぶくと沸いていたのが、なんかわびしい感じがしたのは私だけだろうか。
- ⑤沢山の種類の花を愛でながらしばらく登ると、左側の展望が開けてくる。桧原湖、五色沼の裏磐梯地方が箱庭のごとく美しい。眼前には噴火口が対象的に不気味な景観を呈して、自然のすさまじさを感じる。
- ⑥間もなく分岐につく。弘法清水に尾根通しに行くのとお花畠まわりのルートで我々は後者のルートをとる。弘法清水で昼食。
- ⑦お腹と冷たい水を補給して最後の急登に汗を流すと頂上に着く。山頂はまさに遮るもののがまったくない360度の大展望が待っていた。北東に吾妻・安達太良連峰、那須、南会津の山々、西に飯豊連峰が霞みかかつた中に白い峰々を屏風のように佇んでいた。そして眼を下に向けると猪苗代湖、裏磐梯の湖沼等が大パノラマとなって映る。
- ⑧下山はいったん弘法清水まで戻る。黄金清水で再度甘露水を補給して沼ノ平に向かう。沼ノ平にはいくつもの沼と花が散在していてほっとするところです。但し西側には磐梯山東壁が垂直の壁となって圧倒的な迫力で頂上に突き上げていた。
- ⑨なだらかな道もスキー場になると膝ががく

がくするほどの急な下山道となる。ビールと温泉を頭に描きながら一気に登山口まで下りる。

- ⑩温泉と冷たいビールと蕎麦を賞味しながら今日の山行に花がさいた。但し我孫子到着の時間の関係でゆっくり出来なかつたのが残念でした。帰りのバスでは歌あり演説ありそれは賑やかでした。他人が観たら単なる酔っ払い集団にみえたのでしょうか…
- ⑪予定の時間に到着して、長い1日が終わつた。一般参加者ともなごり惜しみがら。

本年度の公開登山を無事終えた。日帰り山行としては時間的にはこの距離が限界のような気がします。本部担当で協力していただいた人達、リーダー、サブリーダー、会員の皆様ありがとうございました。

<DE班> 中村隆泰

- ①事前にコースの変更の連絡を受けた。全員Bコースを登ることになった。実は内心ホッとした。その理由は次の二つ。
 1. コースタイムの差が大きすぎる…表コースと八方台コースの頂上までのタイム差は80分で、仮に登山開始が40分早いとしても、残り40分を縮めるのは健脚者でも至難の業である。上で八方台からの皆さんと顔をあわせるのはちょっと無理のようである。
 2. グレード2B?…標高差1100mの上り下りはグレード3B、トレーニング不足の自分の体力、脚力が耐えられるだろうか。特に下りは急降下、効率はいいがトラブルたら大変である。
- ②会津の天気予報では雨は降らない。関東地方は梅雨入りの雨というから、目指す山が北の方で助かった。
- ③八方台で班編成をする。元Aコース組（会員のみ15名）を二班に分けD班・E班とする。（当日はいろんな呼び方をしたが、一般参加者引率組がA～C班なのでD・Eとする）
- ④A～C班に続いてゆっくりスタート。明るいブナ林と小鳥のさえずりに励まされ、緩やかな登りを快調に進む。「ここのブナは若いですね」と千葉さん、「明治の大噴火で全滅し、それから蘇生したのだからじゃないの」と村松C.L.なるほど、破壊された自然を取り戻すには100年以上かかるわけだ。
- ⑤硫黄の匂いが漂う中ノ湯を過ぎるといよい

よ本格的な登りが始まる。樹林帯の中を20分ほど登ると左手に展望が開け、磐梯山の爆裂火口壁が間近かに見え、はるか眼下には檜原湖が見下ろせる。単調な登りがかなり長く続き、お花畠方面への分岐に出る。花を愛でながらようやく弘法清水に着く。

⑥弘法清水で昼食、おにぎりを食べ、我孫子の水をおいしい清水に取り替え、あわただしく頂上へ出発する。ここから見上げると山頂ははるか高くそびえている。

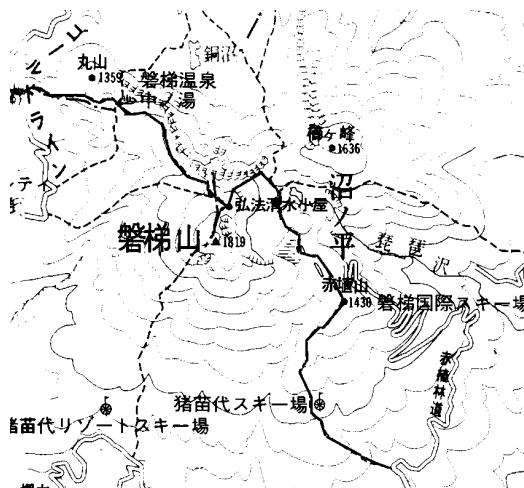
岩礫の多い歩きにくい道を一步一步踏みしめて登る。急登に息を切らせながらも時々現れる展望や高山植物に心を弾ませる。最後は岩の階段状の道を一気に登り、岩礫が累積する山頂に到着する。

⑦頂上からの展望は多少かすんではいるものの、すばらしい眺めである。この時期これ以上贅沢はいえないだろう。

⑧下りはおしゃべりを慎むようにとのC Lからの注意を皆に伝える。下山開始。弘法清水まで戻り、表登山道へ進路を取る。地球の引力に耐えながら、ぐんぐん下る。やがて沼ノ平に差し掛かると、高原状の平坦な道が続く。こんな道で下に着くのだろうかと心配になる。

⑨スキー場の最高部に着くと下界の見通しもよくなる。しかしここで標高1200m、あと500mはくだらなければならない。下山道はスキー場の作業道へ誘導され、林道並みの硬い所を一直線に下りた。強制的に引き摺り下ろされるようないやな下りである。

10数年前初めてスキーをしたのがこの磐梯山のスキー場、この斜面は上級クラスとか、立っているだけで足がすくみそうである。登山口の温泉に着いたら4時までに風呂をあがれとのこと、カラスの行水となった。



山行データ

山名	会津磐梯山		
月日	平成16年6月6日(日)		
形式	日帰り		
山域	会津	地形図 1/2.5万	猪苗代・磐梯山
目的	①一般市民との交流を計り、地域に密着した山の会として発展する。 ②民謡、山容としてあまりにも有名な会津の名峰に登る。		
費用	7,000円	交通費	貸切バス
行程	我孫子駅北口 5:40→(貸切バス 常磐道～磐越道～磐梯ゴールドライン)→八方台登山口 9:45/10:00⇒中の湯 10:30⇒弘法清水(昼食)11:40/12:10⇒磐梯山山頂 12:40/13:00⇒弘法清水 13:15⇒黄金清水⇒沼ノ平 14:00⇒1合目⇒表登山口(ホテルニュー磐梯で入浴・飲食)15:20/16:45→(貸切バス 磐越道～常磐道)→我孫子駅北口 20:30 <晴れ時々曇り歩行時間：5時間30分>		
参加者	<氏名頭部＊印：一般参加者(敬称略)> 本部 (会員1名) 全体責任者及びC L=村松敏 A班 (会員6名+一般6名 計12名) 武内(L)、外崎(S L)、細野、日下、安田、青山、*吉田喜美子、*木村義枝、*坂本修、*菅谷重夫、*龜山重夫、*真下智弘 B班 (会員6名+一般6名 計12名) 柴(L)、斎藤(S L)、細野省、大串恵(医療)、佐藤明、井上、*松本友子、*濱口英雄、*小関克己、*戸山光晴、*後藤皓一、*波満千鶴子 C班 (会員6名+一般4名 計10名) 清家(L)、大串秀(S L)、柴田、高橋英、岡田、細川、*黒木敦子、*塩原百合子、*坂井弘幸、*深和眸子 D班 (会員8名) 高橋芳(L)、原田君、高橋寿、品田、飯合、飯沼(S L)、松本、田村 E班 (会員7名) 中村隆(D・E班L)、千葉(L)、大桃、中野、庄司、原(S L)、佐藤健 合計(会員34名+一般16名計50名)		



ハア～会津磐梯山は…
ここが宝の山のテッペンだ！
バンダーアイ！バンダーアイ！

↑B班
A班→



←C班
↓D E班



< 3 8 3 >

玉原高原・尼ヶ禿山
(1466m)
奥利根水源の森

原 田 和 昭

第一日目 ブナは話し合っている

大型台風6号が日本本土に接近している時にバスは定刻に出発する。今回の山行は教育研修も兼ねて、ブナの専門家・坪田和人講師と一緒にブナ林を歩きながら自然の大切さを理解することである。総勢20名の会員が参加した。

バスの中では事前の知識を得るために用意されたビデオを見ながら順調に玉原高原センターhausに到着する。準備を整え歩き始めると直ぐにブナの湧き水が出ている所に着く、水量は豊富で冷たくて美味しい。早く、持参した水を入れ替える。

登山道に入り少し進むと玉原湿原に出るが、湿原の花達は殆んど終っていた。静かな林を歩くのは快適である。森の中から林道に出ると暑い太陽の光が照り返して蒸し暑くて気持ちが悪い。

再度、登山道に入ると、そこはブナ林の中で涼しい風が肌にやさしく吹いて来る。ブナの木が作ってくれた新しい空気を胸一杯に吸い込みながら急坂を登ると尾根筋に出る。尾根に沿ってさらに登ると今回の山行で一番高い山・尼ヶ禿山に到着。頂上から見える四方の山は深いガスに覆われて視界は悪い。本来なら谷川連峰や尾瀬の山並などが見えるはずですが見えず残念でした。

頂上から少し下山してブナの大木があるので昼食をする。ここで坪田講師からブナの自然形態について説明を受け、ブナの樹幹に聴診器を当てて、木が水分を吸い上げる音を聞かせてもらう。コク、コクと鳴る音を聞くと本当に木は生きているのだと直感し感動を覚える。



神妙な顔でブナ林の話をうかがう



登って来た道を玉原越えまで下り、ブナ立て尾根に登り返す。ブナの大きな木が林を作り森となっている。ブナ1本の木に70~80万枚の葉が付いており、その葉が毎年秋になると落葉して自然の腐葉土となる。この自然の営みが山の動物や植物、そして人間が生きて行くために必要な資源で、大切な木である。

長沢の三角点を過ぎると間もなく、ブナ地蔵の看板がある。どこでもお地蔵さんは石に刻まれていると思っていたが、ここのお地蔵さんはブナの根コ部分で回りは緑の苔が一面に生えて不思議な型をしている。高さの異なる地蔵さんが連續して立っているように見える。1本の大木が倒木して根コ部分だけが残り地蔵の形をしている。本当に自然の力は不思議な物を残していると感心する。

坪田講師から「全国のブナの木達は話しあっている」と言う面白い話を聞く。それは、5~6年に一度、野ネズミの少ない年に全国

一斉にブナの木は話し合っているかのように、大量な実を着けて大地に落とす。この実が新しいブナの赤ちゃんとなり次世代のブナを育てる。このメカニズムは解明されていないが楽しい話である。

ブナの木肌は白く滑らかで綺麗であるが、木肌に黒く模様が付いている。この模様の形は千種万別で、地覆類の苔が着いて形を作っている。この苔の成長は1年で1m/m位しか大きくならない。苔の形や大きさだけを見ても楽しい。

ブナの生態系の話を聞きながら、出発したセンターハウスに到着する。ここからバスで一路湯の小屋温泉に向かう。宿泊する葉留日野山荘は32年前に小学校の分校が廃校された。その校舎を地元有志が買い取り全面改装して温泉付き山荘としているものです。温泉の湯量は多く、透明なお湯で肌にやさしく、身体は温まり快適である。夕食は山で採れた山菜料理のご馳走に満足する。

第二日目 太陽の子供達がダンスを踊っている

バスは定刻より早く出発し、10分程行った所の広場に着く。バスから降りて見ると山側の急傾斜地に立っているブナの大木に驚かされる。幹まわり4.6m、樹高27m、樹齢約400年の大木。これが奥利根のブナ太郎と説明される。こんな大きな木が厳しい急傾斜地に凜として立っている。自然条件が厳しく、風雨や積雪に耐え、長年の月日を要して、こんなに大きくなるものかと感嘆するばかりです。



照葉峡沿いの自然の滝を見ながらバスは奥利根湯けむり街道を登ると坤六峠に到着する。この峠からは尾瀬の至仏山から笠ヶ岳方面の山並を眺めることができた。この峠は沼田から会津方面に抜ける旧街道である。近年になってバスが通れる道路が出来た時の元群馬県知事神田坤六氏の名前から峠の名前が付けられたと聞く。自然の森キャンプ場まで下りバスから降りる。

ここから奥利根の水源の森を歩き始める。今日のコースは全体がブナ林で小さな樹から大きな樹が様々な形をしている。珍しい形をしたブナの木がある所では立ち止まり、講師の説明を聞く。明るい緑の葉の間を抜けた太陽の光がキラキラと揺れながらブナの白い樹幹を踊っている。こんな光景を見て坪田講師から「太陽の子供達がダンスを踊っている」と説明。また、ブナの葉は太陽の光を受けて光合成で新しい空気を作り大気に放出している。その新鮮な空気を吸いながら気分爽快に歩いて行くと田代湿原に到着する。

湿原の一角にレンゲツツジの花が咲いていた。さらに進むとヒメカイウ群生地に着く、水芭蕉の花を小さくした純白の白い花。この花を見た途端に「可愛い」の声が一斉にあがった。さらに進むと花咲湿原へ。ここにはコバイケイソウ、はくさんチドリ、リュウキンカ、ワタスゲなどの花が今を盛りに咲いていた。

ヒメカイウ群生地までもどり左折してからはブナのプロムナード通り。大木の間の道をゆっくりと右に左に目を移しながら進む。見渡す限りのブナ林で大きな木が残り、広い空間は心を豊にしてくれる。不思議な世界だ。休憩地点では昨日と同様にブナの呼吸を聴診器で聞く。慣れてくると直接木肌に耳を当てて聞けるようになる。

ブナの木に混じってダケカンバの大木があるようになるとブナの高度限界地点に来ているかもしれない。ブナ林の自然を存分に堪能しながら道なりに進むと、武尊山に登る登山道に出る。その分岐点を左折して行くと映画ロケ記念地点に出る。

最後の話で、ブナの字を漢字に書くと、木に無と書き、この漢字『撫』をブナと読む。ブナの木は昔から役にたたない木だと言われて来たが、現在では見直されて人や動植物が長く生きて行くために絶対に必要なことが分ってきた。二日間にわたり、自然の生態系が循環することで人間の生命が助けられていることが良く理解された。坪田講師の熱心な説明に感謝すると共に、この豊かな自然の森を子々孫々まで大切に残すことに努力したいと心に強く誓いました。重ねて坪田ご夫妻に厚く御礼申し上げます。

武尊山キャンプ場のレンゲツツジの花を見ながら牧場東俣駐車場に下る。ここからバスで花咲温泉に行き、汗を流して冷たいビールで乾杯し帰路に着く。

山行データ

山名	玉原高原・奥利根水源の森		
月日	平成16年6月19日(土)~20日(日)		
形式	山莊泊 1泊2日		
山域	武尊山周辺	地形図 1/2.5万	藤原湖、鎌田、至仏山
目的	坪田氏と共にブナを訪ねる。 ブナを通じもっと自然を理解		
費用	約20,000円	交通機関	貸切バス
日程 ・ コ ース	我孫子駅 5:30 → (バス) → 赤城高原SA → 玉原高原センターhaus着 8:40 (準備) 登山開始 9:00 ⇒ 林道 9:47 ⇒ 沢で休憩 9:57/10:05 ⇒ 尼ヶ禿山 H1466m 10:45/10:55 ⇒ 昼食 11:15/11:45 ⇒ 林道 11:57 ⇒ 長沢の三角点 12:40 ⇒ ブナ地蔵 13:10/13:25 ⇒ センターハウス 14:00/ 14:10 → (バス) → 湯の小屋温泉着 15:30 葉留日野山荘 (泊) <曇りのち晴れ。歩行時間 4時間>		
日 程 ・ コ ース	山莊発 7:10 → (バス) → 奥利根のブナ太郎 7:20/7:40 → 坪六峠 8:00/8:15 → 水源の森キャンプ場着 8:20 (準備) 登山開始 8:30 ⇒ 田代湿原 9:37/9:50 ⇒ ヒメカイウ群生地 10:03 ⇒ 花咲湿原 10:15 ⇒ ヒメカイウ群生地分岐 10:40 ⇒ 休憩 10:50/ 11:05 ⇒ 昼食 11:50/12:17 ⇒ 映画ロケ記念地 13:00/13:05 ⇒ キャンプ場 13:15 ⇒ 東俣駐車場着 13:30/13:40 ⇒ 花咲温泉 (入浴と反省会) 14:00/15:37 → 沼田IC 16:15 → 寄居PA 18:00/18:10 → 我孫子駅北口着 20:15 <曇りのち時々晴れ歩行時間 4時間>		
参 加 者	清家(L), 細野清、細野省、村松敏、柴田(SL)、菊地、斎藤、高橋寿、長木、中野、原田君、安田、品田、原田和、高橋潔、藤倉、田村、井上 講師: 坪田夫妻 (会員: 男5名 女13名 計18名 ゲスト: 2名 合計20名)		



<384>

赤岳～横岳～硫黄岳

(2899m) (2829m) (2742m)

高橋芳恵

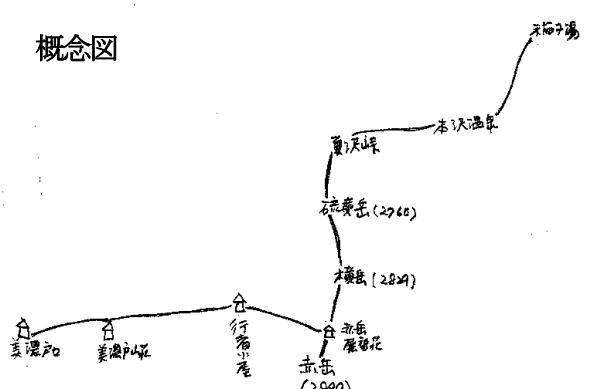
新緑と花の宝庫を訪ね

憧れの稜線小屋に泊まる

一日目

「あまり知られていないけれど、八ヶ岳の6月は花の宝庫です。」とSリーダーのお説めで私のもとも好きな山、八ヶ岳に初めて6月に出かけた。中央線茅野駅からバスに乗り、終点美濃戸口より1時間程度で美濃戸山荘、この先の分岐より行者小屋への南沢コースを取る。沢沿いの道は溪流の音も心地よく、樹林帯の中、右に左にと渡り返しながら気持ちよく進んだ。途中、猫柳の綿毛のような白い綿毛で腰を下ろすところにも苦労するほどであった。川の流れが次第に細くなり、広い涸れ沢に出たところが白河原で、前方に横岳、右方に阿弥陀岳の威容が現れる。ごろごろの石の河原をさらに進むと行者小屋に到着。行者小屋は何度も訪れた小屋であるが、真正面に赤岳を望み、南八ヶ岳の山々を展望する最高のロケーションの小屋で水も豊富、トイレも最近新たに整備され、気持ちがよい。テント場はカラフルなテントでぎわっていた。

概念図



普通ならばここで泊まりというところだが、さすがに今回のリーダーはさらに2時間急な登りを越えて展望荘まで登る計画である。ゆっくり休憩を取った後は地蔵尾根に挑む。

このあたりより花が多くなり、グンナイフウロウ、イカリソウ、オオヤマフスマ、ベニバナイチヤクソウなどが見られた。地蔵尾根の最初はシラビソ林の穏やかな登りで軽快に登っていたが、途中より険しい岩道となり、少し登っては喘ぎ、喘ぎで皆さんの中に続くのが精一杯。鎖場や鉄梯子の登りをいくつか越し、地蔵の頭に出る。稜線に一体のお地蔵さんが置かれていた。すぐそこが赤岳展望荘である。以前から稜線に張りつくように建っているこの小屋にぜひ泊まってみたかったが、思いがやっと実現した。今回は初めて日本労働者山岳連盟の会員証で割引をお願いしたが支配人もよく知らないことで確認に少し手間取った。



赤岳展望荘

夕方までに赤岳を往復しようということになり、「私は疲れたのでここで待っています。」と言ったもののやはり一緒に出かけた。稜線上に出て驚いたことに花、花、花でコイワカガミ、キバナシャクナゲ、オヤマノエンドウ、チョウノスケソウ、と白馬にしかないといわれていたウルップソウも惜しげもなく咲いており、まさに花の宝庫にふさわしいお花畠。いっぺんに疲れは吹っ飛んでしまった。「花

の百名山の中に八ヶ岳が入っていないのはなぜかしら?」「田中澄江さんは6月に来たことがないのかな?」



ウルップソウが咲いていた

赤岳頂上小屋には北峰、その先が南峰の頂で両峰とも展望はすばらしく、一等三角点のある南峰には赤岳神社が置かれている。阿弥陀岳、権現岳、編笠山、富士山、南アルプスの山々、明日目指す横岳、硫黄岳、天狗岳、梅雨の時期にこれほど展望が楽しめ大満足。

展望荘に戻りゆっくりお茶を飲み、食堂の両側の窓より富士山をはじめ周囲の山々の夕暮れの展望を楽しんだ。またこの小屋のサービスは格別で食事はバイキング形式の食べ放題。たらの芽のてんぷらをはじめ種類も豊富。

「稜線でこれだけ揃えるのは大変だったでしょう。」と感激した。食後はスライドショーと支配人の暖かい人柄あふれるお奨めの小屋である。

二日目

昨日とは打って変わって未明よりの風雨で大荒れの天気となり、同宿者の大半は行者小屋方面に下る様子だが、リーダーより「気をつけて、予定通り

行きましょう」と指示があり、横岳に向かい出発した。雨はさほどではないが、強風と濃霧であたりが見えず、前の人との間を空けないように気をつけて歩いた。横岳を通り過ぎてしまったのかと地図を確認した地点が横岳で危険箇所の通過もたいしたことはなかった。

硫黄岳周辺ではキバナシャクナゲが多く見られ、待望のコマクサはしっかりと蕾だった。硫黄岳山荘でコーヒータイム。この小屋のトイレは水洗ウォッシュレットで清潔感にあふれ、従業員の対応も非常によかつた。

これより夏沢峠の間で強風にあおられ、吹き飛ばされそうになり体を低くして岩にしがみつきながら歩いた。体重のある人とない人の差もしっかりとて、太っているのも悪いことばかりではないと妙に納得したりした。夏沢峠から稻子湯に向かい下ると先ほどの強風はなんだったのかと思うほど晴天で風も穏やかであり、八ヶ岳の稜線歩きの変化のおもしろさを味わった。今朝の天気で稜線を歩く人がいなかつたせいかどこへいっても私達だけで、週末にこれほど静かなゆったりとした山歩きができるとは超ラッキーである。

登山道にはゴゼンタチバナ、マイズルソウ、ツマトリソウ、などたくさんの白い花が咲いており、清楚でさわやか。原生林のシラビソの林もなんとも気持ちがよい。

本邦第2位の高所温泉である本沢温泉の露天風呂にだれも入っていないのを見て「入ってみたい!」などとリーダーを困らす者もいたが、「稻子湯まで行きましょう!」と通過した。ミドリ池は昔歌った「ブルーシャトー」のような森の中の静かな池で、隣にあるしらびそ小屋には鳥やリスが放し飼いされていて雰囲気がとてもよくぜひ立ち寄りたい小屋である。

このあたりの登山道は木材搬出のための軌道跡が残っている。トロッコの行き交った頃を想像しながらカラマツの林をひたすら歩いた。途中の湿地帯にはクリンソウが咲き乱れ目を楽しませてくれた。

駒鳥沢にかかる屏風橋を渡り、唐沢橋のゲートを越えると稻子湯に到着。稻子湯旅館は一軒宿である。



静かなたたずまいのミドリ池

稻子湯で入浴、蕎麦タイムをとり、無事バスにも間に合って帰途についた。今回、八ヶ岳のすばらしい花々と変化に富んだコースを楽しみ、Sリーダーの適切な指示や気の置けない仲間たちに助けられ、とても心地のよい、有意義な山旅を経験することができた。

大好きな八ヶ岳はまだまだ奥が深く、あなたの良さを知るために幾度となく通い路を歩くことになりそうです。あなたのもついろいろなバリエーションでまた私達を迎えてくださいね。

山行データ

山名	赤岳～横岳～硫黄岳 3C			
月日	平成16年6月19（土）～20日（日）			
形式	山小屋泊 縦走			
山域	八ヶ岳	地図 1/2.5万	八ヶ岳東部・八ヶ岳西部・松原湖	
目的	静か森と岩の稜線歩き			
費用	17,000円（入浴・夕食含む）	交通機関	JR・バス	
行程 コース	1 日 目	我孫子駅 5:41→日暮里 6:11/6:15→新宿駅 7:00 (スーパーあざさ1号) →茅野駅 9:07/9:30(バス)→美濃戸口 10:10/10:20 ⇒ 美濃戸山荘 11:00/11:10⇒白河原 13:15⇒行者小屋 13:45/14:05⇒地蔵ノ頭 15:15⇒赤岳展望荘 15:20/15:40⇒赤岳頂上 16:15/16:30 ⇒赤岳展望荘 16:52 (泊) <快晴 歩行時間：5時間30分>		
	2 日 目	赤岳展望荘 6:15⇒横岳 7:35⇒硫黄岳山荘 8:25/8:45⇒硫黄岳 9:10/9:15⇒夏沢峠 9:47/10:00⇒本沢温泉 10:45 しらびそ小屋 12:05⇒稻子湯（入浴）13:15/14:10（バス）→松原湖駅 14:45/14:57→小淵沢駅 15:59/16:17 (ホリデー快速ビューやまなし) →立川駅 18:42→西国分寺駅 19:04→新松戸駅 19:58/19:59→我孫子駅 20:13 <曇・濃霧のち晴 歩行時間：6時間20分>		
参加者	坂口（L）、大串恵、大串秀、榊原、高橋芳、佐藤健 男2名 女4名 計6名			



しらびそ小屋付近の原生林

<385>

榧ノ木山～鷹ノ巣山

(1483m) (1737m)

千葉有子

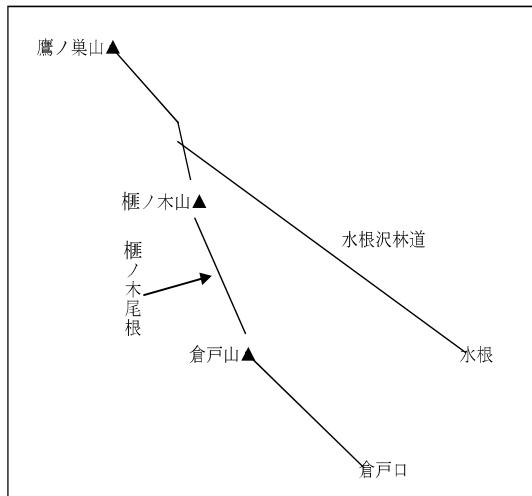
反省散在の夏山尾根

パン、パーンと鉄砲の音が響いた。上の急斜面から登山道めがけ、鹿がすごい勢いで駆け下りてきた。続いて犬。その勢いと駆け下る音から、追われる鹿の必死さがわかつて思わず固唾を呑んだ。

榧ノ木尾根を登っている最中のことだった。のんびり歩いている私たち登山者。普段何も考えないが、こうして山の獣は命がけで生きている。それを思い知らされた。

鷹巣山は、私担当の今年度1度目の山行である。思いがけない場面に出くわしたが、山行中はおおむね静かで、初夏の山を楽しめた。いや、そう思うのは、計画者の独りよがりかもしれない。なぜなら、二人も体調不良者を出してしまったから。

とにかく暑かった。梅雨時の曇り空の下を歩くつもりが、朝からの晴天。コースタイム6時間、歩き始めからの急登。何も意地が悪くて計画したわけではない。前回来たのは2月。雪を踏みしめながらの登りだった。それほど厳しいと感じなかった。夏の様子を見できなかつたのは、未熟ゆえである。



倉戸山山頂に着くと、一人がこれ以上は無理と、下山することになった。グループのリーダー（人数が多くたため、ABCの3グループに分けていた）に付き添ってもらった。惜しいことに、倉戸山からはとてもなだらかで、クッションの効いた歩きやすい道となつた。鷹ノ巣の手前で昼食。山頂を目指して歩き出すと、一人が今度は足つり。やはりグループのリーダーに残ってもらい、あのメンバーだけで登頂した。

足をマッサージして待っていたHさんは、ザックを他のメンバーに預け、ダブルストックで何とか麓まで下りることができた。

下りの水根沢沿いの道は、日陰の多い沢の香り漂う、夏にはもってこいの道だ。沢好きにはたまらない。下方の沢に沢登りをする姿が見えれば、思わずそちらに加わっているような気持ちにもなってうきうきしてしまう。ただ、くねくねと曲がりくねって長い。急な部分や一部崩れているような箇所もある。ダブルストックのHさんには堪えただろう。「計画者のわがまだ」と指摘されれば、返す言葉がない。

奥多摩の山は新緑、紅葉の時期にぎわう。バスの増発便が出るのもこの時期。真夏の奥多摩は敬遠され、思いのほか静かだ。そんな様子が却って気に入っている。汗をたっぷりかきながらの登降も気持ちいい。ということで、計画した。しかし暑さの苦手な人には御法度だ。夏の奥多摩は、やっぱり個人山行でこつそりと出かけよう……なんて勝手を言っても大目に見てください。ちゃんと秋や冬に計画して、今回の罪滅ぼしをしますから。



倉戸岳

リーダーとして

帰りのバスの中で「今回のような場合、体調不良者に付き添ってリーダーが下りるべきではないのですか」と村松さんに質問してみた。「リーダーが他のメンバーほっぽって、残されたパーティはどうするんだ」と叱咤され、「あとは野となれ、山となれ」と答えたたら、「こりやひどいな」と呆れられた。若葉マークのたよりないリーダーは、覚えるべき金科玉条が果てしなく限りなくあるような気がして、頭がくらくらした。本当、反省しています。



山行データ

山名	樅ノ木山～鷹ノ巣山		
月日	平成16年7月4日(日) 日帰り		
形式	日帰り		
山域	奥多摩	地形図 1/2.5万	奥多摩湖
目的	奥多摩湖の展望 静かなロングコース		
費用	3000円	交通機関	JR, バス
行程	我孫子駅 5:33⇒奥多摩駅 8:23⇒(バス)⇒倉戸口→倉戸山への登山口 9:05→倉戸山頂 10:30/40→水根沢分岐 12:00 鷹ノ巣山頂 13:10/25→水根沢分岐 14:05/10→水根バス停 16:15⇒(バス)⇒奥多摩駅⇒我孫子駅 21:00 晴れ<歩行時間 6時間>		
参加者	A班 千葉(L)、高橋英(SL)、武内、柴田大串恵、岡田 B班 村松(L)、中村八(SL)、外崎(救護)、細野省、中村隆、細川 C班 大串秀(L)、青山(SL)、斎藤、増田、田村 男7名、女10名 計17名		



<386>

三ツ峠山（開運山） (1786m)

高橋寿江

はにかんだ富士の代わりに出迎える 花いっぱいの三ツ峠山

車窓から、目指す三ツ峠山の電波塔が見えてくるとまもなく、河口湖駅に着いた。バスで、五合目あたりから雲の富士山をながめ、湖畔の温泉街を抜け1200mの裏登山口まで登った。

ブルトーザが目につく木陰の広い作業道の、ゆるやかな登りを進むと、明るい日差しの中、トリアシショウマ、カイフウロ、トラノオ、オダマキ、シモツケソウの花々が、次々目にとまり喜びの声があがる。レンゲショウマの群生地は卵形の蕾ばかりで一つも花を見ることができず残念、一週間後位が楽しみかも？

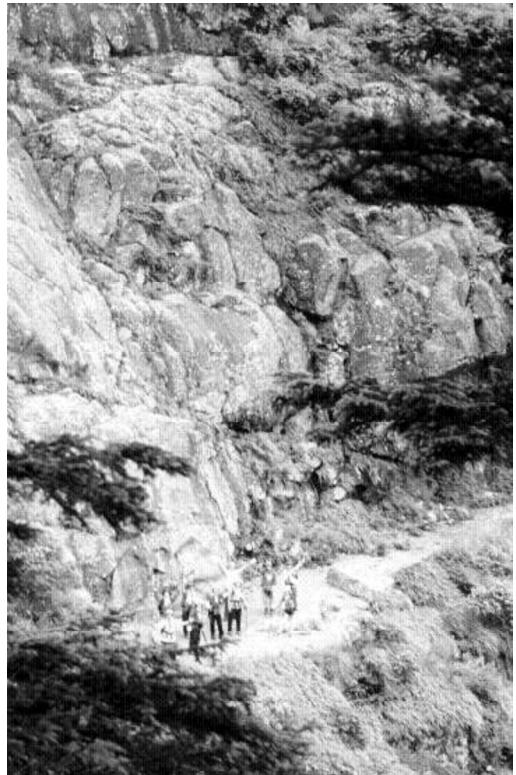
四季楽園分岐から、流水跡のゴロゴロした悪路を巻き気味に登り、涼しいブナ林を抜けると一面のお花畠が目に飛び込んできた。

ワレモコ、コオニユリ、ミヤマバイケイソウ、キボウシ、アヤメ、ハクサンチドリや他の花、花、花に大満足し山頂をめざして戻り、富士見莊脇から、崩壊した階段がむき出しの、ズルズル滑る急登を一気に登ると、電波塔のある山頂だ。

概念図



残念ながら見えない富士山を思いお昼にする。まもなく、山中湖方面に真っ黒な雲、ゴロゴロ音もしだしたので早々に、三ツ峠山莊脇から目前に立ちはだかる屏風岩へ下った。屏風岩では沢山の人が岩登りをしていた。



屏風岩

石仏が並ぶ八十八大師から、股のぞき、馬かえしと、急坂をただただひたすらくだる。杉林から沢音が聞こえ、自然石で出来た達磨石から車道にでた。

長い車道歩きも、桜公園、東屋、神鈴の滝沿いの遊歩道、アスレチック、マス釣り場等が続く憩いの森になっていて、気にならないうちに三ツ峠登山口案内所に着いた。

十里木高原、金時山から見たような富士山の姿には、会えなかつたけれど、沢山の花が期待に応えてくれた。



山行データ

山名	三ツ峠山（開運山）		
月日	平成16年7月11日（日）日帰り		
山域	富士周辺	地図 1/2.5万	河口湖東部
目的	富士山の展望と高山植物 (レンゲショウマを求めて)		
費用	約 4700 円	交通機関	電車 バス
日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:52→西国分寺駅 6:46／6:55→高尾駅 7:22／7:25→大月駅 8:13／8:34→河口湖駅 9:27／9:41→(バス)→三ツ峠裏登山口 10:09／10:40→四季楽園分岐 11:40⇒花畠 12:00／12:16⇒三ツ峠山（昼食）12:25／12:50⇒八十八大師 13:52⇒達磨石 15:0⇒三ツ峠駅 16:00／16:12→大月駅 4:50／5:06→我孫子駅 19:30 <歩行時間 5 時間 30 分>		
参加者	中村八(L)、大桃、菊池、日下(SL)、高橋寿、中野、原田君、渡辺、飯沼、箕輪完、藤倉 男2名、女9名。計 11 名		



<387>

白砂山 (2140m)

中村 美智子

魅力的な稜線歩き

白砂山は群馬・長野・新潟県の県境に位置し、上信越国境に聳える秘峰として知られている。野反湖はダムが作られるまでは、野反池と呼ばれる湿原で、文字どおりの秘境であつたが、今も豊かな自然が守られている。

1日目 上野始発の特急草津1号にて吾妻線長野原草津口駅まで2時間30分、そしてJRバスにて約1時間、野反峠で下車。峠は売店やトイレ、駐車場が整備されており、観光客でにぎわっていた。眼下に青々とした野反湖が見渡せ、湖の左側から登り始める。草原の道は気分よくノゾリキスゲ・クルマユリが咲いていた。弁天様が祭られた弁天山までひと登り、下ると笹原が広がり、ノハナショウブ・ノアザミが何とも言えない良い色で咲き乱れていた。空腹になりフーロ・ショウブ・カラマツ草などの花のそばで楽しみながらの昼食となる。薄くもりの空は快晴になり、エビ山への急坂の登りは汗が出た。

エビ山は展望に恵まれ、野反湖のまわりには



恵比山山頂で…富士山を発見、
山の間に頭を出していた。

三壁山・高沢山・エビ山・今歩いてきた弁天山や八間山が取り囲んで外輪山のように見えた。また、横手山・浅間山・榛名山・奥秩父の山々・遠くに富士山も見つけることが出来た。第二キャンプ場あたりに来ると、連休という事もあり人の往来が激しくなった。雲行きがあやしくなり、村営のロッジに着くのと同時にわか雨になる。滑り込みセーフ！！



白砂山登山口より登り始める

2日目 夜中の雨も上がり、いらない荷物をロッジに置いて、野反湖横の登山口から登り始める。笹の道を登ると、ハンノキ沢まで下り、小橋を二つ渡り、美しい樹林の中を登ると地蔵峠に着く。秋山卿への道を左に分け、峠をあとに登ると、すぐに野反湖の見える明るい尾根に出る。開けたところでおにぎりの朝食をとる。1802m地点まで来ると前方に堂岩方面の山々が



白根山・浅間山・眼下に野反湖が見えた

眺められたが、左側新潟方面からガスが湧いて見渡せなくなる。堂岩の泊り場といわれる広場に着く。テントを張れるスペースがあり、南西方面の展望が開け、野反湖や草津白根山・浅間山が見えた。さらに樹林のガレた沢状の道を登っていくと堂岩山につく。展望も開けず山名を書いた枯れ木がなければ通り過ぎてしまいそうな山頂だった。



山頂へ ガスが切れ、おやかな稜線が一直線に

堂岩山を下り樹林帯が終わったところで、運良くガスが切れ、初めて前方に白砂山が現れた。下りきったところで八間山分岐を過ぎると展望が広がるシャクナゲや草原の尾根道となり、左からの風が強いものの、涼しい稜線歩きとなる。稜線にはニッコウキスゲ・クルマユリ・ハクサンフウロが咲き乱れていた。小さな登り下りを2・3度繰り返して、湿地の鞍部があり、池かと思われるぬかるみで、靴に水が入らないように、滑ないように、端の笹や木の枝に捕まって通った。最後のミネザクラの急坂をあえ

ぎながら登って、やがて前方が開けて、ひょっこり白砂山の頂上に着いた。

山頂では北側はガスがかかり展望は望めなかつたが、草津白根山・浅間山・榛名山・子持山が見えた。送電線のある稻包山が印象的だった。上信越の国境にあるだけに、お天気が良ければ、大パノラマを堪能できる。岳人あびこの旗とパチリ、2度目の朝食をとる。



白砂山山頂…北に連なる佐武流山、苗場山の素晴らしい見晴らしはガスの中。

帰りは同じ道を戻るが、時間と体力に自信があれば、八間山へのコースも魅力的だ。堂岩山



エビ山・泊ったロッジ・野反湖

の登りで振り返ったら、ガスが切れて今登った白砂山が姿を現していた。堂岩山までは、往きと同じ位の時間がかかった。山頂では、テント

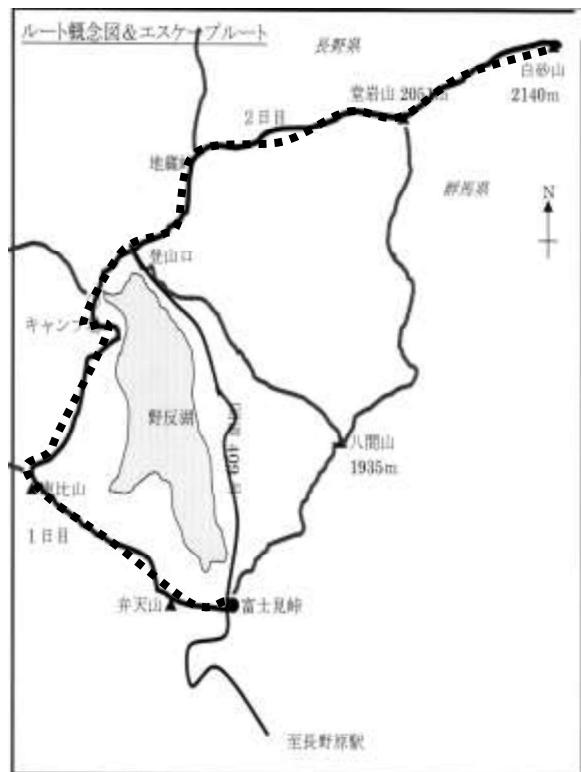
が1張りあり、お昼寝していた。水場ではザックを置いて数人で見に行ったが、沢の水で小黒さんだけが降りた。ハンノキ沢で泥んこの靴を洗い、ロッジの荷物をピックアップして、迎えのジャンボタクシーに乗る。応徳温泉くつろぎの湯で汗を流し、予定通り草津8号に乗車した。

念願の白砂山に登頂することができた。秘峰の面影がある白砂山は思ったよりも花が多く、たくさんのアップダウンがあるが、下りで休めるので、辛くはなかった。また野反湖はキャンプもでき、ハイキングコースもあるので家族でも楽しめる。初夏の頃、稜線ではミネザクラ・シャクナゲ、また野反湖のまわりはシラネアオイが咲くらしい。この頃にまた行きたいなあ。楽しい山行でした。ありがとうございました。

山行データ

山名	白砂山		
月日	平成16年7月17日(土)～18日(日)		
形式	山麓泊		
山域	上信越	地形図 1/2.5万	野反湖
目的	今も遙かな秘峰、花の尾根と展望		
費用	20,600円 (交通費、宿泊費)	交通費 JR、バス、タクシー	料金
日程コース	1 日 目	我孫子駅 6:22 → 上野駅 6:56 / 7:20 (特急草津1号) → 長野原草津口駅 9:48 / 10:00 (バス) → 富士見峠 (野反峠) 10:55 / 11:05 ⇒ 弁天山 11:20 / 11:25 ⇒ (昼食) 11:50 / 12:10 ⇒ 恵比山 12:45 / 12:50 ⇒ 第2キャンプ場 13:40 ⇒ 野反湖ロッジ着 13:50	

2 日 目	<p>ロッジ 5:00 ⇒ 登山口 5:10 ⇒ ハンノキ沢 5:25 ⇒ 地蔵峠 ⇒ (朝食) 6:15 / 6:25 ⇒ 野 反湖見晴台 7:15 / 7:20 ⇒ 堂岩山 (八間山 分岐) 7:55 ⇒ 白砂山 2140m 9:15 / 9:30 ⇒ 堂岩山 11:00 ⇒ 見晴台 11:25 / 11:35 ⇒ (昼食) 12:20 / 12:30 ⇒ 地蔵峠 12:50 ⇒ 登山口 13:30 ⇒ ロッジ 13:40 / 13:45 ⇒ (タクシー) → 村営温泉 14:30 / 15:50 (入浴) → (タクシー) → 長野原草口津 駅 16:10 / 16:30 (特急草津 8号) → 上野 駅 19:00 → 我孫子駅着 19:50</p> <p style="text-align: center;"><歩行時間: 7 時間 45 分></p> <hr/> <p>中村隆 (L) 、柴、柴田、大串恵、大串秀 (SL) 、小黒、榎原、中村美、原田君、 飯沼</p>
参加者	男 3 名 女 7 名 計 10 名



<388>

易老岳 ~ 光岳
(2354m) (2591m)
外 崎 蓮

雷雨と長い急登とヒルの攻撃、
そのはてに…

7/17 (土) 晴

光岳は一昨年、昨年と台風にたたられ、今年が三回目の挑戦である。昨年は静岡側から向かったが、今回は飯田線平岡駅の宿に泊まって、易老渡から登ることにする。参加者は昨年とメンバーがかわったが、今年も4人。新宿の高速バス乗り場の地下で昼食をとり、午後1時発のバスに乗る。中央自動車道は談合坂付近が混んでいる他は順調に流れ、飯田駅には夕方の6時過ぎに着く。ここまで良かつたが、平岡行きの電車の本数が少なく、飯田駅で1時間待つ。8時過ぎようやく平岡駅の龍泉閣に入る。易老渡付近には避難小屋がないので、ここを利用する登山者が多いようである。その証拠に、宿泊代とタクシーレートを混みにした南アルプスコースというのがあるほど。チェックインしてすぐ夕食。4階にある温泉にはいって、今夜は豪華にベッドで眠る。

7/18 (日) 雷雨 午後より薄曇

3時半に駐車場に下りていくと、予約していたジャンボタクシーが待っていた。単独の男性2人も同乗することになった。「つい先程からポツリポツリ降ってきました

ね」と運転手。暗闇の中をヘッドライト頼りに山手に向かって行く。何としたことか、雨足がしだいに強くなって道は川となり、雷が辺りの山々にとどろきわたる。あまりにも激しいので、道の脇に車を止めて様子を見る。同乗者の2人は一向に気にすることなく、後部座席でうとうと。誰も戻ろうと言う人はいない。易老渡へ来ると、道端に車があるわあるわ、こんなに入山しているのかと励まされる。車の中で雨具をしっかり着込んで外に出る。橋を渡ったところで左手登山口を見失い、りっぱなハシゴをえんえんと登って堰堤へ行ってしまう。1時間ほどのロスにすっかり目が覚めた。振り出しに戻ると、この雨の中をものともせずに続くパーティーの多いのに驚く。私達は亀の歩きが勝ちとばかり、ゆっくりとマイペースで登っていく。雨が降り続き、雨具の中の不快指数は100%。薄暗くモヤッとした原生林と、さらにヒルの攻撃とくれば、この段階では地獄の登山である。芳恵さんは2度も手に食いつかれ、ようやくもぎ取ったし、坂口さんの首にかけた手ぬぐいが血で染まっていた。痛みもかゆみも感じないのが不気味である。登山道には、ミミズとは違う黒っぽい生き物（ヒルらしい）が這っていたりして飛び上がる始末。悪戦苦闘の末、ようやく易老岳に到着。標識も三角点もない茶臼岳、光岳への分岐点だ。平坦な林の中にテントがいくつか見える。気分を取りなおし、光岳までさらに3時間。三吉平を過ぎたあたりから空が明るくなり、雨もあがる。同時に原生林から開放され、最後の長い急坂を登りきると水場のある静高平だ。手足を投げ出して思いっきり深呼吸する。センジガ原の木道を越えた先に、光小屋の屋根が見えた時には皆で飛び上がった。8時間もかけて来たことになる。真

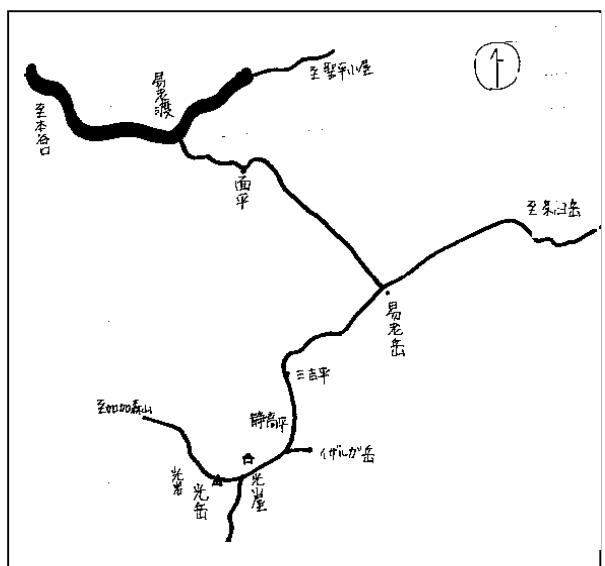
新しい小屋の玄関を開けると先客で賑わっていた。小屋の主人が出てきて早速お茶のサービスをしてくれる。受付後、裏手の光岳へあがる。特にこれといって変わったこともない平凡なこの山頂に、特別な夢を抱いて3年。標柱に書かれた「光岳」の文字をなぞり、思わず柱に抱きつく。ここから10分下って「光石」へ行ってみる。光石は山の斜面にむき出しになっている岩場で、ふもとから見上げたとき光って見えたからだとか。岩場の下は深い谷で、この先には山がなく、ここが南アルプスの南端であることがよくわかる。岩場に腰を下ろし、眼下に広がる緑の樹海と消えては湧いてくる雲の流れをながめる。山頂のたたずまいを頭にインプットして小屋に戻る。小屋は自炊で3,000円。トイレはバイオ。ところでトイレに入って衣服を下げたとき、指先にゴムのような嫌な感触があって何かがポロリと転げ落ちた。それは床の上でうごめいた。体中がざわつく。

40人収容の小屋はぎっしり詰まり、テント場にもたくさんのテントが張られた。7:30の消灯前には小屋の中は静かになつた。



山頂から10分足らず下ったところにある光石・・私たちの目には本当に光って見えました。

概念図



7/19(月) 曇りのち晴

4時起床。小屋の中がざわめきました。めいめいで朝食をすませ、5時前には光小屋を出る。センジガ原の木道を渡りきった右手細道から、展望抜群のイザルガ岳へ足を延ばそうと思ったが、白くガスが立ちこめているのであきらめる。下りは何と楽なことか。気持の上でも。昨日とは打ってかわって原生林がすがすがしく感じられる。ヒルはどこかに隠れ、道を這っていた不気味な物体も姿を消している。易老岳から易老渡までは激しい下りが続き、よくぞ登ってきたものだと皆であらためて感心する。しだいに晴れ上がり、面平の比較的明るい林の中で雨具を脱ぐ。面平からの下りはさらに傾斜がきつく、昨日の悪夢が蘇ってきた。やがて沢の音が聞こえ、昨日の朝見過ごした登山口に到着。お互い労をねぎらい、橋を渡って対岸の車道へ。水たまりで泥靴を洗っていると、昨夕小屋の主人が予約してくれたタクシーがタイミングよく現れた。晴れ渡った夏空のもと、タクシーは谷底の

易老渡から長い坂を駆け上がる。時間がたっぷりあるので、飯田駅からも見える高台にある温泉へ案内してもらう。展望風呂を楽しんだあと、10分ほど歩いたバスセンターへ。新宿へ向かうバスが同時刻に3台出て、3台目に乗る。夜遅くようやく我が家にたどり着き、ヒルに食われた箇所を入念に調べると、右足首に2箇所と左足首1箇所に、赤くて大きな斑点がくつきりとついていた。

山行データ

山名	易老岳～光岳		
月日	平成16年7月17日（土）～19日（月）		
形式	龍泉閣1泊、光小屋素泊まり1泊		
山域	南アルプス	地形図1/2.5万	光岳
目的	南アルプス主稜最南端の高峰と展望		
費用	約33,000円	交通機関	高速バス、JR、タクシー

行程 日 程 目 コ ス	初日	我孫子駅 11:00→新宿バスター・ミナル 13:00→飯田駅 18:15/19:07→平岡駅 20:07（泊）
	2日目	平岡駅 3:30（タクシー）→易老渡 5:15/5:30→面平 8:05→易老岳 11:20→三吉平 12:45→静高平 13:45/14:20→センジガ原 14:30→光小屋 14:35/14:55→光岳 15:15→光石→光岳→光小屋 16:35（泊） 〈歩行時間：約10時間〉
3日目	光小屋 4:55→センジガ原 5:05→静高平 5:10→易老岳 7:10/7:25→面平 9:25→易老渡 10:45/10:55（タクシー）→飯田温泉（三宜亭）12:15/14:30→飯田高速バスター・ミナル 14:40/15:00→新宿 20:30→我孫子 21:30 〈歩行時間：5時間30分〉	
参加者	L外崎、坂口、高橋芳、岡田女 4名	計4名



雷雨の中ながら道程でした。最高の顔で山頂に到着

<389>

霞沢岳 (2645m)

武内勇二

一日目

「さわやか信州号」は定刻の7:30に新宿バスターミナルを発車、途中沢渡で低公害バスに乗り換えて12時過ぎに上高地バスターミナルに到着した。夏休みが始まったこともあり、金曜日というのに人で溢れている。登山姿は思ったよりも少なく、ここが槍穂の登山基地であることさえ忘れさせるような喧騒の中にある。早々に身支度を整えて出発。小梨平のキャンプ場を左に見ながら平坦な道を明神館まで約1時間、林間学校とわかるジャージ姿の中学生、中年のグループ、若い二人連れ等々、様々な人達と行き交う。

明神館を出て間もなく徳沢への道と分かれ、いよいよ徳本峠への古の道が始まる。沢沿いのなだらかの道を行くこと30分で山道となる。水の枯れた沢の中程で休憩中のボッカの中年男性と青年を追い越し、小さな水流のあるところで休憩。先ほど追い抜いたボッカさん達が追いついてきた。「徳本峠の方ですか」と聞くと「そうだ」の答え。徳本峠の管理人の今さんとわかり、岳人あびこ会友のYさんを共通の話題として会話が成立した。上空には雲が出てきたようで、夕立があるかもしれない。今さんに最近の天気を聞くと、先週の3連休（海の日）は大雨だったがここ数日は安定していると言う。霞沢岳の「お花畠も今が最盛期」とのことでの、明日への期待が膨れる。

「最後の水場」では冷たく美味しい水が涌き出していた。水を補給しジグザグに登ること約30分で徳本峠の小屋に着いた。テント場

は小屋に隣接している。1人用テントが2張りあるのみでゆったりと張れた。峠からの大展望を期待したが、残念ながら穂高は靄の中だった。小屋の前のテーブルを使わせてもらって恒例？の宴会には今さんから酒の差し入れも受けた。Yさんに乾杯！！

二日目

徳本峠から霞沢岳へはまずジャンクションピークへの登りからはじまる。コメツガ（？）の自然林の中をジグザグに登る。朝霧がうつすらと木にまつわり、南アルプスの樹林帯を行く趣がある。一汗かいたスタジオジャンクション辺りからの穂高の眺めは素晴らしい。明神岳の三角錐がそそり立ちその左奥に西穂の稜線が大きく広がっている。



ジャンクションピーク手前の展望台より穂高岳

一息いれたところでひたすら登り、1時間程でジャンクションピーク（2,428m）についた。東面は開けているが北面は木々で覆われているため穂高は見えない。ここから大きく下る途中で木の間越しに霞沢岳が姿を見せた。まだ大分向こうだ。小さな池を通過するとまた鞍部（2,261m地点）いでた。南面は霞沢上部のカミウチクボが突き上げている箇所で急斜面にお花畠が広がっている。背の高い花が多い。息つくまもなく登りにかかる。ここからK1ピークまでは小さな登り下りを繰り返さねばならない。

樹林の中の退屈な道が続くが、時々南西方面に霞沢岳の3峰（K1, K2、本峰）、北西方面に六百山に続く尾根道が姿を現し気を紛らわせてくれる。



霞沢岳、右より K1、K2、本峰、右後は六百山

やがてガレている急斜面を左に見て、さらに急斜面のお花畠を登ると展望が開け、眼前に穂高岳が全容を現した。ここからK1の登りはこのコースの中で最も厳しい登りで約250mの急斜面を一気に登らなければならぬ。落石に気を付け喘ぎながら登る。

K1ピークには先客が1名いた。今日はここまでと決めてゆっくりと眺望を楽しむという。たしかに、K1ピークからの眺めは素晴らしい。穂高岳は眼前に大きく、焼岳、乗鞍岳、更に遠くには笠ヶ岳も浮かんでいる。上高地は足元に箱庭の様に広がり梓川が明神に纏わりつく感じで横尾付近まで続いている。ただ、惜しむらくは霞がかかった感じで全体にぼおっとしている。

K2越しに見える霞沢岳本峰には、小1時間もかかるないだろう。単独行の登山者が息を弾ませながら登ってきて、小休憩のあとそそくさと霞沢岳本峰を目指して出発して行った。今日中に上高地に下り帰宅するという。我々は今夜も徳本峠泊なので、ゆったりとした気持ちで楽しむことができた。K1から霞沢岳本峰は這い松としゃくなげの岩稜を行く。展望が開けとても気持ちが良い道だ。霞沢岳

直下のお花畠は見事だ。ハクサンフウロが群生している。白や黄色の花も今が盛りと咲き乱れていた。

霞沢岳の頂上はこじんまりとしている。朽ちた標識があるのみで、北アルプスの頂上とは思えないくらい地味に設えてある。訪れる登山者も少ないからだろう。しかし、先ほどのK1ピーク越しに見る穂高の展望は相変わらず素晴らしい。

昼食をとっている間に霞沢よりガスが立ち登ってきて穂高を隠し始めた。充分に展望を楽しんだので、最早長居は無用である。K2、K1、そしてK1からの嫌な下りをすぎ、小さな登り下りを繰り返している時遠くで雷鳴を聞いた。最後のジャンクションピークの登りをクリアーすると徳本峠のテント場まではあと40分ほどである。

概念図



アブト場に戻り休むまもなく「最後の水場」まで水汲みに出かける。水場で水を汲んでいる時ポツリポツリと来て本降りとなつた。雨具の用意をしてこなかったので濡れるに任せ20分ほど登り返しテント場に戻った。仲間がビールを仕入れ、帰りを待っていてくれた。早速カンペイ。今日の無事を喜び合つた。雨が強くなり雷鳴も轟いているがテントは天国。やがて雨も上がり、小屋前のテーブルと椅子のある場所に移動して夕食とした。今日の小屋は宿泊者28名とかで忙しく、お手伝いの人も数名かけつけてきているようだ。5

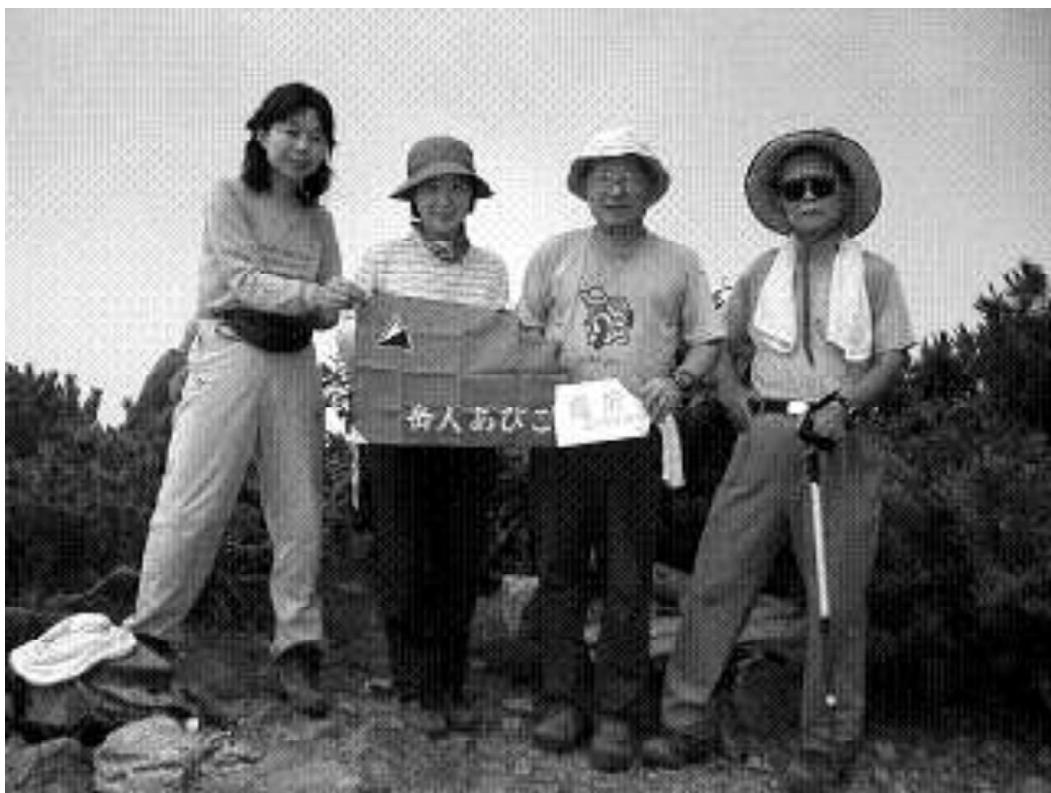
時頃にはみな夕食を済ませ三々五々外に出て談笑している。和やかな夏山のいつもの光景だ。

三日目

4時起床、朝食を済ませテントを撤収、5時45分徳本峠を後にした。急斜面をジグザグに下り「力水」からは沢沿いの道になる。岩魚留小屋まで峠から2時間、更に二股までの2時間は、急峻な崖をへつり渓流を何度も渡り返す静かな道だ。1933年に上高地への車道が完成し、35年にバスが入るようになるまでは、上高地へはこの道しかなかった。上高地の喧騒とは無縁な世界がここにはあつた。素晴らしい渓流と樹林の緑を堪能しながら二股についた。ここから島々までは約6km、1時間半の林道歩きで山旅は終りとなつた。

山行データ

山名	霞沢岳		
月日	16年7月23日(金)～25日(日)		
形式	テント		
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	穂高岳・上高地・波田
目的	①穂高の大展望。②古の登山道を歩く。		
費用	12,000円	交通費	高速バス、路線バス
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿駅高速バス→ミネル 7:30→(バス)→沢渡 11:20/30→上高地 12:00/30→明神 13:15/30→徳本峠 16:00 晴後濃霧 歩行時間：3時間		
2 日 目	徳本峠テント場 5:30→ジヤングショピングモール 6:25/30→K1 8:55/9:20→K2 9:40→霞 沢岳 10:05/25→K1 11:00/10→ジヤングショ ピングモール 13:25/35→徳本峠 14:20 晴後曇一時雷雨 歩行時間 7.5時間		
3 日 目	徳本峠テント場 5:45→岩魚留小屋 7:35/45 →中間点 8:40/50→二俣 9:35/45→島々 11:20/42(バス)→新島々 15:20→(高速バス) →新宿駅 19:45→神田駅→上野駅→我孫 子駅 20:55 晴後激しい雷雨 歩行時間：5時間		
参加者	武内(L)、村松、外崎、千葉 男2、女2 計4名		



霞沢岳頂上 訪れる人が少ないせいか、標識は朽ちていた

<390>

前穂高岳～奥穂高岳
(3090m) (3190m)

高 橋 潔

8月25日

今日のコースはきつい、ということで早番組で朝食を済ませて出発。重太郎新道を登るが評判通りのなかなか登りである。鉄梯子やら急登やらを何度も繰り返す。



岩の急登・鉄梯子を登る

8月24日

河童橋から梓川右岸をしばらく行き、登山口から岳沢ヒュッテめざして登る。森の中の登りでは日差しが適当にさえぎられ、最初こそ快適であったものの、暑さはかなりのものがあった。風穴の前で涼をとる。まわりの木々が小さくなり日差しが直接あたるようになるにつれてバテるものが出始めた。SLということで当方が先頭を受けたまわって、直ぐ後ろに密着していくくるのを余裕の表れと理解し、ほぼコースタイム通りに歩いたのがどうもまずかったようだ。携帯用小型酸素ボンベが登場した。

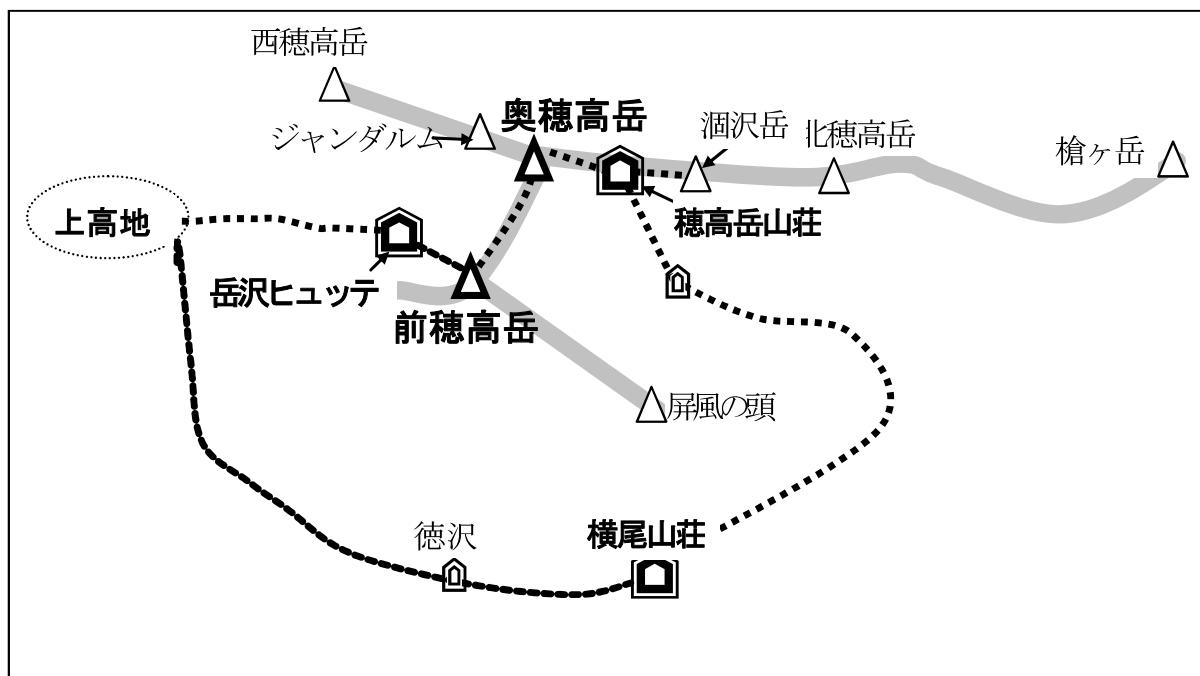
2時を少し回るあたりで、雨が降り始めた。ヒュッテが近いので、ゆっくりとバテを悪化させないで歩きたいという申し出もあり、それほど消耗していない雨嫌い組は先に行くこととした。ヒュッテに到着、手続きを進めるうちに雨は本格化し雷鳴がどろき始めた。典型的な夏山の気象パターンである。その後降ったり止んだりとなった。

宿はそれほど込まず、岳人あびこのグループ6名で8人部屋を占有した。

そのうち引き返したくなったとの弱音を吐くものがあり荷物が1キロあまり回ってくる。どうも張り切って余分なものを持参したようである。

君子平で一服の後、前穂高山頂へ向かう。山頂は意外と広く先着者が相当人数あった。君子平に戻るや、待っていましたとばかり雨がやってきた。いやな予感である。この先が、雨を最も避けたい吊り尾根である。毎年のように死者、負傷者が出ているところである。ロープで安全

概念図



確保され脇をガイドに支えられた目もうつろの若者を先頭におしたてて、20名ほどのツアーグループが吊り尾根をやってきた。



幸い雨は長続きしないであがったが、注意して吊り尾根を前進する。元気な大学登山部の連中が何組もでかい荷物ですれ違う。残念ながら、もう一度若くなるわけにはいかない。年齢差はいかんともしがたいうえ、バランスの取り方にもかなり差がはっきりと出ている。

奥穂の頂上がかなり近くなつた頃、昨日に続いて今日もまた雷鳴が始まった。稜線に出てしまふと身の隠しようもない。わざかにあるハイマツの脇でちょうどいいやと「日和見」しながら昼飯とした。岳沢ヒュッテ製の高価な昼飯は「ゼンマイおこわ」であった。おいしくいただいたが、Sさんがどうも食が進まない。バナナを一本献上。

1時少し前、最後の長い鎖場にかかつた。



大串リーダーを先頭に鎖場に挑む

これはやはり登りに使う方が良い場所と見た。雨の中でここを降るのでは、寿命が多少短くなりそうである。



奥穂高岳山頂にて

奥穂高岳に登頂するも、どうも空模様が定まらない。直ぐ近くのジャンダルムも気ままに霧で出たり隠れたりである。写真を撮り終えるころまた雨がきた。降りて穂高山荘へ行くのがベストということで急いで雨具をつけて動き出したが、雨脚は激しくなる一方である。山荘の脇の鉄梯子のあたりでは本格降りで危険度は最高潮になりはじめ、分不相応に「頭を岩から離さないと足が見えないぞ」などと檄を飛ばすはめにまでなった。降り立つたとたんにピカピカ、バーンと雷サマの到来である。かなり濡れてしまった。「間一髪でアウト」の感じである。天気はかなりの荒れ具合で、雷光・雷鳴が続いた。2時を回ると雷サマの到来が定着してきたようだ。明日の天気予報は、朝から期待できないとのこと。

同日の『朝日』夕刊によれば、この日北アルプス、中央アルプスなどで広く落雷があり駒ヶ岳ロープウェイでは1200名ほどが26日午前4時頃まで取り残された。立山ではやはりロープウェイが落雷で中吊り。唐松岳では3名が落雷に遭い1名死亡。

常念山系でも落雷で負傷者が出た、と横尾山荘では張り紙掲示。

ビールと焼酎割りがきいたか、夜は暑くてなかなか入眠あたわず。

8月26日

「良い天気だぞ」の声に目が覚める。ご来光をカメラに納める。朝食後、天候が安定しているうちにと涸沢岳に登る。その後、山荘に戻りコーヒー・紅茶で一休みして下山開始。ザイテングラートを慎重に先頭で降りる。いつも思うのだが、涸沢の石は音まで固い。



涸沢カールのお花畠

涸沢ヒュッテで一休みしていると、また遠雷の音がし始めた。さっさと横尾山荘へと先を急ぐこととするが、足元の石が不規則でけっこう足首に負担がかかる。横尾山荘の手前で、このまま帰宅するかあるいは計画通り山荘宿泊かで協議。天候がいまいちということで、多数決でそのまま帰宅と決定。

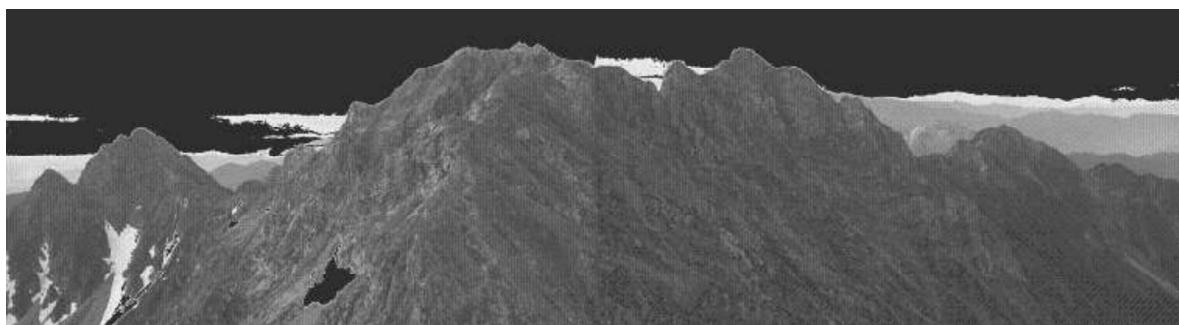
上高地では入浴する時間が合わなくなり、松本まで出て美ヶ原温泉にて入浴。番台が「混ざりものなし純粋温泉」をしきりと強調する通り、悪くない水質で、ペットボトルを持参する地元の人が大勢いた。ご飯を炊くと味がよくなるとか。

いつもながら、大串さんの山行は計画がしっかりしていて、現地での手配にも抜かりがない。今回はゆとりをいれた3泊4日の最後を臨機応変に縮めて2泊3日に変えた。

最後に重大な追加情報：数年越しの熾烈な競争の続く「大串 VS 高橋の減量化コンペ」で、今回初めて後者が数十グラム差で「より軽量」と測定されたのは、近来にない快挙であった。

山行データ

山名	前穂高岳～奥穂高岳		
月日	平成16年7月24日(土)～26日(月)		
形式	山小屋2泊 尾根縦走		
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	穂高岳、上高地、笠ヶ岳
目的	穂高連峰縦走		
費用	約36千円(あずさ回数券利用)	交通機関	J R・バス
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿駅 6:30/7:00→(特急あずさ)→松本駅 9:38/10:07→(電車)→新島々 10:37/10:45→(バス)→上高地バス停 11:55→河童橋脇展望台(昼食) 12:10/12:25→登山口 12:45→風穴 13:20/13:25→岳沢ヒュッテ(泊) <薄曇のち小雨遠雷：歩行時間 3時間>		
2 日 目	岳沢ヒュッテ 6:00→重太郎新道雷鳥広場 8:40→紀美子平 8:55/9:10→前穂高岳 9:45/10:00→紀美子平 10:35/10:50→吊尾根中間点付近(昼食) 11:50/12:20→南稜の頭 13:15→奥穂高岳 13:25/14:00→穂高岳山荘 14:35(泊) <晴のち薄曇ときどき小雨遠雷 入館後雷雨 歩行時間：5時間30分>		
3 日 目	穂高岳山荘 5:45→涸沢岳 6:10/6:25→穂高岳山荘 6:45/7:00→涸沢ヒュッテ 8:40/8:50→本谷橋 10:00/10:10→横尾山荘(昼食) 11:00/11:40→徳沢 12:30/12:55→上高地 14:30/14:40→(バス)→新島々 15:55/16:08→(電車)→松本駅 16:35/16:48→(バス)→美ヶ原高原温泉(白糸の湯入浴) 17:10/18:10→(タクシー)→松本駅 18:25/18:35→(特急あずさ)→新宿駅 21:05→我孫子駅 22:10 <晴のち薄曇ときどき小雨：歩行時間 6時間>		
参加者	大串秀(L)、高橋潔(S L)、大串恵、小黒、斎藤、増田 男3名、女3名、計6名		



西穂 奥穂 前穂

燕岳～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳
(2762m) (2922m) (2857m) (2677m)

安田 みづほ

コマクサ・青空・穂高連峰、槍ヶ岳！
を満喫した幸せ山行！

1日目 中房温泉から燕岳へ

北アルプス表銀座コースと呼ばれる燕岳～大天井岳～槍ヶ岳。計画があつたらいつか行きたいと思っていましたので、高橋潔さんが計画した燕岳から蝶ヶ岳へのコースにはどうしても参加したかった。と言うのも、娘が10年位前、この北アルプス表銀座コースに来ている。日光のキャンプ場でアルバイトをしていた娘がそのオーナーに誘われて山をろくに知らないままこの北アルプスに中房温泉から燕岳～槍～穂高を登った。娘は当時を振り返って「これはやばい！」と思ったそうだ。途中のベンチで何度も引き返そうかと心の中で思いながら、誰にも打ち明けられず必死の思いで何とか燕岳へ登った。その日の宿は大天井ヒュッテだったそうだが、大天井への登りも辛かったと言う。疲れた顔の写真を見ながら「燕岳ではたくさんコマクサが咲いていて感激した、お母さんなら行けるから是非行ったら」とコマクサのバッチをくれた。今回の山行はそんな事もあり、コマクサのたくさん咲いている様を見たいと参加を申し込みました。しかし7月体調を崩して1ヶ月の休養・・・赤信号が点滅していましたが計画では山小屋泊、一日5,6時間の歩行、初日の燕岳への登りを何とか頑張れば行けると思いました。(これがテント山行だったらとても行けなかっただしよう)・・・

さて第一日目は大糸線穂高駅からタクシーで中房温泉に。おにぎりを食べ、準備体操をしてからいよいよ登山開始です。展望の利かない樹林帯の道、急登の合戦尾根をゆっくり歩いて行く。20分位歩くとベンチがあり休憩しながら高度を上げて行く。娘のように北アルプス初めて登山ではやはりつらかっただろうと思う。右手に見えるのは有明山のようだ。ツアーディナー登山者も、大勢の登山者が登って行く。合

戦小屋に着くと待っていたのは名物のスイカ。一切れ800円、実に旨い！食べて元気が出たはずなのに、燕山荘までの約1時間私にはとても長かった。でもここからお花畠で、トオチソウ、フウロなどのお花に慰められながら、一歩一歩亀さんだ。しかし辿り着いたら疲れも吹き飛ぶ景観が待っていました。槍、穂高が遠く左手に、花崗岩の奇抜な岩肌の岩峰の燕岳が右手に。



燕岳・・・自然が作り出した花崗岩の岩群

燕岳頂上(2762m)での大展望、でも夕方なので寒かった事が記憶に残った。燕岳往復1時間、コマクサがたくさん咲いていました。自然が作り出した花崗岩の岩群も見事ですが、すぐ目の前にあのコマクサの姿を見られたのは感激です。淡いピンク、高山植物の女王、子馬さんの顔です。今年は花が早いと燕山荘のご主人の話でしたがこれだけの群落を見せているのはここ燕岳～常念しか私は知りません。ズーと常念岳までこのコマクサ街道が続くのです。急な礫地に、何でこんな場所をコマクサは選んだのでしょうか、一株、一株可愛いコマクサ。しかしロープの中のたくさんの足跡を目になると、山を愛する登山者にはせめて自然を大切にして欲しいと思いました。ひとつのコマクサが地面に顔を出すまでに10何年もかかるそうです。夕食後食堂で、燕山荘ご主人赤沼健至さんの自慢のホルン演奏を聞くことが出来、コマクサ、熊、山小屋の建設、ホルンなどのお話を楽しく話してくれました。アルペンホルンは2m近い大きな物で目を瞑りながら聞いているとスイスの風景、ハイジの世界が広がります。明日は用事で山を下りると話していましたから

今回私たちはラッキーだったのです。ロッジ風の小屋もトイレも快適で小屋主さんのこだわりを感じました。登ってこられてホッとした第一日目でした。

2日目 燕岳から常念小屋へ

小屋前で大展望の北アルプスをバックに記念撮影し大天井岳から常念小屋へ出発です。



小屋前で大展望の北アルプスをバックに

右に左にコマクサを見つけ可愛いね、可愛いねを連発しながら槍が近づく稜線歩きに気分は上々！大天井岳への登りもかなりきつい。まず大天荘を目指し山腹を巻いて登り、ここから15分ほどで山頂(2922m)。山頂からの大パノラマに大感激です。見飽きることのない槍・南岳・大キレット・奥穂・涸沢カールなどまことにすごい。1年に1回位こんな素晴らしい景色を見たい、そして見られて幸せです。

大天荘（町営の山小屋）前では大勢の登山者がくつろいでいて、私たちもコーヒーを頂く。山の上で飲むコーヒーって何て美味しいんでしょう、これまた幸せです。ここ大天井から槍ヶ岳へ行く人達と分かれて私たちは常念小屋へ向かいます。ここから槍ヶ岳へ行くのは結構大変そう。（娘はあのコースを行ったんだ、大変だったろうなと思いました。）

ハイマツの緑、雲ひとつない青空、槍ヶ岳・穂高の黒、私たちはそんな素晴らしい自然の中、まさに雲上漫歩。久留米から来た大学生達は大きな荷物を背負っても楽しそうでした。若者と山で気持ちよく挨拶したり話したり、街ではともそんなわけにいきません。槍や穂高が大きくなる中、コマクサやイワツメクサなどに癒されながら抜きつ、抜かれつ若者たちと楽しい山歩きです。横通し岩もいつの間にか過ぎちゃって常念岳が蝶ヶ岳が近づいてくる。その常念岳

の真下の鞍部に赤い屋根の常念小屋を見つける足取りも軽くなる。常念乗越の階段を降りると小屋で、夕食前まで食堂を開放してくれた。食堂に面したテラスからは槍ヶ岳、中岳の展望が目の前だ。榎原さんたちが熊が水を飲みに来たのを目撃、すぐ上にテント場があるのに大丈夫かな？と、とても心配している。小屋の人たちの話ではよく現れるとの事。本当に大丈夫なのでしょうか。日差しが暑いのでテラスから食堂に移りお茶タイム、小黒さんのポカリスエットの焼酎割りは旨かった。女っ気のない常念小屋だったがここも快適でした。記念にバッチを買ひ、スタンプも押した。玄関わきに「トイレにチップを」と箱があったので少々入れた。

3日目 常念岳から蝶ヶ岳へ

柴田さんの入念なストレッチで体をほぐし、気合を入れて出発する。小屋前の常念乗越からいきなり高度差400mの急登なのだ。ゆっくりとジグザグに登っていく。前常念への道は崩壊している箇所あるので危険との立て札、前常念はあきらめて直登となった。1時間くらい登つただろうか、常念岳山頂(2,857m)は山の大きさの割に狭い！三角形の姿そのものなんだと思った。多くの山仲間で賑わう山頂は交代で記念撮影をして、ぐるーと360度の大展望だ！



常念岳山頂で記念撮影

狭い山頂のせいか迫力満点である。どこからでも姿が確認できる三角形の美しい、かっこいい山、いつか行きたいと思っていた山に来ることが出来た嬉しさが胸にジーンと来る。

そんな感慨に浸った瞬間はすぐ過ぎ去り、転げ落ちないように、慎重に、気を付けて、今度は

高度差 400m の岩場を急降下するのだ。重いリュックを背負った大学生(女性もいる)たちも慎重にゆっくりと降りる。「あわてないでいいよ、ゆっくり行ってください」声を掛け合いながら降りていく。最低鞍部、2512m ピーク、蝶槍で振り返ると常念岳はホントに大きい山だと改めて思う。蝶ガ岳は見えてもなかなか近づかない。何度も登り返し、途中お花畠に慰められながらやっと蝶ガ岳三角点のある丘に着いた。ここは 2664m で広い丘で穂高連峰が目の前である。蝶ガ岳ヒュッテがすぐ下方に見えていたがここでしばらくゆっくりと休む事にする。今来た道を振り返る者、穂高を飽きずに眺める者、地図を出して山々を確認する者、コーラスを楽しむ者、冥想にふける者(これは私である)、様々な思いにしばし時を忘れた。いろんな事を考える。高山病に弱い事や、体調が万全でなかった事や、ここまでこられて良かったなとか穂高にはまだ行ってないんだよ、来年の夏は剣に行きたいなとか、健康は・・・閉じている目の中に浮かんでは消え、心地よい涼風がやさしく体を頬をなで・・・・ああ何て良い気持ち！蝶ガ岳山頂はヒュッテの建つ上の丘にあり標高 2,667m。三角点のある丘の方が高く感じたが山頂の方が 13m ばかり高い。

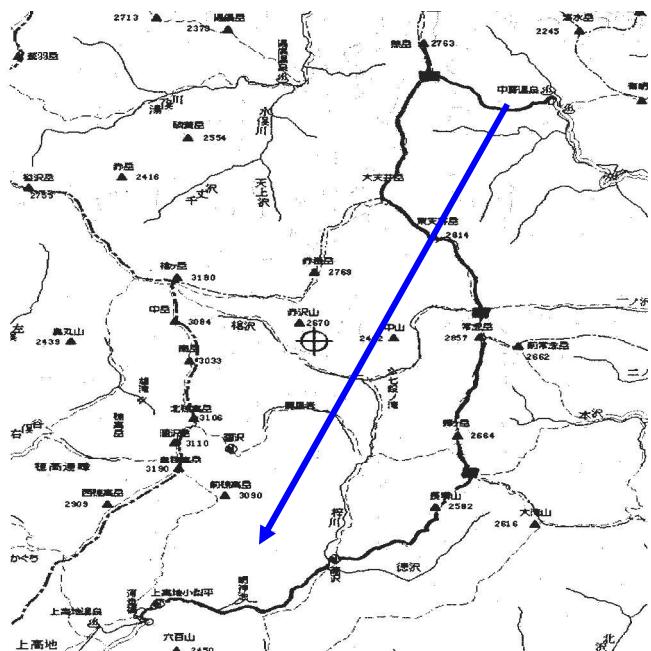
ヒュッテのすぐの所に展望指示盤があり、地図では冥想の丘とあるが私は自分が冥想に耽ったせいか三角点のある丘の方がその名に相応しく思えた。蝶ガ岳ヒュッテからの眺めはまさに素晴らしいの一言！である。この生ビール(小ジョッキだが) 600 円、うどん 800 円は実に旨い。榊原さんとうどんを半分ずつ食べたせいか特に美味しく感じた。

蝶ガ岳ヒュッテは女性の小屋主さん(中村圭子さんという)である。女性が居るだけで和んだ

空気を感じる、常念小屋のせいかな。それに3才と5才の二人のお子さん（女の子）までいてやさしい気持になる。ご主人のだんな様は松本で刑事をしているとか、何かドラマチックな感じ？一緒に写真を撮りたかったが、食事時挨拶にきてくれて嬉しかった。食事も美味しかった。ただ、あの臭いだけが気になった。

蝶ヶ岳ヒュッテでは名古屋市立大学のボランティアの学生による高山病の話があった。私は高山に弱い、2500mを過ぎると頭が痛くなる。かかったら下に降りる事が一番であるが、そもそもいかない。水分を多く取る、適度な休憩、それと友達、友情との事です。楽しい山歩きをするということでしょう！私にとってまさに今回の山行は友に支えられての山行だったのです。

銀座コース概念図



蝶ヶ岳からの槍・穂の大展望

4日目蝶ヶ岳から徳沢

今日は最終日。たっぷりと堪能した北アルプスの大展望を胸にヒュッテから長嶺尾根を下る。次々にハクサンフウロ、モミジカラマツ、キンポウゲ、クルマユリとお花畠が現れて私たちを喜ばせてくれた。長嶺山を過ぎると長い長い下り道、深い樹林の中、根っこに気を配りながら下ると重い荷物の学生たちに会うが、ここを登るのは大変だと思いながら挨拶する。梓川の流れの音が聞こえてくる。「下りて行くとひょっこりと徳沢園の脇に出るよ」とリーダーの話だったがまさにその通りでした。徳沢園から上高地までひたすら歩き、途中、又しても小熊に出くわし、人間たちは慌てたが小熊の方は悠然と山の中に姿を消した。小熊の方はどうも慣れている様子。でもやっぱり危ない。

ざわめきの上高地、村営上高地アルペンホテルで4日間の汗を流し、楽しかった今回の山行を振り返りながらコーヒーを飲む幸せ。



楽しかった今回の山行を振り返る

今回の山行を計画してくださったリーダーの高橋潔さんには感謝でいっぱいです。冥想の丘で聞いた芳恵さんの「お江戸でござるの」歌はいい歌でしたね。大串恵子さん秀雄さん、榎原さん、小黒さん、柴田さん、皆さんからたくさんの友情を感じ取った山行でした。それに、こんなのがあり?ってほどのお天気と展望、山の素晴らしいを感じた幸せ山行でした。有難うございましたとの感謝の気持ちで締めくくりたいと思います。

改めて皆さん!有難うございました!

山行データ

山名	燕岳～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳～長嶺山		
月日	平成16年8月1日(日)～4日(水)		
形式	山小屋泊 縦走		
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	有明・槍ヶ岳・穂高岳・上高地
目的	槍・穂高連峰の雄大なパノラマおよび最盛期の花		
費用	42,550円	交通費 JR・タクシー・バス・松本電鉄	
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿駅 6:48/7:00→(スーパーあづさ1号)→松本駅 9:38/9:44→JR大糸線穂高駅 10:11→(タクシー)→中房温泉(昼食)10:50/11:30⇒第2ベンチ 12:35/12:40⇒合戦小屋 13:25/13:35⇒燕山荘 15:30/16:20⇒燕岳 16:50/17:05⇒燕山荘 17:35 (泊) <晴 歩行時間: 5時間>		
2 日 目	燕山荘 6:00⇒切通岩 8:20⇒大天荘 9:00/9:20⇒大天井岳⇒9:40/9:50⇒大天荘⇒(途中昼食)⇒東天井岳分岐 11:10/11:30⇒常念小屋 12:40 (泊) <快晴 歩行時間: 6時間>		
3 日 目	常念小屋 5:40⇒常念岳 7:05/7:15⇒最低鞍部 8:25⇒蝶槍 9:55/10:00⇒蝶ヶ岳三角点(昼食)10:45/11:45⇒蝶ヶ岳ヒュッテ 12:15 (泊) <快晴 歩行時間: 5時間35分>		
4 日 目	蝶ヶ岳ヒュッテ 5:35⇒長嶺山 6:15/6:20⇒徳沢 8:25/8:45⇒上高地 10:05(昼食・風呂など)/13:20→(バス)→新島々駅 14:30/14:48→(松本電鉄)→松本駅 15:17/15:20→(あづさ26号)→新宿駅 18:07→我孫子駅 19:20 <晴 歩行時間: 4時間30分>		
参 加 者	高橋潔(L)、柴田、大串恵、大串秀(SL)、榎原、小黒、安田、高橋芳 男2名 女6名 計8名		

宝川ナルミズ沢

(上越)

外 崎 蓮

爽快なナメを越えて、緑の大草原へ

8/8 (日)

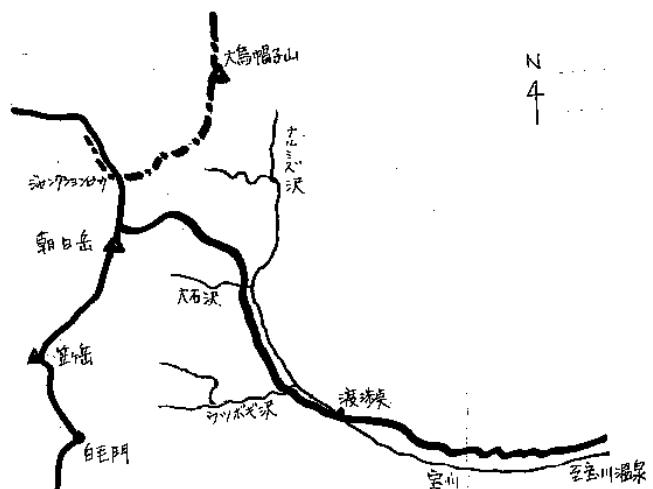
当初、只見の恋ノ岐沢をつめて平ヶ岳へ登る計画であったが、車の手配がつかず急遽、上越の朝日岳東面を流れる宝川ナルミズ沢へ変更となる。この沢は、とにかく美しい沢ということで人気があるらしい。どんな風に美しいのかこの目で確かめようとわくわくしてくる。

我孫子を早朝に出発し、関越道を快調にとばす。水上インターで下り、左手に宝川温泉を見ながら水溜りの悪路を宝川に沿って進む。細い林道をかなり奥まで行き、ゲート手前に車を止めて、重いザックを背負ってさらに林道を上がって行く。入渓地点の朝日岳徒渉点までは、いつも左下方に宝川の流れを見下ろしながら進む。沢沿いの道は狭く、大きな段差があったり、滑った岩がはばかっていたりして気がぬけない。2時間半ほど歩いて徒渉点に到着。ここで昼食後入渓の準備をする。流れはゆるやか。水に足を入れ、右岸に渡って右岸沿いに進む。ところが何メートルも行かないうちに大岩にぶち当たり、無理をしないで先ほどの徒渉点にもどり、沢に沿って登山道を広川原まで行く。この地点は左手からウツボギ沢が入り、釣り人の格好のテント場になっているらしい。川原に幾つかタープが張られ、焚き火の煙があがっていた。空はやや重たげであるが、谷が開けているのでとても気持ちがいい。はじめはゴーロ歩き。これまでの数少ない沢歩きで他の沢と比較す

るのはおこがましいが、素人目にも「何か違うぞ」という気がしてくる。沢のたたずまいが実際にしっとりしている。水が澄み流木がほとんど見当たらない。

快適にとばしていくうちに次第に沢幅が狭まってくる。大きめのゴルジュは全員が高巻く。この時はかなり緊張した。沢の淵をカニの横ばいよろしく、なびいて生えている笹や木の枝につかり枝をまたいだり、くぐったり。なにしろ、ずっしりと重いザックを背負っているのだから必死である。あとは美しい沢を堪能しながら遡行して、キャンプ地の大石沢出合に着く。すでに先客がいて、右岸のわずかばかりの空き地に青いタープが張られている。私たちもあちこちを探したあげく、左岸の高台の比較的平坦な草むらを見つけてテントを張る。テント場のすぐ下に大岩があり、いつまでもお日様の温もりが残っていて食事もくつろぎも岩の上。滝もなくにはないので沢の流れが聞こえてくるだけである。朝日岳の深い谷底で、沢の子守唄を聞きながら一夜を明かす。

概念図



8/9 (月)

4時半起床。大岩の上で素早く朝食。テントはそのままにしてサブザックで遡行開始。大きな岩がゴロゴロしている大石沢出合を左手に見ながらナルミズ沢を前進。今日はこの先の二俣を右に進み、源頭まで遡行して朝日岳経由でこの大石沢出合に下りてくる。美しいナメと釜が次から次へと登場し、一つ越えれば次は何が出てくるか、わくわくドキドキである。全体的に登攀がやさしいが、沢屋が喜びそうなS字峡はかなり水深があり、青山さんが左岸をへつるようにして胸まで水につかって挑んでみたがあきらめる。ここは泳いで渡るらしい。



魚止めの滝



S字峡はかなり水深

皆で左岸の草原の中を大きく迂回する。出合から1時間後、一見ハッとするような魚止めの滝に到着。ここに来てからザイルをテント場に置いてきたことに気づく。が、右壁を難なく越えることができた。

二俣に着き右手に入る。その後もザイルの必要な箇所はなく、美しい岩とナメ滝の連続する明るい沢の中をヒタヒタ高度を上げて行く。沢は一段と狭まり、いろいろな形をした釜が登場する。狭くなればなるほど小滝と釜が次々とあらわれ登りずらくなつて、右岸の急斜面に避難してしまう。そこで登山靴にはきかえ、今度は稜線に向かってやみくもに登り始める。草につかまって這い上がり、さらに途中から胸をこえ

るほどの背丈の猛烈な笹藪に挑み、必死に足をもちあげる。もがきを中断して下方をながめると、緑のじゅうたんがのびやかに広がっている。ついに稜線の細々とした登山道に出る。いつしかガスがわいてきて、すぐ近くの大鳥帽子岳が隠れてしまった。折角来たのだからと、青山さんがガスに飲み込まれるように大鳥帽子へ上がって行く。彼女が戻ると、密集した笹や灌木で消え入りそうな稜線の登山道をたどり、長い斜面をあえぎながら詰めてようやくジャンクションピークにとびだす。かつて蓬峰から朝日岳に向かっているとき、ここで巻機山への矢印を見て、こんな藪のような道を歩く人がいるのだろうかと思ったものだ。前方に朝日岳の標柱が見えてきた。稜線からは360°深い谷と大きな山なみがどこまでも見渡せる。時折り日がさして、あたり一面の緑のじゅうたんが美しく輝く。朝日岳直下には地糖が点在する広い湿原があり、まさしく別天地。

木道で一息入れ、はるか谷底の大石沢出合をめがけて、今度は足場の悪い急斜面を駆け足状態で一気に下る。沢に下りるとポツリポツリ雨が落ちてきた。急いでテント場へ走りテントを撤収して出合に戻ると、いよいよ雨が激し



朝日岳直下

くなる。帰りは、昨日遡行してきた沢に沿ってどろんこ道を急ぐ。靴が水を吸い靴下がぐつしより。全身汗だく。朝日岳徒渉点では濡れたついでに沢の中をジャブジャブ渡ったので、対岸で靴下を絞る。ここから今度は宝川を右手下方に見ながら歩く。足が相當に疲れているので、沢に転げ落ちないように足元に気を使う。林道に出たあたりから雷が鳴り始める。5時過ぎようやくゲートに着いた。全身びしょぬれで、車の座席にビニールシートを敷いて座ったはいいが、沢からあがると濡れた衣服が気持ち悪くて、途中水上温泉に寄ってさっぱりする。そういえば、私たちが止めた近くの道端に黒のワゴンが止めてあって、その車体に書かれた「浦和浪漫 沢屋集団」の文字にみんなで「いいな～」。持ち主とは先ほど大石沢出合で会ったばかり。千葉さんが持参してきた沢のガイドブックを書いた高桑さんという人らしい。こんな遊び心を持てる人を心底羨ましく思った。温泉を出て近くのラーメン屋に寄り、すっかり暗くなった関越道を私を除いた三人が交代で運転してくれる。我が家家の玄関に着いたのは夜中の10時半。行動時間11時間というハードで充実した山行であった。

山行データ

山名	宝川ナルミズ沢		
月日	平成16年8月8日(日)～9日(月)		
形式	遡行の途中でテント泊		
山域	上信越	地形図1/2.5万	茂倉岳
目的	① 盛夏に水と遊ぶ ② 爽快なナメを遡行して、緑の大海原へ		
費用	約10,000円	交通機関	自家用車
行程	我孫子5:00→柏インター→関越道水上インター→宝川温泉→宝川林道ゲート 前8:20／8:50⇒朝日岳徒渉点(昼食) 11:25／11:55⇒(30分ロス)⇒広川原⇒大石沢出合14:30(テント泊) 晴れ <行動時間:5時間40分>		
スケジュール	大石沢出合6:00⇒魚止滝7:00⇒二俣7:35⇒大鳥帽子岳のコル9:30／10:10⇒ジャンクションピーク11:30⇒朝日岳直下大湿原⇒大石沢出合14:40⇒広川原⇒徒渉点⇒林道ゲート 17:00→水上温泉18:30→柏インター→我孫子着22:30 うす曇り <行動時間:11時間>		
参加者	村松敏(L)、外崎、青山、千葉 男1名、女3名 計4名		

<393>

白馬岳～杓子岳～鎧ヶ岳 (2932m) (2812m) (2903m)

岡田秀子
田村光子

縦走と花

待ちに待った3年越しの夏山縦走実現！惜しくも後半は悪天候の為全行程は実現出来ませんでしたが、とっても内容深い山行だったと実感しました。

8月12日（前夜）

新宿駅発23時の夜行列車快速「ムーザイ信州、白馬」で一路白馬へ出発、車中一泊（仮眠をとる）電気が明るかったように感じたのとワクワクする気持ちとでなかなか寝付かれていまつ白馬駅に到着てしまいました。

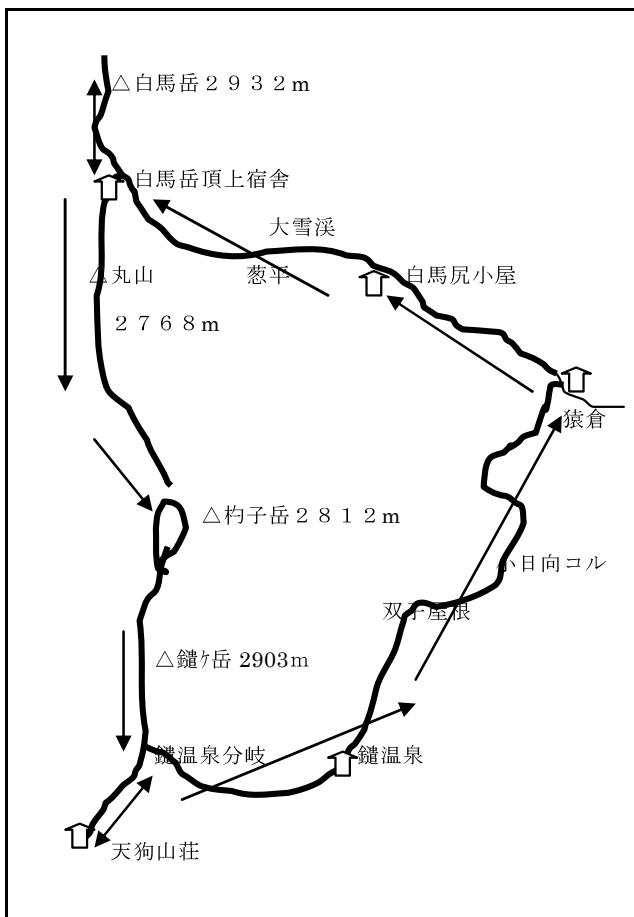
8月13日（1日目）

駅前からタクシーで猿倉まで行き、猿倉6時30分各自出発準備をし、リーダーが登山届を提出して出発！ 天気は晴れでジリジリと照りつける太陽でしたが空気はとっても爽やか！ 気持ちよく長走沢を右手に林道を歩き始めルンルン気分！！途中鎧温泉へ行く分岐を左に見て橋あたりに来たら白馬岳、小蓮華山への稜線がきれいに見ることが出来ました。これからあそこまで一歩一歩前進！ していけば山頂に到着できる、焦らず「一歩一歩」と自分に言い聞かせ歩いていました。1時間ほど歩くと大雪渓の入り口（白馬尻）に到着。ここに登山者を励まし歓迎しているかのような大岩（お疲れさん！ ようこそ大雪渓へ）が目に入り元気倍増、本で見ていた大雪渓を現実にこれから自分の足で歩くことが出来るんだ！ と思い最高に嬉しかった。

デッキから大雪渓を見上げると列をなして登

って行く登山者の後ろ姿が本当にアリの行列のように見えました。ここから15分程灌木帯を歩き広い台地に出るとケルンがありここから雪上を歩き始めました。アイゼンなしでの疲れが倍増してバテテしまうんじやないかと心配しながら静移動、静加重で前進！ 前進！ 下ばかり見ていたので首が疲れて空を見上げるともう雲ひとつない紺碧の空！ 周りの人を気にせず思わず「わー！」と歓声をだし深呼吸を一呼吸。雪渓では休憩できる所がないのでゆっくりペースで体調を崩さないように歩きましたが太陽があまりにも強かったので葱平の取り付けの急な登りはきつくこたえました。鮮やか紫色のトリカブトや真黄色のミヤマキンポウが綺麗に咲いてくれたので疲れが癒されたり又、是から見る杓子岳の天狗菱が凄い形で天を突くように身近に

ルート概念図



見えて驚きを感じたり登山者の行列を今度は見下ろすことが出来たりして楽しめゆっくりと憩を取ることが出来ました。

村営頂上宿舎まであと一登り（階段状）登りきった所に冷たーい雪解けの水がありそこに足早？（気持ちが先行していたのかな？）にかけより顔を洗い喉を潤した。これぞ「若返りの水」と実感。11時55分村営宿舎到着。

受付を済ませ部屋（個室私のグループだけ）にザックを置き天空の山小屋のベンチで昼食をとり一息ついてから14時05分白馬岳山頂を目指して出発。やはり午後ともなれば雲が出ていくらか風が出てきました。白馬山荘の建物の間を通り松沢貞逸顕影碑を過ぎ、20分程ぐらいで山頂に到着！15時！・・・やった～！！



白馬岳山頂からの展望は素晴らしい、感動的であった。特に、南には明日の縦走路からその先の鹿島槍ヶ岳が…何時見ても気持ちが昂揚する。

山名案内板を見ながら雲間から見えている山々（あれは！戸隠山、高妻山、妙高連峰等）を確認し記念写真を撮ってから信州側が切れ落ちている場所を覗き込み物凄さを感じ、黒部側とは非対称的なのがわかりました。15分程嬉しさを満喫してから下り始めました。風が強く吹

き始めてきたので明日登る予定の杓子岳、鎧ヶ岳を見ながら天気が心配になり足早になった。宿舎の裏手にあるキャンプ地から回り込んで宿舎に到着15時30分。

山は秋の気配だったので諦めていましたが何処いらあたりだったか忘れてしまったけれどラッキーにもウルップソウが咲いていてくれました。もうこの時の気持ちちは宝物を発見した時のように感激をしました。夕食はもうリッチなメニュー！なんと山でのビフテキ！・手作りケーキ！ビックリ！ビックリ！小さい目がこの時は鳩が豆鉄砲を食らった時のようになりました。

無事大雪渓を歩いて来ることが出来たことだし足（体力）に御褒美・・と思い大奮發しました。（まあ一疲労回復にもつながるしとも思い）ご飯お替り2回美味しかった～。おかげがなくなっても塩かけて食べてしまいました。

今日一日を振り返ってみると〔素晴らしい感動的な日〕でした。そして明日も天気が良くなることを祈りながら眠りにつきました。



杓子岳から白馬鎧ヶ岳に続く鏡走

山の天気は、やっぱり続かなかった。早朝から突風の中、5時30分いつ雨が降り出してもいい格好をして小屋を出発しました。

途中から降り始めた為、杓子岳へは、山腹をまいて鎧ヶ岳へ！細心の注意を払いながら歩き山頂に到着。展望は全くだめなので、ひたすら足元を見ながら天狗小屋へ向かった。8月だというのに肌寒く感じました。天狗小屋には8時15分に到着、新しい小屋で明るく感じのいい人

達のように見受けられました。私たちのグループが一番乗りのよう直ぐに乾燥室に火をつけてくださり貸しきり乾燥室を使うことが出来たおかげで直ぐに濡れていた物が全部乾いてしまいました。その内何人かのグループが見えたりしていましたが混むことはありませんでした。

分岐にある小屋なので天気の様子を伺いながら休憩を取っているグループや、諦めて泊るグループもいたように見受けられました。今日一日これから時間はどのように費やしたらいいか困ってしまった。雨風で小屋に閉じ込められた・・・とはこの事。しょうがない！ガラス越しに外の様子を見ながら暖をとり談をしたり、食べたり飲んだりしてどうにかやっと寝る時刻まで過ごす事が出来ました。ただ皆さん、明日の天気が心配！

8月15日（3日目）

昨日からの雨が上がらず、強風も吹きまくっている。天気を気にしながら朝食を済ませ、テレビで天気予報を確認する。予報ではだんだん回復してくるとの事であった。出発を遅らせ、キレットに向かう人達もいたが、外は余りにも荒れているので、私たちは不帰のキレットを断念し、小屋の中で記念写真を撮り、天狗小屋を6時30分に出発する。

みぞれ混じりの雨や突風が吹き荒れる中、足下に注意しながら鎧温泉への分岐点に向かう。分岐点よりお花で彩られた大出原のカールの中を下る。大出原にはチングルマ（種子）キンポウゲ、トウヤクリンドウ、クルマユリ等一面に咲いていて気持ちが和んだ。

広々とした大出原を後に林の中に入る。この頃になると雨も大分小降りになってきた。昨日からの雨で岩場は滑りやすく慎重にジクザクの鎖場を通過する。今年は雪解けが早くクレバスも小さくなっていた。8時過ぎに鎧温泉に到着。

「雷鳥がいる」と、リーダーに言われ目を開いて確認するがはっきりしなかった。見られなく

て残念。

天候はすっかり回復し、越後の山々を見渡すことが出来た。今はやりの足湯場があったが入足せず下山する。杓子沢の残雪もなく、トリカブトや山アジサイが雨上がりで眩しかった。小日向コルを10時過ぎに通過、水芭蕉平では、花が咲き終わった水芭蕉が群生していた。

あともう少しとひたすら足を運び、11時30分猿倉に到着。少し休憩してタクシーで岳の湯に向かう途中、はつきりと不帰のキレットが確認でき、「来年また来よう」と心に決めた。温泉にゆっくり入り、1日予定を早め帰路についた。

山行データ

山名	白馬岳～杓子岳～鎧ヶ岳		
月日	誠 16年 8月 12日（木、夜行）～15日（日）		
形式	山小屋		
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	白馬、
目的	縦走と花		
費用	35,8千円	交通機関	JR、タクシー
日程コース	1日目	我孫子駅（前夜22:24）→新宿駅23:54 白馬駅5:38→猿倉6:20⇒白馬尻7:30⇒葱平7:30⇒村営頂上宿舎11:55⇒白馬岳14:50⇒村営頂上宿舎15:30（泊） <快晴 歩行時間：5時間>	
	2日目	村営頂上宿舎5:30⇒杓子岳⇒鎧ヶ岳⇒天狗小屋8:15（泊） <雨 歩行時間：2時間40分>	
	3日目	天狗小屋6:30⇒分岐6:45⇒鎧温泉小屋8:15⇒小日向コル10:05⇒猿倉11:30⇒（タクシー）→岳の湯（入浴）→送迎バス→白馬駅15:04（特急あづさ）→新宿駅18:36→我孫子駅20:00 <雨のち晴れ 歩行時間4時間30分>	
参加者	高橋英（L）、大串秀、斎藤、高橋潔、大串恵、岡田、田村 男4、女3 計7名		

< 3 9 4 >

木曾駒ヶ岳～空木岳～越百岳

(2956m) (2864m) (2613m)

大串秀雄

再挑戦！ 中央アルプス主脈縦走

平成14年8月23日～24日 ～回想をお許しいただきたい～

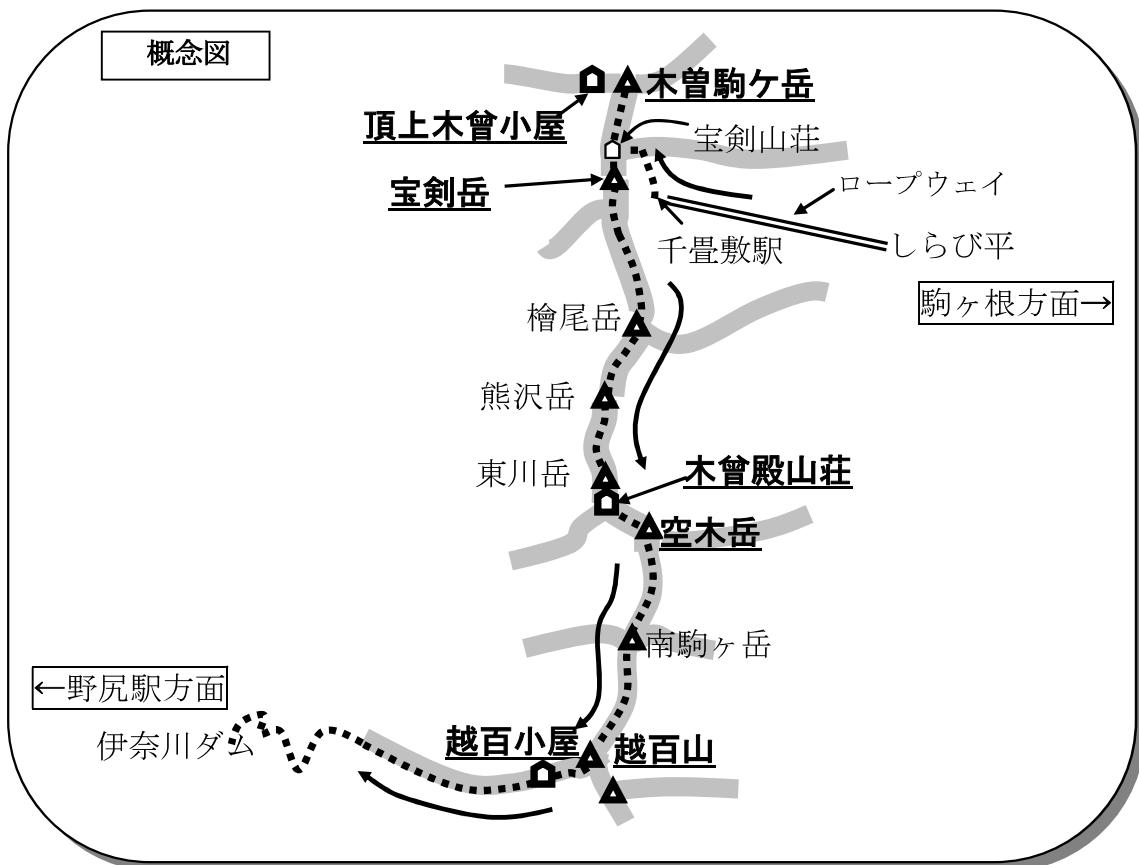
1週間ほど前から、徐々に悪化する予報に不安が募った。結局、この不安が的中してしまった。木曽駒ヶ岳には一応登ったものの、濃霧で視界ゼロ。宝剣岳登頂の方は断念せざるをえなかつた。翌朝も濃霧。空木岳への縦走に向かつたものの、風雨が強く、遙か手前の極楽平で撤退を余儀なくされた。長野県民歌「信濃の国」に謳われている木曽駒ヶ岳。疎開先の小学校で歌い親んだ木曽駒は、遙か霧の彼方に隠れ、ついにその雄姿を見させてくれなかつた。残念…無念…。
♪いざゆかん 行きてまだ見ぬ山を見ん♪…いつの日にか。

第1日目

2年の時が経過。再挑戦の時がきた。しかしながら、今回は前回よりも厳しい気象条件に悩まされた。1週間ほど前から、台風15号の襲来予報。進路よっては、中止に追い込まれることも覚悟した。山行前日朝の予報では、台風は弱まりながら、1日目の夜に日本海を通って東北あるいは北海道に再上陸し、2日目以降は台風一過、天候は急回復することだった。このため台風の影響を懸念しつつも、一応、計画どおり実行することにした。ただ、今後の予報や現地の状況次第では、頂上木曾小屋での滞留も選択肢のひとつと想定していた。

新宿から7時発の高速バスに乗り込む。発車直前には、千畳敷へのロープウェイが正常運行の予定であることを確認。駒ヶ根から路線バスに乗り換える。前回はこのあたりでポツリポツリと始まつたが、今回はまずまずの空模様。しらび平でも台風の影響を感じない。ロープウェイ山頂駅の千畳敷には薄霧が立ち込めていた。霧雨で視界がほとんどなかつた前回に比べ、今回は大カールを目にすることことができた。稜線に出ると風はあったが、中岳まで特に問題なし。徐々に強くなる風と妖しげな空模様に不安を覚えた。木曾駒ヶ岳山頂を目指す頃から強風が

概念図



吹き始めた。山頂通過を断念するパーティに出会い。山頂は明らかに台風がもたらす突風と霧の中。ただ、この風速は過去の経験値以下のもの。加えて、山頂から頂上木曾小屋へは、緩やかな勾配の幅広な道で、左右両側にロープが張ってあり迷うこともない。突風と濃霧の中、重心を低くして小屋まで下った。

小屋に入ってホッと一息。しかし、小屋の管理人は受付になかなか出てこない。雨具等を整理した後、暖をとるためにストーブを点けてほしいと頼んだが、梨の礫。雇人なのか、無愛想で商売気は全くなく、違和感を覚えた。山頂で山の朝を味わいたい、ご来光を拝めれば最高…このために山頂小屋泊を計画したが、この天候との応対では、何のためにわざわざ頂上小屋まで来たのだろうか…。当夜の宿泊は我々6名のみ。然もありなん。入館後から翌未明までは、台風通過による烈風が吹き荒れていた。頂上小屋脇の砂礫地では、珍しい白花のコマクサが烈風に必死で耐えていた。

絶好の縦走日和に思わず表情が和む。目の前には、宝剣岳の岩峰が大きく立ちはだかっていた。鳩首協議の結果、計画どおり、宝剣岳山頂越えルートをとることに決定。

不規則に積み重なった大岩の急登路を、両手両足で慎重に登る。前夜は降雨がなく、岩は乾いていた。宝剣岳山頂の岩峰からは絶景。眼下には千畳敷の大カール。その右奥のロープウェイ山頂駅はマッチ箱のようだ。朝日に映える中央アルプス主脈を一望。最奥に空木岳、中間地点には頂が尖って見える熊沢岳。今日の縦走路…距離のある稜線が連なっていた。宝剣岳から先是、アップダウンがほとんどないような、なだらかな稜線に見えた。しかし、実際に歩いてみると、濁沢大峰・檜尾岳・熊沢岳・東川岳・空木岳、更に空木岳の後方に隠れる南駒ヶ岳や仙涯嶺など主要峰の山頂付近は、すべて、急登急下降の岩稜帶。クサリ場や岩場が連続し、中央アルプス主脈の名目に相応しい、厳しい縦走路だった。



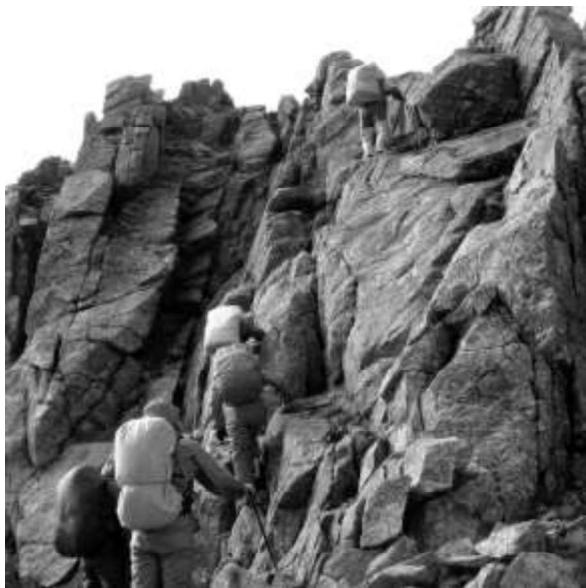
宝剣岳山頂より望む中央アルプス主脈縦走路。最奥は空木岳

第2日目

翌朝、烈風はおさまったが、強風と濃霧のため30分ほど小屋で待機してから出発。木曽駒ヶ岳山頂は台風の余波が残り、強風と濃霧。記念撮影のみで山頂を素通り。幸いにも、天候は予報どおり急速に回復し、中岳山頂を通過する頃には、木曽駒や宝剣岳がガスの中から徐々に現れ出した。宝剣山荘脇で一本。既に、上空は青空に一変し、多少の風を除けば、台風の余韻は微塵も感じない。展望は全面に広がり、

岩峰からの下降時には、一層の慎重な対応を必要とした。宝剣岳を無事通過。振り返ると、宝剣岳の豪快な岩峰が屹立し、その左肩奥には、対照的に丸く穏やかな姿の木曽駒ヶ岳が存在感を示していた。

極楽平で一段。前回は、宝剣岳越えを断念し千畳敷カール経由で極楽平まで登り返したが、悪天候のため縦走を断念した地点。分岐の表示板を見ていると、前回の無念な思い出が鮮明に蘇る。極楽平からの展望は抜群。甲斐駒・仙丈・白



宝剣岳直下の岩場を慎重に下降

峰三山・塩見・荒川三山・赤石・聖…南アルプス大展望。3000mが連なる大山脈の上に、富士山が顔を出していた。木曽側には、御嶽山というよりも御嶽の巨大な山塊が聳えていた。その奥には、乗鞍岳、北アルプスも…。



濁沢大峰から急下降し鞍部に出ると、直ぐに急登が始まる。大汗をかきながら岩稜の檜尾岳山頂に出て一本。砂礫の尾根道に続く大岩伝いの急登にまたも大汗。熊沢岳山頂にはオベリスク状の大岩が点在していた。ハイマツと岩稜尾根の登降を何度も繰り返し、最後には岩を抱えながら急登路を詰めると東川岳山頂。ここで最後の休憩をとる。明日の空木岳が目の前に聳え立つ。本日納めのクサリ場と急下降の岩稜が、鞍部にある今夜の宿、木曽殿山荘まで続く。山荘の黒塗り屋根が真下に見える。油断禁物、お互

いに声を掛け合いながら、慎重に慎重に…。山荘にはほぼ予定した時刻に到着。

2日目は、難路の連續だったが、総じて大展望を楽しみながら…さわやかな風に疲れを癒されながら…、中央アルプス主脈大縦走を堪能した。

木曽殿山荘は完全予約制。小体の小屋ながら親切丁寧な応対で、設備や食事もなかなか。前日の頂上木曾小屋とは大違い。難点は、山荘から水場までが意外に遠く、疲れた脚にはこたえたこと。ただ、水場付近から仰ぎ見た南駒ヶ岳の雄姿は忘れられない。

第3日目

快眠。快適な山の朝に浮き立つ。絶好の天気予報。山荘の主人も太鼓判を押してくれた。山荘から見える空木岳第1峰には朝霧がかかっていたが、日が昇れば晴れるだろうと高を括っていた。晴れ晴れと喜び勇んで、空木岳山頂に向かう。標高差360mの急登路を一気に登り切り、第1峰の岩峰に到達。更に第2峰の岩峰を越え、岩稜の陥路を踏破して空木岳山頂に出た。しかし、未だ朝霧は晴れず。昨日の縦走路の大展望を楽しみにしていたが、まったくダメ。上空は青空なのに…嗚々



空木岳山頂にて

空木岳からは縦走路の様相が一変。消えかかったベンキの確認や枝道に迷い込まないように、全員で注意し合う。赤柳岳を一旦下って、鞍部から厳しい急勾配路を登り返す。クサリ場をよじ登り漸く南駒ヶ岳に出る。山頂は依然としてしっかりしたガスの中。このガスはどうも朝霧ではなさそうだ。天気予報どおりの晴天には疑問符が…。急峻な岩場、鎖場が連続する仙涯嶺を慎重に通過。急登急下降の岩路はこのあたりまでで、この先は、ハイマツの中の穏やかな尾根道に変わる。

ついに本山行終着の山、越百山に到着。“祝着、シュウチャク”…感激の握手を交わす。残念ながら、ガスは晴れなかつた。見えるはずの越百小屋もガスに隠れていた。縦走路からの展望は皆無…天気予報を信じ過ぎた自分が悪いのだ！ 路上に木の根が複雑に絡み合い、脚の踏み場もないほどの急下降路。越百小屋へ道のりは、疲れた脚にはかなりこたえた。それなりの時間を費やし、漸く小屋に辿り着いた。

空木岳から先は、さすがに深い山、厳しい縦走路だった。行交ったハイカーは数組だけだった。完全予約制の越百小屋は、掘建て小屋風の小さな建物。受付、部屋割りから食事の賄いまで、主人一人で対応していたが、多忙な割りにはそれなりの応対振に感心。当夜は、越百山目当てのハイカー等で満室状態。満杯の食堂では身動きがとれず、天井の低い寝床では寝返りや立ち上がりにも不自由な思いをした…が、食事をすべて平らげ、熟睡もできた。

第4日目

朝霧で山々は見えない。越百山山頂からの難路が今朝も続く。木の根だらけの道を慎重に下る。樹林の切れ間の展望台に出た頃には、朝霧は晴れあがっていた。迫力満点の縦走路を思い出しながら、併せて、展望がまったくなかつた無念さを噛みしめながら、昨日通った仙涯嶺の岩稜を仰ぎ見た。ここが本山行最後の見晴らし。山々に別れを告げ、再び樹林の中を快調に福栄橋登山口まで下山。

出迎えのタクシーに乗る。途中、木曾阿寺温泉で4日間の汗を流し、懇親会。お互いの健闘を称え合う。予定どおり（とは言っても、始発駅の松本で乗車すべく工夫して）、特急あづさで居眠りをしながら、帰途についた。

念願の中央アルプス主脈縦走。再挑戦の山行はなかなかの大型縦走だった。偶々、参加者6人中5人が先の前穂高岳～奥穂高岳山行の同行者だったが、その5人が一致して、今回の縦走路の方が穂高より質量ともに上との結論に達したほど。台風一過の好天に恵まれたこと、そしてなによりも全員の脚と気持ちが揃つたことで、深山を思わせる越百山までの縦走を果たせ、大満足。

既に山は秋モード。ミヤマアキノキリンソウやシシウドなどの秋の花に混じって、コマクサも一部残っていた。早くもウラシマツツジは紅葉を始めていた。

山行データ

山名	木曽駒ヶ岳～空木岳～越百山		
月日	平成16年8月19日(木)～22日(日)		
形式	山小屋3泊 尾根縦走		
山域	中央アルプス北部	地形図 1/2.5万	木曽駒ヶ岳・空木岳・赤穂
目的	① 中央アルプス北部主脈縦走 ② 南アルプス・御嶽・乗鞍…3000m大展望		
費用	37千円(交通費13.8+小屋代21.5)	交通費 J R・バス・ロープウェイ・タクシー	
1日目	我孫子駅 5:30→新宿高速BT(バスターイン)6:30/7:00→(高速バス)→駒ヶ根BT 10:40⇒駒ヶ根駅 10:45/11:00→(バス)→しらび平 11:45/12:10→(ロープウェイ)→千畳敷(昼食)12:20/13:00⇒乗越淨土 13:40⇒中岳頂上 14:00⇒木曽駒ヶ岳 14:35⇒頂上木曽小屋 14:45(泊) <晴れのち曇り・小雨・強風 歩行時間：1時間45分>		
2日目	頂上木曽小屋 6:35⇒木曽駒ヶ岳 6:45⇒中岳頂上 7:10⇒宝剣山荘 7:45⇒宝剣岳山頂 8:10⇒極楽平 8:45/9:05⇒濁沢大峰 10:10⇒檜尾岳(昼食)11:35/12:00⇒熊沢岳 13:20⇒東川岳 14:50/15:00⇒木曽殿山荘 15:20(泊) <曇りのち晴 稜線の西のみ冷風 歩行時間：7時間>		
行程	木曽殿山荘 5:55⇒空木岳(1P)6:40⇒空木岳(2P)7:00⇒空木岳(3P)7:15/7:20⇒南駒ヶ岳 9:15/9:30⇒仙涯嶺(昼食)10:35/10:55⇒越百山 12:00/12:05⇒越百小屋 12:45(泊) <曇り 歩行時間：6時間>		
4日目	越百小屋 5:45⇒展望台 6:50⇒4合目 7:30⇒福栄橋登山口 8:10⇒林道終点駐車場 8:40/9:00→(タクシー)→木曾阿寺温泉(入浴・懇親会)9:35/11:50→(タクシー)→野尻駅 11:55/12:28→(中央本線)→松本駅 14:08/15:20→(特急あづさ)→新宿駅 18:07→上野駅(夕食)18:45/19:24→我孫子駅 20:00頃着 <うす曇り 歩行時間：3時間>		
参加者	大串秀(L)、高橋潔(SL)、大串恵、小黒、斎藤、榊原 男3名 女3名 計6名		

背戸峨廊
(500m)

日下芳十

沢登の醍醐味を手軽に味わえる
滝と原生林が織りなす秘境

夏井川にそぞり入る。いわき随一の美しい渓谷『背戸峨廊』。この渓谷美に出会うために、JR磐越東線江田駅を目指す。県道に出て、右へ5分も歩けば、そこは大自然がつくりあげた渓谷美の世界。心があらわれるような美しい景色が広がる。原生林に囲まれた谷の急流は音を轟かせて、次から次へと現れる形の異なった滝は、沢登りのダイゴミを堪能させてくれる。

『背戸峨廊』とは、いわきの生んだ詩人、草野心平氏の命名による呼び名であるが、この渓谷を一度歩けば、なぜこの渓谷が詩人をひきつけたのが、皆さんもその秘密が解るに違いありません。『背戸』とは隠れたところ、『峨廊』とは岸壁がそそり立つさまを表現していると言われています。

入口には、『背戸峨廊』と大書された2mほどの石碑が木立の間からこぼれる光を受けてたち、峨廊散策はじまる。入口をはいってすぐ川岸に下がるが、特に道らしい道があるわけではない。歩きやすい岩を伝って上流へと進むと直立する岸壁のせまる『屏風岩』に着く。ハシゴで岩頭を越えると、『回り淵』の小さな滝。さらに進むと、最初の見せ場『トッカケの滝』谷もいくぶん広くなり、空が開けたような感じになり峨廊でも最も美しいところである。



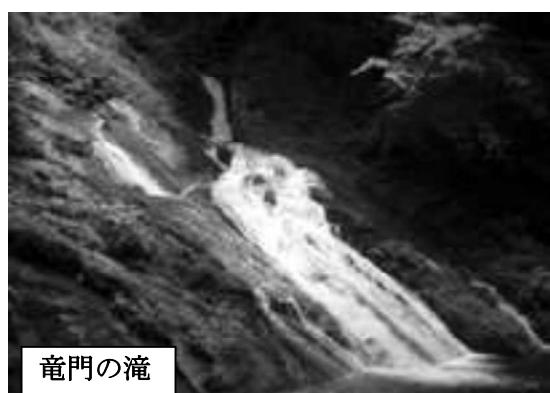
トッカケの滝と6連のハシゴ

ここから一般コースと滝上コースに分かれるので、スリルいっぱいの滝上コースを行く。

概念図



鎖を頼りに滑りやすい岩盤を進み、滝のわきの岩盤を長いハシゴで越えると、深い淵『釜淵』。ここから左岸に渡り、ゆるやかな流れに沿って切り立った岸壁を進む。岸壁には足場が刻まれ、クサリも設置されているが、油断すると川に落ちるので注意。そこを越えると『片鞍の滝』で、高さ10mからの滝がしぶきをあげる景色に息をのみ、深い淵に、幽幻な美を感じ疲れも忘れるような魅力に引き込まれる。滝のわきを長いハシゴで越えると次は『竜門滝』。急流が音おたてて、花崗岩の割れ目を曲がりながら飛沫をあげて落下している。ハシゴとクサリの岸壁をさらに進むと『黄金とろかし』『黒鍋の淵』『滝の寝床』『鹿の子滝』『三連の滝』とつづく。未練の残る沢登りはここで終わる。



竜門の滝

第二帰路と表示されている道標に従って左の山腹に取りつき、急坂を登ると尾根、あとはほぼ平坦な展望のない山道が続く。分岐を左へ下ると沢に出る。沢を越え駐車場はすぐである。

『背戸峨廊』を十分に楽しむためには、しっかりした身ごしらえで、“沢登り”をする心構えをして楽しい散策にしよう。



鹿の子滝

山行データ

山名	背戸峨廊		
月日	平成16年8月22日(日)		
目的	渓流沿いハイク		
形式	日帰り		
山域	阿武隈	地形図 1/2.5万	川前
費用	2,400円	交通機関	JR・磐越東線
コース	我孫子駅 5:42→江田駅 9:00⇒登山口 9:15 9:30⇒屏風岩 9:35⇒廻り淵 9:40⇒ トッカケの滝 9:50⇒釜ん淵 9:55⇒片鞍 滝 10:50⇒竜門の滝 11:00⇒黄金とろか し 11:15⇒黒鍋の淵 11:35⇒鹿の子滝 11: 40⇒三連の滝 11:50⇒第2帰路(ゆっくり コースへ)⇒ピーク 12:10⇒(途中昼食) ⇒登山口 13:30⇒江田駅 14:00/14:19⇒ 我孫子駅 18:45解散 <晴天 歩行時間 4時間>		
参加者	A班	清家、原田君、原田和、佐藤健(A班L)、佐藤明、	
	B班	中村隆、中村美、庄司(B班L)、飯沼、松村(ゲスト)、	
	C班	大桃、日下、中村八(C班L代行)、吉岡、	
	D班	安田(D班L)、武内、藤倉 男 5名、女 12名 計17名	



片鞍滝の前に全員集合

<396>

相馬山 ~ 榛名富士
(1411m) (1391m)

小川 誠二郎

雨まあまあの榛名富士

ラッキーガールが参加されるから、天気予報に關係なく大丈夫と聞いて、貸切バスの大船に乗りました。何年も前、榛名湖に遊んだときに、榛名富士の姿を見ていますが、それに登るのは楽しみなことです。さて、貸切バスは能率よく、早く着いて、ヤセオネ峠の登山口に来ましたが、雨は小雨ながらやんなくて、雨具を着て出発。

まず、相馬山。途中分岐点から左に折れて、長い鉄の梯子を上りました。頂上手前辺りからは、雨は、なるほど、やんでしまいました。頂上の黒髪神社にお参りして、相馬山を降りて来て、分岐点を今度は右へ、笹の茂る道をなだらかに下って、磨墨（するす）峠へ。そこからはマツムシソウやキスゲ、ユウスゲの群生している湿地帯を歩き、沼の原の広場に出て、広場のあずまやで昼食。広場は花を見ながら散歩するコースができていて、歩いている人もいましたが、それは横目で睨んで、次なる榛名富士を目指し、舗装道路を歩いて小山を迂回し、榛名湖畔のロープウェイ乗り場に到着。

トイレ休憩ののち、ロープウェイの駅を通過して、やや草深い登山口からまず急登。やがてなだらかな登山道に脇から合流して、峯を目指しました。ロープウェイの駅から頂上を仰いだときは、手の届く先程度と見えましたが、どうしてどうして、富士の名が付いているだけあって、まだかと思うぐらい登り甲斐のある道。途中、渋滞休憩しながら、ようやく登頂。頂上の富士浅間神社にお参りして、濡れて滑りやすいじぐざぐ道を注意して榛名湖温泉へ下り、ゆうすげ元湯で入浴の後、バスで水沢うどんの店、山一屋へ。畳に座って、さて、そのうどんとてんぷらの盛りの多いこと、これが一人分かと思うぐらい。十分堪能して、帰りのバスに乗り込みました。一日に二つの山に登り、花の野を見て、温泉もうどんもてんぷらも、盛りだくさんの充実した一日がありました。見晴らしという点ではいまいちのため、ひたすら歩いた一日でしたが、満足しました。

山行データ

山名	相馬山と榛名富士		
月日	平成16年8月29日(日)		
形式	日帰り		
山域	赤城・榛名	地形図 1/2.5万	榛名湖・伊香保
目的	名峰榛名富士と外輪山を歩く。 秋の花と癒しの温泉。		
費用	3500円	交通機関	貸切バス
日程コース	我孫子市内各地→我孫子駅出発 5:27→ヤセオネ登山口 8:15/8:30→相馬山 9:20/9:30⇒磨墨峠 10:15⇒沼の原あずまや 10:30/10:55→榛名富士登山口 11:20⇒榛名富士 12:20/12:30⇒榛名湖温泉ゆうすげ元湯（入浴）12:55/14:00→水沢うどん山一屋→我孫子駅 18:55		
参加者	高橋芳(L)、大串秀(SL)、大串恵、菊地、小黒、日下、齊藤、榎原、高橋寿、中野、原田君(SL)、増田、品田、庄司、飯合、原田和、箕輪カ、小川誠、高橋潔、藤倉、岡田、田村、荻原(ゲスト) 男6名 女17名 計23名		



榛名山山頂に立つ



相馬山頂

<397>

鳥甲山 (2038m)

武内勇二

猪平で車を降り、一行7名で鳥甲山に向かう。背丈以上の草原の中をぬけてすぐに樹林の中の急登が始まる。美しいブナ林を楽しみながらも喘ぎながら只々真っ直ぐに登る。鳥甲山へは屋敷から赤嵐を経て山頂に至るルートと猪平から白嵐を経て山頂にゆくルートがありどちらをとっても急坂に変わりないが、赤嵐ルートは樹林帯、白嵐ルートは岩稜帯と特徴がある。この前の山行(平成12年10月)は屋敷から登り、猪平へ下った。岩場の下りで足がガクガクになった憶えがある。今回は逆のコースである。1時間ほどで樹林帯が灌木に変わる尾根に出た途端鎖と梯子が現れた。梯子がグラグラしているので、おっかなびっくりそろりそろりと重心をかけて登る。今日は雨の予報であるがまだ日が照っており、岩の照り返しもあって岩稜の登りは暑さがこたえる。時折吹く涼しい風が心地よい。

万佛岩を臨む地点(小水の頭)で小休止。台地状の山が苗場、そこから稜線が南に延びて一際高く見えるのが明日予定している佐武流山、その右横に岩菅山と山座同定を欲しいままに楽しむ。登ってきた尾根筋を振り向けば、はるか下の樹林帯の切れた辺りで男女2人連れが小休止を取っているのが見えた。更に岩稜の登りが続くが、途中ガスが出てきて苗場も見えなくなった。白嵐は熊笹に覆われ道標がなければそのまま通りすぎてしまいそうな地点だ。もちろん展望は無い。小休止をとっているうちに先程の二人連れが追い越して行った。我々もそれ程遅くはないと思うのだが、かなりのハイペースで登ってきたようだ。ここから頂上までは凡そ1時間のコースタイムだが、途中カミソリの刃と呼ばれる痩せた箇所があるので気を引き締めて行かねばならない。小さなアップダウンを繰り返し愈々尾根が狭まってきた。特に右斜面が切れ落ち垂直の崖を覗き込むまでもなく身が縮む。左側にロープが渡してあるがやや低い位置にあるので、ロープをつかむにはやや前屈みにならざるを得ないので諦めた。バランスを崩さぬ様に足元に気を配りながら慎重に行く必要があるが距離的にはさほどなく短時間で通り過ぎた。

概念図



カミソリの刃を過ぎると間もなく短いが急な下りを経て鳥甲頂上への最後の登りが始まる。足場の関係で少し大きな歩幅をふんばった所で太ももに違和感を憶えた。ヤバイ！8月の運動不足がここで顔を出したのだろう。ラストを歩いていたのでパーティから少し遅れ気味になつたが、極力歩幅を小さくして足に負担をかけぬよう意識しながら歩いた。屋敷からのルートを合せたので頂上はまもなくのはずである。鳥甲の頂上は畳15畳ほどの広場だが木々に囲まれていて、晴れても展望はなく僅かに西側の木立の隙間から妙高、火打が見えるだけだが(前回は見えた)今日はこの展望もない。頂上では、糸魚川から来たという7名のパーティが中心部を占領し酒盛りをしていた。我々も広場の端に場所を見つけて昼食、白嵐で追い越して行った男女のペアは混雑を避けて頂上を少し離れた場所で食事をしていた。小雨がぱらつき出したので記念撮影もそこに下山を開始した。



鳥甲山頂にて

先程の分岐まで戻り、猪平の道分けて尾根道をさらに直進する。赤嵐を越し小さな登り下りを繰り返しながら尾根道を行く。晴れていれば赤嵐・白嵐のコントラストのある鳥甲の岩肌を楽しむことが出来るが、今や本降りとなつた空の下では望むべくもない。やがて尾根を離れて樹林帯の下りとなつた。水分をたっぷりと含んだ落ち葉の急坂は、歩幅を小さくしてもズルッとくる。尻餅をつきながら転げる様に下る。雨と汗で内と外からずぶ濡れになれば最早ブナの巨木を楽しむなんて余裕もない。早く林道に降り立ち、着替えたいと氣があせる。何度か雪崩防止の堰堤を林道と間違えがっかりしが、ついにトンネルすぐ側の屋敷登山口の林道に降り立ち、今朝デポした車に乗り猪平の車を取りに行つた。今晚は切明温泉近くの林道の車留付近でテントを張る予定だったが雨が激しいので、のよさの里にあるオートキャンプ場での幕営に変更された。ここならば、屋根の有る炊事場もあるし宿で温泉入浴も出来る。テント設営もそこそこに入浴し、濡れた衣服を取替えてようやく人心地ついた。宿屋で糸魚川のパーティに出合つた。猪平に降りたという。酒気を帶びて雨の岩稜の下りは気を使ったろうに、まずは何事も無かつた様で良かった。雨は止みそうもなく、ルート上に1ヶ所渡渉地点があるので明日の佐武流は中止せざるを得ないだろう。とすれば、心置きなく酒とお喋りを楽しむしかない。

翌日は予想通りの大雨で、早々と佐武流山の登山中止が決定された。雨の中を、秋山郷のくねくね道を走り、津南町の歴史民族資料館に立ち寄つた。ここには秋山郷の暮らしぶりを伝える民具が沢山展示されている。藁で作った合羽、藁靴をはじめ足踏み脱穀機等々昔懐かしい民具が沢山展示されており興味深かつた。

山行データ

山名	鳥甲山		
日時	16年9月4日（土）～5日（日）		
形式	テント		
山域	上越	地形図 1/2.5万	鳥甲山、切明
目的	ブナの巨木と岩稜歩き		
費用	10,600円	交通	自家用車2台
1 日 程	我孫子 4:00→上里 SA5:40/6:00→塩沢石打 IC→屋敷 8:35→猪平 8:50/9:10→万仏岩 10:25/10:35→白嵐 11:45/11:50→剃刀岩 12:30→鳥甲山 13:00/13:15→赤嵐 13:40→赤嵐の肩 14:10→屋敷 15:40→のよさの里キャンプ場 16:15（泊） <晴のち大雨 歩行時間：6時間30分>		
2 日 程	キャンプ場 8:30→津南町 9:30→津南町歴史民族資料館 10:30/11:40→柏 15:35（解散）<大雨 登山中止>		
参加者	青山（L）、千葉（SL）、村松敏、細野省、外崎、高橋英、武内 男3名 女4名 計7名		



日光白根山
(2577m)

高橋寿江

白根山強い味方のゴンドラで

去年台風で中止になったのに、またまた19号の発生で心配されたが、週明早々に去った台風にホッと一安心、紅葉にはまだ早かったイロハ坂では、広がる雲海の清々しさに目をみはつた。雲ひとつ無い青空の下、広い菅沼駐車場に着いた。

苔むす雑木林の登山道に入ると、沢山のハンゴウ草の花がいっぱいだ。流水の後の、石のゴロゴロするゆるやかな道から、ブナシメジ、ナメコ、マッシュルームに似たキノコ類が沢山目に付く中、時々大きな段差で高度を稼ぎながら登るとまもなく、穏やかな登りになり弥陀ガ池に着いた。

少し色付いた木々が水面に映り美しい、鹿よけの電線の張られた、シラネアオイの復元地脇を進み、沼のほとりから見上げる頭上には、ドーム型の岸壁の白根山がそびえている。ここで小休止していると、展望が心配な雲が広がり風も出てきた。それ以上にこの岸壁、一時間山頂まで足がつらずに登れるか？不安な気持ちになる。花の終わったカニコウモリの長い茎が広がる中、ロープの張ら

弥陀が池から日光白根山山頂を望む



れた急坂を行く。弥陀ガ池、菅沼、丸沼、座禅山の展望が広がると、行く手には岩場と砂礫の岸壁が続いている。3点確保で登る。息が上がり辛い。ペースダウンで遅れ気味、マイペース、マイペースの声に励まされ頑張る。広い山頂一帯はいくつかの小ピークが広がっていた。やはりガスって展望の利かない中、最初のピークで昼食にする。

下山は崩壊地が目の前に続いている。岩くずに足が埋まりズルズルと止まらない、安定の悪い怖い下りが続く。登りは大変だろうな・・・・(下見で逆コースに変更したリーダーの労に感謝) やっと森林限界に入り針葉樹林の急坂を下る。血の池分岐から道は広く平らになり、まもなく鹿よけの鉄扉を抜け、二荒山神社から山頂駅に着いた。



山頂駅から見る白根山は、遠くに大きくそびえ、ラクダのこぶのような三つの頂と悪路の稜線が、なだらかなスロープをえがいていた。久しぶりに頑張った充実感、初めて見る花壇に植えられていたコマクサの花の小さいのに驚いた。次は沢山のコマクサの花を見たいな・・・2000mまで登るゴンドラは、さすがに下りがいがあった。

内海運転手さんのみずみずしい梨の差し入れにホット一息入れ、花咲き温泉の風呂と、てんぷらつきソバで疲れを取る。

難易度の高い山を、バスとゴンドラ利用の山行計画を立ててくれたリーダに感謝 感謝 ありがとう。



日光白根山山頂からの展望
左より太郎山、中央奥は女峰山、中央手前は
小真名子山、右は大真名子山

山行データ

山名	日光白根山		
月日	平成16年9月12日(日)		
形式	日帰り		
山域	奥日光	地図1/2.5万	男体山・丸沼
目的	初秋の奥日光最高峰を登り、日光、尾瀬、上越の山々を一望		
費用	4400円	交通機関	貸切バス、ゴンドラ(帰路)
日程コース	我孫子駅 5:30→(貸切バス=常磐道・外環道・東北道・日光道)→菅沼駐車場 8:30 /8:45⇒弥陀ガ池 10:45/10:50⇒日光白根山頂 12:00/12:40⇒血の池地獄分岐 14:00⇒ゴンドラ頂上駅 14:30/14:35⇒ゴンドラ山麓駅 14:50/15:15⇒花咲温泉・花咲の湯 15:50/17:50⇒沼田IC 18:15→(関越道・外環道・常磐道)→我孫子駅 21:00 歩行時間 5時間		
参加者	A班 大串恵(CL), 原田君(SL)、柴田、日下、高橋寿、高橋英、渡辺、庄司、中村八、飯沼、原、松本、高橋潔、藤倉、 B班 榊原(L)、安田(SL)、大串秀、斎藤、小黒、中野、高橋芳、飯合、大畠、原田和、小川誠、田村、岡田 男8名 女19名 計27名		



日光白根山山頂にて

<399>

朝日岳～白馬岳
(2418m) (2932m)

高橋芳恵

朝日岳へ表登山道を登る

一日目

前夜の夜行バス（西武）はリクライニングシートで寝心地よく「黒部です」と案内されるまでぐっすりとよく休んだ。大慌てで荷物をまとめて外に出るとまだ夜が明けきらぬ暗さと激しい雨。予約してあったタクシーに乗り換え北俣小屋に向かった。途中一度も目覚めなかつたせいもありトイレのためコンビニエンスストアに立ち寄ってもらう。

何せ、今回は屈強な男性3名に同行をさせていただいたのでできる限り足手まといにならないように心がけること意を決しての出立であったが、最初から皆さんを待たせることになった。1時間弱で北俣小屋に到着したが、その後よりバケツをぶちまけたようなすごい雨となり、ゆっくりと朝食を摂り雨のやむのを待つこと1時間。この北俣小屋は朝日小屋と同じオーナーの小屋とのことで、管理人がとても親切でお茶など提供してくれ、出かける際には表まで出ていつまでも見送ってくれた。釣り客が多く集まる小屋でもあるとのこと。

噂に聞いてはいたが、朝日小屋までの1500mの登りはかなりきついものでいきなりの急登に次ぐ急登で体力を要したが、1合目、2合目とイブリ山まで表示がありこれに助けられた。5合目がブナ平で平坦地となっており巨大なブナの木を眺めた。雨は霧雨となって降り続きガスっている中を黙々とイブリ山まで歩き続けた。イブリ山で一人の女性が後から来るので出会ったが、この女性が朝日小屋の女主人、清水ゆかりさんでこのあたりの小屋の会議で出かけて帰る途中とのこと。我々が北俣小屋に居る時に二階で休んでいたとのこと。

彼女の話によると「いつもは白馬中心だった道路補修が今年は朝日小屋周辺に補助金がついた。珍しいことです。」新しいベンチや木道の意味が理解できた。やっと雨は小雨になり夕日が原の草紅葉の中を軽快に進んで行く。夏でも7月中は雪が残っているというが、さぞか

し花々で埋め尽くされること想像された。木道の敷かれた朝日平に出ると朝日小屋が見え、ほっと安堵した。小屋の周辺は広い花畠でキャンプ場もあり、天気であれば白馬岳や日本海まで眺められるとのこと。小屋では我々には広い部屋が当たれ思い思いに布団を敷いてゆったりと過ごす。連休というのに泊り客は他に2,3人。何度も訪れているリピーターが多く、「蓮華温泉より五輪尾根を通ってきたが水かさが増していて徒渉に難儀した」と話していた。感激したのは小屋の食事で日本海の昆布締めのおさしひに会席風の煮物、和え物、お変わり自由の湯豆腐とさすが人気の理由が理解できた。食堂には雑誌や書籍が読みやすく置いてアットホームな心地よさである。何度も訪れたいおすすめの小屋である。



二日目

朝日小屋に別れを告げ、朝日岳へと向かう。小屋の隣は富山県白馬管理センターがある。視界はきかないが雨具の必要はない。緩やかに下り水谷のコルで白馬方面への水平道と別れ、1時間ほどで朝日岳山頂に立った。天気であれば後立山、剣、妙高、火打などの展望がすばらしい所であるが今日は全く視界が望めない。昨夜小屋で出会った女性は一人で梅海新道に出かけたが、日本海まで歩くなんてかつこいいなあ。いつか訪れたいあこがれのロングルートである。また蓮華温泉への五輪尾根のコースと朝日岳はいろいろなコースがある。我々は下りに骨を折りながら雪倉、白馬岳を目指した。このあたりより展望が得られるようになり、紅葉も楽しめた。連休でありながら、全く登山者に出会わない贅沢さを存分に味わいながら快適に歩いた。下りにひどく手間取った後、リーダー部

長よりいたいたりんごのおいしかったこと。りんごに切れ目を入れ持参することも参考になった。雪倉岳のすばらしく広大な稜線と思いがけず例年より早めの見事な紅葉を堪能した。

思いつきり長い歩きだが、景色のすばらしさと感動しながらの山行である。雪倉岳避難小屋で昼食を摂り、英気を養う。このあたりから大学山岳部などのパーティと出会い、三国境よりは一気に登山者が増え始め白馬岳に続いている。昨日来の静けさと打って変わっての違いはさらに続き、ホテルのような白馬山荘のインフォメーション、白馬岳山頂とは思えないレストラン、ビギナーが目立つ賑わい等々、カルチャーショックそのもので早々に食事を済ませ休むことにした。これまた昨夜の食事とは雲泥の差である。超有名な白馬岳山荘は、二度と来たいと思わないお勧めできない小屋かと思う。



白馬山頂にて…9時間歩行ご苦労

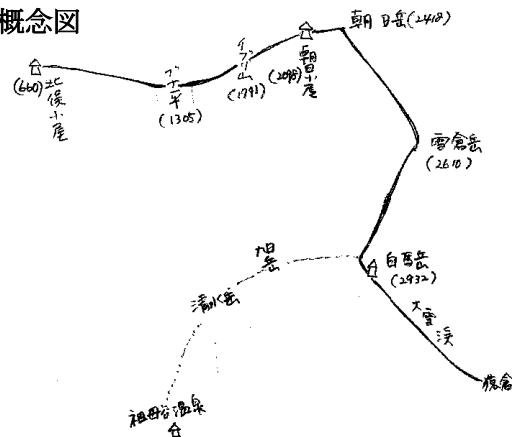
祖母谷コース断念し、雪渓を下る

三日目

未明より風雨が激しく、本日の祖母谷コースをどうするかで検討し、7時まで待ってリーダーよりコース変更を告げられた。祖母谷への急降下を考えれば当然の判断だと思われた。下山には最短の白馬雪渓を下ることにした。稜線をはずれると吹き飛ばされそうだった強風はうそのように静かになったが、葱平より先の雪渓の雪が驚くほど少なくなっており危険なため、脇道を歩かざるを得なくなつたが、これが大変な苦労であり、今回の山行中最も難渋し体力を消耗した。雪渓の下は轟々と流れる川となっており、参加者も口々にこんな雪渓は初めてと言ひ合つた。猿倉よりタクシーで白馬駅前の温泉に立ち寄り、ゆっくりと食事を摂り帰途に着いた。

た。今回の朝日岳～白馬岳は私にとって、急な登りとロングコースという今年度最大のチャレンジであり、かなり緊張して望んだ山行であったが、無事終えた後の充実感は實に心地よかったです。山慣れたリーダーやリーダー部長に同行し、多くのことをご教示いただく機会がもてたことにもよい経験となり、同行の皆様方に本当にお世話になった。ありがとうございました。

概念図



山行データ

山名	朝日岳～白馬岳		
月日	平成16年9月16日(木)～19日(日)		
形式	山小屋3泊 尾根縦走		
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	小川温泉・黒薙温泉・白馬岳・櫻平・白馬町
目的	静かな縦走登山…北アルプス最北端縦走		
費用	35千円	交通費	高速夜行バス、タクシー、JR
1 日 目	我孫子駅 21:30→池袋駅 22:29/23:05→(夜行バス)→黒部IC 5:08→北又小屋 6:05 <曇・雨 歩行時間なし>		
2 日 目	北又小屋 7:15→ブナ平(5合目)9:25→イブリ山(10合目)11:25/11:50→夕日ヶ原 12:30→朝日小屋 13:40(泊) <強い雨 歩行時間: 6時間30分>		
行 程	3 日 目	朝日小屋 5:45→朝日岳(2418m)6:45→雪倉岳(2610m)10:50→三国境 13:50→白馬岳(2932m)14:30→白馬山荘 14:55(泊) <曇時々晴 歩行時間: 9時間>	
	4 日 目	白馬山荘 6:30→白馬尻小屋 9:35→猿倉 10:20/10:40→(タクシー)→白馬八方温泉/そば屋 11:20/12:15→白馬駅 12:30/15:04→新宿 18:34→我孫子 19:14 <雨のち晴 歩行時間: 3時間50分>	
参 加 者	石垣(L)、村松敏(SL)、高橋芳、高橋潔 男3 女1 計4名		

<400>

立山三山	(淨土山～雄山～別山)・
	2831m 3003m 2880m
大日三山	(奧大日岳～中大日岳～大日岳)
	2606m 2500m 2501m
	外 崎 蓮

室堂を起点として、立山三山～ 大日三山をぐる一り一巡り

9 / 17 (金) 夜

夕方勤めから帰ると、おおわらわで支度し駅へ急ぐ。

我孫子駅で3人と合流し、女性4人旅だ。新宿の都庁近くの高速バス乗り場へ行くと、8月頃の喧騒はなく、バスの数も少ない。予約してあった切符もすぐに受け取れて、1号車に落ち着いた。

この山行は、坂口さんと私の山をドッキングさせたものである。私の今回の山行目的は、誰もが知っている室堂と雄山を見学すること、静かな大日三山を歩くことである。バスは夜の高速道を走り、途中どこぞのインターに3回立ち寄った。

9 / 18 (土)

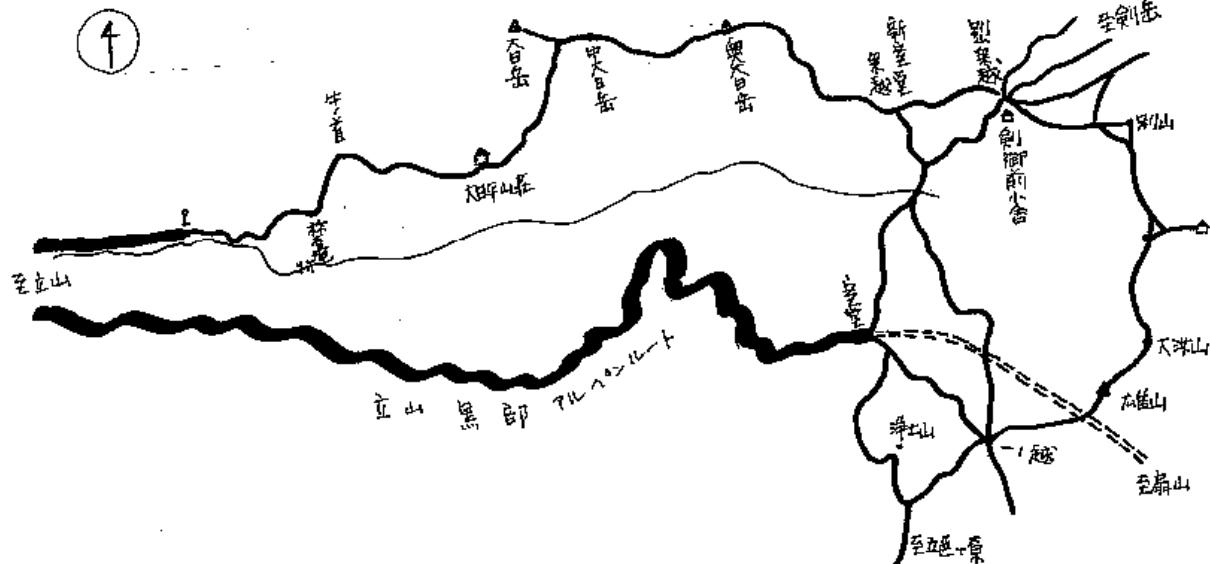
外が白みだしカーテンを開けると、バスは弥陀ヶ原の坂道を走っている。色づいた道端の植物が、垂れ込めた靄の中にぼーと霞んで見える。

室堂ターミナルでバスを降り、二階の休憩所で朝食をとる。登山者が次から次へと入ってきては、急かされるように外へ散っていく。屋上から広場へ出ると、湧き水の付近に人だかりがしている。室堂は2450Mもあるのに、信濃大町からバスとアルペンルートで簡単に来れることと、立山駅からも大型バスが大勢のお客さんを運んでくるため、室堂は人でごったがえし、スカートやハイヒールの人もいたりで、さながら都会の公園のようである。違うことは、3000Mクラスの山々がまわりをぐるりと囲んでいることだ。

名水を飲んだ後、浄土山からスタートする。よく整備された広場の石畳を右手に折れ、石段を上がってゴロゴロした岩の道を登る。登りついた浄土山は一帯が広々としていて、神社や鳥居、鉄塔、研究所の建物などが濃霧の中にボンヤリと見える。高所にいることが嘘のようである。

右手に行くと、五色ガ原・薬師岳方面だ。左手へゆるやかに下ると、すぐに一ノ越へ着く。ここへは、ほとんどの人が室堂から直接上がってくる。

概念図



9/19 (日)

浮き石の多い雄山の急斜面の登りは思ったよりもきつくて、二度も腰をおろして休んだ。

山頂は細長く、手前に社務所があり奥には鳥居があって、そこで参拝料を払った人だけが岩の突端に建つ雄山神社に案内される。一度に十人ほどがじやり石に腰をおろして神主の祝詞を聞き、お神酒を戴く。雄山は、富士山、白山とともに日本三靈山の一つとか。それについても神主はなかなかのいい男で、いい声をしていた。

雄山から大汝山はすぐである。立山連峰では最も標高が高いのにパツとしない山頂だ。この下に大汝休憩所があり、髭面のこちらもパツとしないおじさんにココアを注文する。雄山の喧騒が嘘のような静けさ。

一休みして富士ノ折立を下る。右手の内蔵助カールと左手の室堂を一望しながら、しばらく快適に歩いた後、砂礫をジグザグに登ってケルンのある真砂岳に着く。どっしりと広い山頂だ。右手崖の突端に内蔵助山荘がある。右手の真砂沢カールは、内蔵助カールと同じくらいスケールが大きくて美しい。そのまま直進して別山山頂に登る。広い山頂の中ほどに石室があり、中に祠が祀られてあった。靄がかかつてきただので急いで別山乗越に下る。

今晚は、乗越に建つ剣御前小舎にお世話になる。ここは、室堂と剣岳方面を結ぶ重要なポイント地点だ。

談話室で休んでいると雲が切れて、小屋の裏手に剣岳が姿を現した。声を聞きつけて大勢の宿泊者が外に飛び出してくる。剣沢の下方には、幾つかの建物とテントも見える。

夕食後、談話室で柏から来たという桐生さん夫妻と言葉を交わす。これがご縁で、恭子さんが当クラブの会員となった。

テレビでは明日は雨との予報。永谷さんが下山したい意志を示したので、室堂へ下りることにして部屋へ引きあげた。



剣御前小舎から剣岳を望む

5時30分に起きて玄関に出てみると、一寸先も見えないほどの濃霧と小雨が降っている。あきらめて、また布団にもぐる。おにぎり組は、6時半から味噌汁とお茶がもらえた。いずれにしても動けないので、8時まで待機することにしていると、昨夜、剣山荘や剣沢小屋に泊まつた登山者たちがこちらに向かって登ってくる。

8時頃になると、辺りの景色が少し見えて出発することにする。最後の決断を下す新室堂乗越まで来たとき、幸いにも靄がとれ、全員一致で縦走を続けることに決めた。奥大日岳を登るころには晴れ上がり、気分も足取りも軽やかとなる。



静かな山頂にて・・・

奥大日岳の三角点は、登山道から少しづれたところにある。山頂には、私たちの他は単独の若い男女二名だけ。あいにく剣岳の上部に雲がかかっていて見えないのが残念だが。

中大日岳は、知らぬ間に通り過ぎ、大日小屋に下りてきてから、後ろの山がそれであったことに気づく。小屋の前を通って分岐にザックを置き、右手、大日岳へ行ってみる。山頂には誰もおらず、もったいないほど静かだ。名残りを惜しんで分岐に戻り、いよいよ山を下りる。

中腹の水場へ来ると、今晚の宿の大日平山荘が緑の大草原の中にポツンと建っているのが見える。そこへ続く真っ直ぐに延びた道。さながら、絵本の中の景色を見下ろしているかのよう。樹林の中の悪路をぬけ出し、広い笹原の木道を歩いて3時に山荘に着いた。

ありがたいことにお風呂がある。石鹼は使えないが、お陰で着替えができる。

激しい夕立があがり、日暮れとともに星が出了。静かな食堂の片隅でおしゃべりに花が咲き、部屋に引きあげて布団を敷こうとして、重なつ

ている布団の間に手を入れると、ふんわりと温もっているではない。干しておいてくれたのだ。嬉しくて気持も暖かくなった。トイレはバイオ。洗面所も片付いていて、とても清潔な小屋だ。

9/20 (月)

今朝は、靄がかかっているが雨は降っていない。山荘を出るとき、ご主人である若いお兄さんが見送りに出てくれたので、一緒に写真をとり布団の礼を言った。言いたかった。特徴のある顔をした好青年であった。

今日は立山に下だり、バスで再び室堂へ戻つてアルペンルートで扇沢へ降りる予定である。

称名峡谷を挟んで対岸の弥陀ヶ原高原を左手に見ながら木道を快適に下る。大日平と別れ、牛ノ首尾根に移る。右手はザクロ谷、左手は称名滝側でともに切れ落ちていて、この下りが今回のコースで一番の難所だったかも知れない。



天候も回復して気持ちのよい山行になりました

車道に出て 10 分ほど歩き、日本一の落差を誇る称名滝を見に行く。この滝が山旅のフィナーレを飾った。

この後、称名滝バス停から 9 時 5 分発の始発バスで立山駅へ行く。扇沢まで切符を買って、まずはケーブルカーで美女平に上がる。乗客は東洋系の外国人でぎっしりだ。ここから室堂まではバス。車窓からは大日平山荘の赤い屋根が、草原の中にいつまでも見えていた。

室堂へ再び戻ったあとは、まるで品物がベルトコンベヤーで運ばれていくように、集合の号令に従い、チケットを点検されて次から次へと別の乗り物に乗せられて行くばかり。乗り物の合間に忙しく山をながめ、おみやげを吟味し、立ち食いするという按配だ。黒部ダムでいよいよ

よ山々に別れを告げ、トロリーバスで扇沢へと降りてくる。

あっけない下山に、山の余韻に浸る暇もなく……。

山行データ

山名	立山三山（浄土山・雄山・別山） 大日三山（奥大日岳・中大日岳・大日岳）		
月日	平成 16 年 9 月 17 日（金）夜～20 日（月）		
形式	夜行バスと山小屋 2 泊		
山域	剣・立山連峰	地形図 1/2.5 万	立山・剣
目的	室堂を基点として、立山三山から大日三山のパノラマコースを一巡する		
費用	約 45 千円	交通機関	高速夜行バス・アルペンルート、タクシー・JR
前夜	我孫子駅 21:05→新宿高速バスター・ミナル 22:30→（高速バス）→		
1 日 目	室堂バスター・ミナル 7:00/7:45⇒浄土山 9:00/9:15⇒一ノ越 10:00/10:10⇒ 雄山 11:10/11:30⇒別山 14:10⇒剣御 前小舎 14:35（泊） <歩行時間：5 時間 30 分>		
日程・コース	剣御前小舎 8:10⇒新室堂乗越 9:00⇒奥 大日岳 10:30/10:45⇒岩石庭園 11: 55/12:05⇒中大日岳⇒大日小屋 12: 20/12:27⇒大日岳 12:40/12:50⇒分岐 13:05/13:20⇒水場 13:55/14:05⇒大 日平山荘 15:20（泊） <歩行時間：6 時間>		
3 日 目	大日平山荘 6:40⇒牛ノ首 7:25⇒猿が馬 場 7:40/7:50⇒大日岳登山口 8:25 ⇒称名滝 8:40⇒称名滝バス停 8:55/9:05 立山駅 9:20/9:40→（黒部・立山アルペ ンルート）→扇沢駅 13:20/13:50→（タ クシー）→松本駅 15:15/16:03→（ス ーパーあづさ）→八王子駅 18:05/18:12→ 西国分寺→我孫子駅 19:45 <歩行時間：2 時間>		
参加者	外崎 L、坂口 SL、大畠、永谷 女 4 名 計 4 名		

<401>

表妙義縦走 (1104m)

柴 勇

夢が叶った

表妙義は、これで4度目の挑戦になる。今度こそは、1日で縦走を完了したい。

前夜、妙義神社近くの駐車場の片隅にテントを張って、早めに寝ようとしたが、何しろ駐車場なので、車の爆音、車から聞こえるステレオの音に眠られず、多分真夜中に静かになってから寝たと思う。

すっきりしない状態で早起きした。4:00起床、簡単に朝食を取って、今日はかなり暑いので各自水2リットルを持って5:00にヘッドライトを点けて妙義神社本殿に向かう。妙義神社からの登山道は、地元の方のお陰でベンキマークと進入禁止のロープが整備され迷い防止になっていたが、大の字の展望台は、標識が無く、ルートを外れて、行き止まりとなり、数回引き換えしてルートに出た。

大の字展望台は、靄のため視界悪く何も見えない。下山した時は、すっかり晴れていたのでこのところにある「大」の字が多くきく確認できた。

奥の院右横の2段のクサリ場を直登する。初めてこのクサリ場を登ったときは、大変な想いをした記憶があったが、今になればそれ程でもない。連続したクサリ場を通過後、御岳三社大神の石碑が立つ大のぞきで休憩。正面には、天狗岳の大岩壁が立ち、右手には浅間山が見える。

2日前に浅間山が噴火して、ここまで火山灰を散らしたため、その灰が木の葉に残っていて

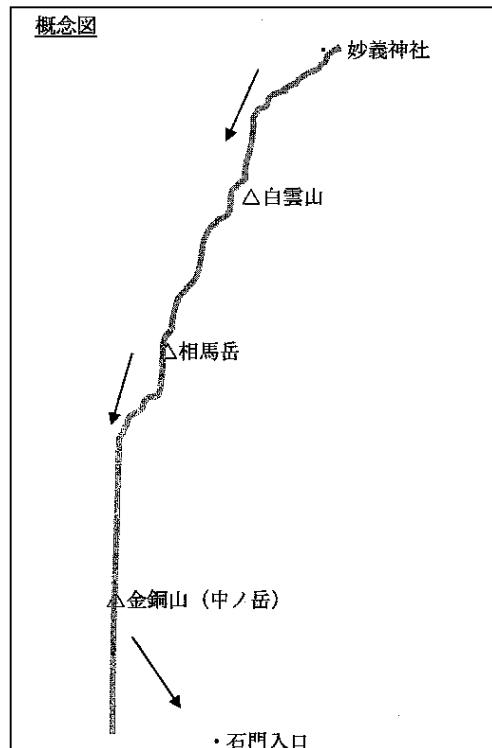


白雲山、相馬岳、中野岳と続く岩峰

ルート上に木の枝が出ていたりするとこの灰が飛び散って私たちを困らせた。特に千葉さんは、コンタクトレンズなので時々、灰を取り除く必要があった。

天狗岳で休憩中、単独行の熊谷在住の47歳男性と一緒にになりこれから先同行することになった。彼は、北アルプスに昨年山行に行き岩場の山行に魅力を感じ、奥さんには内緒で来たと言う。

相馬岳の山頂からは裏妙義・浅間山が展望できた。裏妙義は、昨年、丁須の頭を登った思い出がある。風が強く、登るのを思案したがなかなか機会が無いので思い切り登ることにした。中村隆泰さんが確保をしてくれたので安心感も有った。浅間山は、まだわずかであったが、噴煙の残り火が確認された。相馬岳の下りは、ルートが分かりにくく迷い易く、ガレ場もあり難所の1つである。



3年前雨と時間切れのため中間道を利用したホッキリに到着。いよいよ今日の最大のハイライト鷹戻しにチャレンジすることになる。最初の短いクサリ場を登り始めて間もなく、10人パーティーに出会う。「懸垂下降で降りたいので待っていて欲しい。」というので、わき道で待機していたが、なんと、40分も待たされてしまった。時間のロスは有ったが、私にとっては、体力回復するため助かったと言うのが本

心でした。

さすが、この鷹戻しは、まず、2段のクサリ場が、傾斜がきつく更に、長い。それに続く下降は、体力を消耗した後だけに2箇所のクサリ場は、体力勝負だ。2箇所とも適切なホールドが肝心なところには無いので苦労する。クサリが設置されているが、これが太すぎてホールドしにくい。やむを得ず、2段目の途中で、休憩して体力の回復を待って、下降した。



岩稜の難路を慎重に通過

私にとっては、色々な思い出がある東岳に到着した。そのときも標識は無かったが、3年前はたしかに標識はあった。しかし今は、何の印も無い。約10年前東岳に到着したのが5時位だった。しかし、これが、東岳かどうか分からず、ルート探しに時間がかかり、この頂上で、6時を過ぎてしまい、時間切れとなり皆で協議した結果ビバークすることにした。初めてのことなので多少の不安はあったが、各自自宅に電話をして連絡が取れたことで皆ほっとした。幸、早い時間にビバークを決めたので、準備の時間は十分取れたので問題は無かった。1つだけ困ったことがあった。それは、全員日帰りを想定していたので水がだれのペットボトルにも残っていなかった。お菓子などの食べ物はあったが、喉がからからで、喉を通らない。翌日草の葉のつゆをなめたが何の足しにもならなかつた。



中の岳山頂にて

千葉さんは、体力技術とも優れていたので何の心配も無く非常にありがたく心から2人に感謝している。東岳をやり終えた時に今日の山行は、問題なしと実感した。中ノ岳には、祠があり、標識が無くてもそれと確認でき、下方には中ノ岳神社駐車場が見えた。

小岩峰をこえ、2段のクサリ場を下降すると中ノ岳神社方面の標識があり中間道に出る。ルートを変更して、第4石門を見学する。ここで、地元の山岳関係者の遭難に関する貴重なお話しを聞くことが出来た。毎年、数人の滑落による死亡者がでて、そのたび地元の関係者は、救助に向かうという。話を聞いている時に、ドーンという音がして一時騒然となつた。安全登山を心がけたい。



第四石門前にて

山名	表妙義縦走（相馬岳）		
月日	平成16年9月18日(土)～19日(日)		
形式	夜行日帰り		
山域	妙義	地形図2.5万	松井田・南軽井沢
目的	岩稜縦走		
費用	7,000円	交通機関	自家用車
1 日 目	我孫子 19:10→高坂 SA 21:00/21:15→松井田 妙義 IC 22:00→妙義神社駐車 22:25 (泊) <曇り 歩行時間なし>		
行 程 2 日 目	妙義神社駐車場(起床 4:00) 4:55→妙義神社 本殿 5:10⇒大の字 5:45/5:55⇒奥の院 6:15⇒ 大のぞき 7:13/7:20⇒天狗岳 7:40/7:55⇒相 馬岳 8:20/8:25⇒ホッキリ 9:25⇒鷹戻し 10:00/10:55(10人パーティの懸垂下降待ちの為 =40分間)⇒東岳 11:35/11:40⇒中ノ岳 12:00/12:10⇒第4石門 12:45/13:05⇒石門 入口 13:15/13:45⇒妙義神社駐車場 13:55⇒ もみじの湯 14:00/16:00⇒松井田妙義IC 16:25⇒柏IC 18:30⇒我孫子 19:15 着 <晴 歩行時間: 6時間10分>		
参加 者	青山(L), 柴(SL), 千葉 男1名、女2名	計3名	

<402>

岩手山・姫神山
(2039m) (1124m)

飯沼トミ子

憧れの岩手山、姫神山へ

第1日目

上野駅06時06分の新幹線「はやて」にて一路盛岡へ。盛岡駅よりタクシーにて馬返しまで。天候は良好で駐車場には登山者の車がたくさん駐車してあつた。

いよいよ登山開始、岩手山は活火山の為今までの登山ルートは限定されていたが、今夏7月よりすべての登山道が開通した。

今日は、馬返しから八合目避難小屋を経由して松川温泉までの長距離コースであった。快晴に恵まれ、皆さんの足取りも快調であった。つづら坂もだんだん厳しくなり、周囲の景色には少し始まりかけた紅葉が色合いを添えていた。松川温泉までの行程を中止（パーティーに疲れが見え始める）避難小屋泊りに変更になった。さすが、避難小屋付近は天候もよく、薬師岳のお釜めぐりをした。風は少々あったが360度の展望は素晴らしい。避難小屋には管理人が居り、毛布も借りられとても行き届いた小屋であった、又美味しい水が豊富に出ている。トイレも綺麗であった。



山小屋のような“岩手山避難小屋”

第2日目

天候は雨、06時に出発、これより先はアップダウンの連続であろう長い道のりである黒倉山、姥倉山、を通過した際に雨風が強くなり、ザックカバーが飛ぶほどであった。悪路の下山道の上に緊張の連続であった。やっと登山口に到着。タクシーを待つ間に雨も上がり雨具を外すことが出来た。

タクシーにて、秘湯なる松川温泉へ。ここの温泉街は、日本では最初で世界でも4番目運転開始されたという地熱発電所がある所である。露天風呂は、湯が白濁した硫化水素泉で美肌効果があると言う事から女性の方々に特に人気があるそうだ。

温泉につかり昨日からの汗と疲れを流し、啄木記念館へと向かう。八幡平登山は既に経験済みという事で中止となつた。ゆっくりと啄木記念館を見学して民宿の「竹の家」へ向かう。夕食までの間はのんびりと団欒に興じた。

第3日目

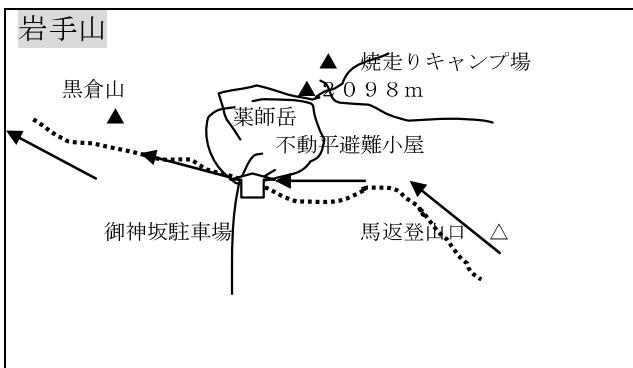
北上川を天の川に見立てると彦星が岩手山、そして織姫が姫神山、という構図になるそうな、二つの名山に早池峰山との三角関係の伝説が地元の人々の間では有名な話だそうだ。雄姿なる姫神山は、奈良、平安時代において修行僧や山伏が登拝し靈地となっていたが、今現在では岩手県北部ならではの穏やかな裾野を凜とした山頂を併せ持ち、遠足登山のメッカになっている。

渋民村のキャンプ場から登り始め、ざんげ坂と呼ばれる黒土の山道から階段へ、この階段を登り詰めた所で一息入れる。

そして雑木林をひたすら登ると途中に巨岩や奇岩が出現し足元に気をつけながら頂上に到着した。一等三角点のある山頂からは独立峰ならではの大パノラマが堪能できる筈であったが、残念ながら「神の山々」らしく静かな頂上であった、展望がない為食事を早々に済ませ下山へと向かう。

比較的楽な下山道を足取りも軽く途中は栗拾いが出る程の余裕を持ちながら城内小学校を目指しての下山。城内登山口から城内小学校までの道路が明確ではなかったが、親切な地元の人達に助けられながら小学校に到着。タクシーにて盛岡駅に向かったが、多少時間的に余裕があった為に途中に岩手名物の石割桜「税務署内」を見学した。

概念図

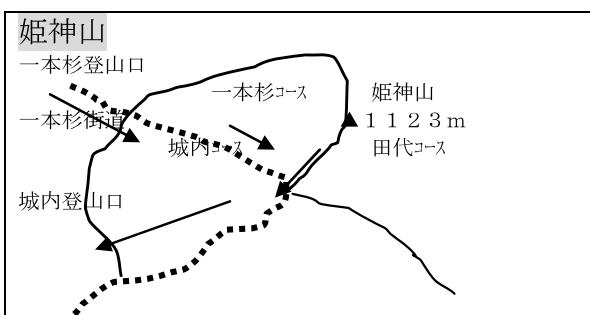


啄木記念館の前にて



山行データ

山名	岩手山、姫神山			
月日	平成 16 年 9 月 18 日～9 月 20 日			
形式	避難小屋 1 泊、山麓 1 泊			
山域	東北	地形図 1/2.5 万	八幡平、岩手山	
目的	東北の山と花			
費用	4 4 千円	交通機関	JR, タクシー	
行程・コース	一日目	我孫子駅 5:09→上野駅 6:06→新幹線はやて→盛岡駅 8:36 (タクシー) →馬返し 9:30⇒五合目 12:50⇒避難小屋 14:15⇒岩手山 (薬師岳) ⇒八合目避難小屋 (泊) <晴れ 歩行時間 : 4 時間 45 分>		
	二日目	八合目避難小屋 6:00⇒黒倉山⇒姥倉山⇒松川登山口 11:10 (タクシー) →啄木記念館 12:20→竹の家民宿 2:30 (泊) <午前中雨風午後曇り、晴れ、歩行時間 5 時間 10 分>		
	三日目	民宿竹の家 8:00→登山口 8:15⇒姫神山 山頂 9:50/10:25⇒城内登山口⇒場内小学校 12:35⇒盛岡駅 16:39 (新幹線はやて) ⇒上野駅 19:02→我孫子駅 19:50 <曇り、歩行時間 4 時間 20 分>		
参加者	高橋 (L)、斎藤 (SL)、榊原、庄司、飯沼 男 2 名、女 3 名、 計 5 名			



<403>

南岳～中岳～
(3033m) (3084m)
大喰岳～槍ヶ岳
(3101m) (3180m)
大串秀雄

紅葉の3000m縦走路

1日目

この時期の3000m縦走は初体験。なによりも天候を優先し、荒天予報の場合には直ちに撤退することで、参加者全員から事前に了解を得ていた。出発前夜の天気予報は、初日に小雨マークがあったが、2日目以降は回復基調だった。スタート地点の上高地は薄曇り、日差しもあり雨は心配無い。天候は1日繰り上がって回復したものと早合点しながら、梓川に沿った単調な道を快調に登る。槍沢ロッジには5時過ぎの入館で事前了解を得ていたが、タクシーを利用したことと全員の足が揃い、予定よりも早く4時前には到着できた。この小屋ではリアルタイムの天気情報を提供している。明日の予報を見て愕然。なんと降水確率80%と著しく悪化。千葉県下には大雨洪水注意報…と。明朝の具合によってはここから引き返すことを覚悟した。当夜の宿泊者は50人程度でガラガラ。風呂に入つて疲れを癒し、早めに就寝した。

2日目

雨の気配は無い。空は明るく、少なくとも午前中は持ちそうだ。3日目が仮に雨になつても、引き返すことは問題ないことを小屋に確認し、取敢えず、南岳小屋まで登ることにした。槍沢に立ち込めていた朝霧が上がり始め、徐々に視界が開けてきた。薄日も差し始めた。分岐を左折。槍沢から天狗原にかけては紅葉真っ盛り。天狗池には水面に映る逆さ槍ヶ岳の姿こそなかつたが、たけなわの秋だけで十分に満足。岩と紅葉の絶妙なハーモニー…さながら錦絵を見るようだ。しばし時を忘れて見惚れた。天狗池～槍穂縦走路分岐の間は、岩場の急登路ながら、鉄梯子や鎖が設置され、目印の表示も明確で、危険感はない。時折、常念岳らしき端整な頂が雲間に顔を出すが、同定できない。最初の3000m峰、南岳山頂まで順調に登つたものの、山頂はガスの中。山頂直下の南岳山荘

には昼前に到着した。



秋たけなわの天狗池にて

早速、ストーブを囲み団欒を楽しむ。暫くすると、ガスが切れ始めた。ただ、小屋脇のビューポイント、獅子鼻からは大展望の筈だが、今は山々の一部分を確認できる程度。眼前の大キレットや滝谷もガスの彼方だった。当夜は我々のほか宿泊者2名。築数年の新しい小屋で、設備サービスとも良好。ガラガラの小屋をたっぷり使って、明日に備えた。夜には笠ヶ岳山荘や鏡平小屋の灯火がすぐそこに見えたようだが…。

3日目

季節的に初雪初氷を予想していたが、幸い、冷え込みは全くななく、早朝の外気は2°C。無風。曇り空ながら、周囲は明るい。小屋の管理人からは、風がなければ槍ヶ岳までの稜線縦走路は全く問題ないこと、飛騨乗越(槍平への分岐)から鎧平への路は槍ヶ岳や南岳からの下山路として最も安全、とのアドバイスを貰った。飛騨乗越までは予定どおりとし、その先の槍ヶ岳へは分岐通過時点で天候を見極めながら決めるにして、出発。外に出てみると、霧なのか小雨なのか、雨具が必要なのか否か…要するにその程度の状況だったが、不思議なことに展望は極めて良好。早速、小屋脇の獅子鼻に出て、大キレットを挟んで対面する滝谷、北穂高岳を仰望。魚津恭太(氷壁主人公)が遭難死した滝谷の岩壁をまのあたりにした。物凄い迫力に圧倒され、声も出ない。直ちに南岳山頂に登ると、ここからは大展望。北に槍ヶ岳・南に北穂高岳・奥穂高岳・西に笠ヶ岳・東に常念岳…北アルプスが見渡せた。

日差しは少なかつたが、雨も止み、ますますの縦走日和。視界良好で、3000mの縦走路か



大キレットをはさんで北穂高岳、滝谷……

らは大展望を満喫。正面には、横綱槍ヶ岳が、中岳・大喰岳を太刀持ち・露払いに従えて堂々の土俵入り。振り返れば穂高が大きく聳え立つ。



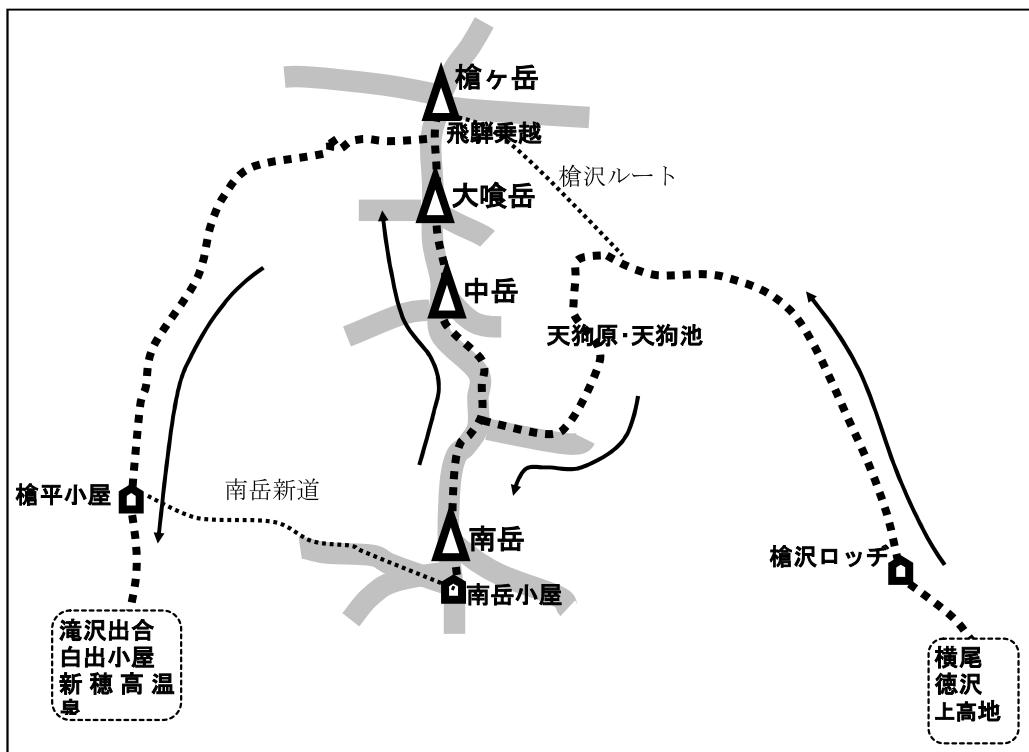
槍を目指して……

右手には蝶ヶ岳～常念～大天井～燕岳が…左手には笠ヶ岳～黒部五郎～双六～三俣蓮華～薬師～野口五郎が…只今、北アルプス真ん真ん中！ハイカーの姿は全く見えない。南岳、中岳、大喰岳…3000mの稜線を独り占め。快適な稜線歩きで、飛騨乗越(鎧平への分岐)も問題意識なく通過し、槍ヶ岳山荘に着いた。ここでもハイカーの姿は皆無。

一休みして槍ヶ岳の岩峰へ。小雨がぱらつき出したが、視界は依然として良好。濡れている岩や鎖・鉄梯子に注意しながら、遂に、槍ヶ岳山頂に立った。夏山の賑わいが嘘のように、岩峰には誰ひとりいなかった。我ら6人で万歳三唱。小雨で煙っていたが、360度の大パノラマをゆっくりと味わった。



槍ヶ岳山頂 360度の大パノラマ



岩峰には、登山者が少ない時期で、順番待ちもなく難なく登降。槍ヶ岳山荘に戻ってから昼食。槍ヶ岳に別れを告げ、一旦、飛騨乗越の分岐まで引き返し、草紅葉に染まる飛騨沢を一路、槍平小屋へと下る。正面には、笠ヶ岳・抜戸岳・樅沢岳・双六岳が…、鏡平小屋も確認できる。飛騨乗越～槍平間は、距離はあるが比較的緩やかな勾配の一本道。良く整備されていて歩きやすい。

槍平小屋は建物や食事・寝具も確りしていて、微かな臭気さえ我慢すれば、昔ながらの素朴さに惹かれる小屋。なによりもシニア割引は嬉しい限り。2階の窓辺からは、夕日に映える北穂高岳のピークやドーム、そして滝谷の岩壁が…。小屋前から南岳山頂に至る尾根は、たけなわの秋を迎えていた。今夜の宿泊者も我々以外は単独行の2名。ゆっくりと眠れた。

最終日

まずはの空模様。槍平からの下り路は整備されていて歩きやすいが、夜来の雨で濡れた石が滑り閉口。滝谷出合で一休み。魚津恭太(氷壁主人公)が死の単独行をスタートしたこの出合からは、雄滝らしき滝とその奥の滝谷岩壁やドームを仰ぎ見ることができた。今回はここで穂高よさらば！ 滝谷の先駆者で、孤高の人加藤文太郎の先輩筋に当たる藤木久三のレリーフを後に、前方の谷間に現われた乗鞍岳を望みながら、谷あいを快調に下る。

奥穂高岳直登ルート分岐の白出沢出合あたりから、林道に変わり一安心。牧場に囲まれた穂高平小屋を過ぎれば、新穂高温泉バス停は間近か。平湯までのバスもゆっくりと座れた。平湯温泉では4日間振りに汗を洗い落とし、肉料理を味わった。予定時刻よりも早く下山だったので、一バス繰り上げて、高速バスで帰途についた。今回のルートは、良く整備されていて危険感なく、時間的にも余裕十分。このルートであれば何年か後にも又…の夢を持つそう。シニアの方々には、お薦めの槍ヶ岳登山ルート…かな。! 3000mの大展望と紅葉と、そのうえガラガラの山小屋と奥飛騨の温泉と…大満足の秋山山行だった。今山行では、最も心配していた天候に恵まれたこと、そしてなによりも、素晴らしい仲間に恵まれたことに、心から感謝！感謝



3000mの縦走路の途中大喰岳にて

山行データ

山名	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳		
月日	平成16年9月25日(土)～28日(火)		
形式	山小屋3泊 尾根縦走		
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	槍ヶ岳・穂高岳・上高地・笠ヶ岳
目的	①3000mの秋…天狗池の紅葉は？ ②3000mの大展望		
費用	41千円(含、入浴料500円)	交通機関	J R、タクシー、バス、高速バス
1 日 目	我孫子駅 5:30→新宿→(特急あづさ)→松本駅 9:38→(ジャンボタクシー)→上高地(昼食) 11:10/11:45⇒明神 12:20⇒徳沢 13:00⇒横尾 14:00/1410⇒槍沢ロッジ 15:45(泊) <曇り時々晴れ 歩行時間：4時間>		
2 日 目	槍沢ロッジ 6:10⇒ババ平 6:45⇒天狗原分岐 8:00⇒天狗原 8:10⇒天狗池 8:40/9:00⇒槍穂縦走路との分岐 10:45⇒南岳山頂 11:05⇒南岳小屋 11:15(泊) <曇り 歩行時間：5時間>		
行 程	南岳小屋 6:40⇒南岳山頂 6:50/7:00⇒中岳山頂 8:10/8:22⇒大喰岳 9:00/9:05⇒槍ヶ岳山荘 9:35/10:05⇒槍ヶ岳山頂 10:25/10:32⇒槍ヶ岳山荘(昼食)10:50/11:30⇒槍穂縦走路との分岐 11:50⇒槍平小屋 14:00(泊) <薄曇り一時小雨=視界良好 のち薄日 歩行時間：7時間>		
3 日 目	槍平小屋 6:45⇒藤木レリーフ 7:26⇒滝谷出合 7:30⇒ブドウ谷 8:15⇒白出沢出合 8:40 /8:50⇒穂高平小屋 9:25⇒ゲート 9:55⇒新穂高温泉 10:05/10:20→(バス)→平湯バスターミナル(入浴、昼食)10:55/14:35→(高速バス)→新宿 18:45→我孫子駅 20:00 着 <晴れ 歩行時間：3時間20分>		
参加者	大串秀(L)、斎藤(S L)、大串恵、小黒、高橋芳、田村	男2名 女4名	計6名

<404>

大山・蒜山（上蒜山～中蒜山） (1709m) (1202m) (1122m)

大串秀雄

初めての中国山脈山行

浜松町バスター・ミナルから夜行高速バスに乗り込む。ほぼ満席だったが、夜行専用バスだけに寝心地は良い。はつきりとした記憶はないが、多分、首都高速道に入った頃には寝入っていたようだ。鳥取県境を越えたあたりで目が覚める。窓の外は山霧で蒜山も大山も見えない。天候を心配しながら終着駅の米子で下車。

JR駅構内の売店で、朝食用に鳥取名物カニ飯弁当を購入し、タクシーで大山登山口へ向かう。登山口には誰もいない。夏山の賑わいが嘘のよう。大きな土産屋の軒先を寸借し、朝食のカニ飯弁当で腹ごしらえ。残念ながら霧雨。雨具を装着して、さあ大山へ！



雨の中出発

日帰りも可能で多くの人々に親しまれている大山。年間15万人を数える登山者が訪れるそうだ。登山道には土砂の流出を防ぐため、丸太階段が整備されている。六合目付近まではブナ、ミズナラの樹林帯で、その中を土留めの階段がどこまでも続いていた。

六合目の避難小屋で一本。関西方面からの登山者が若干名。遙かに隠岐の島影も眺望できるとのことだったが、今日はガスがかかり周辺の山々さえも見えない。

八合目付近一帯は、特別天然記念物に指定されているダイセンキャラボクの大群落。侵食作用と登山者による踏み荒らし、いわば自然と人間

の双方によって、一時は壊滅状態だったダイセンキャラボクの群生地。近年は、一木一石運動（登山者に苗木や石を運んでもらう緑化運動）や崩壊防止工事などで多少回復しているようで、御同慶の至り。



土留めの階段がどこまでも

大山の登山道は崩壊が激しいため、8合目までは丸太の階段、更に山頂までは木道が設置されている。頂上の避難小屋で一息入れ、真上の弥山（標高1709m）に登る。かつてはここが大山山頂だったが、今は東側約500mにある剣ヶ峰（標高1729m）の方を山頂と定めている。ただ、登山ルートは弥山までで、剣ヶ峰へは崩落が激しく危険なため立入ることはできない。弥山山頂はガスがかかり、楽しみにしていた中国山脈全山の大展望は叶わなかった。晴れていれば、眼下に日本海に浮かぶ隠岐諸島や、遙かに四国の名山、石鎚山までも望めるという。残念至極。



大山山頂

帰路は、山頂周辺を1周している木道を下る。雨はほとんど気にならないが、しっかりとしたガスには閉口。濃緑色のダイセンキャラボクが雨に濡れて輝いていた。六合目から少し下ると

行者ルートの分岐。修験者の通った険しい谷道は、階段状ではなくなったものの、急下降の難路が続く。濡れて滑る登山道だけに、お互いに声を掛け合いながら慎重に通過し、大神山神社脇の下山口に出た。権現造りの莊厳な大社殿に拝礼し、日本一長い「自然石の参道」を通って、名刹、大山寺の山門に至る。大山は、古くは大神岳とも呼ばれ、奈良時代の養老年間に開かれた山岳信仰の山。明治初期までは一般的の登山が禁止されていたとのこと。圧倒的な歴史の重みを感じつつ、往時を偲んで拝礼。



大山寺山門

大山寺の門前集落からは、車道を登りひと汗かいたところで、漸く「山の家シーハイル」に到着。大きな旅館だったが、宿泊者は我々6人。ロビーに設えた大きな暖炉の前で、雨具や靴を乾かしながら団欒を楽しむ。スキー客向きの部屋らしく、寝具はベット仕様。労山提携の宿で、サービスもなかなか。程よい疲れから早々に熟睡。

2日目は、大山の西山麓を半周して鳥取県境を越え、岡山県の蒜山高原へ。天気予報では鳥取県よりも岡山県側の方が良さそうだ。迎えのタクシーに乗り込む。相変わらず霧雨状態ながら、昨日の空よりは明るい。今日こそはと期待したが…。樹水高原あたりでは、初めて見る大山がガスの中で煙っていた。

広々とした蒜山高原には牧場が点在。登山口でタクシーを降り、霧雨の中、牧場脇の山道に分け入る。この道は放牧牛も通るらしく、牛糞がそこかしこに。近くの牛舎からは独特の香りが



樹水高原

漂う。早々に牧場を退散し、一息ついた途端、直ぐに急登が始まった。暫く登ると展望の良い笹原に出た。雨は止んだが、山頂はガスの中。眼下には黄緑に染まる蒜山の牧場が大きく広がっていた。登山道の道端には、リュウノウギク・アキノキリンソウ・ウメバチソウ・リンドウ…名残の秋花が目を楽しませてくれた。穏やかな山並を縫うように登山道が続いている。しかし、見ると登るは大違い…上蒜山・中蒜山とも、山頂直下にクサリ場の険路を有する厳しい山だった。上蒜山山頂は樹林の中。加えて一面のガスで展望はない。樹林帯を抜け、クサリ場を慎重に通過し、中蒜山に向かう。中蒜山(1122m)は“いいふうふ”的語呂合わせから、夫婦で登る山として人気が高い。山頂は明るいが一面のガス。大展望は諦めざるをえない。山頂脇の避難小屋の中で昼食。



計画では更に下蒜山まで完全縦走する予定だったが、秋晴れは期待できず、雨に濡れた登山道も状態が悪いため、ここから塩釜口へ下山する

ことになった。クサリ場を含む急坂を慎重に下る。目安となる5合目の日留神社は、神社とはいっても小さな祠があるだけで分かりにくい。

3合目を過ぎたあたりから、勾配も緩くなり一安心。旅館車の迎え時刻に合わせて、あけびもぎを楽しんだりしながら無事、塩釜下山口に着いた。

今夜の宿は「山陽休暇村」。ロビーはキノコ展示会で賑わっていたが、宿泊者は今夜も我々だけ。夕食前後には、食堂のテラスから蒜山の山並が少しづつ見え始めた。クサリ場があるような厳しい登山道なんぞ連想できない、穏やかな姿だった。焼肉料理を楽しみながらゆっくりと懇談。霧雨やガスの中ではあったが、大山に続き蒜山にも登ることができ、大満足…と。秋の夜が静かに更ける。

最終日の朝は青空。1日早く回復してくれればとの思いはあるが、山に登らなくても霧雨の朝は勘弁願いたいもの。タクシーで米子へ向かう道すがら、遂についに、大山がその雄姿を現してくれた。大山の西山麓、榎木高原から大山の全容を仰ぎ見た。西の方角からの山容は伯耆富士そのもの。秀麗伯耆富士の面目躍如。かつては、ここ榎木から山頂に至る登山道がメインルートだったが、頻繁な崩落のため廃道になつて久しい。

それでも崩壊の跡が痛々しい。大山は日本海に裾野を落とし込む休火山。海際から急激に聳え立つ地形と厳しい気象条件(特に豪雪)とで、浸食作用が止まらない。加えて、安山岩がせり上がってできた山肌は、すでに解体期に入っているため、非常にもりい。雨や雪融けで山肌が洗われるたびに、大量の土砂が崩れ落ちているのが現状。更に、多くに登山者が踏み荒らしたことでも、崩壊原因の一つになっているようだ。華麗な山容からは想像できないような崩壊現場を、随所に垣間見た。これも大山の一端…なのか。

帰路のバス時刻待ちの間に出来た美保関からは、遙かに隱岐の島影や、美保湾越に雄大な大山を眺望。両山山頂からの中国山脈や日本海大展望は次回の楽しみに…。初めての中国山脈、その盟主である大山・蒜山への山行を計画いただいた斎藤リーダーに感謝しつつ、米子から夜行バスで帰途についた。

概念図



山行データ

山名	大山・蒜山（上蒜山～中蒜山）		
月日	平成 16 年 10 月 1 日（金）～5 日（火）		
形式	往復夜行・車中 2 泊・民宿 2 泊尾根縦走		
山域	大山山系	地形図 1/2.5 万	伯耆大山・蒜山
目的	伯耆富士を歩き、高原から伯耆富士を眺める		
費用	43,000 円	交通費 交通費 交通費	J R ・ 高速夜行バス・タクシー
行程 1 ～ 2 日 目	我孫子駅（前夜）19:03→浜松町 BT（前夜） 20:30→（高速夜行バス）→米子駅 BT 7:00 /7:15→（タクシー）→大山登山口 7:50/ 8:25⇒ 6 合目 10:00⇒8 合目 11:00/ 11:15⇒大山 (弥山) 頂上 11:55⇒8 合目 12:35⇒6 合目 13:00⇒行者コース分岐 13:15⇒元谷沢⇒ 大神山神社⇒大山寺下山口 14:35⇒山の 家シーハイル 15:00（泊） ＜小雨 歩行時間：6 時間 25 分＞		
3 日 目	山の家シーハイル 6:50→（タクシー）→上蒜山 登山口 7:55⇒5 合目 9:00⇒上蒜山山頂 9:55⇒中蒜山山頂 11:10/11:45⇒8 合目 12:00⇒5 合目 12:40⇒塩釜下山口 13:50 →ひるぜん山陽休暇村 14:10（泊） ＜小雨 歩行時間：5 時間 30 分＞		
4 ～ 5 日 目	ひるぜん山陽休暇村 9:00→（米子～境港 ～美保関を観光＝タクシー）→皆生温泉（入浴） →（バス→米子駅 BT18:10/20:15→（高速夜 行バス）→浜松町 BT（翌朝）6:45→我孫子駅 8:00 ＜晴 歩行時間なし＞		
参加者	齊藤(L)、日下(SL)、大串恵、大串秀、小 川洋、大畠	男 3 名 女 3 名	計 6 名

< 4 0 5 >

阿弥陀岳南稜
(2806m)

千葉有子

“ナンリョウ”という魅惑

以前岩の訓練で日立の山に行ったとき、「この岩を登ることができれば、ナンリョウも登れるよ」と川崎さんに言われた。そのときから“ナンリョウ”という所に一度行ってみたい、と思っていた。ナンリョウとは、八ヶ岳阿弥陀の南稜のこと。そして、やっと思いが実現する。

南稜の岩場は、まず 2370m の立場山に登り、青なぎを経てから始まる。「立場山」は「たっぱやま」と読む。「青なぎ」は「青凧」ではなく、「青蘿」と書く。立場山までの尾根はかなりの急登だ。私が登ったうちの「三大急登尾根」の一つに入るだろう。胸を付くような傾斜。立場山と名づけられたのはこの急傾斜の故だろうか。では、青なぎは？木が^{たが}倒されたような、ざれた斜面を「なぎ」と言うのだそうだ。山の地名はおもしろい。

1 日目はこの青なぎの手前でテントを張った。なぎを覗き込むと、違いなく「ざれた急斜面」である。足を踏み外したらどこまで落ちるだろう。しかしその急斜面に鹿のものらしい足跡が見える。ワインや焼酎でいい気持ちになったので、夜中に鹿になったつもりになって蘿に踏み入れないように、と酔っ払い同士で戒め合った。眠りに付いたとき、テントの外には雨がしとしと降っていた。

2 日目の朝は台風一過のようないい天気で明けた。青なぎを注意しながら渡る。急な登山道を一登り、二登りして尾根に出た。ここから登山道はほぼ直角に左に曲がり、尾根沿いを行く。岩の混じった尾根道だ。そろそろ岩場の始まりか。振り返れば権現、編笠が見える。青空に生える立派な山容は、見ているだけで胸が弾む。

「ああ、阿弥陀の頂上が見える」、「あれは赤岳だ」、と言っているうちに P 1、P 2 (P は「ピーク」の意) を通過。ハイマツの脇に平坦な場所を見つけて、「ここにもテントを張れる」、「でも風が強そうだ」と、またテントを背負って

くるつもりらしい。登りながらも、テン場のチェックに余念がない。本当にテント好きのメンバー達だ。

P 3 は正面フェースを登るルートがあるが、岩質がもろく危険だ、と堀口さんに教わる。堀口さんはすでに数度、南稜を訪れている。冬にも登ったそうだ。(冬の岩場ってどんなだろう) 左リッジ横のバンドを回りこみ、西側斜面のルンゼに入る。バンドは西側が切れ落ち、滑りやすくていやらしいが、ロープが張ってある。ルンゼは最初の 1 段が難しいが、やはりシューリングに助けられる。ルンゼを流れ落ちる水が冷たい。沢用の手袋を持ってきて正解だった。佐藤さんは素手のため「冷たい、冷たい」と困っている様子。

P 4 も正面の岩場を通らずに、やはり西側のガレ場を登る。中岳からの登山者の明るく賑やかな声が聞こえて、手を振ってみたが無視された。一体どこを登っているの、と怪訝に思われたのかもしれない。途中、追悼プレートが設置されているのを見つけた。ここで命を落とした若者がいたのだ。

阿弥陀の山頂は多くの登山者でにぎわっている。その賑わいを嫌うわけではないが、静かな中央稜へと帰路を取った。以前御小屋尾根を下ったとき、始めの下りがざれていて大変危険だった記憶がある。それに比べれば少し分かりにくいものの、とっつきは中央稜の方がむしろ安全に思えた。でも途中標識らしきものではなく、やはり経験者がいなければ踏み入れるべきではないかも知れない。地図にはないコースだから。道はしっかりと踏まれているものの、急である。滑らないように気をつけながら、懸命に前の人についていく。しばらく下った頃、誰ともなく振り向いて歎声が上がる。阿弥陀岳と中央稜奥壁が「どうだ」と誇るように、紅葉の美しさを青い空に際立たせている。この阿弥陀の勇壮な姿は、今思い出しても心が震える。



背景は P 3 で

広河原沢まで下り、何度か沢を渡りながら（この辺りはテープもなく分かりにくい）林道に着いた。キノコ狩り真っ盛りの季節で、キノコ目当ての何人かに出会った。

阿弥陀の南稜は、満を持して出かけた訳ではない。東黒沢～ナルミズ沢～朝日岳のピンチヒッターの山行だった。台風が関東を通過して、上越では沢の増水が懸念されたためである。急に行き先を変更して、メンバーの方たちには申し訳なかった。でも、もしこのとき南稜に行ってなかつたら、“ナンリョウ”という魅惑への思いが、今もまだ私の頭の中でぐるぐると渦巻いていただろう。



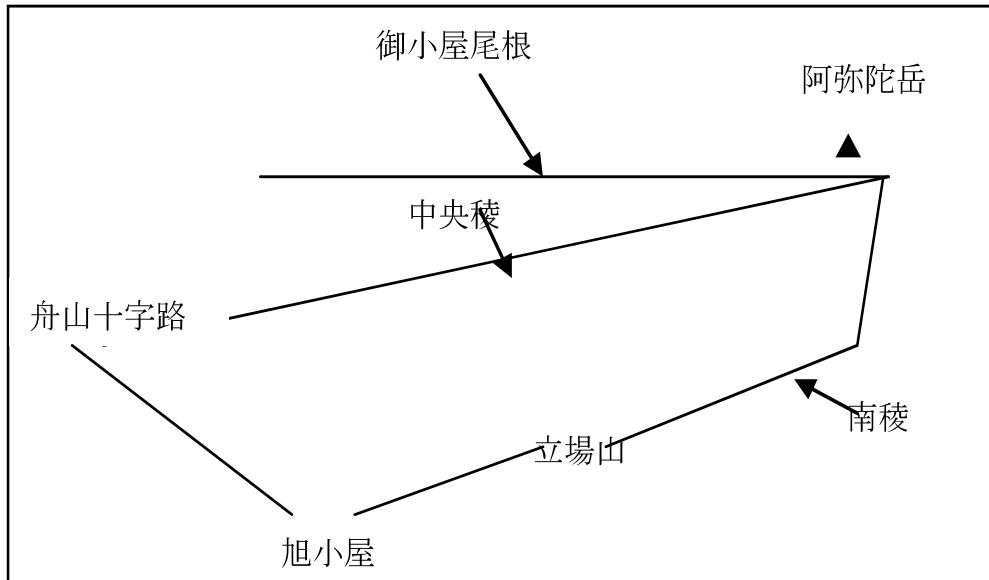
**阿弥陀岳頂上で
山行データ**



中央稜下山中 標高 2300m付近で一本

概念図

山名	阿弥陀岳南稜		
月日	平成 16 年 10 月 10 日(日)～11 日(月)		
山域	南八ヶ岳	地形図 1/2.5 万	八ヶ岳西部
形式	テント泊		
目的	岩稜漫歩と紅葉		
費用	約 9,000 円	交通機関	自家用車
行程 コース 日目	我孫子駅 6:10⇒柏 IC⇒小淵沢 IC⇒舟山十字路 10:15/10:30→旭小屋 11:15/11:30→立場山 14:00→青なぎ前テント場 14:20(泊) 晴れ<歩行時間:3 時間 30 分>		
行程 コース 日目	青なぎ前テント場 6:35→P1(ピーカー 1 の意)→P2 7:32→P3・P4 のコル 8:10→阿弥陀岳頂上 8:30/9:00→魔利支天分岐 9:10→広河原沢 下林道 11:23→舟山十字路 11:55⇒我孫子 20:00 晴れ<歩行時間:4 時間 40 分>		
参加者	千葉(L)、堀口(S L)、武内、佐藤(健)、 佐藤(明) 5 名		



甲子山～三本槍岳～茶臼岳
 (1549m) (1917m) (1915m)

佐藤明子

那須連邦縦走は私にとって初めての山行のため、心楽しみに待っていた。10月16日、曇り空の中、新白河駅よりタクシーで甲子温泉着。身支度を整え大黒屋前から出発した。

話には聞いていたが、この登山道の最初のところに国道289号の標識が立っているのを実際にみると、やはり驚いてしまう。阿武隈川の水源になるであろう山の水をたっぷり吸ったブナの木のみごとな枝の下から登りはじめる。九十九折りのジグザグの登りを1時間程続けて汗をたっぷり絞られた頃、山頂までの中間地点の猿ヶ鼻で昼食となる。猿ヶ鼻を過ぎると勾配が緩くなり、のびのびと歩けるようになる。甲子分歧点を右にたどり甲子峠から大白森山へのコースをとる。しばらく行くと勾配が急になり、岩肌が露出して細くなった道をロープを伝いながら20分程登ると急に視界が開け山頂に出た。私たちの他には一組の夫婦がいるだけ。曇り空ながら、展望は良くはるかに会津の山々がのぞまれる。



縦走最初の山 甲子山頂
 (バックは旭岳)

山頂から坊主沼方面に下る途中の登山道から5m程降りた水場で、今夜の夕食と明日の山行の為の水をそれぞれが調達した。山のミネラルをたっぷり含んだ水は乾いたのどを潤してとても美味である。やがて、前年山行時の携帯搜索

騒動事件にちなんで名づけられたケータイ尾根の急な斜面を登る。H氏が寝袋にしまいこんだ携帯電話を探すため雪の上でザックを広げた尾根である。H氏は今回も同行していた為、携帯電話のありかを冷やかされながらケータイ尾根にでると坊主沼は近い。

20分程で今夜の宿の坊主沼避難小屋にたどり着いた。小屋の直ぐ傍に位置する坊主沼は、いかにも火口湖らしい窪地の底にひっそりと静かに佇むような湖。避難小屋には前着の人がおり、私達も早速寝場所の確保をし、とにかく室内を暖めるため囲炉裏で火を焚こうとしたが生木の為煙ばかりで燃え上がらない。もうもうと煙のたちこめる室内で、ふと見ると火気厳禁の札が壁にはってあるではないか。あっさり諦めて食事の準備にかかった。今夜のごちそうは食担をかって出てくれた武内リーダーの焼肉パーティー。美味しい、楽しい夜は更けていきましたが、宴が終わり眠りに付く頃から強風と激しい雨音に幾度となく目覚める始末。

概念図



朝起きてみると濃い霧に包まれてホワイトアウトの世界。今日の行程を気にしながら支度を整え外に出るといつの間にか霧が晴れていて一安心。

20分程歩いた所で前年山行因縁の斜度のきついトラバースにたどりついた。昨年はここで撤退を余儀なくされた所で、根曲がり竹が道をびっしり覆いその上に雪が載っていたらさぞかし

難儀をしただろうと想像できる。

須立山への登りは今回最大のきつい登りでした。アキレス腱が伸びきるかと思われる急勾配の上に、ザレで足場が殊の外悪い。やつとの思いで山頂に着いた。

三本槍岳までは爽快な稜線歩き。頂上をへて朝日岳への縦走路に入るとこれまでとうってかわって歩きやすい道となる。能見曾根への登り返しから那須連峰への道は風の通り道とのことで冷たく強い風の中をすすむ。

朝日岳への分岐でリーダーの『登ったことのない人だけいって来ても良い』とのお許しをもらい、私一人ダッシュで走り出した。でも、息せき切って山頂に着いてみると、なんと皆が登ってくる。この強風の中でのザック番より登っている方が暖かいのかもしれない。

峰の茶屋へは火山礫の急勾配の道を下るが、細かくザレて、クサリ場のスリリングな岩の道なのに、登山者でごった返ししている。細い岩稜を登りきると広々と見晴らしの良い峰の茶屋へ着いた。前回、茶臼岳に来たときは雨と霧の中で全く展望がなかったが、今日は青空の元で、初めて見る景色ばかりが確かに広がっていた。

今回の山行は天気に恵まれて快適な登山ができた。素晴らしい展望を与えてくれた那須連邦に感謝しつつ高原を後にした。

山行データ

山名	甲子山～三本槍岳～茶臼岳		
月日	平成16年10月16日(土)～17(日)		
形式	避難小屋泊 尾根縦走		
山域	那須	地形図 1/2.5万	甲子山・那須岳
目的	紅葉の那須連峰縦走		
費用	約11,000円 (反省会込み)	交通費 J R・タクシー・バス	
1 日 目	我孫子駅 5:30→上野駅 6:02/6:08→小山駅 7:23/7:33→黒磯駅 8:56/9:39→新白河駅 10:01/10:10→(タクシー)→甲子温泉着 10:47/11:05⇒猿ヶ鼻(昼食)12:20/12:40⇒大白森山分岐 13:10/13:15⇒甲子山 13:33/13:40⇒水場 14:00/14:10⇒ケータイ尾根 14:40⇒坊主沼避難小屋着 15:00(泊) <曇り 歩行時間: 3時間15分>		
2 日 目	坊主沼避難小屋 6:30⇒尾根に出る 6:45⇒笠ヶ松 7:15/7:18⇒須立山 7:45⇒大峠分岐 8:40⇒三本槍岳 8:52/9:00⇒北温泉分岐 9:25⇒清水平 9:35/9:45⇒熊見曾根 10:10⇒朝日岳 10:33⇒峰の茶屋 11:10/11:20⇒茶臼岳 12:00/12:03⇒ロープウェー山上駅付近周回ルート分岐(昼食)12:28/12:50⇒牛ヶ首手前の下山口 13:07⇒温泉神社 15:20⇒元湯・鹿の湯 15:33/16:20⇒反省会 16:40/17:05⇒バス停 17:10発→(バス)→黒磯駅 17:50/18:11→宇都宮駅 19:00/19:07→上野 20:49/20:55→我孫子 21:30 <朝方ガスのち晴れ 歩行時間: 8時間>		
参加者	武内(L)、原田和(記録)、高橋潔、外崎、佐藤明 男3、女2、計5名		



縦走最後の山 茶臼岳山頂



<407>

宮之浦岳・開門岳 (1936m) (922m)

細野清子
飯合しげ子

宮之浦岳

[10月21日(1日目 快晴)]

『午前3時頃東京地方に超大型台風接近警戒してください』と、台風401号の情報がテレビ画面でている。本からの情報では20日を過ぎるとめったに台風はこないこと、比較的雨も少ないとこと、これ以上遅くなると日没が早く2日目がカンテラつけての山行になる心配もあり、今回の計画になったのだがよりによって台風に的中するなんてそれも、超大型台風だなんて・・・。

ただひとつの頼みは夕方予約を入れてある、タクシー会社から『こちらは、もう今快晴ですお越しをお待ちしています。』と電話がはいっていること。飛行機が飛んでくれさえすればいい。あとは運を天に任せて布団に入る。夜中2時頃目が覚める。台風の目の真っ只中なのか、それたのかいやに静か。テレビをつけるが情報はいらなかった。

4時テレビをつける飛行機は動いているか?欠航便が映し出された。目を凝らしてみると私たちの乗るANA619便だけ、入っていない。ひよっとしたら動いている。

超割切符を購入しているので欠航にならない限り払い戻しにはならない。

予定通りとにかく羽田まで行きましょうと、8人全員同じ思いで飛行場に向かう。

飛行機に乗りなれている斎藤さんの指示で、至ってスムーズに受付に到着。本当にラッキーなことにわたしたちの乗る便だけ運航された。

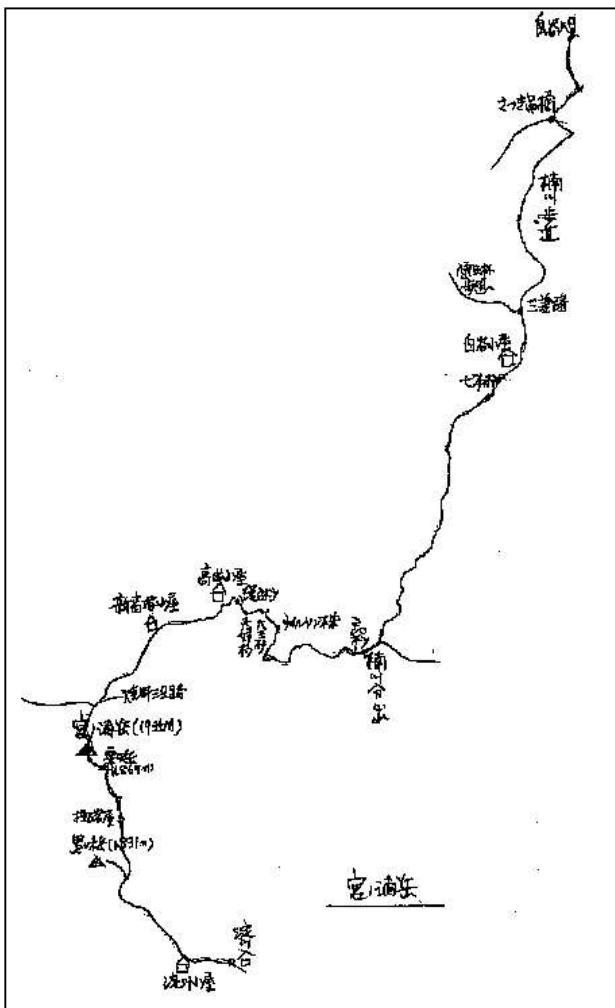
鹿児島空港でJAKにのりかえ、屋久島空港に向かう。紀伊半島あたりから太陽が輝き出していたが、いまは雲ひとつない空に、噴煙を上げている櫻島・すり鉢型の開聞岳が映し出されていた。台風一過快晴とはこのことだろうか。

やがて前方に種子島そして目の前に屋久島が迫ってきた。「あの高いのが宮の浦岳?永田

岳?」と話しているとあれは「あれは愛子岳です」とスチュワーデスさんが教えてくれた。JAKは満席で登山者は後方に10人くらい乗っていた。

今日の淀行小屋まで1時間ほどあればよいので、『やくどん』で食事の後、滝を見て、登山用品専門店でガスを買いに回ってもらう。スーパーで食材を購入。欠航便のせいで品不足と見え、棚はかづらぼであったし、キノコが高いのには驚いた。本土の二倍はする。

ヤクスギランドで森林浴のあと、『紀元杉』をみてから淀行入口に送迎してもらう。



いよいよ登山開始。身支度をしていると、次から次へと若者が、下山してきた。20人くらいいたであろうか。「黒味岳に行ってきました。」「開聞岳が見えました。」とかなり興奮気味で話していた。専門学校の学生さんとのこと。若い人の息吹に触れ、元気になった気がした。よっしゃと気合をいれ、重いザックを背に歩き始まる。今日はほとんど上り下りはないはずなの

に、ちょっとばかり遊びすぎたのか歩き始めは足取りが重い。わたしだけかも。シャクナゲの木々の間を歩いていくうちに間もなく小屋に到着。先客のグループの中ではもう食事をしている人もいる。日没は6時と思っていたが森林の中で日が落ちるのが早いのか薄暗くななりかけてしまった。小屋の周りをまわるように水は流れていて豊富だった。コンロを1台しか用意していかなかつたため食事がはじまったころはかい懐電が必要になってしまった。就寝7時30分ネズミに襲われないように、食料はザックに一まとめにしてしっかりと口を閉める。小屋は清潔で広い板張り。2階にわれわれ8人が、下には6人がシュラフを広げてゆったりと眠れた。

午前3時トイレにおきる。夜空を見上げるとナント宝石箱をひっくり返したようにオリオン座のまわりに大きな無数の星が光輝いていた。あまりの見事さに我を忘れしばし見上げていた。

[10月22日（2日目 快晴）]

今日は長帳場。夜明け前に懐電をつけて歩き出す。学生たちの「開聞岳も見えた。」の言葉に魅せられ、黒味岳を往復することにする。

シャクナゲの木々が並ぶ道を行くとやがて小花之江河を経て花之江河へ。木道には霜が降りていて白く光っている。花之江河というの室円のようなところで、今は花は何もないけれどきっと花の季節には、たくさんのお花が咲き乱れるのではないか。その向こうにはヤクシカの子供が1頭草を食べている。8Mほどのところにいるのだがわたしたちが近づいても逃げようともしなかった。落ち着いたものだ。分岐で荷物を置いて、黒味岳をピストンする。頂上まではさほど距離はなく、程なく頂上に。眼前に宮之浦岳が、そして肩を並べるようにして、永田岳が見えた。学生たちが話していた開聞岳は見えず、永田岳と宮之浦のあいだの遠方が雲が掛かっていてそのあたりがちょうど開聞岳だねと言うことになりました・・・・残念

眼下に目を移せば花之江河で休んでいる人や、黒味岳の裾野を歩いている人や、宮之浦に向かう人が休んでいるのがよく見え、今度はあそこを目指してレッツゴーと下山する。

さすが1ヶ月に35日雨が降ると言われるだけあって、あちらこちらから崖や登山道に水が流れ、落ちたりしている。

昨夜淀行小屋で一緒だった人々は自然保護協会の総会に出席する人たちで

『屋久島のトイレのことや汚染のことが今回の総会の議題の一つで』

「山は汚染されているので見た目にはとてもきれいだが大腸菌等がウヨウヨしているから飲まないほう良いヨ」といわれ、水筒には沸かし湯を入れて持ち歩きそれを飲むようしているが、本当に菌がいっぱいなのか疑わしくなる。



宮之浦岳全景

平坦地で軽く昼食をとる。宮之浦岳まではもう少しとて到着というところで小休止。先頭をあるいていた大串さんが、しょうが糖が気管のほうにでも入ったのか苦しそう。

斎藤さんに残ってもらい、ゆっくり女性陣は頂上に。程なく到着。予定より早く着きそうだねということで、コーヒータイムにする。用意をしているとまだ少し苦しそうだが、大串さんが到着。屋久島一の山頂で1杯のコーヒー〔至福の幸せ〕とはこのことでしょうか？おいしかったこと。・・・いつまでも口の中にコーヒーの香りが漂っていて・・・ああーしあわせ。コーヒーを飲みながら周りを見渡す。永田岳が手に届きそうなくらい迫っていておいでおいでと言っているよう。しかし残念ながら永田岳に行くまでの時間はない。ここでも開聞岳は見えなかった。頂上にはたくさんの人たちがお弁当を広げている。ハタと気がつく『もしかしてこの人たちみんな新高塚小屋！』そしたら大変入りきれるかな。急に心配になる。ツエルトも使うことになるかも。といやーな予感が頭をよぎる。



宮之浦岳山頂

頂上から永田岳分岐まではすぐ、ザックがずらりと7個並んでいる。尾根伝に目をやるとちょうど、ザックの持ち主が整然とならんで足並み早く降りてくるのが見えた。りりしく、たくましく見えるが男性一人で他は全員女性であった。

『永田岳よさようならまたくるからね。そのときも笑って迎えてね』・・・♪またくるときもわらっておくれー♪

今日の泊まりの新高塚小屋までは尾根歩きであるきやすく快適。自然と足は速くなる。

間もなく永田だけの7人に負いぬかれてしまう。

3時小屋に到着。すでに7割方埋まっていた。空いているところにザックを置くが、次々と到着してくるため、だんだん狭められたり場所が移動になったり。君子さんに場所とりに居て貰って、のこりのものは笑って迎えてね

コンロが1個なので昨日の二の舞にならないよう早目に食事の用意にとり掛かる。水場は近いがチョロチョロで、ためるのに時間が掛かる。

食担の恵子さんの腕の見せ所。ベーコンのステーキと言うことでフライパンまで持ってきてくれた。さすが毎週ほど山に行って鍛えているだけあるとただただ感心。

日もちのするものは明日にと、残したものの超豪華版。美味なり。

たらふく食べて小屋に入ったらますます上下左右寝る場所が狭くなっていた。背の高い田村さんは気の毒。まだ7時というのにみなシュラフに入っていてごそごそ起きているのはわたしたちだけだった。

[10月23日（3日目　快晴）]

「昨日の夜は最悪だったね。いびきのラッシュに長一い寝言。大きな声であんなにはつきりした寝言ごとある。」「おまけに大きな男性が寄

ってきて足は動かないし最悪」と昨夜の小屋での出来事を文句言い言いあるいはいるといつて転びそうになる。

今日はいよいよ縄文杉に会えるのだ。今日のトップは斎藤さんにお願いする。シャクナゲの木々の間を抜けると、やがてヤクスギが姿を見せる。6月にブナ林を見阿多時に、講師の坪田さんがブナにも人生があると話してくれたが、ヤクスギにも人生がうかがえた。

それもながいながい人生である。やはり〇〇杉と呼ばれるヤクスギは特に人生がうかがえ、見事だ。中でも『縄文杉』は見事で、6000年もの間根を張り、たっているとは思えないくらい元気で、12種の他の植物が共生しており、根元には祠があって、清流が流れているのです。圧巻でした。この水は飲まないほうがよいとのことで、手を洗いました。



縄文杉をバックにツアーチャンネルさんに撮ってもらい、『生水』のことを聞いてみました。原則的にはどこの水も飲めますが、縄文杉から下の水は飲まないほうがやはりよいと言うことでした。

縄文杉からしばらく下ると分岐。このあたりからゾロゾロ登ってくる人、人。そういえば下山後のタクシーの予約をお願いしたら10月22にちは屋久島のタクシーは全部修学旅行等で予約済みとのことだった。その集団らしい。

今は廃線になったトロッコ列車の線路をしばらく歩いていく。なかなか風情があり、浴見ると周りに表示がある。運転手気分になって歩いていく。その間も縄文杉に向かって歩く人の波は途絶

えず続く。

そしていよいよ、白谷雲水郷へののぼりに取り付く。これがなかなかののぼり。登りきると、そこは今にも木の陰から、祠から、岩陰から、《もののけ》が出てきそうで幻想的な気分になる。さすが、宮崎駿氏のもののけ姫の舞台になったところ。

徳川時代に作られたという歩道や摸水木々はそのまま保持されている。古道は苔むし昔昔そのまた昔の人がこの古道を歩いたのかと思うと感慨深いものがあった。

《世界遺産・準指定地域》を歩くを実感できました。



宮之浦岳雲水郷

12時のバスの時間には乗れそうにないので、下山後の温泉はあきらめて、バス停まであと20分という白谷小屋で昼食をとる。施設がとてもきれいで小屋のすぐ近くに水場があり水量も豊富であった。その水のせいか、大きな山行を無事終えることが出来た喜びか、カップ麺をなべて煮込んだ昼食がとてもおいしかった。

山また山に囲まれた宮之浦だけ、縄文杉からバス停までずっと聞こえたせせらぎの音で身も心もやすらぎ、癒され、しばらくこの屋久島の、宮野浦岳の思い出に浸っていたい。今は、そんなしあわせ気分一杯の気持ちです。

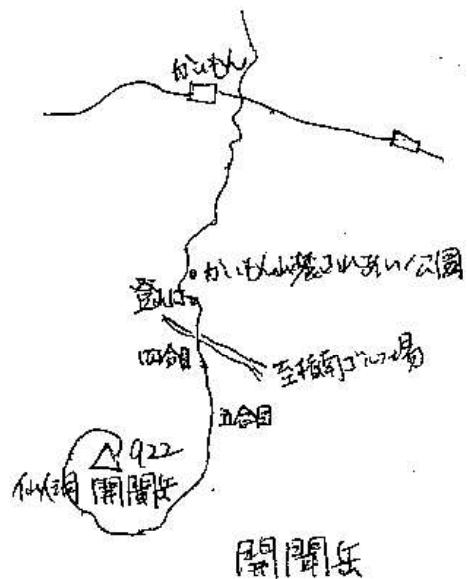
開聞岳

飯合しげ子

屋久島に別れをつげ4日目の朝がついに来た。今日は、薩摩半島の南端にある開聞岳に登ります。

ゆっくりの出発の為、朝風呂に入り、腹いっぱい朝食も食べた。幸せ！

砂浜に出るとすぐそこに開聞岳が…全身を海中に乗りだし整った山容は、とても美しい。A.M 7：45. タクシーが到着。荷物を置いて開門山麓自然公園に向かう。トカラ馬が草を食べているのんびりとした風景を目に二合目駐車場。ここを出発点とし樹木をかき分けながら三合目登山口に入る。天気ヨシ。体調バッチャリ。頑張って登るぞ！



開聞岳全景

ザクザクと靴が音をたてている。講状の道。緑の中をゆっくりとなだらかな登りを進む。黄色いツワブキの花があちにも、こっちにも。この山は、円錐形の山容で頂上まで登山道はらせん状にぐるっと巻いて付いている。五合目あたりから南側に廻り、林間から大海原が見える。歩いて一時間程。汗ばんだ体に海風が気持ちがいい。ホットする。七合目当たり西側から気分もすっかり変わり大石ゴロゴロ。ハシゴ。大き

な洞窟があつたりして今までの道とは、すっかり変わっていました。

やっと九合目。低木ばかりの道に出た。視界が開けたが巨大ブロックが道をふさぐここを登りきれば頂上です。



開聞岳山頂にて

360°の大パノラマ。キラキラと光る大海原。遠くに見える島々。池田湖

言うまでもなく見晴らしは最高です。
昨日までの長い山行を思い出す。感動にひたりながら登ってきた道を下った。

私は、二年前に体調を悪くし一年間山歩きを止めた。体は、まだまだバッタリとは言えないがどうにか歩ける程になった。つくづく健康のあり難さがわかる。

ア一本本当にいい山行でした。みなさんありがとうございました



開聞岳をバックに全員で

山行データ

山名	宮之浦開門岳		
期日	H16年10月21日～24日		
形式	避難小屋2泊山麓1泊		
山域	屋久島 / 開聞・霧島 1/2.5万	地形図 1/2.5万	宮之浦岳・開聞岳
目的	最南端の山を登る		
費用	70,000円	交通機関	航空機、高速船
1 日 目	我孫子駅 4:42→羽田空港 6:00/7:10〔ANA619便〕→鹿児島空港 8:50/10:05〔JAC3743便〕→屋久島空港 10:40→安房港 11:10/12:50→千尋の滝 13:10/13:20→ヤクスギランド 14:20/14:50→紀元杉 15:00/15:10 淀川登山口 15:20/15:40⇒淀川小屋 16:25〔泊〕		
2 日 目	淀川小屋 6:00⇒花之江河 7:50/8:05⇒黒味岳分岐 8:20/8:25⇒黒味岳 9:05/9:15 黒味岳分岐 9:40/9:45⇒投石平 10:20/10:45 翁岳 11:30/11:40⇒栗生岳 12:20/12:25⇒宮之浦岳 12:55/13:25⇒焼野三叉路 13:45⇒平岩岩屋 14:06⇒坊主岩 14:20/14:25⇒新高塚小屋 15:40〔泊〕		
行程 3 日 目	新高塚小屋 6:05⇒旧高塚小屋 7:14⇒繩文杉 7:20/7:30⇒ウイルソン株 8:35/8:45⇒大株歩道入口 9:05⇒楠川歩道出合 10:20⇒辻の岩屋 10:45/10:50⇒辻峠 11:20⇒白谷小屋 11:55/12:50⇒白谷雲水峡⇒白谷広場 13:40/14:00⇒宮之浦港 15:00/15:40〔高速船〕→指宿港 17:50/18:00⇒国民宿舎開聞荘 18:30〔泊〕		
4 日 目	国民宿舎開聞荘 7:45 二合目駐車場 8:10/8:40 三合目登山口 8:20 五合目 8:50 七合目 9:25/9:30 九合目 9:35 頂上 10:10/10:25 七合目 11:03 五合目 11:25/11:30 三合目 11:40 二合目 駐車場 11:45 指宿砂虫会館砂楽 12:10/13:50 指宿バスセンター 11:10 鹿児島空港 15:40/19:05〔ANA630便〕羽田空港 20:45 我孫子駅 22:45		
参加者	細野清(L)・細野省・大串恵・大串秀・斉藤・原田君・飯合・田村 男3名、女5名 計8名		

<408> ウイズハイク

鹿野山・マザー牧場

飯沼 トミ子

さあ、鹿野山へ行こう

晴天に恵まれ、バスは定刻に我孫子駅を出発した。途中の成田街道沿いで「岳人・みづき園等」の方々が乗車し、バスの中は総勢34名。一路マザー牧場へと進んで行きます。

車中では、外崎さんから「みづき園」と我が会との交流を語っていただきました。武内会長さんからは、「今日一日が楽しい想い出日記の一ページになったら幸せです」との言葉がありました。

私は、第一回と今回の参加を経て何人かの顔なじみの方が居られ心強く感じられました。皆様はとても満刺としていました。

バスが市原SAを過ぎた頃より、車中では石垣さんの「マジックショウ」が始まり、幾つかの手品の披露がありました。「みづき園」の方々も一緒に挑戦していました。盛り上がりが頂点に達したところで、バスはマザー牧場に到着しました。(手品の種明かしは帰路のバスの中で…ご期待)



園の方と一緒にスタンプラリー中

入園して、一同の記念写真を撮影した後、

5班に分かれて辺りを散策。会員と「みづき園」の方々はお互いに親睦を図りながら園内を歩く。スタンプラリーの印を押しながらの散策。なかなかスタンプの在りかを探せない人もおられたようです。



我々食担グループは、牧場側のご好意によりセンター内にてお汁粉の準備に入ることが出来た。2時間30分余りの後、1班、2班と順不同でしたが、ほぼ同じ時間にセンターに到着。心のこもったお汁粉を美味しそうに食べていました。お汁粉はあっと言う間に底を尽いてしまいました。とても幸せでした。やはり、「お汁粉のサービス」を実践して良かったですネ！

至福の時も束の間、帰路のバスに乗る。往路のバスで約束した手品の種明かしから始まり、その内容は園の方々に大好評でした。続いて、「なぞなぞクイズ」が始まり、バスの中はみんな童心に返ったように笑いが絶えませんでした。

やがて、バスは我孫子に近づいたところで「みづき園」の酒井所長さんからお礼の挨拶があり、「今回は作業所3箇所からの参加でしたが、これからはより多くの人に声をかけて参加者を増やして行きたい」との願望が話されました。

最後に、原田リーダーより「今後とも親交を深め、来年も元気にお会いしましょう」と締めの言葉がありました。バスは各家庭が待つスポットに寄りながら我孫子へ。天気に恵まれ、作業所の方々と共に一日を過せたことに感謝したい気持ちです。来年もよろしく。



ルート概略図

クイズ&スタンプラリーコース概略図



山行データ

山名	鹿野山(マザー牧場)		
月日	平成 16 年 10 月 23 日 (土) 晴れ		
形式	バス日帰り		
山域	房総の山	地形図 1/2.5 万	鹿野山
目的	① 市内福祉作業所に通所する人達との交流を持つ。 ② マザー牧場の動物や植物に触れながらハイキングを楽しむ		
費用	1,450 円	交通機関	福祉バス

日程・コース	我孫子駅北口 7:30 出発→(バス)→成田街道指定場所で乗車→穴川 IC9:00→市原 SA9:20/9:50→木更津南 IC10:05→マザー牧場 PA 着 10:35→牧場ゲートから入園・集合写真・歩行開始 10:50⇒スタンプラリーのコースに沿ってハイキング⇒各班毎に昼食 11:50/12:20⇒ジンギスカンセンターに集合 13:20/14:00⇒駐車場発 14:20→(バス)→木更津南 IC15:00→市原 SA15:15/15:40→穴川 IC16:10→成田街道は乗車した場所で下車→我孫子駅北口着 18:00 歩行時間 4 時間
	総合リーダー：原田(和) 1 班：中村美 (L)、酒井(SL)、内藤、勝代、井上、原田和 2 班：高橋英(L)、井上(SL)、大槻、土橋、吉岡、村松敏 3 班：安田(L)、大久保(SL)、山本、桜井、福井、高橋寿、日下 4 班：石垣(L)、志賀(SL)、久野、斎藤、藤倉、坂口 5 班：品田(L)、菅(SL)、竹田、山田、柴田、武内 食担班：外崎(総括)、清家、飯沼 会員 18 名、みづき 16 名 合計 34 名

<409>

破風山 (627m)

日下芳十

低山ながら変化に富んだ縦走路

秩父盆地を囲む山々の絶好の展望台

朝から雨降りの中各人我孫子駅北口に集合。貸し切りバスに乗り込む、10分遅れの出発となる。今朝ピンポイント天気を調べると現地皆野町は、曇りとのことであったが、車両内では、今日の山行が出切るのか、みんな不安気な面持ち。雨が降り続ければ温泉に入ってゆっくりと、そんな気持ちで一路秩父に向かって進行。やがてバスが秩父地方に差し掛かる頃には、雨も上がり雨具も必要ない雲行きました安心。

登山口先にある秩父華厳の滝へ、滝の高さ10mのものですが、日光の華厳の滝によく似ているところから、その名で呼ばれています。この滝の特徴は、岩肌が赤く、水しぶきで濡れた岩肌は一層赤く映えて見えます。雨あがりで水量も多くなかなかの名瀑であった。

滝上に目大きく開いたユニークな不動明王がありました。マイナスイオンをいっぱい浴びてリラックスさあ破風山へ。

破風山とは、山容が破風（切妻の屋根についている装飾板）に似ていることからの山名で、山麓から見た姿はなかなか立派で登高欲を誘う。

コースは関東ふれあいの道となっている、また往時霊場巡りの人々がたどった巡礼の道でもある。水潜寺。秩父三十四ヶ所観音霊場の最後の札所で、巡礼たちが杖や笠を奉納していく結願寺である。参道に百体觀音がずらりと並ぶ。水潜寺から杉林の薄暗い道を登りつめていく。石がゴロゴロしたところもあるが、昔から踏まれた道で傾斜が一定で歩きやすい。時折、沢ガニが出迎えてくれました。

やがて、頭上が明るくなると、札立峠に着く。33番菊水寺から水潜寺へ喪買う巡礼人が越えた峠である。峠から落葉樹の尾根道に変わり、10数分で破風山の頂上到着。尖った狭いピークだが天気がよければ展望は良い。三等三角点標石は頂部が無残に欠け落ちている。雨あがりで奥秩父の山並みは見えないが、眼下には秩父市街、蛇行する荒川や段丘と、地理の模型を見ているようだ。山頂は狭いが、我々16名の仲間のみ、煮込みウドンを美味しくいただきました。食事を済ませばあとは下るだけだ。



休憩舎が建つところから左へそれ、尾根づたいに淡々と下がっていくと、山上集落野風戸に出た。ここから車道を下っていくと、左手にツルツルの岩が現れた。鏡肌と呼ばれ、1億4000万年あまり前、中生代に形成された秩父古生層の岩が断層でずれ、鏡のような肌を見せていくのだそうだ。

ゴールの満願の湯は、日帰り温泉館。ゆっくりと体を伸ばし、疲れを取ってから帰路に着く。



嬉しい食事タイム

山行データ

山名	破風山		
月日	平成16年10月31日(日)		
形式	日帰り		
山域	秩父	地形図 (1/2.5万)	皆野
目的	秩父盆地を囲む山々の絶好の展		
費用	¥4,900	交通機関	貸切バス
コース	我孫子駅 5:40⇒関越道経由⇒秩父華厳の滝 9:30/9:50⇒登山道入口(水潜寺) 10:00/10:10～札立峠 10:10～破風山山頂 11:25/12:20～猿岩 12:35～風戸バス停 13:25～満願の湯(入浴) 13:30/14:40⇒長瀬(バス) 14:50/15:30⇒関越経由我孫子駅 18:30 雨～曇 <歩行時間3時間30分>		
参加者	日下(L), 榊原、大串恵、大串秀大黒、齊藤、高橋寿、高橋英、長木、増田、蜂谷、渡辺、中村八、原田和、田村、大平 男5名、女11名、計16名		

概念図



丹沢主脈縦走・蛭ヶ岳

(1673m)

斎 藤 清 一

**丹沢の主脈を豪快に縦走。
名残の紅葉を楽しむ！**

一日目

我孫子に移り住むまでの10数年間小田急沿線に住んでいたので丹沢の山々は思いで深い。特に学生生活のころは生意気にも「山は丹沢から」と仲間で話し合っていたのが、思い出される。車窓からの山並みも想い出が一杯詰まっているよう更に美しく見える。

本日は朝から快晴であつた。そのせいか大倉バスセンターは大勢の登山者で賑わっていた。登山者は各々目指す山々へ散り散りになつていった。

11月の初旬とはいえ未だ紅葉が盛りかと思っていたが、登山道には落ち葉が絨毯のように敷かれていて踏みしめる音が耳にさやかであった。階段の両側の樹木はところどころ最近霜が降りたのか葉は黒く鮮やかさが無かった。

本日は晴天で紅葉は光り輝いているのも見受けられた。全山紅葉は今年はあまり芳しくは無かったのではないかと想像された。

塔ノ岳に至る間に茶屋や山小屋が点在していた。開店営業のところも閉じているところもある。客のある時、多い時、繁忙期、夫々の小屋と茶屋が工夫して営業をしているのだと感心した。松戸から来たという登山者が、われわれを抜きつ抜かれつを繰り返していましたが、先週丹沢で熊が出没したとの情報をくれた。

やせ尾根の分岐に「金冷し」と書かれていたが、危険な箇所だとの警告には良い名をつけたものだ。塔ノ岳の山荘前には大勢の登山者が昼食をしていた。

丹沢からの富士山を眺めつつ昼食をとる。塔ノ岳を過ぎると登山者が急に少なくなった。

塔ノ岳からほどなく下りの登山道は崩壊しており迂回路が出来ていた。アップダウン



を繰り返し竜ヶ馬場を通過し丹沢山に着く。

「みやま山荘」は工事中で今日の大工の仕事が終わるまで外で待機をする。その間快晴であったので外で眺望を楽しんだ。

「みやま山荘」のホームページを検索して楽しみにしていたが、工事は遅れていた。未完成ながら営業はしており、宿泊はできた。小屋の工事は内装の仕上げを残すのみであったが、県管理のトイレ（宿泊者用・外来者用）は時間が掛かりそうであった。

本日宿泊にしたのはわれわれのみであったので、小屋のチーフやサブチーフと夕食前後語り合った。よき思い出である。

二日目

木の香りも心地よく目覚めは早く外に飛び出しが本日も快晴、赤く燃えた太陽が昇ってきた。今日は長丁場11月の早朝はきりりと



丹沢山山頂より富士山

身がしまる。富士山の山頂に太陽がふりそぞぐ白と赤の素晴らしい景色！ 昨日の午後の富士山と今朝の富士山を背景に同じ場所で記念写真をとつた。

丹沢山からの急斜面のジグザクの道、クサリのある岩場をゆっくりゆっくり慎重に進んだ。



蛭ヶ岳をバックに（沢の頭付近）

蛭ヶ岳からの富士山の眺望も良い！良い気分になる！ 大阪からのツアー登山者が大勢宿泊したのか山頂を散策していた。

西丹沢でヒルにかまれたことはないが、ここ東丹沢ではヒルにかまれた経験があるので東丹沢は敬遠をしていたが、11月はヒルが出ないので今回は参加したのである。

昨日から本日に掛けての天候と眺望に恵まれ丹沢の山々を眺めながらの縦走すばらしい。姫次を通過して黍殻山避難小屋の回りで昼食を取ったがなだらかな斜面の草むらに眠り込んでしまいそうであった。女性登山者が3人ほど避難小屋に着いた。



檜洞丸、大室山、加入道山… 振り返れば丹沢山～塔ノ岳… 丹沢全山の大展望にしばし時を忘れた。
=冠雪の富士山をバックに。蛭ヶ岳山頂で

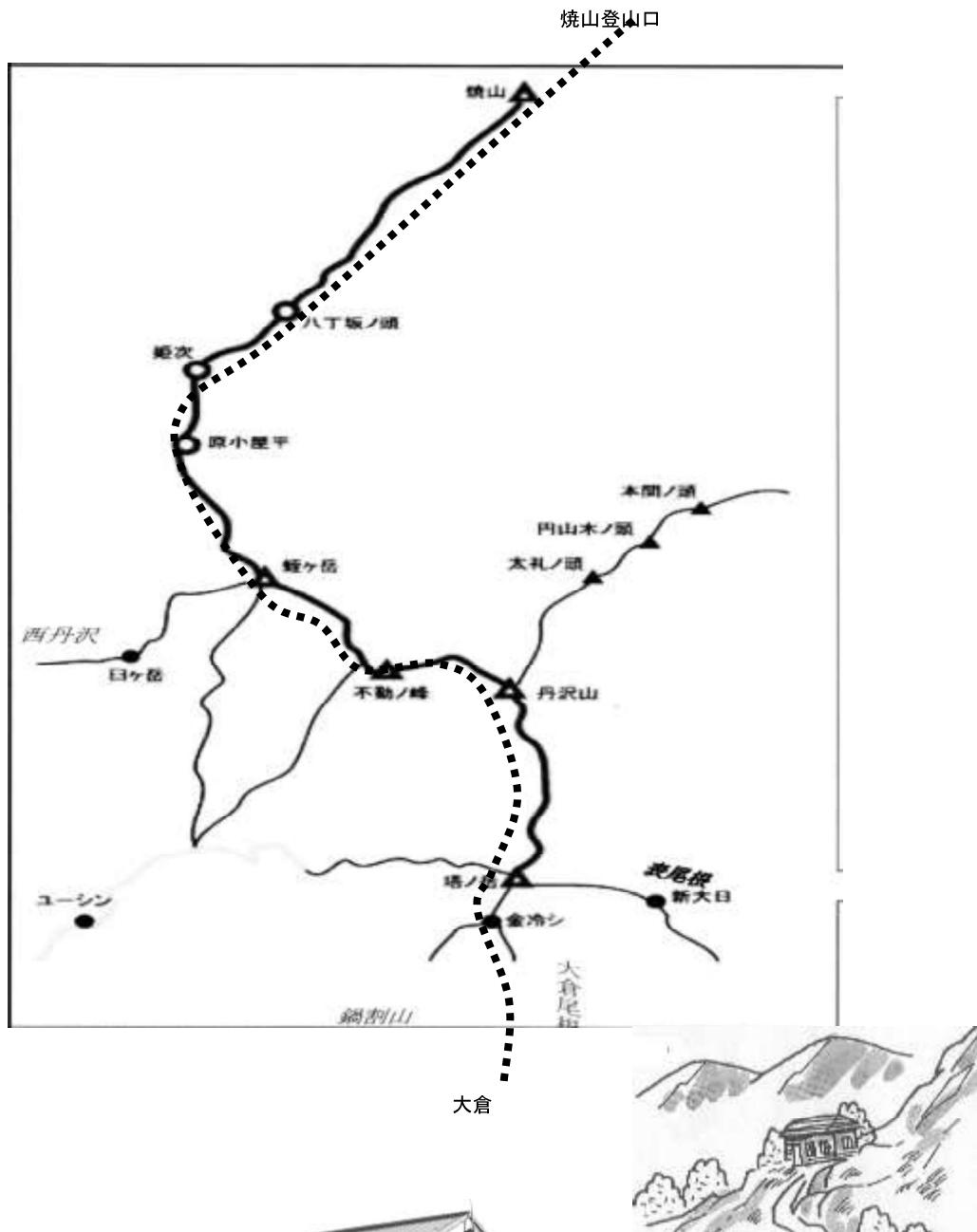
空元気を出して黍殻山へよじ登り（山頂には行かずまき道があったが）焼山に向かった。焼山からやせ尾根の急坂を長野の焼山登山口まで下った。バスを乗り継いでの橋本駅までの車中の長い旅であった。

記憶に残る山行でありました。

山行データ

山名	丹沢主脈縦走		
月日	平成 16 年 11 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日)		
形式	山小屋泊		
目的	丹沢の主脈を豪快に縦走。 名残の紅葉を楽しむ!		
山域	丹沢	地形図 (25 千図)	秦野・大山・青野原
費用	9,400 円	交通機関	電車、バス
1 日 目	我孫子駅 5:30 = 新宿駅 6:30 / 6:40 = 渋沢駅 7:50 / 8:08 → 大倉登山口 8:20 / 8:40 ⇒ 花立山荘 12:40 ⇒ 金冷し 13:05 ⇒ 塔ノ岳 13:30 / 14:00 ⇒ 竜ヶ馬場 14:50 ⇒ 丹沢山 15:20 みやま山荘泊 <歩行時間 5 時間 10 分>		
日程 コース	2 日 目	みやま山荘 6:30 ⇒ 不動の峰 7:25 ⇒ 鬼ヶ岩 8:10 ⇒ 蝙ヶ岳 8:45 / 9:15 ⇒ 地蔵平 10:15 ⇒ 姫次 10:52 ⇒ 粣殻避難小屋 11:45 / 12:10 (昼食) ⇒ 粟殻山 12:30 ⇒ 焼山 13:10 ⇒ 林道に出る 14:45 ⇒ 長野 (焼山登山口) バス停 15:00 / 15:38 (バス) → 三ヶ木 16:00 / 16:12 (バス) → 橋本駅 17:10 (反省会) / (京王線) 18:33 = 小川町 (新宿線) 19:35 / = 新御茶ノ水 (千代田線) 19:56 = 我孫子駅着 20:45 <歩行時間 7 時間>	
参 加 者	中村隆 (L), 大串恵、大串秀、斎藤、中村美、原田君、原田和 男 4 名、女 3 名 計 7 名		

概念図



管理人変更
小屋番：石井清
連絡先：事務所 0463-81-8662

<411>

矢倉岳～足柄古道 (870m)

品 田 千恵子

も良く、目の前には箱根の山々と富士山が見える。登山者で賑わっている頂上ではあるが、ススキが背丈半分位まで伸びており、その中にアチ、コチと点在したり群れたりしている登山者の様は化粧したキツネ達？ なぜか日本昔話の世界に入ったように思われた。

地図読み山行 上手になったかな？

久しぶりの山行を楽しみに参加した今日はとても良い天気。公民館の前で準備運動してから早々地図読みが始まり、矢倉岳の方向を確認して出発する。橋を渡り、舗装された農道を登ると道端に小さく可愛いピンクの花（ひめづるそば）がたくさん咲いており、我が家家の玄関先に咲いている花と同じ、花屋さんで山野草をして売られてはいるが道端にたくさん咲いているのは今回が初めて、なんて可愛らしく咲いているんだろう。



矢倉岳山頂にて



地図を広げて現在位置の確認

登山口を地図で確認し登り始める。左右はおいしそうに色づいたみかん畑と茶畑。「おいしそう、一個でいいから食べてみたいね。直売所があればいいのに・・・」なんて言いながら眺めつつしばらく登りが続く。やがて杉林のジグザグした風通しの悪い急坂を吹き出す汗を拭きながら登るとようやく頂上に出る。

山頂一面に広がるススキの穂が見事で眺望

晩秋の陽がこんなにも暑いものかと思わせるような陽で顔が痛い。そんな場所でおいしい昼食を食べ終えた後、山座同定の研修をして先程の箱根の山々が金時山、明神山、西に見えたのが富士山だと確認する。

下りは富士山を正面に見ての急坂で始まり、途中可憐なりんどうの花があちこちに咲いており紅葉が見られなかった山行に色を添えてくれた。下りながら見上げた矢倉岳は銀色のカヤトが風で波打っていた。

山伏平辺りで標識を隠して地図読みをもう一度研修してから下り、足柄万葉公園の歌碑を読みながら車道に出る。トイレ休憩の時、足柄関所跡まで行ってみた。旅人が手形を差し出した石が残されており、暗く静まり返った関所跡で記念写真をパチリ！

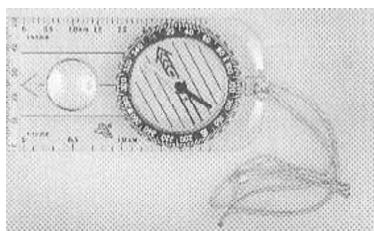
足柄峠より車道で寸断された足柄古道の情緒が残っている石畳とアスファルトの道をからみながら歩きバス停のある地蔵堂に着いた。

現代と過去をタイムスリップしたような足柄古道を歩きながら、昔の旅人は地図も無し、磁石も無し、しかも自分自身の足でよく全国を行き來したものだ・・・と思った。

山行データ

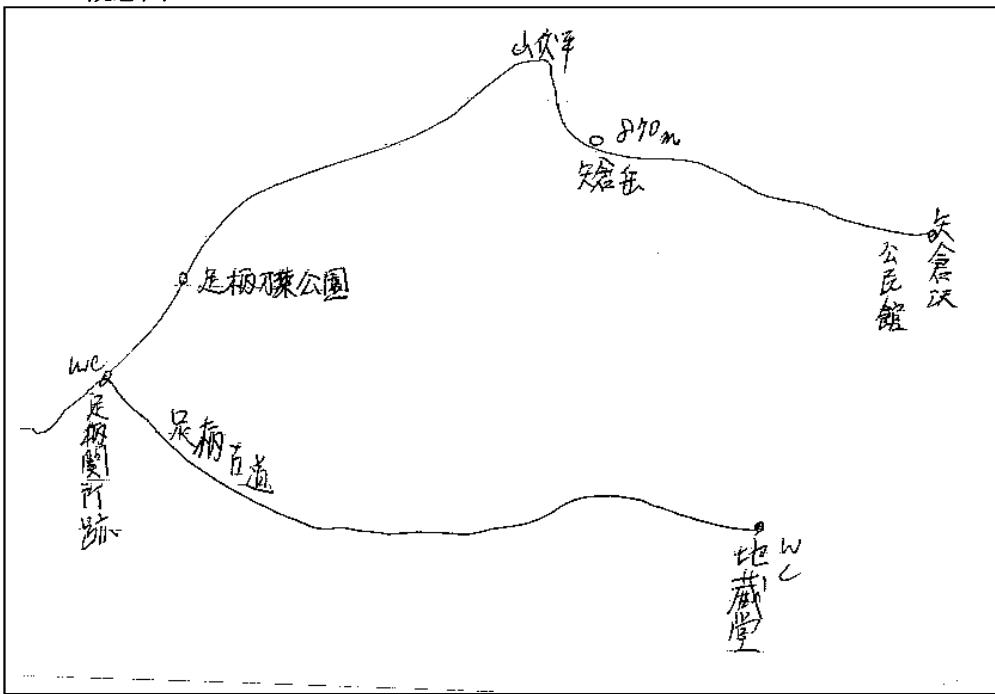


矢倉岳全景



山名	矢倉岳		
月日	平成 16 年 11 月 7 日 (日)		
形式	日帰り		
山域	箱根	地形図 1/2.5 万	関本
目的	紅葉の足柄古道（裏街道）を歩く		
費用	3,700 円	交通機関	小田急、バス
行程	我孫子駅 5:30 → 新宿 6:39 (小田急) → 新松田 8:25 (バス) → 矢倉沢 8:55/ 9:07 ⇒ 矢倉岳 11:00/12:00 ⇒ 万葉公園 13:10 ⇒ 足柄峠 13:25/13:30 ⇒ 地蔵堂 14:08/14:25 → (バス) 新松田 15:10/ 15:54 → 代々木上原 → 我孫子駅 18:15		
	晴天 <歩行時間 3 時間 40 分>		
参加者	高橋芳、日下、外崎、中野、安田 品 田、飯合、中村八、吉岡、高橋潔 男 2 名、女 8 名 計 10 名		

概念図



三頭山 (1527m)

原田和昭

晩秋のヌカザス尾根を登る

快晴の奥多摩駅に下車すると多くの登山者で賑わっている。トイレに行く時間がないのでそのままバスに乗る。バスが進行する両側の山は紅葉で美しい。定刻に小河内神社停留所に到着。下車した停留所付近にはトイレが無いが、住民の方に尋ねると一つ前の停留所(トンネルに入る前・峰谷バス停)には公衆トイレが整備されていることを聞く。女性の方がそのトイレまで行き事前の準備を済ます。こここのトイレは水洗で非常に綺麗になっていたと聞きました。

事前準備を整えて登山開始。今回のコースは私が当会に入会して同期の卒業山行として計画した山で、今回は奥多摩湖からの一番厳しいと言われるコースを企画しました。湖面に架かるドラムカン橋は、昔はドラムカンを使用していたので名前が付けられたが、現在使用されている材料は大きなポリタンクを使用した浮き橋になっている。湖畔の案内標識は全部浮き橋で統一されていた。真青な水面に赤い浮き橋のコントラストが美しく映えていた。7人が同時に歩くと浮き橋は共振して大きく揺れるので注意しながら静かに渡る。



**湖畔の紅葉が湖面に映える
=浮橋(ドラム缶橋)**

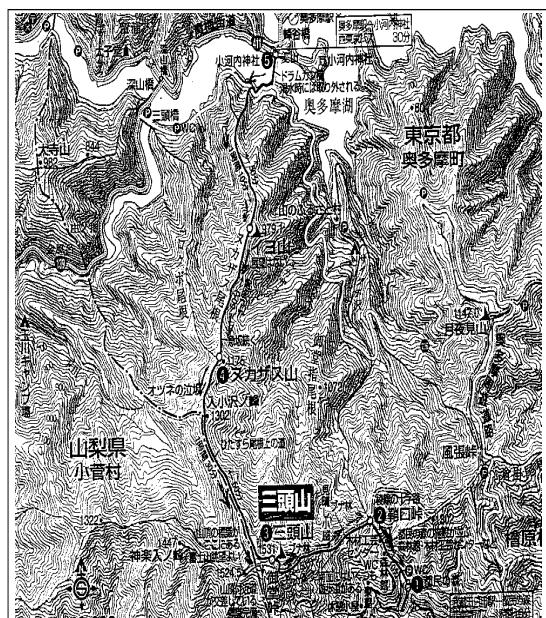
湖畔の紅葉は盛りを過ぎているように感

する。対岸に渡って左に折れて湖畔道路に出る道を探しながら進む。やつとの思いで湖畔周遊道路に出て右に曲がり登山道入口を探す。

群青色をした湖水を背にして階段を上ると急登が始まる。大木の大きな根が露出している。滑る斜面を慎重に登ること約一時間でイヨ山の頂上に着く。三等三角点に軽くタッチして更に登る。高度を上げるに従って樹幹の間から奥多摩の山並みと奥多摩湖の青い水面が綺麗に眺められる。ヌカザス尾根の急登を一時間ほど登ると糠指ノ峰の頂上に着く、ここで昼食にする。

糠指ノ峰から入小沢の峰は「オツネの泣坂」と言われる急坂で落ち葉が深く、踏み跡が見えない。コースが不明なのでルート選定しながら慎重に登る。時々、上から登山者が降りて来るのでルートを確かめながら登ると、やがて、尾根筋に出て大きく巻き込むよう進むと指導標がある。ここからは木製階段を登って行くと三頭山中央峰頂上に着いた。頂上では多くの登山者で賑わっていた。

登山ルート概略図



頂上からの眺めは雲と霞で遠方の山並みはぼんやりとしか見えない。中央峰から東に有る東峰の展望台で東京方面の景色を満喫してから下山開始する。下山コースはブナやカエデ、クヌギなどの秋色に囲まれた道をゆっくりと鞘口峠方面に降りる。峠からは都民の森工芸センターと森林館に寄りながら無事に都民の森バス停に到着する。三頭山には

何度も登頂しているが今回のコースが一番長くて厳しいルートであった。晩秋の紅葉を楽しみ、天候に恵まれて標準時間で全コースを踏破出来たのは、参加者全員の協力の賜物であり感謝します。



標高差 800m の急登を一気に上り切って、一呼吸。ここからは快適な落葉樹の尾根道に変る。

山行データ

山名	三頭山		
月日	平成 16 年 11 月 13 日 (土)		
形式	日帰り		
山域	奥多摩	地形図 1/2.5 万	猪丸
目的	奥多摩三山の最高峰と紅葉		
費用	約 3,700 円	交通機関	JR、バス
日程・コース	我孫子駅発 5:33→新松戸駅→立川駅→奥多摩駅 8:24/8:30→バス→小河内神社前バス停着 9:00(準備)登山開始 9:20⇒対岸の登山口 9:45⇒衣服調整タイム⇒イヨ山 10:45/10:50⇒糠指ノ峰 11:45/12:30(昼食)⇒入小沢の峰⇒鶴峠への分岐 13:14/13:20⇒三頭山・中央峰 H1527 m 13:45/13:53⇒東峰 14:00⇒見晴らし小屋 14:20⇒鞆口峠 14:47⇒都民の森バス停着 15:10 発 15:25→バス→武蔵五日市駅 16:35/16:47→立川駅→西国分寺駅(反省会)→新松戸駅→我孫子駅着 20:02 晴れのち曇 <歩行時間 4 時間 40 分>		
参加者	原田和 (L), 増田 (SL), 大串恵、大串秀、斎藤、原田君、藤倉 男 3 名、女 4 名 計 7 名		



三頭山の中央峰で

<413>

三方分山～パノラマ台

(1442m) (1382m)

斎 藤 清 一

富士山と湖眺めて初冬の一日を過ごそう！

11月の富士山眺望は絵画に描かれたように美しい姿を想像してバスに乗り込んだ。富士山を富士周辺すなわち東西南北の山々から登って眺めてみたいとの願望に駆られ、本日は北部エリアのパノラマ台から雄大で長い長い裾野の端まで眺められる大きな大きな富士山を目前にしたい。

参加者の晴れ女、男のお陰で本日は晴天で青空であった、調布のあたりから富士山が前方、左右に見え、もっともっと近くから富士山を眺められるのは最高な気分と胸がわくわくと躍った。

前回の山行（蛾ヶ岳～三方分山）時、三方分山から精進湖を眺めながら女坂を下ったのであるが、今回は最初にコバルト色の精進湖を背に山頂を見上げながら、木々の枝から落ちた枯葉の絨毯をゆっくりと踏みしめ急坂の女坂を上り始めたが、木漏れ日が体を温め快調に歩を進める。

しばらくして女坂峠の分岐で十字路になっており前回山行の「蛾ヶ岳方面」、「王岳方面」を見渡し山頂に向かった。本日の参加者、女性10名と男性3名の計13名、女坂を無事通過できたのも女性のお陰と「肝」に銘じたころから霞か靄が漂い始め御坂山塊の山々も見えたり隠れたりが始まった、いずれ「王岳」山行を計画し王岳から富士山と湖を眺めてみたいと思いつつ三方分山山頂に立った。

ブナやカラマツの林を暖かい陽射しが、通り抜けてゆくかとおもうと、湖面からの靄がたちこめ、寒風が吹きぬける、空には雲が漂い始めた。山頂には伊豆の下田から来られた30人ほどの団体が休憩を取っていた。山頂からの展望は霞か靄かで富士山が見えない。

快晴であると眺めが最良と思われる。

三方分山から精進山は下りながら平坦な道を進み少しの上りで山頂に着く、この頃から暖かくなってきた。人間は気温が上がってくると

快適になるものだ。視界も良くなり靄も霞も雲の固まりとなり青空に浮かんでいる。快晴だ！

三沢峠（精進峠）の分岐左に折れると精進湖畔へと下がる道、直進しゆるい上りを過ぎると平らかな道になりパノラマ台に到着した。眼前にドーンと富士山が！大室山を抱え込むよう聳え立っている。{アーア美しい！}



パノラマ台は富士山からの溶岩が流れ出て湖を二分割し盛り上がったとされている。右側にエメラルグリーン色の精進湖、左側に濃いブルー色の本栖湖となった。

パノラマ台の広い場所に大勢の人々が、あちこちに座り込んで昼食をしていた。我々一行も360度の展望を堪能しながら昼食とした。北側には三つ峠山、十二ヶ岳、鬼ヶ岳、足和田山、節刀ヶ岳、釈迦岳、王岳（未踏）、蛾ヶ岳、等、東側には杓子山、御正体山、石割山、等西側には長者ヶ岳、思親山、等が自然の美しさに堪能した。

富士山を正面にして鳥帽子岳を越え岐路に着いた。





山行データ

山名	三方分山～パノラマ台		
月日	平成 16 年 11 月 21 日 (日)		
形式	日帰り		
山域	富士周辺	地形図 :	精進
目的	富士山と湖を眺めて		
費用	5,900 円	交通機関	貸し切りバス
行程	我孫子駅北口 5:30 → 談合坂 7:10 / 7:30 → 精進湖 8:20 / 8:30 ⇒ 女坂峠 9:30 / 9:35 ⇒ 三方分山 10:20 / 10:30 ⇒ 三ツ沢峠 11:10 ⇒ パノラマ台 12:15 / 12:50 ⇒ 烏帽子岳 13:10 ⇒ パノラマ台登山口 13:50 → 談合坂 15:15 / 16:15 → 我孫子駅 19:30 <歩行時間 : 4 時間 30 分>		
参加者	斎藤 (L)・大串恵子・大串秀・榎原・高橋寿・長木・中野・増田・安田・高橋潔・田村・佐藤 (ゲ)・赤岩 (ゲ) 男性 3 名・女性 10 名 計 13 名		



<414>

滝子山
(1590m)

原田和昭

初冬の寂懶尾根を登る

11月最後の日曜日、雲ひとつ無い快晴の青い空、気温は肌寒く冷え込んだ早朝に笛子駅に下車する。今回の参加者は事前取消しがあって4名の小人数である。その中で体力も技量も一番劣っている小生が最後まで登れるか不安のまま歩き始める。

笛子駅から商店と住宅に囲まれた町道を東進し、笛子川に架かる大橋と中央高速道路を越えて登山道に入る。南斜面の桜公園の横を通り抜けて山の中に入つて行くと分岐地点に着く。ここに3軒ほど古い別荘が建つていて、その中で一番奥の建物に寂懶庵の古ぼけた看板が着いている。現在は人が住んでいる様子は無い。この山荘の名前は尾根の名前から付けられたらしい。



▲尚尾根は初めから急登

ここからが寂懶尾根の始まりである。樹林帶の中で落葉を踏み締めてゆっくりとジグザクと登り鉄塔の横を通り抜けてさらに登ると林道に出る。この林道を越えたあたりから本格的な急登になる。一時間位登ると岩場になる。久しぶりの岩場で緊張する。3点確保で慎重にゆっくりと登る。尾根の西側を廻り込みながら約

30分程登ると一番目のピークに出る。振り返つて見れば落葉樹の樹間から真白い富士山や南アルプスの山並みが眺められる。

その頃、西側の滝子沢から尾根に向かって登つ



て来る男性3人のパーティと出会う。ピークから急な道を下り、岩場を登り返す。この状態を二度繰り返して目的の頂上に到着する。皆さんに迷惑をかけることなく登れて安堵の胸を撫で下ろす。



▲滝子山山頂

頂上は狭く多くの登山者で賑わっていた。360度の展望で四方の山を眺めながら心行くまで堪能する。丁度、青山さんと千葉さんの知人が居られて5人で昼食を共にする。温かい冬の陽射しに照らされて爽快な時を過す。長い昼食時間を過して、下山は南東に向かって

急降下。ツツジの木が繁る間を注意しながら下りると窪んだ草原状の桧平に着く。そこから、少し登ってから急降下が始まる。平栗沢の方に下る分岐地点の案内板で下山方向を確認する。今回は初狩方向に下山コースをとる。樹林帯の急斜面をジグザグ下ると藤沢川支流の沢に下りる。沢沿いの道は狭くて滑り易いので注意して下りると堰堤が現れる。そこからは幅広い林道に出る。集落と神社の横を通り初狩駅に無事到着する。

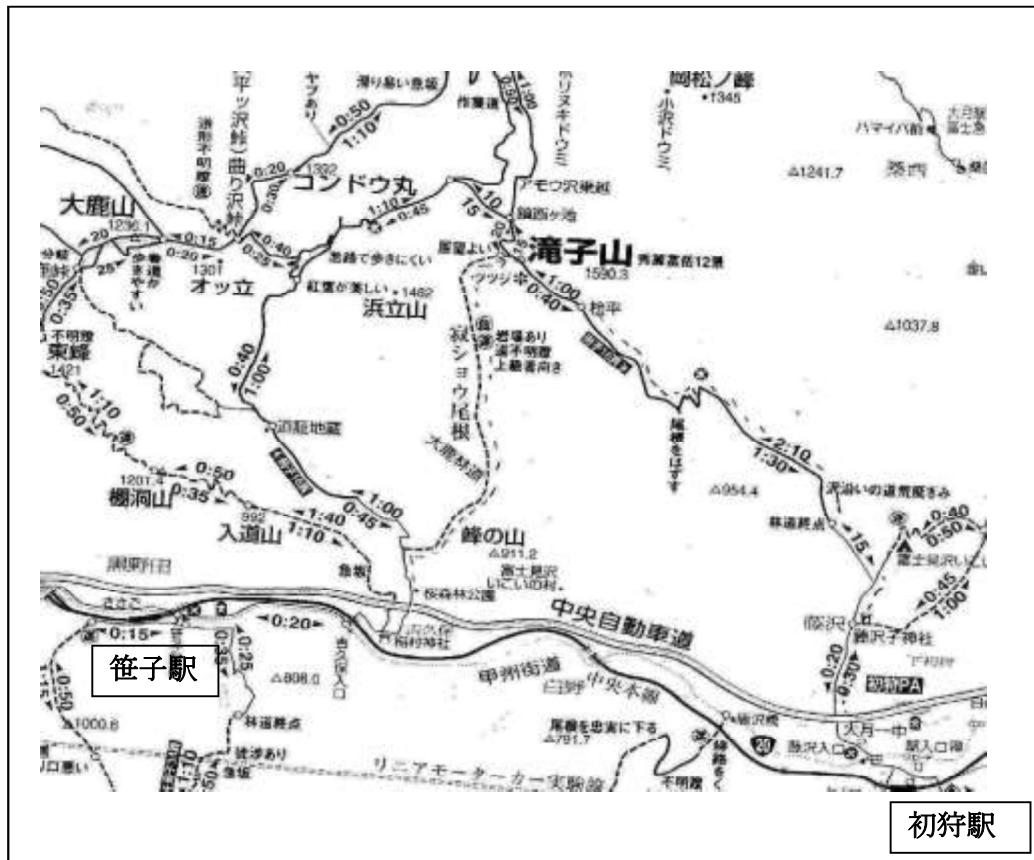
予定していた時間より早く着いたので駅前の反省会場が開店しているか心配する。店の扉をそっと引くと元気な女将の声で心良く迎えてもらう。今日登ったコースは地図では破線になっている。この健脚コースを予定時間内で踏破出来たことを祝して乾杯する。

短い冬の一日を楽しく歩けたことに感謝し帰路に着く。

山行データ

山名	滝子山		
月日	平成 16 年 11 月 28 日 (日)		
形式	日帰り		
山域	大菩薩	地形図 1/2.5 万	笛子・大月
目的	寂懶尾根を登る		
費用	約 2,700 円	交通機関	JR
日程 ・ コース	我孫子駅 5:33 → 新松戸 5:46/5:55 → 西国分寺 6:50/6:58 → 高尾 7:25/7:28 → 笛子駅 8:30 出発 8:35 ⇒ 吉久保入口 8:50 ⇒ 寂懶尾根登山口 9:00/9:05 ⇒ 林道 9:30 ⇒ 休憩 9:45/9:50 ⇒ 休憩 11:30/11:40 ⇒ 滝子山頂上 11:50/12:30 ⇒ 桧平 12:58 ⇒ 最後の水場 13:31/13:45 ⇒ 林道終点 14:15 ⇒ 藤沢子神社 14:28 ⇒ 初狩駅 14:50/16:50 → 我孫子駅着 20:20 晴れ <歩行時間 5 時間 5 分>		
参加者	青山、千葉、武内、原田和 男 2 名 女 2 名 計 4 名		

概念図



<415>

草津白根山

(2171m)

中村 隆泰

初冬とはいえ吹く風は暖かく、透き通った青空に期待が膨らむ。「草津白根山」に近づくほどに、車窓から眺められる上州の山々の美しさに感嘆の声を上げる。

草津温泉を抜けて、ロープウェイ山麓駅に着いてみると、機械の響きもなく静か。ロープウェイは強風のため運休、穏やかな晴天のように見えるが、山上は相当の風なのだろう。確かに雲の動きは早い。登頂は断念せざるを得ない。

しかし、それではみんな欲求不満だろうとリーダーは考えたのか、係りの人に少し歩けるコースはないかと聞く。「一般の人には勧めていないが」と前置きして、「富貴原の池」へのコースを紹介してくれた。

手書きの地図を示しながら、わざわざ外に出て方向を指し示してくれる。ついでに7月に登った白砂山も教えてもらった。気のせいいかひとつわ輝いて見えた。

閉められたゲートを過ぎてすぐ山道に入る。硫化水素ガス危険表示の看板があり、注意事項が書いてある。5番目に「特に曇天、雨天、無風の天気の場合は注意すること」。今日は快晴・微風だから大丈夫。やがて白い湯気が立っている「殺生河原」の横を通り抜ける。硫黄の臭いがつんとする。

行くほどに凸凹した岩混じりの道となり、間近に降



薄化粧の笹原を行く

ったと思われる雪が足元を不安定にする。しかしきほど高低差はなく、透き通った青空の中に見える上州の山々を眺めながら、のんびり歩いて1時間半、富貴原の池に到着した。

そこでお湯を沸かし、温かいものをすすりながら昼食をとる。

富貴原の池からは白根山の胴体しか見えず、山頂は遙かかなたのようである。またの機会を念じながら、元来た道を下山する。天気晴朗なれど風強しか。

山行データ

山名	草津白根山		
月日	平成16年12月1日～12月2日		
形式	山麓旅館泊		
山域	上州	地形図 (2.5万)	上野草津
目的	①初冬の名山を登る。 ②草津の名湯でリラックス		
費用	6,300円	交通機関	送迎バス
1 日 程 コ ン ク ル ス	我孫子駅6:30(ツアー送迎バス)→三芳SA →小野上町(田吾作)9:10/9:20→長野原駅 10:00→草津温泉 10:20→ロープウェイ山麓 駅 10:35/10:45=殺生河原=富貴原の池畔 12:10/12:50=ロープウェイ山麓駅 14:00/14:10=草津温泉郷 14:55→ホテルお おるり 15:10(泊) <晴天・山頂は強風 行動時間:4時間25分 休憩時間:55分>		
2 日 程 コ ン ク ル ス	ホテルおおるり 9:29=草津温泉湯畑→泉水 神社=西の河原公園=ホテルおおるり 11:10(ツアー送迎バス)→小野上町(田吾作) 12:15/13:00→三芳SA 14:15/14:30→我孫 子駅北口 15:40 <晴天 行動時間:1時間20分>		
参加者	斎藤(L)、日下(SL)、柴田、大串恵、大串 秀、小川洋、菊地、榊原、長木、中野、中村 隆、原田君、増田、渡辺、安田、原田和、小 川誠、田村、松島(ゲスト) 男7名 女12名 計19名		

<416> 忘年山行

鳥 場 山 (266m)

細 野 清 子

そろそろ千葉県の山で忘年山行をというリーダー長たっての希望で、私が指名された。さて、何処が良いだろうかと山の本をみていたら、[房総半島 烏場山]という文字が目に入った。烏場山は南房総の和田町にあり、温暖な気候に恵まれた地域で、12月から花の彩りが楽しめるところである。ここに決めた。

この山は和田浦駅から4.4キロ北に位置する266.6Mの低山。その昔山間の村から暖かい海辺の村へ嫁ぐ花嫁が歩いた道をたどって頂上に登るコースが「花嫁街道」。そして、最近では黒滝から登るコースが「花婿」コースとして、地元の山岳会の人たちが宣伝したと、下見に行ったとき地元のお年寄りが少々不満げに教えてくれた。

花嫁街道に因んで計画書を一ひねり、班構成を羽織はかま・三々九度・打ちかけ・角隠し藩の4つの班に分けた。リーダーは媒酌人。会計は勘定奉行。救急は赤ひげ。やまたんは号外で、やまなみは瓦版といった具合に。

計画書を受けとった時の皆の反応が楽しみだ・・・・

山行実施予定の4日前、12月というのに台風接近。リーダー長に電話を入れる。

『まだ決めるのは早い。忘年山行だから最終的には酒さえ呑めれば良いでしょう』とのことだった。

幸い台風は温帯低気圧に変わったものの案の定大雨と強い風。

バスに乗り込むにもずぶぬれ状態になるほどの本降りでガックリ・・・。

しかし市原サービスエリアにつく頃には小ぶりになり青空が雲の間から顔をだしている。安心してウトウトと眠ってしまう。「リーダーさんトイレはどうしますか」の運転手さんの声で目が覚めた。

バスから降りるとお花畑付近は、12月というのになんとなく春先のような雰囲気が漂っている。この辺が同じ千葉県といえ、うちらの住んでいるところとは違う房総半島ならではの雰囲気。ハウスのお花畑には花はまだついて

いないようだ。

外崎さん、岡田さんはあちこちの棚田におちている落穂を、正月飾り用に大事そうにポシェットにしまっている。

黒滝の入り口の細い道を羽織はかま班の人たちがバックしてきた。

「水がいっぱい通れません。」

「え～、橋があり下見の時には通れたんだけど…」「橋なんてないよ」

そうか昨夜らしいの雨で橋もつかってしまったのか…黒滝は水量は少ないが、落差15Mあり幽玄な雰囲気が漂って不思議な気にさせてくれるのに…残念。ではと少し引き返し黒滝の上に出て花園コース〔花婿コース〕から入山する。

山の中はさすがまだ結構ビュウビュウ、ひゅうひゅうと強い風が吹き荒れていて頭上は騒がしい。その嵐のせいで道には小枝や大枝や甘夏みかん〔?〕がおちている。拾って食べてみるとまあまあの味だった。

1時間ほどで旧烏場展望台に出る。太平洋が見えた。波は荒く牙を剥き出しにしていた。今日の食担は、2期生の男性でメニューは、うどんとのこと。おいしくいただけるよう早目だがここで昼食にする。他の藩にも連絡をするが角隠し藩とは連絡とれなかつたが、頂上までの道のりですれ違う。すでに昼食は済ませたとのことだった。早いこと。食担の人が多いので早足・早弁のようだ。

階段状の道を登ると、226Mの烏場山頂上に到着。内掛け藩が先に到着していた。三角点が置かれ伊予が岳・高宕山・清澄山が一望できるとガイドブックに有ったが木が茂り展望無しだった。

頂上を後に少し下ると茅場に登るがここは南面の見晴らしが抜群。はるか遠くに富士山が見えた。ラッキー。

登山シーズンは晚秋から春にかけ、特に冬から早春は南房総の特徴が肌で感じられるベストシーズンとあったが、加えて昨夜からの風が富士山の展望をもたらしたようだ。

馬返しは平坦地。かつて花嫁が山道を馬に乗って、ここまで来て、花婿さんの方から差し向けて馬に乗り換えて五十蔵野村へ・海岸の村へと嫁いで行ったのではないだろうか。

自害水を過ぎるとシイの巨木が岩を巻きこんだ不思議な光景の経文石に登る。

そして今日のメインルートにさしかかる。照葉樹の代表格のマテバシイの純林が西斜面に隙間なく広がっていて、見事な美しさだ。

第2、第1展望台付近はシイの巨木や藪つばきが咲き歩きやすいが、凹地の急斜面で暗い感じがした。

パーと開けたと思ったらわれわれの下山口の花嫁街道入り口だった。

饗宴場所の『花夢花夢』に向かって歩いていくと、突然携帯がなった。先に下山して饗宴の準備をしている大串さんから「ここは火が使えない。しかも風が強くて火が消えてしまって…どうしましょうか。柴さんと相談して進めて良いですか」とのこと。

千葉の山は低山だが、歩いてみると結構良いものだ。岩崎元郎さんが《新百名山》に鳥場山を選んだとのこと。果たして新100名山に相応しい山か?バスの中でアンケートをしてみた。

★ 相応しい山・・・10人

理由:マテバシイの林はすばらしい
千葉県にやっぱ一山はほしい。

岩崎さんが早く登ってください。

★ 憎しい・・・3人

理由:マタバシイの林はきれいだが植林が多すぎる

★ 相応しくない・・・14人

理由:伊予ヶ岳の方が素晴らしい。

でした。

鳥場山「新日本百名山」の一つ。

ここからの羨望は素晴らしい。房総の山、清澄山・嶺岡・経塚山・御殿山・伊予ヶ岳等。伊豆半島・富士山・伊豆大島等も見える。

双眼鏡があると良い。



経文石

かつての道は下側を通り、50年くらい前までは見上げるとかすかに梵字が読み取れたが、風化が進み現在は見えない。落石などの危険もあり、上を通るようになった。

じがい水(自我井水)

二説あり、自我井水とも言われ、山中のかくし田の水利、水源に使われたとも言われている。

黒滝・向西坊入定窟

長者川の中流にあり花園山奥地の水を集めて一気に落ちる。落差 15m。向西坊は赤穂浪士の一人片岡源五右衛門の家臣で、後出家してこの地で入定した。

童謡「浜千鳥」の碑

花園海岸の竹林の中、鹿島鳴秋が一人娘の死を胸に秘めながら作詞した『浜千鳥』の歌碑が立っている。

抱湖園(花木園)

『おかしいなあ。テントの中は火は使えないが、外はよいとのことだったんだが。それに下見ではテントの回りは囲ってあったのだが・・・』

とにかく急いで下りるしかない。急に忙しくなる。到着すると、食事予定のテントの囲いが強風のため上げられてしまっていて、バスの陰で、シートで風をよけ、《白波5人男と手伝いの女性陣》がてんやわんやの大騒ぎ。のどの乾いた人はのどから手が出そうで『酒はまだか~』と騒いでいるし…。いやはやリーダーは最後まで気がぬけないものだ。ヤレヤレ…

房州の花の開祖、間宮七郎平氏が昭和初期、古くからあった農業用溜池の上の岩山に池を抱くように石を積み、切花用としてツバキ、エリカ等数十種類の花木を植え、中でも寒桜は古木で60本と少ないが1月から2月末まではピンク色の見事な花をつける。



山行データ

山名	鳥場山	
期日	平成16年12月5日〔日〕雨～晴れ	
形式	日帰り	
山域	房総半島	地形図1/2.5万
目的	① 近くて遠い山 ②一年を振り返って ③ 古に思いをはせて	安房鴨川
費用	2,100円	交通機関 貸切バス
行き コース	北柏5:00→我孫子駅5:10→ルート356号→市原ハイクコース入り口9:20〔花嫁・花嫁コースに分れ登山〕	
花嫁 コース	黒滝10:13⇒金毘羅山10:25⇒見晴台10:43/11:00⇒旧鳥場展望台11:22⇒鳥場山11:42/11:51⇒第三展望台11:56⇒自我水12:22⇒経文石12:35⇒花嫁街道入り口13:07/13:13⇒ビジターセンター13:38⇒踏切9:25⇒花嫁コース分岐9:42⇒花嫁街道入口9:43⇒第一展望台10:05⇒第二展望台10:16⇒経文石10:27⇒自我水10:38⇒駒返し10:52見晴台11:05⇒第三展望台11:21⇒	
花嫁 コース	鳥場山11:27 旧鳥場山展望台11:46 見晴台12:06 金毘羅山12:20 花嫁コース入り口12:25 黒滝12:27 花園広場12:37 ビジターセンター13:00〔忘年会〕→15:35→我孫子19:00	
帰り コース	総括L細野清、L柴、L村松、清家、細野省、柴田、外崎、大串、大串恵、日下、榎原、高橋英、高橋寿、中村隆、原田君、庄司、武内、原田和、飯合、L青山、千葉、石垣、佐藤健、佐藤明、箕輪完、岡田、藤倉、井上、谷島、〔29名〕	
参加者		



房総の山々は300mほどの低山ながら、奥深く感じられる。・・鳥場山山頂・付近から北側の展望

<417>

岩殿山 (634m)

柴田節子

秘められた伝説の山

中央沿線大月駅市街の北側に岩肌がむき出しになって立つピークがある。戦国時代には天然の要害を利用した岩殿城が築かれた山である。

後に山の中を歩いていると「フツ」とそんな山の雰囲気に気づく。大きな2つの岩が並ぶ場城戸跡、番所の跡や乃木大将の大きな詩碑などの遺構があるのも興味を持つところだ。などに加え駅前から歩程15分の登山口も嬉しい。

登り始めてからコンクリート造りのジクザクの階段が伸び急坂でもある。一汗かく頃に丸山公園がある。サクラの木が多く植えてあり、花咲く頃は一面淡紅色染まり多くの人々を至福へと導く事だろう。ここを抜けて、又ジクザクの登りを進み稜線を右に辿ると見晴らしの良い展望台に出る。ぎっしりと詰まった家並みに冬の陽射しが光り、とても近くに青く澄んだ空をバックに凜とした美しい富士山、道志の山々をゆっくり見渡す。仲間たちも声高に話している。

ここから直ぐの所にパラボラアンテナの立つ猫の額ほどのピークがある。暮れも間近かなこの日は他の登山者の姿も僅かであった。

山頂から西へ辿る下りの稜線歩きは雑木林の中だ。気温が高かったから吹き上がってくる冷たい風が心地よかった。その中に所々ツバキが咲き他には温暖化?それとも季節を間違ったか全く色の彩ないツツジが結構咲いていて話題となった。

尚直進し送電線の鉄塔の下をくぐると2箇所のクサリ場がある。22名の大所帯にしては皆の足運びもよく兜岩の上に出る。

一息抜いて雑木林の続く道を下るが岩が細かく屑になっている為、足元に気を使う。

山腹を巻いて進み明るく開けた尾根道に出て天神山に着く。山頂の一角に菅原道真公を祀った浅利天神がある。ここで昼食とする。

食担さんの食材から手作りの数々のご馳走

に預かり、皆さん心から感謝をしたに相違ない。

“折しもT, K氏のおめでたい古希の誕生日であった。盛大な昼時を過ごし、稚児落しの大岩壁に向かう。その前面に立てば想像を越えた迫力である。稚児落しは岩殿城にまつわる非話を秘めていると知れば尚更であった。稚児たちに思いを馳せたのは私だけではあるまい。祈りにも似た気持ちを少し引きずりながら大月駅に着いたのは午後2時前のことだった。

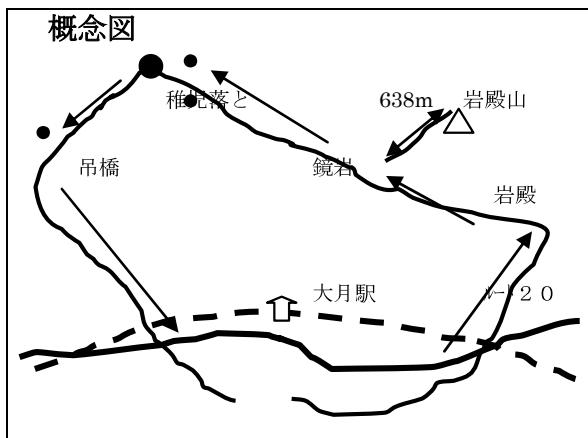
駅前の店に寄り、和やかな祝膳を囲んだ。先輩の姿に重ねて良き仲間とともに心通う充実した山行を今後も続行したいと望みを新たにする。心温まるこの山行を実施して下さったリーダーと気さくな仲間に有難う！！



稚児落としの岩壁



豚汁・ぜんざい・赤飯
・・・お腹いっぱいです。



A
班



B
班

山行データ

山名	岩殿山 (
月日	誠 16 年 12 月 19 日 (日)		
形式	日帰り		
山域	中央沿線	地形図 1/2.5 万	大月
目的	冠雪の富士山の展望		
費用	5000 円	交通機関	JR
行程 ・ コース	我孫子駅発 6:10→新松戸 5:24→西国分寺 7:20→大月駅着 8:45⇒岩殿登山口 9:25⇒岩殿山頂上 10:15⇒兜岩 11:28⇒天神山(昼食) 11:45⇒稚児落し 13:20⇒大月駅着(反省会) 14:25→高尾 16:30→神田 17:35 我孫子駅着 18:30 歩行時間 3 時間 50 分		
参加者	A班 高橋 (L) 大串恵、中村隆、原田和、高橋潔、菊池、長木、中野、渡邊、安田、飯沼、田村 B班 大串秀、中村八、日下、斎藤、松本、柴田、中村美、高橋寿、蜂谷、佐藤明 男 9 名 女 13 名 計 22 名		



暖かな陽射しがいっぱいの岩殿山山頂で

金峰山
(2599m)

村松敏彦

ホワイトクリスマスは何処へ

プロローグ 会、創立以来毎年この時期続いている「クリスマス山行」。奥秩父、八ヶ岳、南アルプス、その他いろいろな所に足跡を残しているが、いずれも雪があつてホワイトクリスマスを充分体験して、その美しさと厳しさに感動を憶えたものでした。だが今年は、どうも気候が変だ。とにかく暖かい。しかし時間的に迫ってきてからの場所の変更は不可能なので、とにかく雪のないホワイトクリスマスを覚悟して8名の雪山体験隊?は出発した。

1日目 朝1番の中央線の特急「あずさは」何時も自由席は非常に混雑していますが、このおしえまったくの時期一般の方は、年越しに大忙しのようですが、そんな事に關係なさそうな我々8名はゆったり座って下車駅の韮崎駅に着いた。下車して周囲の南アルプス、奥秩父、八ヶ岳をみると案の定、雪が少なくて山肌が青黒っぽくなっている。

タクシーに分乗して里宮平に着く。晩秋のような風景をみながら皆、雪の少なさを嘆く。隣りの八ヶ岳にも雪らしき白さもない。ラッセルをしなくてもよいので順調に高度をかせぐ。当初予定していた富士見平をベースにするのは止めて。さらに足を伸ばして大日小屋に向う。高度を上げるに従い瑞牆山がその特異な岩峰を太陽の光に照らされて我々の眼前に姿を現した。



富士見平手前で一休み・瑞牆山が美しい！

途中、時間があるので以前から気になっていたが、何時も忙しい山行のために行きそびれていた鷹見岩に寄った。この展望は、すばらしい。本州の中心部にあるせいか主だった山は、全部見渡せる事ができる。目の前に南アルプス、中央アルプス、右手をみればすぐそこに八ヶ岳、その奥にはさすが白く輝く北アルプス。背中は、今から登る奥秩父。見飽きる事がないほど素晴らしい。

時間的に早く着いたので誰もいない小屋周辺の暖かい所で、にわか昔の少年少女合唱隊になり、山の歌など合唱してゆったりした時間を過ごした。



日が陰るとさすが12月末の奥秩父、しんしんと冷えてくる。小屋の中にテントを設営して、恒例のクリスマスパーティを開く。童心に戻ってクリスマスの歌を原語?で力一杯合唱したり、プレゼント交換したり、クリスマスにふさわしく鳥の丸焼きとシチューなど食べながら時間の経つのを忘れるほど楽しいときを過ごした。ちなみにプレゼントは前年迄は500円相当だったがデフレと不景気な風が吹いて来たため全員100円ショップの品物になった。それでも100円とは思えぬような品物の数々だった。

2日目 どうも天気がよさそうもない。風が強く、時々小雪がちらつき始めた。その中を山頂目指して歩き始める。大日岩までの急登を昨夜の飲みすぎを後悔しながら砂払ノ頭を目指す。晴れていればここからの景色は、素晴らしいことだろうが今は、強風と小雪の中ではそれは望めない。此処からは、岩場が現れ岩の上に雪が積もり非常に滑りやすい。千代ノ吹上にさしかかると風は、いっそう強く頬を叩きつけてくる。あちこちで岩に雪が積もってホールド及び足場に難渋している声が聞こえてくる。金峰

山小屋への分岐を過ぎると、いくら視界がわるくともその大きさから五丈岩が目の前に威圧するように現れた。もう山頂は近い。それからわずかで岩に囲まれた金峰山に着いた。



相変わらず風は強く、雪は少し強くなつて来た様だ。展望盤があるが今日は何の興味も湧かない。横目でちらっとみて、三角点にタッチして、全員で堅い握手をかわして登頂を喜んだ。その中でOさんが涙を流しながら両手で握手を求めてきたのが印象的だった。

寒いので早々と山頂を後にした。



下山は、スリップしやすいので慎重を期した。特に大岩のところでは雪が、岩について非常に滑りやすいのでロープを使って安全をはかった。又、千代ノ吹上のヤセ尾根部分では風が、強くピッケルで一步一步確保しながら歩く。森林地帯に入ると今までが嘘のように静かだ。大日小屋にデボして置いた荷物を回収して、うつすらと積もった雪の道を急いで下山した。里宮平には、すでに予約しておいたタクシーが待っていてくれた。

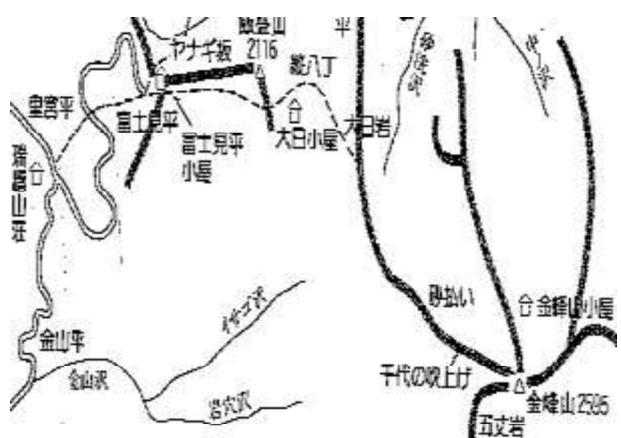
帰路タクシーの運転手さん推薦の「増富の湯」に入り本年度のクリスマス山行を締めた。

エピローグ その後クリスマス山行を終えて2日後ぐらいから気温も下がり、冬型気圧配置になり各地で雪が降り、翌年の春まで大雪に見舞われたようだ。遅くまで雪が残り雪崩事故が各地で起きていた。自然は多少のずれはあってもきっちりと帳尻を合わせてくるようだ。あらためて自然の偉大さと恐ろしさに感服した。

山行データ

山行	金峰山		
月日	平成 16 年 12 月 25 日 (土) ~26 日 (日)		
形式	テント		
山域	奥秩父	地形図 1/2.5 万	金峰山
目的	1. 美しくも厳しい雪山を体験する。 2. 雪上でのテント生活を楽しむ。 恒例のクリスマスを祝う。		
費用	1,5000 円	交通機関	JR・タクシー
一日目	我孫子駅 5:30 → 日暮里駅 → 新宿駅 7:00 → (特急あづさ) → 荏崎駅 8:37/8:45 → (タクシー) → 里宮平 9:25/9:45 ⇒ 富士見平小屋 10:35 ⇒ 鷹見岩分岐 11:40d ⇒ 鷹見岩往復 12:30 ⇒ 大日小屋 12:50 着 避難小屋泊 (テント設営)。 <晴れ 歩行時間 : 3 時間>		
二日目	大日小屋 6:50 ⇒ 金峰山 9:47/10:00 ⇒ 大日小屋 12:30 ⇒ 富士見平 13:30 ⇒ 里見平 14:00 ⇒ 増富の湯 14:40/15:30 ⇒ 荏崎駅 16:24 → (特急あづさ) → 新宿駅 18:07 → 神田駅 → 上野駅 → 我孫子駅 19:25 着 <曇り時々雪 歩行時間 : 7 時間>		
参加者	村松 (L)、柴 (SL)、細野省、外崎、武内、高橋潔、千葉、岡田 男 5 名 女 3 名 計 8 名		

概念図



<419>

筑 波 山
(877m)

大 串 秀 雄

雪の筑波山へ初詣山行

新春の朝日を浴びて、青空の中に筑波山が映えていた。毎年のことだが、初春の佳き日、気心の知れた善き仲間との初詣山行は格別で、爽やかな興奮を覚える。正月早朝の道路には車が少なく、快適なドライブを楽しんでいると、前方の田畠が朝日で輝き眩しく見える。近づくにつれ、それはうっすらと積もった雪だった。多分、年末に降った雪が融けずに残っていたのであろう。真白な田畠の先に筑波山が鮮やかに聳え、例年とはまったく異なる光景に、新年早々、初感激！(ただ、この時点では想像できなかつたが、この雪で山は大変なことになっていた…のだ)。

集合場所の駐車場に着くと、集合時刻の7時前にもかかわらずほぼ全員が揃っていた。新年の挨拶を交わし、気持ち良く晴れ上がる空を見上げながら各自ウォーミングアップ。全員揃って筑波山神社に初詣、今年1年間の健康と安全登山を祈願した。

清々しい気分で、ケーブルカー山麓駅脇から雪の残っている登山道を登り始めた。最初は幅広で緩やかな登り道のため、雪を楽しむ余裕もあった。お茶屋跡の広場は一面の雪。吹き溜まりは足首くらいまで積もっていた。日の当たる暖かな岩に腰を降ろして一休み。10時前の所為か、観光客はまだ登って来ていないようだ。風もなく暖かい。暫し雪山の展望を楽しみながら軽食を摂った。例年は男体山にも詣でていたが、この雪道では危険なので、今年は女体山への往復だけに変わった。積雪の下は凍結状態。転倒に注意しながら女体山に辿り着く。凍てつく階段を、手すりに

つかまりながら登り、先ずは神社に参拝。神社直上の大岩の先にはロープが張ってあり、立入禁止になっていた。山頂突端の岩場は滑落の危険があるためだ。

急登に差し掛かると、日陰になっている登山道は、踏み固められた雪が凍結していた。滑って転倒しないように注意しながら、慎重に歩を進める。男女川水場から上は一段と積雪が多い。あたり一帯の雪で、樹林帯の中も明るく感じるほどだ。少し先行して上方から見下ろすと、雪の被った樹林帯の雪道を仲間が一步一歩登つて来る。まるで雪山…ここは本当に筑波山なの？



例年であれば、賑やかな会話が聞こえるところだが、今回は無言で真剣そのものだ。丸太階段の道は凹部分が雪で埋つて氷結し、段々状が全くくなっている。道の中央部分は踏み固められた雪で、アイスバーン状になっている所もある。アイゼンを装着する仲間もいる。落ち葉の積もった柔らかな道脇を、小木に掴まり足場に注意しながら慎重に登る。木立の間には、雪化粧した山肌が朝日を浴びて輝いている。漸くケーブルカー山頂駅が見え始め一安心。初春の日差しを浴びながら、遂に、雪原になっている御幸が原に着いた。真白な日光連山に、仲間から一斉に感激の声があがる。

新春の青空の中に、純白の富士山と南アルプス連山がくっきりと…思わず拝礼。再び御幸が原に戻ると、ケーブルカーで登ってきた観光客が、雪原を恐そうにしながら、しかし楽しそうに歩き回っていた。

さて、ここからの下山も容易ではなさそうだ。リーダーの決断で、安全を考慮しケーブルカーを利用することに変更された。車窓には、初めて見る雪の筑波山が広がる。山肌の雪が日差しを反射させて、神々しいほどに美しかった。筑波山神社本殿に無事の下山を謝し、振舞われていた甘酒で喉を潤してから駐車場に帰り着いた。

さあ、いよいよ…食材や鍋、コンロ等を梅林まで運び、新年祝宴の準備を始める。お雑煮とお汁粉、煮しめに香の物…、御屠蘇で祝杯をあげ、食担さん的心がこもった初春の祝い膳をいただく。例年はチラホラの紅梅も、今年は既に何本も満開になっている。寒風を避けながらの年もあったが、今年は日差しが強くしかも無風状態で本当に暖かい。加えて、例年と全く変わらない賑やかな笑い声と明るい笑顔…、今年も元気に新春山行に参加できたことを感謝しながら、家路についた。



女体山はここまで。突端の岩場は立ち入り禁止でした。

…遙かに、雪を被った富士山や南アルプスを望む。



登山道と概略



山行データ

山名	筑波山		
月日	平成17年1月3日（月）		
形式	日帰り		
目的	二期生恒例 第8回 新春初山行		
費用	900円	交通機関	マイカー
行程	筑波山神社駐車場集合 7:00/7:15⇒ 筑波山神社参拝 7:20/7:25⇒中ノ茶屋跡 8:30/8:40⇒御幸ヶ原 9:50⇒女体山 10:05/10:10⇒御幸ヶ原 10:25/10:40→(筑波山ケーブルカー)→宮脇駅⇒筑波神社 10:50⇒筑波山神社駐車場 11:10⇒筑波梅林（昼食） 11:25/12:30⇒筑波神社駐車場発 12:50 <歩行時間：2時間40分>		
参加者	日下(L)、大串秀、大串恵、小川洋、斎藤、 大黒、高橋英(S.L)、中野、中村隆、中村 美、蜂谷、小川誠、 男 6名 女 6名 計12名		

<420> 県連ロングハイク

石尊山～三石山

斎 藤 清 一

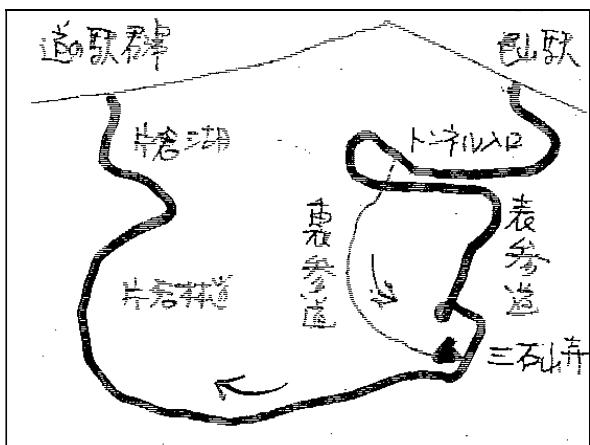
房総の山の自然のすばらしさを満喫し、
自然の大切さを実体験しよう！

一日目

「岳人あびこ」11名、「山の会 らんたん」1名の参加者を乗せ我孫子駅北口から出発。鎌ヶ谷市役所で「東葛山の会」と「千葉民医山を歩こう会」の仲間を乗せ松戸からの一号車と合流して三石山裏参道登山口に向かったが、先日の雨で登山道が崩れたとの情報で前もってハイキング委員長が交渉した結果、数十名の通過には住職として責任がもてないとの事、通行許可が出ず表参道から上ることに切り替えた。

表参道と裏参道の分岐でバスから下車、準備終了後、各会毎に表参道を登り始める。三石山観音寺境内の「三石山詣で」の一般参詣人は51名の登山姿の我々を見て驚いた様子であった。全員ザックを背負っていたので大勢に見えたのであろう！ 山頂を目指して巨岩重なり合いの狭い間を潜り抜けるのに四苦八苦した人々も多々いたようであった。縁結びにあるとの事で参拝される人が多いようである。ハンカチが木々に結ばれていた。我々は本日と明日のロングハイキングの安全登山の祈願をした。

1日目概念図



昼食後三石山山門脇から片倉ダム君津道の駅まで歩きバスに乗り継ぎ七里川温泉に向かったが、今夜は七里川温泉にただ一軒の温泉宿沖津屋を宿にした。

講演後80数名の参加者に振舞われた夕食に舌鼓を打ち千葉県連の仲間との談笑が弾んだ。

歩行時間2時間10分

二日目

第21回房総ロングハイクは従来のロングハイクコースから一新して新コースにしての試みである。

その為に従来までは一般公開して参加者を募り県連会員がサポート役をしていたのであるが、新コースの為会員のみとしたのであった。80数名の参加者があった。

大部屋に男性四十数名が、寝袋に包まって寝ている様子は壮大であった。

予定時間より早く明かりが燈されたが、全員起床する。

朝食には「おにぎりとちまき」ができる。岳人あびこの仲間5人は車座になり朝食をとつた。

いまだ薄くらい中、宿の庭で「岳人あびこ」参加メンバーがストレッチ体操を始めると、各会の参加者もストレッチ体操に加わり、輪が広がって出発の準備が整った。

風が少し強いが、本日は晴れそうだと口々で呟きながら、昨日入浴しただらう露天風呂の脇から登り始めた。

1月末の朝7時前の空、あれは雲か山かと談義しながら登っているとなんと富士山であることが明確になってきた。

石尊山山頂は雑木林で囲まれ展望は良くなかった。80名のメンバーの通過があるので見通しの悪い狭い山頂は通過し少し下り始めたところにある、風も無くなり草原にて水分補給を行った。その場所から彼方に外房の海が展望できた。

麻綿原高原向かったが、風も無く温かく陽だまり山行となつた。多少のアップダウンを繰り返して、森林の中3時間近く歩を進めた。

昨年のロングハイク時に東葛エリアの各会が前日山行の時通過した箇所に至った視野が開け天拝園を眺めながらの休憩となつた。岳人あびこのメンバーで始めての参加者もいたため展望を楽しんだ為、先頭から遅れてゆくことになった。

下ってゆく先頭を目で追うことが出来たのであるが、分岐点ではハイキング委員が立って

いて方向を指示してくれていた。清澄寺分岐に登山者がガードレールに寄りかかり立っているのを我々の先頭が千葉県連の人らしいと思い道標も無いし車止めもあるとの判断して先に進んだ。われわれ12名のメンバーの列も乱れて長くなってしまいそれぞれの人が分岐を確認できなかった（反省）。全員バス通りを歩いてしまう。「胡椒の木」の白い花を見付けることが出来た。（昨夜の講演会で胡椒の花）の説明を思い出す。

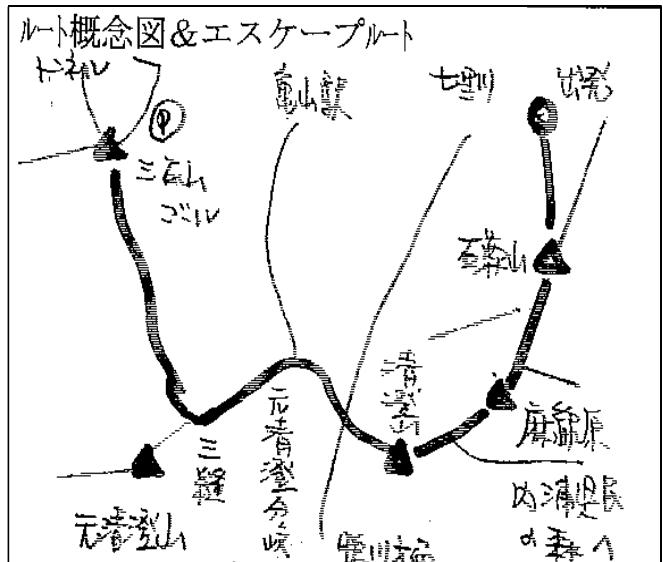
下り坂を20分下りてきた所でオートバイに乗った地元の人に逢う清澄寺は別の道だと他の登山者にも知らせたとの事。このまま下ると街に出るようだ。元の分岐まで戻ることにしたが、登り坂は苦しい。本隊が心配していることを考えて、全員黙々と坂を登った。時計を見ると本隊は昼食時間帯。我々がいないのに気がついたか？清澄寺のバス通りに出ても救護班の車には合わず本隊は気がついていないのかと心配になった。

ほどなく救護隊の車2台がやってきて車内で昼食を済ませ林道を歩いている本隊を追い抜いて登山道に入るところで合流した。元清澄寺山から三石寺山門を目指したが、雨で崩壊した箇所があり別道を行くが狭く慎重に歩いた。

房総の森の中を歩き続ける、この身に自然が活力を与えてくれる気がする。急な坂道の崩れた階段状の道を下ると山門であった。全員無事到着！
楽しさと苦しみと反省のロングハイクでした。

歩行時間 7時間25分

2日目概念図



山行データ

山名	房総ロングハイク（石尊山～三石山）				
期日	平成17年1月29日（土）～30日（日）				
形式	山麓旅館 一泊				
山域	房総	地形図 1/2.5万	上総中野、 安房小湊、坂畠		
目的	房総横断ハイキング				
費用	1,0000	交通機関：貸切バス			
1 日 目	我孫子駅北口 6:50→鎌ヶ谷市役所 7:22/ 7:40→市原 SA 8:52/9:12→三石山登山口 (トンネル前) 10:00/10:15⇒三石山山門⇒ 0:55/11:05 三石山 11:10 ⇒ 山門脇 11:30/12:00⇒片倉ダム 12:40⇒君津道の駅 12:50/13:30→七里川温泉着 13:50				
行程 2 日 目	七里川温泉 6:35⇒石尊山 7:20⇒大岩 8:16 ⇒麻綿原 9:55/10:20⇒林道分岐 10:35⇒ 折り返し 10:55⇒林道分岐 11:25/11:30⇒ 清澄寺 12:10/12:15⇒元清澄入り口 12:35/ 12:45⇒元清澄山分岐 13:35⇒三石山山門 15:15/ 15:20⇒君津道の駅 15:50/16:10⇒ 市原 S A 17:00/17:10⇒鎌ヶ谷市市役所 18:35/18:40⇒我孫子駅北口 19:15				
参加者	柴田、斎藤（県連）、高橋寿、高橋英、原田君、安田、高橋芳、原田和、松本（L）、 小川誠、田村 男性5名、女性6名 計：11名				





石尊山山頂



一日目と二日目のゴール地点

<4 2 1>

棒立山

(1 5 2 7 m)

川下敬史

何处だ、そりやあっ？

数年前からか、雪洞を掘りたいとの思いがついていた。私一人ではなく何人かのリーダーが村松リーダー部長に訴えていた。技術として身につけるのも苦労して掘るのも中で楽しむのも結果は同じかもしれないが、万が一の時に、経験が有ると無いのとでは、大きく違うであろうと、指導を仰げることとなった。

他に候補地が見つからず中越大震災の地へ向かうこととなる。棒立山も天神尾根も地震に遭えば同じである。

2月3月は、会運営で山に行けない土日が多い。3月本番。1月予行と日程が決まる。雪が締まっていない分歩行に掛かるし場合によつては雪洞が掘れないかもしれない。しかしながら「善は急げ」である。リーダー?と日程と行き先が決まる。ネットで検索するとタカマタギの山行記録が多く参考になる。我々は一步控え目にタカマタギではなく、棒立山を目指すこととする…。結果は目指しただけになるが。

棒立山は、1/25,000 の地形図に載っていない山である。数年前ふわくの相馬さんに誘われて下調べをした（結局参加せず）程度の知識しかない。

土樽駅を出ると毛割橋までの歩き？ ここからワカン装着の歩きとなる、取付き迄の林道も何も全ては雪の下である。

ルート自体無いのだ。雪はあってもなくて同じである……。などとは大きな間違いである。先頭は、トレースを頼ってしまうが右へ左へ最後尾からは時々疑問が出る。しかしながら全員を抜いて先頭へなどとは思いもよらない。トレースほど有り難い物はないのだが。先行パートナーの右往左往がよく分かる。我隊とてワカンを付けるの付けないとやっているのだ。他人のトレースを利用するだけして批判もないが

いきなり上越線の線路に出たときは驚いた。新幹線全盛で一日数本の列車と貨物しか来ないので雪の線路を渡ることができたが恐ろしいことだ。何にしても雪が深い。柔らかい。進まない！ 明日の天気は荒れるのだ余り先に行くよりも下りやすい所になどと邪念もよぎる。そういえば、電車の中で食べようと思いつのままになっている朝食‥、シャリバテだ！ メンバーのみんなすまない！

酒無地獄と雪洞体験

11時よりテント設営、12時より夕食の準備と宴会になる、速く始めると明るいうちから酒無し地獄に陥る苦しい。ワンカップを皆で分けて飲む・命を預け合う仲間か？ 街であればホームレスのようだ。

やはりシャリバテである食べれば回復。まず縦穴を掘る。後は勢いのみ。トイレ穴程気も使わない。身長分掘るとさすがに大変（掘るではなく、雪を捨てることが）、やはり雪洞は横に掘らねばと言いつつも今更他の場所へは…。2人がやっとの雪洞でも快適、訓練と言うより雪洞体験をし今宵は、テントに就寝する。

概念図



※宿营地（到達点）

▲棒立山

△タカマタギ

ルート及びそれに関するもの一切有りません。

30日は朝から雪。早く下らねば…刻一刻と天候が悪化する。下山は同じラッセルでも気分が楽だ。先行パーティーのトレースもある。

土樽で下り電車に間合うが吹雪の為徐行運転。次の列車は、運転見合わせ。陸の孤島「土樽駅」に残されずに済んだ。下山の判断は正しかった！

湯沢駅前でゆっくり温泉に浸かり、雪山の反省会を蕭々と開く。未登頂のリーダーはつらいはずの酒が…。と同時に「再挑戦リスト」に載る山が増えてしまった。
る山が増えてしまった。



翌朝吹雪！撤収決意！



山行データ

山名	棒立山		
月日	平成17年1月29日～1月30日		
形式	テント泊雪山		
山域	谷川	地形図	土樽
目的	雪洞訓練		
費用	16千円(全込み)	交通機関	J R
日程 目 コ ース	1 日 目 11:00 2 日 目 10:30頃 →我孫子 16:35	我孫子→上野 6:14→越後湯沢 7:25/8:08 →土樽 8:24/8:40…毛割橋…宿營地 宿營地 8:00…土樽 9:40/10:10→越後湯 沢 10:30頃/(入浴、反省会)14:14→上野 →我孫子 16:35	
参加者	川下(L)。村松敏、外崎、北川、千葉、佐藤健、岡田 男4名 女3名 計7名		

目標！



<422>

鳴虫山 (1104m)

清家三保子

ポピラーナ人気の鳴虫山

「雪山の基礎」という事で雪の多い2月を狙つた。今年は雪も多く電話で問い合わせたら2月の初めに日光市内で20cmの積雪があったと言う。山の中はもっと多いだろう。

ワカンを履いたことのない人に体験してもらおうと最初は3個用意するつもりだったがもしかしたら「ラッセル部隊」が必要となる事もあるかと思い4個に変更した。

当日2月6日は寒波の中での予報された風も無く晴天の東武日光駅に8時20分に降り立ったのは13名である。当初20名の参加希望者があった。多分、岳人際で「谷口ケイさん」のイキイキとした講演に啓蒙され又初心者のアイゼン歩行等に重点を置く為必ずしも山頂は目的としない計画だったかなとも思う。とても嬉しいことではあったが実際は風邪引きが増えたこともあり13名に減ってしまった。私自身雪の中を歩くのは二冬目であり登山道に初めから雪がしっかりとあってワクワクしてしまう。たくさん的人にこの気持ちよさを味わって欲しいなと思う。しかし冬山である。

この駅から登れるな鳴虫山の晴天の日曜日でさえ本日の登山者は、我々の他は前に一人の跡跡と後ろに一人見えただけであった。トレイスは付いていたけれど風の通り道は何ヶ所も消えておりキックステップも必要であった。ラッセルは必要なかったので時間を取って帰りの林道でワカン体験も楽しく出来た。しかしどんな小さな山も侮ってはいけない。

平成9年1月26日の朝9時頃日光高山の登山口付近で雪崩があり一人死亡している。新雪30cmの快晴の日であった。

私は丁度、労山の雪崩れ講習会に参加したばかりであり非常に良く記憶している。簡単に言うと

- * 新雪60cm以上は雪崩があると思え
- * 30°～45°の斜面で88%起きる
- * 温度差が大きい雪崩れる（気温上昇、降雨等）斜面（クラスト）上に積もった

新雪は、僅かな刺激により大型雪崩れを起こす。

* 狹い斜面への重荷の集中、踏み固め等による衝撃（危険地帯では固まって歩かない。大きな音を出さない。）—これは100m上部でも吹き溜まりがあれば危険。

最低この位だけでも覚えていて欲しいと思う。何だかここまで読んでみると随分お説教めいているかなと感じる。これも還暦を迎えたばかりであり研修山行でもあり何か一つでも伝えなくてはと思うのかも知れない。

日光駅までの長い道のりも時折振返る。真っ白な日光の山々。ルートまでも見えている女峰山を見たりしながら気分よく山行を無事終了した。

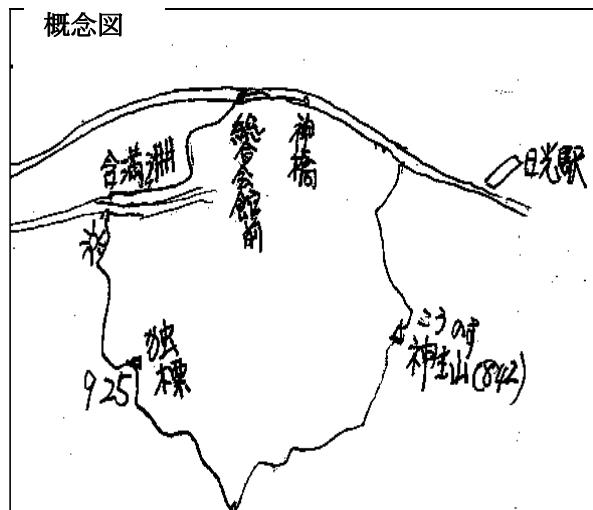


下山路の林道でワカン
体験ができました。
(講師…リーダー)

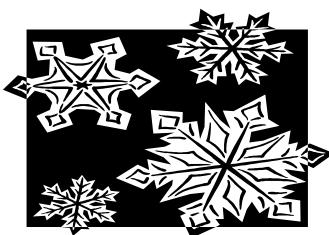
山行データ

山名	鳴虫山		
月日	平成17年2月6日(日) 日帰り		
目的	雪山の基礎 雪を楽しむ		
山域	日光	地形図 1/2.5万	日光南部
費用	4,000円	交通機関	東武・JR

行程	我孫子駅 5:30→東武北千住駅 6:31 →東武日光駅 8:20/8:35⇒神ノ主山 9:35/9:40⇒鳴虫山 10:55/11:40 (昼食) ⇒独標 12:30⇒13:00 林道ワカン体験⇒ 含満ガ淵 13:20 ⇒ 東武日光駅 14:30/15:55→我孫子駅 19:00 歩行時間：4時間
参加者	清家 (L) 外崎 (SL) 中村八 (SL) 村 松峰 大串恵 大串秀 中村美、安田 青山 佐藤健 田村 野村 佐藤明 男 3名、女 10名 計 13名



↑ 雪見弁当は、また格別
でした。



雪化粧の女峰山をバックに
・・・全員集合

真っ白な日光の山々が
まぶしい。



<423>

諏訪岳～唐沢山
(324m) (249m)

斎藤清一

湯西川の名湯でリラックス！
日帰り山行と雪上歩行体験。

一日目

この度の山行は、冬2月の平日宿泊の計画であったが11名の参加者があった。

松戸駅北口から他のお客様とともに「ツアーライブ車」に乗り込んだ。現地から「おおるり荘」までの歓送迎バスと宿泊で超割安価格を利用しての山行と温泉宿（山小屋感覚）は三回目であった。

湯西川は「温泉と雪と氷の祭り」の行事で客寄せをしているとの事。1月20日～2月20日迄では「かまくら」と「ミニかまくら」の行事が行われているとの事。そのせいかバスは、50数名で満員である。山行の服装をしているのは、我々だけであった。

鬼怒川温泉郷でマイクロバスに乗り換え奥深い山里へと車が進む。

湯西川温泉郷へと向かうに従い雪も深くなり、車道も狭く成りました。お昼近くにホテルに到着。窓にぶら下がっているツララの太いこと、数の多いこと。屋根に降り積もった雪の厚いこと。宿の周りが雪。雪にメンバー驚嘆した。

昼食をとりに出かけたが、登山靴での雪上の歩行には困難を極めた。食後川原に向かったが足元は、おぼつかなく時間を要した。そうこうしている内に雪がふわりふわりとおちてきた。「わかん」で雪上歩行訓練を始める。足跡の無い雪上に自分の「わかん」の足跡を残すのに喜びを見出したのか時間の経つても忘れて訓練を繰り返した。三人一組で肩を組合いで遠くまで転ばず歩くことが出来るか「わかん」を始めて履いて歩いたメンバーからも好評であった。

歩行時間1時間

雪上訓練時間（わかん体験）2時間

二日目

送迎バスをキャンセルし当地に3台のタク

シーで湯西川駅に向かった。湯西川温泉郷は平家落人伝説の村である。現在は270軒の集落である。会津鉄道が開通するまでは陸の孤島であった、との事。お往時の山奥の生活が、車窓から眺めていると連想された。湯西川の駅舎は地上であるが、プラットホームは地下のトンネルの中。遠くへ来たもんだと実感させられた！

JR岩舟駅から車で村檜神社までとばす。神社内は静寂さと人の気配も無かった。登山道も明確で整備されていたのでメンバーの顔色を見て元気溌剌と判断して諏訪岳への直登に切り替える。低山とはいえ30分ほどの直登は結構、体に負担が掛かった。「山頂で昼食にします！」の掛け声が気力を生み出し山頂直下の岩場を全員無事によじ登った。山頂からの展望は素晴らしい。快晴であった為、赤城山、男体山等の日光連山が遠くに眺められた。眼前には妙高山、太平山、岩舟山、唐沢山、東北自動車道等が望めた。

昼食後急坂を下り、枯葉の散る京路戸峠を超えて唐沢山を目指した。

唐沢山は葉断崖に囲まれた自然を残している山といわれている。眼下に開けるアップダウントンの登山道を繰り返し、キャンプ場を通り過ぎる。むかで退治で有名な藤原秀郷の築城の唐沢山城址の唐沢山神社に着いた。本丸跡に神社の社殿が建立されていた。この一帯が唐沢山だった。神社参拝後「田沼駅 2.5Km」の標識を見、時間短縮し車道を一時間弱田沼駅を目指して下った。

帰りの車窓からは登った懐かしい山々が飛び込んできた。歩行時間3時間30分

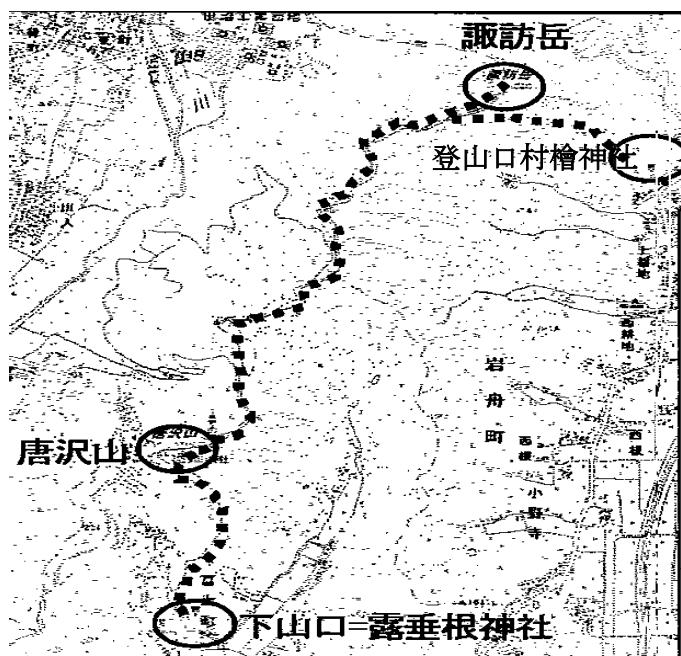


諏訪岳山頂までは直登
…冬の日差しに汗だく

山行データ

山名	諏訪岳～唐沢山		
月日	平成 17 年 2 月 10 日 (木) ~11 日 (金)		
形式	ホテル泊・一泊二日		
山域	安蘇山魂 (栃木)	地形図 1/2.5 万	田沼
費用	約 1,2000 円	交通機 関	歓送迎バス・タクシー・東武 線・JR
一日目	我孫子駅 7:56 → 松戸駅 8:18/9:00 (ツアー送迎バス) → 佐野 SA 10:05/10:25 → 鬼怒川温泉 11:30/11:45 湯西川温泉おおるり荘泊 (平家本陣)		
行程	おおるり荘 8:25 → (タクシー) → 湯西川温泉駅 9:00/9:17 → 栃木駅 10:47/10:55 (JR) 岩舟駅 11:04/11:12 → (タクシー) 村檜神社 11:30/11:40 ⇒ 諏訪岳 11:25/13:00 ⇒ 京路戸峠 13:30 ⇒ 見晴台 13:42/13:50 ⇒ 唐沢山山頂 14:20 ⇒ 東武田沼駅 15:13/15:38 ⇒ 東武館林駅 16:09/16:10 東武春日部駅 16:58/17:02 ⇒ 東武柏駅 17:46 → 我孫子駅 19:00		
参加者	柴田・大串恵・大串秀・小川洋・日下、斎藤 (L)・高橋寿・長木・中野・蜂谷、飯沼 男性 : 3 名 女性 : 8 名 計 : 11 名		

概念図



北に日光連山、西に赤城山、眼前にはみかも山や大平山も・・・諏訪岳山頂では 360 度の大展望



静かにただすむ唐沢山 (田沼駅から)

<424>

日の出山 (902m)

大畠清江

青梅線の御嶽駅に降り立つと小糠雨だった。我孫子駅を発つときとは予想もしていない天気になつた。まさか雨具を着用することになろうとは思っても見なかつた。山歩きの楽しさは天候に左右されることが大きいので何日も前から天気予報に注目している。きょうは雨の予報などまったくなかつたのに…。

全員身支度が終わつていざ出発というときにリーダーから相談があつた。今回の北尾根コースは前日の雪と今日の雨で危険性があるので、一般に登られている御岳山経由に変更しようか、と。しかし全員一致で予定通り北尾根に行くことに決まつた。

多摩川にかかる橋を渡りケーブル駅へのバス通りを20分ほど歩くと光仙橋があり、その左手に苔むした急な石段があつた。そこが登山口だつた。見上げると「危険のため入山禁止」の立て札がある。リーダーいわく“だから登るんです”。ふだん物静かで理性的なリーダーのお言葉とも思えない。もしかしてリーダーはその昔「ガキ大将」？そして同行する私たちは「ワンパク坊主」？オテンバ娘？だったのかも。

しばらくは植林帯の中の急坂を行く。あまり歩かれてないふかふかした気持ちのいい登山道である。どれぐらい登つたでしょうか。目の前に大きな岩がデンと立ちふさがつてゐた。その岩頭を左に回りこんで岩上に立つと、北面に重く垂れ込めた雲間に奥多摩の山脈が墨絵のように連なつていた。

標高700mぐらいでしょうか、所々雪道にな

った急坂をアイゼンなしで、周りの木々につかまりながら攀じ登つて行く。思わずつかんだ小枝の先に黄色い花が目に飛び込んできた。早春の花マツサクだった。まだ雪の残つてゐる春先に、いちばんに咲く花であるから「まず咲く」から名付けられたという説、花が枝をびっしり覆つて咲くことから「豊年満作」の「満作」の意味であるという説がある。華奢で可憐な花だ。それからはマンサクをなんども目にした。山行計画には「花も紅葉も温泉もない」というので期待していなかつただけにマンサクとの出会いは嬉しかつた。春の到来を予感させてくれた。

山頂直下は約30センチの積雪でしかも見上げるほどの急斜面だつた。ここでアイゼンを装着する。雪に覆われた道なき道を這いあがるようにして山頂にたどりついた。Yさんと“たのしかつたねえ～”と言ひ合つた。やっぱり私は昔のオテンバ娘？



頂上直下の急斜面で、雪の感触を楽しむ。(最後のあがき?)

いつの間にか雨があがつてゐた。山頂で初めてほかのハイカー達と出会つた。賑わつてゐた。あづまや、ベンチ、案内板があつた。天気が良ければ都心が遠望できて奥多摩の山々の展望も優れてゐるらしいが、今日は北面だけが時折雲が切れて日光、会津方面の山脈がぼんやりと確認できた。

昼食後は吉野梅郷に下山する。梅の開花にはま

だ早かったが蝱梅が甘い香りを放ち満開だった。

リーダーお勧めのそば屋は残念ながらすでに閉まっていたので、もう一軒の〔十割そばの谷津〕で豪勢？に今年度最後の山行を締めくくった。

リーダーの入念な事前準備のおかげで“立ち入り禁止”の登山道をわくわくしながら楽しく歩くことができた。大感謝です。



日の出山山頂

山名	日の出山		
月日	平成17年2月20日(日)		
形式	日帰り		
山域	奥多摩	地形図 (1/2.5万)	武蔵御嶽
目的	きつい急登の後、武蔵野台地の展望と冬枯れた尾根歩きを楽しむ。		
費用	2,300円	交通機関	JR
日程コース	我孫子駅(千代田線)6:10=新松戸 6:23／6:38=西国分寺 7:35／7:38=立川 7:47／7:50=御嶽駅 8:43／9:13→光仙橋 9:37→登山口 9:40→519m 10:25→734m→日の出山(昼食)12:15／13:00→琴平神社 14:38→下山 15:05→吉野梅郷 15:10／15:35(靴洗い・観梅)→そばタイム(谷津)15:45／16:50→日向和田駅 17:07=青梅=神田=上野=我孫子駅 19:32 雨のち曇り、積雪あり歩行時間 正味5時間20分		
参加者	中村隆(L)、大串恵、小黒(SL)、原田君、高橋芳、飯沼、大畠、原田和、松本、佐藤健、佐藤明、田村 男 4名、女 8名、計 12名		

山行データ

ルート概念図&エスケープルート



登山教室

登山教室

登山教室の開講について

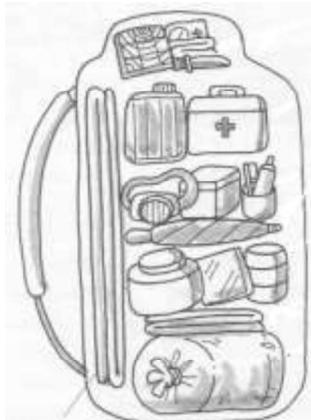
日時；5月8日（土）午後7時～9時
会場：市民プラザ

＜報告者：増田＞

岳人あびこで初めての企画「初心者登山教室」は、ご存知のように、1ヶ月おきに机上講習と山行が組まれて全6回、最後は11月に丹沢の1泊山行で修了の予定です。7人の応募があり、うち20代の女性が2人とあって、実行委員は緊張の中にそわそわした期待をもって、初顔合わせとなる第1回の講習日を迎えたようでした。それは5月8日の土曜日午後7時から、会場は市民プラザでした。

応募者全員の出席を得て開会。会長の挨拶、岳人あびこの紹介、登山教室のガイダンスと武内会長は司会進行も兼ねて獅子奮迅。つづいて参加者の自己紹介。学生時代にワングルの経験を持つ方がお一人、他はみなさん山は初めてとのこと。真摯な視線が新鮮。なにより女性ばかりというのは華やかで和やか。

講義に入り、まず清家さんが講師で『山の服装と装備』。清家さんは頭の先から靴まで1泊登山スタイルフル装備で出席し、服装・持ち物の一つ一つを実物を示しながら、何が何故必要かそれをどのようにザックやウエストポーチに収納するかを、懇切丁寧に説明しました。途中、これまた持参の山での飲み物・行動食（シェルパティーやクッキー、飴など）でのティータイムもあって、寛いだ雰囲気のなかで、豊富な経験から生み出された知恵の結集というべき内容の濃い話に、人々聞き入りました。



つづいて講師が石垣さんに替わって『山の歩き方』。山では日常平地を歩くのとは基本的に違う歩き方をしなければならないことを、持参した靴を使って示しながら説明し、登り下りの体重移動の要点、ストックの使い方など理論的な話を、優しい声、優しい話し方で分り易く進めましたが、何ぶんにも時間が足りなくて、充分に話し切るところ迄いかれなかつたのが残念でした。

最後に、希望者には装備品の買い物のお手伝いをすることを決めて、充実した講習会を閉じました。

次回の講習は岩山への山行です。受講者の皆さん、今回机上で学んだことを実践しながら、山と岳人あびこへの興味を増してくだされば嬉しいと思います。



<実技第一回>

岩 山 (328m)

柴 勇

登山教室山行報告

<やまたん16年7月号より転載>

- ①始めての実技を行った。梅雨時で空模様が気になり、出発を1時間ほどずらした。
- ②日吉神社で、先ず、ストレッチングの意義と実技講習を行う。
- ③登山靴が始めての人もいたので、履くときの注意点を講習。またリュックの背負い方、調節の仕方も習った。
- ④続いて、階段を使って、のぼり下りのポイントを復習する。また、3点確保の注意点を習った。
- ⑤山でのトイレの注意点も勉強した。(特に、自然の美しさを壊さないことや、自然保護のこと)
- ⑥今回の行程は、標高差は、300m程度だが、3点確保を必要とする岩場が随所に現れてしかも濡れていってスリップし易いので、慎重に歩いた。登山教室第一回目としては、もう少し易しいルートが良かった。
- ⑦一箇所、確保が必要な岩場があり、全員ハーネスをつけて、ロープで確保をした
- ⑧この山行を通じて、歩き方、三点確保についてかなり身についたようだ。また、山行の途中で、ごみ拾いをしていった生徒さんもいて、自然保護に対する参加者の意識に感心。昼食時には、武内さん持参のお汁粉も出て、和やかな雰囲気の中で、昼食を楽しんだ。次回以降の参考のために、受講生の皆さんにアンケートをお願いしました。

要点を抜粋し掲載します。

実技内容について

- *岩ばかりで緊張したせいか疲れはあまり感じなかった。すぐ苦しくなるので変化のない山よりは今日は私にとって良かった。
- *いろいろ体で覚えること…少しづつでも体験できたらいいナ…
- *登りは少し怖かったけど楽しかった。後ろ向きの下りは苦手でしたが、ぶじ生還できてよかったです。
- *岩のぼりをするなんて夢にも思っていなかったのでとてもびっくり。山を降りるまでずっとキンチョウ一しっぱなしでしたが、何とか無事降りることができて良かった。
- *坂道がすべりそうでこわかったですがなれて

きて、終わり頃には、少しうまく歩けるようになれた。

*もう少し初心者が対象のようなコースだと思っていましたが、良い経験になった。

山行を終えて

- *お昼からがきつかった。でもたくさん汗をかい、ひさしぶりに気分は、爽快。
- *大変につかれましたが、いい汗をかいて気持ちが良かった。山の中は気持ちよかったです。
- *とても親切にしていただき…新人の私たちのため貴重な時間をさいて下さって…おしゃべりすごくおいしかった…、ありがとうございました。
- *体力をつけ次回も楽しく参加させてもらいたい。今後に役立てたい。次回が楽しみ。



緊張も一瞬とけて憩う受講生の皆さん

山行データ

山名	岩山		
月日	平成16年6月12日(土) 日帰り		
山域	前日光	地形図 1/2.5万	鹿沼
目的	登山教室実技 山の歩き方・三点確保・ストレッチング		
費用	2,920円	交通費	JR・東武
行程	我孫子 6:50→北千住 7:13/7:20→新鹿沼 8:45/8:55⇒日吉神社 9:20/9:50⇒三番岩 10:50/11:00⇒二番岩(昼食)11:30/12:00 ⇒一番岩 13:10⇒深岩部落 14:00/14:10⇒新鹿沼 15:30/16:31→我孫子 19:30 <歩行時間: 5時間40分(休憩含む)>		
参加者	柴(L)、千葉(S L)、武内、佐藤、高波、谷島(悦)、谷島(紘)、藤城 男性2名、女性6名、合計8名		

＜実技第二回＞

三頭山 (1528m)

柴 勇

＜やまたん16年10月号より転載＞

- *歩き方山行実技 2回目で外崎講師から今までのおさらいを受けた。
- *まず、靴紐の点検、続いてストレッチ。
- *今日は、涼しく山登りには、程よい気温。
- *登りの始めは傾斜がやや、きついがゆっくりと登り順調なスタート。
- *この鞍口峠コースにはブナの木が多く幹周が3mを越えるものがある。
- *また、ミズナラのおおきいものもあり、いずれもその大きい順にナンバーが付けられている。このブナは、東京都では、貴重な存在である。
- *この山行を通じて、歩き方、三点確保に付いてはかなり身についたようだ。
- *山頂は広く、昼食をゆっくり楽しんだ。特に外崎さん差し入れのぼた餅は、甘く全員疲れがとんだようだ。

前回に続いて天気は曇りで展望は、何も見えない。晴れていれば富士山や、御正体山、三つ峠が展望できて山の柴らしさが体験できたのに、生徒さんには気の毒であった。

*以前会の忘年山行を実施した避難小屋で少し休憩を取ったがなかなかいい小屋である。この小屋を過ぎて暫くは傾斜がややきつく小石混じりで滑り易いので初心者には、少々堪えたようである。下山後温泉に入ったが帰りのバスの時間まで30分での入浴でせわしかった。 (柴)

山行を終えて

*本日第2回目も初心者講習会を開催して下さいましてありがとうございました。三頭山は、20数年前にきております。たしか登っていると思いますがさっぱり覚えておらず珍しさが先に立ちました。雨が降らなかったのが良かったのですが、ガスがかかって景色が見えなかつたのでかなり疲れました。天気は山行に大きく作用するとつくづく思いました。私は山景色の美しさを知っていますが他の3人が気の毒で次の山行はカラット晴れて山景色の素晴らしさを見せてあげられればと思います。でも、大人数での山行は、1

人より2人より楽しく、疲れも半減すると改めて思った一日でした。

*本日はお世話になり有難うございました。やはり下りはきつかったので、自主トレして下半身を鍛えたいと思います。温泉気持ちよかったです!もっとはいっていたかった……。

*今日は良く歩いたので非常に疲れました。山は、花がいろいろ咲いていたりして、綺麗な所でよかったです。最後の温泉に入れなかつたのは、残念でした。いろいろごちそうになりました、お世話になりました、有難うございました。楽しい一日でした。

*今日は、なんの準備も無くて登山をしたので下山の時左足が痛くてつくづく日頃の運動不足を実感です。訓練でスタスタ山を歩けるようになれるのかと信じられません。少しずつ、少しずつと自分を励ましているところです。



山の空気をいっぱい吸って、
さわやかな面面…

山行データ

山名	三頭山		
月日	平成16年9月11日(土)	日帰り	
山域	奥多摩	地形図 1/2.5万	猪丸
目的	登山教室実技 山の歩き方・山の食事・ストレッ칭		
費用	4,120円	交通機関	JR・西東京バス
行程	我孫子駅 6:18→五日市駅 8:25/9:00→数馬 10:00/10:15→都民の森 10:25/10:45⇒鞍口峠 11:15/11:20⇒東 12:38⇒本峰 12:50/13:15⇒避難小屋 13:35/13:40⇒大沢山 13:45⇒横寄山 15:00/15:10⇒車道 16:20⇒数馬の湯(入浴・休憩) 16:30/17:06→五日市駅→我孫子駅 21:30 <曇り 歩行時間: 5時間45分>		
参加者	柴(L)、外崎(SL)、井上、佐藤、高波、谷島(悦)、谷島(絢) 男性1名、女性6名、合計7名		

岳人祭

岳人祭

日時：17. 1. 16 (土)

場所：湖北台近隣センター

報告者：原田和明

やまたん 17. 2月号より

岳人祭が盛大の内に終了しました。

今年度の岳人祭は1月に変更して初めてでしたので企画も手探りの状態で実施しました。参加者も当初予定した人数より多く、講演会参加者46名、二次会参加者32名になりました。

講演会は、女性登山家 谷口けいさんが最近経験された山やエベレストの清掃登山に参加されたビデオを見ながら軽快で迫力ある話を楽しく聴くことが出来ました。

ストレッチ体操は柴田講師の熱心な指導により、加齢で硬くなった身体を柔らかくして頂きました。その後はbingoゲームやクイズに全員参加で盛り上りました。

多数の会員参加で岳人祭が無事に終了したことを報告します。岳人祭にかかる経費は当初予算の範囲内で実施しました。

ここにご協力いただいた皆さんに感謝すると共に厚くお礼を申し上げます。

(岳人祭実行委員 長木、蜂谷、品田、飯合、原田和)



軽快で迫力ある話を
楽しく聞くことが出来ました。

上：講演中の谷口けいさん
右：会場風景



エベレスト清掃に取組んでいる登山家
…野口健さんもビデオで特別出演





花束贈呈



お父様とともに



下
明るく…ピンゴゲームやクイズ
全員で挑戦しました。
左
さわやかに…ストレッチ
柴田講師の熱心な指導で、
加齢で硬くなつた身体が
柔らかくなりました。



資料

推移グラフ（1996年～）

山行一覧表（2004年）

活動の記録（1996年～）

活動の記録

その1

年	月	日	行 事	場 所	備 考
1996年 平成8年	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案他
	10	12-13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認
	11	5	定例集会	市民プラザ	役割分担他
	11	12	定例集会	市民プラザ	山行計画、報告書式検討
	12	19	定例運営委員会	柴宅	今後のスケジュール他

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
1997年 平成9年	1	7日 市民プラザ	21日 市民プラザ	
	2	12 市民プラザ	25 市民プラザ	
	3	11 市民プラザ	25 市民プラザ	
	4	6 市民プラザ	22 市民プラザ	
	5	7 市民プラザ	27 市民プラザ	
	6	14 市民プラザ	24 市民プラザ	
	7	5 市民会館	22 市民プラザ	
	8	9 市民プラザ	26 市民プラザ	
	9	6 市民プラザ	6、19 市民プラザ	
	10	4 寿市民センター、	21 市民プラザ	
	11	8 市民プラザ	28 市民プラザ	
	12	13 市民プラザ	16 市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1997年 平成9年	1	11-13	雪崩講習会	谷川岳	県連（川名、清家、坪井参加）
	1	15	岩トレ	天覧山	
	2	15	公開市民登山発表		我孫子市広報掲載
	3	2	公開ハイキング及び会員募集説明会	市民プラザ	
	3	16	公開ハイキング	石老山	一般40名参加
	3	26	新入会員決定通知		23名入会
	4	1	臨時運営委員会	市民プラザ	予算作成、総会準備
	4	6	第2回総会、定例集会	市民プラザ	
	4	13	新人装備購入ツアー	カモシカ	6名参加
	4	20	新入会員歓迎山行	大楠山	歓迎と親睦
	6	1	千葉県清掃ハイキング	養老渓谷	県連
	6	14	新人研修会	市民プラザ	山のマナー
	6	21-22	救助隊救出訓練	船橋	県連
	6	28-29	登山交流集会	船橋	県連
	7	5	新人研修会	市民会館	歩き方
	7	5	納涼祭	五本松公園	テント講習
	10	1	秋の公開登山参加者募集	市民広報掲載	
	10	4	新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
	10	10-11	1周年記念山行	尾瀬集中登山	3コース
	10	18	公開登山説明会		
	10	25-26	公開登山	丹沢主脈縦走	
	11	4	雪崩机上講習会		県連
	12	7	忘年山行		
	12	20-21	クリスマス山行	笠取山	

活動の記録

その2

年	月	定例集会		運営委員会		備考
1998年 平成10年	1	10日	市民プラザ	20日	市民プラザ	
	2	11	市民プラザ	17	市民プラザ	
	3	14	市民プラザ	17	市民プラザ	
	4	5	市民プラザ	21	市民プラザ	
	5	9	市民会館	26	市民プラザ	
	6	13	市民会館	23	市民プラザ	
	7	11	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	19	市民プラザ	
	9	5	市民会館	18	市民プラザ	
	10	3	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	24	久寺家通り会館	
	12	12	市民会館	22	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1998年 平成10年	1	10	臨時運営委員会	市民プラザ	長期展望他
	1	18	新年山行	鐘撞堂山	
	2	10	臨時運営委員会	市民プラザ	
	2	18	拡大運営委員会	市民プラザ	
	2	22	公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8	公開登山	扇山	
	4	5	第3回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ガイダンス、日帰り装備
	4	26	新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2-5	ゴールデンウイーク合宿	蝶ヶ岳、常念岳	
	5	24	リーダー研修	岩山(鹿沼)	
	6	7	新人研修	伊豆ヶ岳	ロープワーク、三点確保
	6	9	救急法机上講習会	県連	
	7	11	岳人祭	湖北台中央公園	
	7	11	新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8	臨時運営委員会	市民プラザ	ハイキング部、ランギング制
	9	5	新人研修	市民会館	地図の読み方
	9	23	公開登山説明会	市民プラザ	
	9	27	ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10-11	公開登山、創立記念山行	八ヶ岳	
	11	8	機関紙発行者交流集会	柏	県連主催(中村出席)
	12	6	忘年山行	裏筑波山	
	12	19-20	クリスマス山行	甲武信岳	

活動の記録

その3

年	月	定例集会		運営委員会		備考
1999年 平成11年	1	9日	市民プラザ	9, 26日	市民プラザ	
	2	13	市民プラザ	23	市民プラザ	
	3	13	湖北台近隣センター	17, 27	市民プラザ	
	4	4	市民会館	20	市民プラザ	
	5	8	市民プラザ	25	市民プラザ	
	6	12	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	7	10	五本松公園	21	市民プラザ	
	8	7	市民プラザ	24	市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	10	2	湖北近隣センター	22	市民プラザ	
	11	6	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	12	11	市民会館	21	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1999年 平成11年	1	10	新年山行	鐘撞堂山	
	1	30-31	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	3	7	入会希望者説明会	市民プラザ	
	3	13	公開登山実行委員会	湖北台近隣センター	
	4	4	第4回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ガイダンス、日帰り装備
	4	18	新人歓迎山行	大鹿山、笹子雁ヶ腹摺山	
	5	1-4	ゴーランハイク合宿		雪山
	5	22	公開登山説明会	市民プラザ	”両神山”
	5	23	登山学校開校式		県連主催（安田）
	5	30	リーダー研修	岩山（鹿沼）	
	6	5-6	公開登山実施	両神山	一般13名、会員20名
	6	13	新人研修	本社ヶ丸・鶴ヶ鳥屋山、高畠山	
	7	~2000/6	誌上「岳人あびこ登山教室」12回	《やまたん》	講師：村松敏彦（リーダー部長）
	7	10-11	岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、テント講習、宴会、テント泊
	7	10	新人研修	五本松公園	テント講習他
	7	21	山行文集「やまなみ」創刊号発行		96/10~98/12
	10	2	「ブナの山旅」講演会（公開）	湖北台近隣センター	講師：坪田和人氏
	10	3	岡発戸・都部の谷津を探勝	我孫子市内	
	10	24	第9回ふれあいハイク	筑波山	千葉県障害者交流登山
	11	13-14	新人研修山行	丹沢主脈縦走	
	12	5	忘年山行	百蔵山	
	12	23-25	クリスマス山行	甲武信岳一金峰山	
12/28-2000/1/5 海外トレッキング（県連主催）				ネパール	外崎、細野清参加

活動の記録

その4

年	月	定例集会		運営委員会		備考
2000年 平成12年	1	11	市民プラザ	21	市民プラザ	
	2	5	市民プラザ	6. 18. 26	市民プラザ	
	3	5	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	4	8	市民プラザ	18	市民プラザ	
	5	10	湖北台近隣センター	23	市民プラザ	
	6	10	市民会館	20	市民プラザ	
	7	12	湖北近隣センター	18	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	22	市民プラザ	
	9	9	五本松公園	26	市民プラザ	
	10	11	市民プラザ	24	市民プラザ	
	11	11	湖北近隣センター	21	市民プラザ	
	12	9	市民会館	19	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2000年 平成12年	1	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	1	23	第1回県連登山学校開校式	千葉県青少年女性会館	修了者：安田みづほ
	1	29-30	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	5	5周年記念山行実行委員会	湖北台近隣センター	
	2	6	会員募集説明会	湖北台近隣センター	
	3	5	第5回総会	湖北台近隣センター	
	3	5	新人研修	湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	26	新人歓迎山行	浅間嶺	
	4	8	5周年記念山行実行委員会	市民プラザ	
	4	15	登山学校開校式	県連主催	榊原、大串（恵）
	5	3-6	ゴールデンウイーク合宿	浅草岳・守門岳	雪山
	5		ホームページ開設		H P担当 川下
	5	20	公開登山説明会	市民プラザ	”雲取山”
	6	3-4	公開登山実施	雲取山	一般14名、会員17名、計31名
	6	17-18	リーダー研修	丹沢	
	6	1999/7~	誌上「岳人あびこ登山教室」12回終了	《やまたん》	講師：村松敏彦（リーダー部長）
	7	2	新人研修	岩山	
	8	~2001/7	「楽しい登山学」（机上講習会）開始	《やまたん》	講師：柴 勇（登山部長）
	9	9-10	岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、テント講習、懇親、テント泊
	11	11-12	新人研修山行	塔ノ岳-鍋割山	
	12	3	忘年山行	倉岳山	
	12	23-24	クリスマス山行	安達太良山	

年	月	定例集会	運営委員会	備考
---	---	------	-------	----

活動の記録

その5

2001年 平成13年	1	10	市民プラザ	19	市民プラザ	
	2	7	市民プラザ	16, 24	市民プラザ	
	3	4	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
	4	7	市民プラザ	17	市民プラザ	
	5	9	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	6	6	市民プラザ	19	市民プラザ	
	7	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	21	市民プラザ	
	9	9	アビイホール	25	市民プラザ	
	10	13	湖北近隣センター	23	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	12	8	市民会館	18	市民プラザ	

年	月	日	行 事		場 所	内 容
2001年 平成13年	1	14	新年山行		石老山	5周年記念山行富士周辺スタート
	1	21	第1回県連登山学校開校式		千葉県青少年女性会館	修了者：榎原、大串（恵）
	1	27-28	房総ロングハイキング		房総	県連主催
	2	18	会員募集説明会		市民プラザ	
	3	4	第6回総会		湖北台近隣センター	
	3	4	新人研修		湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	18	新人歓迎山行		越前岳（富士）	
	4	14-15	登山学校開校式		県連主催	受講者：川下
	5	2-5	春山合宿		大笠山・笈ヶ岳	雪山
	5	19	公開登山説明会		湖北台近隣センター	”巻機山”
	6	9-10	公開登山実施		巻機山（越後）	一般13名、会員24名、計37名
	7	2000/8~	「楽しい登山学」（机上講習会）終了		《やまたん》	講師：柴 勇（登山部長）
		1~7月	5周年記念富士周辺シリーズ			14回
	8	18-19/25-26	5周年記念山行		富士山	4コース
	8		山行文集やまなみ 第2号の発行			平成11年1月～平成12年2月
	9	9	創立5周年記念講演会		アビイホール	講師：田部井淳子、坪田和人
10	13	岳人祭		湖北台近隣センター	クリーン作戦、文化祭、5周年祝賀会	
10		五周年記念山行文集「富士山と富士周辺の山々」の発行			平成13年1月～平成13年8月	
12	2	忘年山行		助川山（常陸）		
12	23-24	クリスマス山行		木曾駒ヶ岳		
登山技術講習 (集会時)	年	月	日	No.	項 目	講 師
	01	4	7	1	ウォーキング技術	村松、柴、清家
	01	6	6	2	救急処置法	外崎、清家
	01	11	8	3	山で遭難しないために	ビデオ
	02	1	9	4	ストックの使い方	清家
	02	2	6	5	アイゼンとピッケルの使い方	柴

活動の記録

その6

年	月	定例集会		運営委員会	備考
2002年 平成14年	1	9	湖北台近隣センター	22 市民プラザ	
	2	6	市民プラザ	17、23 市民プラザ	
	3	10	湖北台近隣センター	20 市民プラザ	
	4	6	市民プラザ	16 市民プラザ	
	5	8	アビスタ	19 市民プラザ	
	6	6	湖北近隣センター	18 市民プラザ	
	7	10	市民プラザ	16 市民プラザ	
	8	7	アビスタ	20 市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	24 市民プラザ	
	10	19	五本松公園	22 市民プラザ	
	11	9	アビスタ	19 市民プラザ	
	12	5	湖北近隣センター	17 市民プラザ	

年	月	日	行 事		場 所	内 容
2002年 平成14年	1	26-27	房総ロングハイキング		房総	県連主催
	2	17	会員募集説明会		市民プラザ	
	3	10	第7回総会		湖北台近隣センター	
	3	10	新人研修		湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	24	新人歓迎山行		八溝山	
	5	3-6	春山合宿		鹿島槍ヶ岳	雪山
	5	19	公開登山説明会		湖北台近隣センター	”安達太良山”
	6	9	公開登山実施		安達太良山	一般29名、会員32名、計61名
	8	7	ウィズハイク実行委員会		アビスタ	
	8		山行文集「やまなみ」第3号発行			平成12年3月～平成13年2月
	9	28	ウィズハイク実施		(鋸山)	雨のため「大洗水族館」に変更
	10	19-20	岳人祭		五本松公園	クリーン作戦、講演会、実技研修、懇親、テント泊
登山技術講習 (集会時)	12	8	忘年山行		加波山	
	12	22-23	クリスマス山行		会津朝日岳	
	年	月	日	No.	項 目	講 師
	02	8	7	1	ウォーキング技術	村松(敏)
	02	10	19	2	講演会 最近の山の道具について	よしき店主 吉野清氏
	02	10	19	3	テントの張り方、ロープワーク	リーダー一部
	02	12	4	4	山行計画の立て方	細野(省)
	03	1	8	5	山の料理	清家

年	月	定例集会		運営委員会・リーダー会議	備 考
2003年	1	8	市民プラザ	21 市民プラザ	

活動の記録

その7

平成15年	2	8	アビ스타	16, 22	アビ스타、市民プラザ	
	3	9	湖北台近隣センター	18	市民プラザ	
	4	9	市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7	アビ스타	18	市民プラザ	
	6	5	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	7	9	市民プラザ	15	市民プラザ	
	8	6	アビ스타	19	市民プラザ	
	9	4	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	10	4	湖北近隣センター	21	市民プラザ	
	11	5	アビ스타	18	市民プラザ	
	12	3	アビ스타	16	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2003年 平成15年	1	25-26	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集説明会	アビ스타	
	3	9	第8回総会	湖北台近隣センター	
	3	9	新人研修	湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	30	新人歓迎山行	奥久慈男体山	
	5	2-5	春山合宿	白馬岳	雪山
	5	18	公開登山説明会	湖北台近隣センター	赤城山
	6	1	公開登山実施	赤城山	一般33名、会員34名、計67名
	9	27	ウイズハイク実施	鋸山	
	10	4-5	岳人祭	五本松公園	クリン作戦、救急法講習会、懇親、テント泊
	12	7	忘年山行	足和田山	
	12	20-21	クリスマス山行	和名倉山	
教育研修	月		机上研修		実技研修
	03		山行の申し込み方、装備の点検	岩山	岩登り基礎。
				奥久慈男体山	山のマナー、パッキングの仕方
	04		地図の読み方、コンパスの使い方	モミゾ・源次郎沢	沢登り基礎。
				百蔵山	地図読み山行
	05		筋肉痛と水分補給	岩山	三点確保
	06		楽しい山行計画の立て方		
	07		雷にあったら、蜂に刺されたら	黒姫山	テント泊体験
	08		三角巾の使い方		
	09		心臓蘇生法	白笹・南月山	地図読み山行
	10		心臓蘇生法 実技		
	11		山での歩き方	日和田山	ストックの使い方
	12			足和田山	山での食事の作り方
	1		山行計画作成(新人卒業山行)	安達太良山	冬山基礎、わかん、ピッケル。藪山の地図読み
	2			笛尾根	冬山体験。新人の卒業山行

年	月	日	行 事	場 所	内 容
---	---	---	-----	-----	-----

活動の記録

その8

2004年 平成16年	1	24-25	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	15	会員募集説明会	アビスタ	
	3	7	第9回総会	湖北台近隣センター	
	3	7	新人研修	湖北台近隣センター	ガイダンス、日帰り装備
	3	28	新人歓迎山行	足利行道山	
	5	2-4	春山合宿	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	雪山
	5	8	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生7名参加
	5	23	公開登山説明会	市民プラザ	会津磐梯山
	6	6	公開登山実施	会津磐梯山	一般16名、会員34名、計50名
	6	12	登山教室（実技）	岩山	受講生5名、会員（講師）3名、計8名
	7	10	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生5名参加
	9	11	登山教室（実技）	三頭山	受講生5名、会員（講師）2名、計7名
	10	2	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生3名、新人1名参加
	10	23	ウィズハイク実施	鹿野山（マザー牧場）	福祉作業所16名、会員18名
	12	5	忘年山行	鳥場山	
	12	25-26	クリスマス山行	和名倉山	
	1	16	岳人祭	湖北台近隣センター	講演会（講師：谷口けい）、懇親

教育研修	月	机上研修		実技研修
	03	山行の申し込み方、装備の点検	行道山	山のマナー、パッキングの仕方
	04	地図の読み方、コンパスの使い方	九鬼山	地図読み山行
			モミゾ・源次郎沢	沢登りを楽しむ。
	05	山の歩き方	赤ぼっこ	山の歩き方。ストックの使い方
	06	高年の体力低下。日常のトレーニング	玉原高原	ブナを訪ねて
			南八ヶ岳	岩稜歩き
	07	山歩きの食事、十分な水分をとる	霞沢岳	山での食事（テント）
	08	基礎的な天気図の見方。観天望氣	背戸蛾廊	三点確保
	09	楽しい山行計画の立て方		
	10	地図の読み方、コンパスの使い方		
	11		矢倉岳	地図読み山行
	12	山の道具の使い方	鳥場山	行事山行時の食事の作り方
			金峰山	雪山を楽しむ
	1	有効なストレッチ	鳴虫山	雪山の基礎

編集後記

「はい、やまなみ編集、お手伝いさせていただきます。」手を挙げたときは本当に軽い気持ちでした。いざ原稿がメールで送られてきたとたん、これは大変だと思いました。それでも武内さんに教えていただきながら試行錯誤の末、何とかゴールまでたどり着くことができました。

皆様の文章から、参加された方のさまざまな思いが伝わり「あー、いい山だな」、「参加したい・・・」など原稿を編集する手を止めて思わず読んでしまうこともたびたびありました。他の会員の方よりも先に、たくさんの感動を読ませていただきましたし、このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝しております。<KK>

微力でしたが会の為に少しでもと思い昨年の秋にやまなみの編集をお引き受けいたしました。始めの段階では、皆さんの思い出がいっぱい書かれている大切な文章、写真等を上手く編集できるか不安でしたが悪戦苦闘したお蔭で色々な事を知り、学ぶことが出来、そしてまた、先に皆様のすばらしい感動文を読ませていただくことが出来ました。武内編集長には作業上で大変お世話になりました。有難う御座います。

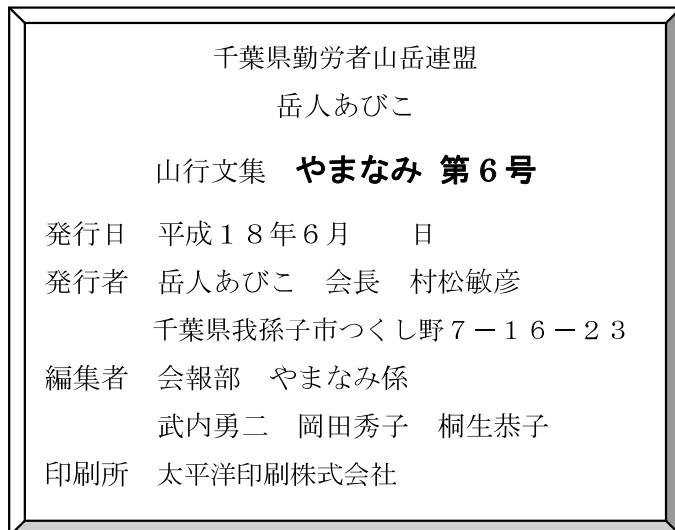
山仲間の財産ともなる文集「やまなみ」の少しでもお役にたてた事は、大変嬉しく思います。校正ミスはお許しください。

<HO>

昨年秋にやまなみ担当を引き継いで、コンピューターと格闘しているうちに、いつの間にか桜が過ぎチューリップ満開の季節になってしまいました。やっとの思いで「やまなみ6号」(2004年度)の編集を了えることができました。特に、文章中の写真、略図、山行データがなかなか思ったところに貼りついてくれず、悪戦苦闘の連続でした。それだけに汗を拭き拭き頂上に着いたときのような達成感を覚えます。

「やまなみ」には会員皆さんの青春(?)が溢れています。山や山仲間が与えてくれた喜びは、時には鮮やかに皆さんの中脳裏に生き続けてゆくことでしょうが、この「やまなみ」が、ともすれば失われる想い出を呼び覚ます一助となれば、編集者としてこんなにうれしいことはありません。

本号の後半部分は桐生さん、岡田さんに纏めていただきました。お二人の頑張りにも敬意を表したいと思います。<YT>



ホームページ

<http://www18.ocn.ne.jp/~kounkan/gakujin/>

E-mail

gakujinab10@yahoo.co.jp